

目 次

I. 全学共通科目の履修案内	
1. 全学共通教育の目的と位置付け	1
2. 全学共通科目の理念と目的	1
(1) 総合教育科目	1
(2) 基礎教育科目	2
(3) 外国語科目	2
(4) 健康スポーツ科学科目	2
3. 単位の基準	2
4. 授業時間	2
5. 全学共通科目の履修について	2
6. 履修受験届等について	3
7. 障害を有する学生の受講等について	4
8. 試験及び成績について	4
(1) 定期試験等	4
(2) 成 績	4
9. 各種掲示について	4
10. 交通スト、台風時等の授業について	5
11. 単位互換およびインターネット講義について	5
12. 全学共通科目Q&A	6
13. 履修受験届の記入例	7
II. 全学共通科目の授業科目	
1. 全学共通科目群の英語表示	10
2. 平成22年度全学共通科目の授業科目一覧	11
参考(1) 平成22年度新設廃止科目名変更一覧	24
参考(2) 平成9年度から22年度までの総合教育科目の開講実績一覧	25
III. 全学共通科目シラバス（講義概要）等	
1. 総合教育科目A	31
2. 総合教育科目B	47
3. 基礎教育科目	121
4. 外国語科目	159
(1) 第1部	159
○外国語科目クラス分け	160
○外国語科目の履修について	162
○シラバス	163
(2) 第2部	217
5. 健康スポーツ科学科目	241
(1) 健康・スポーツ科学科目の履修について	242
(2) 実習授業時の集合場所	243
(3) シラバス	244
IV. 教室等施設配置図	259
V. 各学部等の電話番号・所在地	291

平成22年度学年暦

第 1 部

第 2 部

学 年 開 始	4月 1日 (木)	同 左
入 学 式	4月 5日 (月)	
ガイダンス	4月 6日 (火)	
前期授業開始	4月 7日 (水)	同 左
振替授業日		5月 7日 (金) 月曜日の授業実施
創立記念日	6月 1日 (火)	同 左
振替授業日		7月 21日 (水) 月曜日の授業実施
試験・調整期間	7月 22日 (木)～8月 4日 (水)	7月 21日 (水)～8月 3日 (火)
夏季休業	8月 5日 (木)～9月 15日 (水)	8月 4日 (水)～9月 15日 (水)
※ 研修期間	9月 16日 (木)～9月 30日 (木)	同 左
後期授業開始	10月 1日 (金)	同 左
振替授業日	10月 15日 (金) 月曜日の授業実施	同 左
	11月 26日 (金) 火曜日の授業実施	
冬季休業	12月 25日 (土)～1月 6日 (木)	同 左
試験・調整期間	2月 1日 (火)～2月 15日 (火)	1月 28日 (金)～2月 10日 (木)
※ 研修期間	2月 16日 (水)～3月 19日 (土)	2月 11日 (金)～3月 19日 (土)
春季休業	3月 20日 (日)～4月 6日 (水)	同 左

※ 振替授業日 —— 各曜日に一定の授業回数を確認するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。

※ 研修期間 —— 集中講義や補講などが行われることがある。

※ 試験・調整期間 —— 定期試験や補講を行う。

振替試験日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、1セメスターで行える授業の回数が少なくなってきています。そこで、本学では平成12年度から振替授業日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は試験期間の繰り下げにより、前期は夏季休業中に、後期は研修期間中に試験を実施することとしています。

なお、試験期間中に祝日が含まれる場合は、その日の試験を別の曜日に振り替えて実施することがあります。具体的な日程については、別紙のカレンダーをご覧ください。

☆ 参 考

- 新入生歓迎祭開催に伴う休講

第1部 4月15日(木) 5時限、16日(金) 3～5時限
[歓迎祭開催日程：4月15日(木)～17日(土)]

- 大学祭開催に伴う休講

第1部 11月1日(月)、11月2日(火) 全時限、
[大学祭開催日程：10月30日(土)～11月3日(水)]

第2部 休講は伴わない

[大学祭開催日程：11月13日(土)～14日(日)]

- センター試験に伴う休講

1月14日(金) 全時限(予定)

平成22年度カレンダー（第1部）

〔1部前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
4月					1	2	3	1日(木)～6日(火) 春季休業
	4	5	6	7	8	9	10	5日(月) 入学式
	11	12	13	14	15	16	17	6日(火) ガイダンス
	18	19	20	21	22	23	24	7日(水) 前期授業開始
	25	26	27	28	29	30		15日(木) 新歓祭5限休講 16日(金) 新歓祭午後休講
5月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
6月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
7月					1	2	3	21日(水) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	4	5	6	7	8	9	10	22日(木)～8月4日(水) 試験・調整期間
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
8月	1	2	3	4	5	6	7	5日(木)～9月15日(水) 夏季休業期間
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
9月				1	2	3	4	16日(木)～9月30日(木) 研修期間
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			

〔1部後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事	
10月						1	2	1日(金) 後期授業開始	
	3	4	5	6	7	8	9	15日(金) 振替授業日 (月曜の授業を実施)	
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
11月			1	2	3	4	5	6	11月1日(月)・2日(火) 大学祭休講措置 大学祭10月30日(土) ～11月3日(水)
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27	26日(金) 振替授業日 (火曜の授業を実施)	
	28	29	30						
12月				1	2	3	4	25日(土)～1月6日(木) 冬季休業期間	
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
1月							1	14日(金) センター試験に 伴う休講措置	
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
2月				1	2	3	4	5	1日(火)～15日(火) 試験・調整期間
	6	7	8	9	10	11	12	15日(火) 金曜日の 振替試験調整日	
	13	14	15	16	17	18	19	16日(水)～3月19日(土) 研修期間	
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28							
3月			1	2	3	4	5	20日(日)～4月6日(水) 春季休業期間	
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				

平成22年度カレンダー（第2部）

〔2部前期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
4月					1	2	3	1日(木)～6日(火) 春季休業 7日(水) 前期授業開始
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
5月							1	7日(金) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
6月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
7月					1	2	3	21日(水)～8月3日(水) 試験・調整期間
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
8月								4日(木)～9月15日(水) 夏季休業期間
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
9月				1	2	3	4	16日(木)～9月30日(木) 研修期間
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			

〔2部後期〕

	日	月	火	水	木	金	土	主な行事
10月						1	2	1日(金) 後期授業開始 15日(金) 振替授業日 (月曜の授業を実施)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
11月								11月13日(土)・14日(日) 大学祭
	1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
12月				1	2	3	4	25日(土)～1月6日(木) 冬季休業期間
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
1月							1	14日(金) センター試験に伴う休講措置 28日(金)～2月10日(木) 試験・調整期間
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
2月								11日(金)～3月19日(土) 研修期間
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
3月								20日(日)～4月6日(水) 春季休業期間
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	

I 全学共通科目の履修案内

I 全学共通科目の履修案内

1. 全学共通教育の目標と位置付け

全学共通教育は、「大学生として必要な知識を修得すること、自主的・総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること」を目標としています。

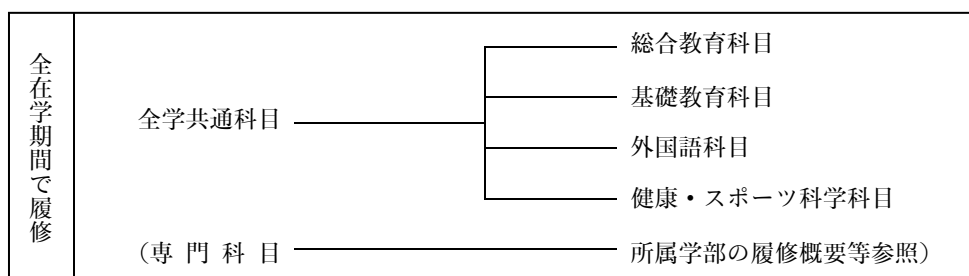
本学では原則として、全在学期間を通じた一貫教育体制のもと教育を行っています。これは、それぞれの学部が提供する専門教育科目と、全学体制で提供する全学共通科目とを、全在学期間を通じて並行して学習するという制度です。

もちろん、全学共通科目として提供されているもののうち、基礎教育科目や外国語科目のように低学年での履修が望ましい科目もあります。

しかし、総合教育科目に関しては、専門に偏ることがないように、できるだけ学問的視野を広げ、幅広い知識と教養を身につけるように設けられた科目であり、高学年での履修に適した科目も提供されています。

したがって、総合教育科目については低学年で集中的に履修するのではなく、全在学期間を通して、履修計画を立てることが望まれます。

また、全学共通教育は、集中的・効果的な教育、科目体系と科目選択の多様化、学生の国際交流の観点から、 Semester制度（前期・後期の2期制）を導入し、それぞれの期間で完結する授業を提供しています。



注意：履修方法については所属学部の履修概要等を参照してください。

所属学部の履修概要は、4月上旬に配布される予定です。

2. 全学共通科目の理念と目的

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、大学教育全般の基礎となる学習・研究能力の育成、広い視野に立った総合的な判断力の育成、現代社会に生きる人間に求められる普遍性をもつ教養の修得等を目的とするもので、全学の協力のもとに行われます。

総合教育科目は、総合教育科目 A と総合教育科目 B の二つに区分されます。

- ① 総合教育科目 A は、人類の生存や市民生活等に直接かかわり、すぐれて現代的・実際的な問題を、多面的に取り扱う科目から構成され、これまでの本学における教育・研究の蓄積に基づいて、「人間と環境」「都市・大阪」及び「生命と人間」という三つの主題と一つの「特別枠」で行われます。総合教育科目 A は、とくに学際的・総合的な科目ですので、全学生の受講の便宜をはかって、原則として総合教育科目以外の授業のない水曜日・金曜日の5時限（第1部）に開講されています。
- ② 総合教育科目 B は、人間にとってより基本的かつ一般的な問題を取り扱います。ここには、人間存在とその基礎となる社会に関わる問題をテーマとする「人間と社会」、過去から今日に至る人間の社会的営為が生み出してきたものをテーマとする「歴史と文化」、こうした人間のもう一方の基盤である自然の理解をテーマとする「自然と人間」、情報社会を生きる人間として必要な計算機ならびに情報をテーマとする「情報と人間」という四つの科目群と一つの「特別枠」がもうけられ、その下にさらに九つの主題が設けられています。学生諸君はこの多様なメニューを持った総合教育科目 A・Bの中から、各々の関心や興味に応じて、自由に科目を選択することができますが、所属の学部や専攻領域にとらわれず、幅広く、また4年間（医学部を除く）の中で計画的に修得するようにしてください。
- ③ 総合教育科目 B の演習科目は平成10年度から開講されたもので、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。
- ④ 総合教育科目 A の特別枠「大阪市大でどう学ぶか」と総合教育科目 B の初年次教育「初年次セミナー」は1回生を対象に前期に開講される科目で、新入生が本学のことをよく知り、大学での学び方を習得することを目的としています。さらに、総合教育科目 B の特別枠「単位互換科目」は（P. 5 参照）、個別大学の枠を超えた大学

相互の協力によって大学間連携を強めるとともに、大学の知的財産を活用することによって地域社会に貢献することを目的として大学コンソーシアム大阪（平成18年度より）及び大阪府立大学、大阪商業大学（平成14年度より）との協定によって科目が提供されます。

（注）平成21年度の総合教育科目では、履修受験届を提出するだけで、受講しない者が多く見受けられました。そのため、授業や試験時の教室運用に支障をきたす場合があります。今後は、履修する科目を慎重に選んで履修受験届を提出するように注意してください。

履修希望者が教室定員を上回る場合は、履修者数を制限することがあります。

(2) 基礎教育科目

主として理科系の学部において専門教育のための原点であり、広い意味での基礎として体系的習得が望まれる授業です。数学、物理学、その他の自然科学が一例です。これは専門教育に直接つながる専門基礎教育とは異なり、基礎的学問分野をそれ自身の体系として学習し、専門教育のより深い理解と目先の科学技術にとらわれない、長期的視野に立つ創造の原動力たることを目的とします。

(3) 外国語科目

本学の外国語教育は、学問研究のための情報交換や将来の職業上の必要性を考慮し、それに応じた語学力の養成、外国人とのコミュニケーション能力の開発、異文化の正確な目標として総合的な見地から行われています。そのために教育内容やクラス編成を多様化し、視聴覚機器（外国語特別演習室）を利用した授業も提供されています。

(4) 健康・スポーツ科学科目

健康と体力増進に関する科学的知識と個人に応じたその実践方法を修得すること、生涯を通じて、よりスポーツに親しみ楽しむことができるようにスポーツ科学の知識を修得すること、個人の体力や能力に応じたスポーツ実践能力を高めることによって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を営むうえでの資質を育成することを目的とします。

3. 単位の基準

大学の授業の単位は、大学設置基準の規定に基づき、原則として教室での学習と教室外の学習とを含めて45時間の学習に対して1単位と定められています。

本学の全学共通科目における1単位の基準は下記のとおりとします。

講義、演習科目……………15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

外国語科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

〔新修外国語〕特修…15時間の授業と30時間の自習をもって1単位

実験、実習科目……………30時間の授業と15時間の自習をもって1単位

全学共通科目では、1回（時限）の授業時間を2時間としているので、1時間の学習時間と単位は次のとおりです。

	授業時間数	自習時間数	期間（回数）	合計時間数	単位数
講義、演習科目	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
外国語科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1
新修外国語〔特修〕	1回 2時間	4時間	15週	90時間	2
実験、実習科目	1回 2時間	1時間	15週	45時間	1

4. 授業時間

〈第1部〉

第1時限	9時00分～10時30分
第2時限	10時40分～12時10分
第3時限	13時00分～14時30分
第4時限	14時40分～16時10分
第5時限	16時20分～17時50分

〈第2部〉

第1時限	18時00分～19時30分
第2時限	19時40分～21時10分

5. 全学共通科目の履修について

全学共通科目の履修については、学部・学科によって進級又は卒業に必要な科目、単位数、履修年次等が異なったり、科目数を指定している場合がありますので所属学部で発行している履修概要等を参照してください。

（注）外国語科目及び健康・スポーツ科学科目の履修については、シラバス（P. 159、P. 241）を参照してください。

◎「情報基礎 等」の履修について

(1) 「情報基礎」「プログラミング入門」「情報の探索と利用」の履修について（前期）

総合教育科目Bの「情報基礎」等は、コンピュータを使用する実習科目であるため、履修者数を一クラスにつき50名に制限します。履修を希望する者は、所属学部へ「履修受験届」を提出する前に「出席調査票」を学生支援課（全学共通教育棟2F）に提出し、履修の許可を受けなければなりません。

・履修「出席調査票」の配布

新1回生については、入学手続指定日に所属学部より手渡される全学共通教育関係書類に同封の説明書を参照すること。2回生以上は以下の受付日時に全学共通教育棟（2階）学生支援課事務室において配布します。

・受付日時及び場所

新1回生については、4月2日（金）入学関係書類提出日に各所属学部受付会場（1号館教室予定）にて「出席調査票」を提出してください。

2回生以上は、3月29日（月）～3月31日（水）9時～12時、13時～17時の間に全学共通教育棟（2階）学生支援課事務室に提出してください。ただし、提出は一人1枚とします。

・履修許可者の発表

4月6日（火）16時 第1体育館西側掲示板に掲示します。

・授業の開始

この授業科目は4月8日（木）3時限から開始します。

初回の授業には、事前に配布されたパスワードを記した用紙を持参してください。

詳細及び第2部の履修については、別途掲示します。

(2) 「情報基礎」「プログラミング入門」「情報の探索と利用」の履修について（後期）

前期と同様「出席調査票」の提出が必要です。提出時期等については7月に別途掲示します。

◎「演習科目」の履修について

平成10年度から開講された総合教育科目Bの「演習科目」は、概ね主題ごとに1～2科目を提供します。「演習科目」は、少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業です。

第1回目の授業時に履修許可者を確定しますので、履修を希望する者はシラバスを参照のうえ、必ず出席してください。

◎ 留学生対象科目の履修について

外国人留学生を対象に、外国語科目として「日本語」1A～5B（P.214～216参照）、総合教育科目Bとして「日本事情」IA～IIB（P.89～91）が開講されています。

このうち、「日本事情」IIA、IIBについては、留学生と日本人学生の交流をかねて、クラス定員（20～25名程度）を上回らない範囲で留学生以外の学生の履修を認めます（日本人学生の履修希望者数が多い場合、留学生履修者数とのバランスを考え、選考を行う予定です。）

6. 履修受験届等について

単位を修得しようとする科目は、各セメスターの初めに、次の【記入要領】により「履修受験届」等を所属学部事務室に提出してください。提出時期・提出場所等は、所属学部で掲示します。

【記入要領】

(1) 履修申請の手続及び登録の確認

① 前期の履修手続時に申請する授業科目は、前期・集中講義・通年（専門科目のみ）の科目です。後期開講の授業科目については、後期履修申請時（10月）に行います。ただし、通年科目（専門科目のみ）については記入する必要はありません。また、集中講義は後期には登録できません。

② 提出後、履修受験届の内容を記載した「履修申請確認表」を所属学部事務室にて交付しますので、提出した内容と一致しているか各自点検のうえ、エラー表示のある科目及び登録内容に誤りがある場合は、指定された期日までに必ず「修正届」を提出してください。

期日までにエラー表示のある科目及び登録内容の誤りを修正しないときは、当該科目の登録が無効になるので注意してください。

③ 修正手続の期限を過ぎた後は、別科目への変更は認められませんので登録漏れのないようによく確認をしてください。

④ 【履修申請手続きの流れ】（P.8）を参照してください。

⑤ 「履修受験届」、「修正届」の提出がない場合は、当該授業科目を履修し、受験することができません。

(2) 記入上の注意

- ① 【履修受験届の記入例】(P.7)及び「英数字の記入見本」(P.7)を参照のうえ、必ず HB の黒鉛筆で記入してください。(枠の外へはみださないこと)
- ② 誤記入の場合は、消しゴムで完全に消してから再記入してください。
- ③ 時間割コードの誤記入が多く見受けられますので、記入後、必ず点検してから提出してください。
- ④ 用紙は直接機械処理をしますので、汚したり折り曲げたりしないでください。万一用紙を破損した場合は、所属学部事務室に申し出て、再交付を受けてください。
- ⑤ 学部より特に願い出が必要な科目を履修する場合は、別途、履修受験届(指定外クラス履修願等)の提出を必要とすることがありますので、所属学部事務室に申し出てください。

7. 障害を有する学生の受講等について

障害を有する学生の受講等について要望があるときは、第1部にあっては所属学部事務室に、第2部にあっては2部事務室に申し出てください。

8. 試験及び成績について

(1) 定期試験等

全学共通科目の定期試験は、原則として各セメスターの期末に行います。ただし、授業担当者によっては、このほかに一定期間の各授業時間に実施する「期間外試験」や、試験に替えてレポートの提出、平常の成績などで評価する場合があります。さらに、その他随時実施される試験があります。

試験に関する詳細は適宜、学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)に掲示します。

◎ 追試験

病気その他やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対しては、学部が指定する範囲・条件を満たす場合に限り、本人の願い出により追試験を行うことがあります。

追試験の願い出は、当該科目の試験終了後に、受験できなかった理由を明記し、医師の診断書等証明する書類を追試験願に添付のうえ、所属学部事務室に提出しなければなりません。

追試験に関する条件等は、定期試験前に所属学部掲示板に、また、追試験の受験を許可された者の氏名及び実施日程等は、定期試験終了後定められた日に、学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)にそれぞれ掲示します。

(2) 成績

成績は、合格科目は「A・B・C」の表記、不合格科目は「E」の表記をもって、所属学部事務室から各人に成績通知書で通知します。なお、成績通知書の交付日時(各セメスターごと)、場所については所属学部掲示板に掲示します。

9. 各種掲示板について

全学共通科目に関する事項(授業、休講、履修等)やその他あらゆる連絡事項は掲示板をもって行いますので、見落とさないよう注意してください。

第1部の掲示板は、主に授業時間割関係、休講・補講通知、教室変更、学生呼び出し等の掲示を行う学生支援課共通教育専用掲示板(全学共通教育棟1階ピロティ東側)と、適宜使用する{履修関係(履修許可者の発表、各セメスター開始前の履修方法の周知等)の掲示を行う}第1体育館西側掲示板があります。第2部の掲示板は、2部事務室前に設置しています。

10. 交通スト、台風時等の授業について

(1) 交通スト当日の杉本学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は休講とします。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。

- ① JR 阪和線
- ② 私鉄（近鉄、阪急、阪神、南海、京阪）の1社以上
- ③ 地下鉄及び JR 環状線が同時

(2) 台風時等の杉本学舎の授業について

「大阪府に暴風警報」が発令された場合の授業は原則として休講とします。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、状況によって警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

〈別表〉

第1部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前 7 時 以前		全 時 限
午前 10 時 以前	1・2 時 限	3・4・5 時 限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全 時 限	

第2部の授業

スト・警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午後 3 時 以前		全 時 限
午後3時を過ぎても解除されない場合	全 時 限	

11. 単位互換及びインターネット講義について（講義概要等は別冊）

(1) 単位互換

平成14年度から、教育分野における交流を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、大阪府立大学及び大阪商業大学との間で単位互換を実施しています。さらに平成18年度から新たに大学コンソーシアム大阪として単位互換事業が実施されています。なお、単位互換科目を履修する際には、所属学部によって単位認定等の取り扱いが異なりますので、必ず所属学部履修規程等を参照してください。

(2) インターネット講義

平成14年度から、全学共通科目でインターネット講義を実施しています。インターネット講義には、国内外の受講者を対象としたインターネット講座と同時に行われる科目もあり、受講時間に縛られることなく、社会人など学外受講者とメールによる意見交換などをしながら受講することもできます。履修後、試験に合格した場合は総合教育科目として単位認定されます。

(3) 平成22年度の履修について

- ① 履修及び卒業に必要な単位として認めるかどうかは、各所属学部によって異なります。各所属学部履修規程を必ず参照してください。
- ② 提供される科目ごとに受講者数の制限があります。
- ③ 単位互換科目の講義概要の配布は学生支援課事務室（2F）と2部事務室で行います。また、講義概要の閲覧は各所属学部事務室でも可能です。
- ④ 「単位互換履修出願票」の受付は、下記期間中に学生支援課事務室2F（第1部学生）と2部事務室（第2部学生）で行います。
 - ・大学コンソーシアム大阪単位互換科目 4月1日（木）～4月9日（金）
 - ・大阪府立大学、大阪商業大学の間で実施する単位互換科目 4月7日（水）～4月13日（火）
- ⑤ 詳細については、学生支援課共通教育担当（06-6605-2935）までお問い合わせください。

12. 全学共通科目 Q & A

Q1 全学共通教育は何のため？

人生の中でも大学生の間こそ、自らを磨く絶好の機会です。本学の皆さんには、学部の専門を習得することはもちろんですが、専門の狭い範囲だけにとじこもることなく、時代の変化に対応できる基礎を固め、広い視野を持って考えることのできる人間になってほしいと思います。全学共通教育は、そのために皆さんを手助けします。卒業に必要な一定の単位数などが定められてはいますが、それを受け身ではなく、自らの“人間づくり”のために積極的に履修して下さい。

Q2 なぜ、全学共通科目はセメスター制なのか？

本学でも以前は1年間を通して授業をする通年制でしたが、平成6年の教育課程の改革にあわせて、1年間を前期と後期に分けて、授業を各期に完結させるセメスター制に移行しました。セメスター制を採用したのは、次のようなメリットが考えられるからです。①短期間に集中して履修をすることで、効果的な学習ができる。②多数の科目を提供することによって、科目体系が整備され、多様な科目の選択が可能になる。③海外の大学の学期と整合させることで、学生の国際交流が促進される。

Q3 総合教育科目は、なぜこんなにたくさんあるの？

全学共通科目の中でとりわけ総合教育科目は、幅広い視野と考える力を身につけることにより社会人として必要な教養を培うとともに、自己の専門の意義も据え直すことにより人間としての責務を考える最適の場です。

本学では平成6年に大規模なカリキュラム改革を行いました。セメスター制の利点を生かして総合教育科目を多様化し、学生の皆さんの関心に応じて自由な履修ができるようにしました。総合教育科目のシラバスが「全学共通科目シラバス・履修案内」の大半を占めているのはそのためですので、在学中の履修計画を立てるために必ず目を通して下さい。

本学の総合教育科目は、基礎的・教養的なものから応用的・実践的なもの、さらに学際的・総合的なものまで、多種多様な科目から構成されており、他大学に比べて豊富なメニューに恵まれていると言っていいでしょう。

Q4 4年一貫教育とは？

最近、「4年一貫教育」(全在学期間を通じての体系的教育という意味)という言葉がよく使われますが、これは専門教育と全学共通科目の両方を学生の全在学期間を対象に行うということで、以前は1・2回生を教養課程、3回生から専門課程となっていました。これを廃止したのはそのためです(なお、残念ながら医学部だけはキャンパスの都合で全学共通科目の履修は現在も2回生までとなっています)。

もちろん、全学共通科目の中でも外国語科目や基礎教育科目の多くはその性格上、今も1・2回生における履修が中心となっていますが、総合教育科目に関しては1・2回生の間だけでなく、3・4回生になってからも履修を続けることを強く勧めます。総合教育科目の中には専門科目をある程度習得した3・4回生に適した科目も数多くあります。とくに総合Aは上回生が受けやすいように専門科目のない5時限に開かれています。専門科目の習得段階に応じた科目を選ぶためにもシラバスを活用して下さい。

Q5 総合教育科目の履修制限は、なぜ？

総合教育科目の履修制限を行っている理由は、履修を全く自由にしてしまうと、卒業に必要な単位数を早く取ってしまうと、1・2年生の間に空いている時間を総合教育科目で埋めてしまう傾向があるからです。外国語や専門科目の大部分が年次指定されているのに対し、総合教育科目は原則としていつでも履修できるからです。しかし、大学での授業は、十分な予習・復習時間を必要としています。したがって、履修科目が多すぎると、十分な予習と復習ができなくなります。在学期間全体を通して総合教育科目を履修するという4年一貫教育の趣旨からしても、総合教育科目の履修制限は必要と考えています。

Q6 総合教育科目の受講者数制限は、なぜ？

授業を行う教室の席数には上限がありますし、また科目によっては授業に合った人数の適正規模もありますので、授業と学習を正常に行うためにはやむを得ない措置です。

(注) 第1回目の授業時の空登録(受講の決心をしていないのに出だけ出しておく)は、本当に受けたい人の受講を妨げることとなりますので、絶対にやめてください。また、履修受験届を出した科目の授業は必ず受けてください。

Q7 総合教育科目Aは、なぜ5時限目(第1部)なの？

総合教育科目Aは、どの学部・学年の学生の受講にも応えられるようにと、全学の協力で提供している学際的・実践的な科目です。したがって、どの学部・学年の学生でも受講しやすい時間帯に開講する必要があります。しかし、1時限から4時限まではすでに他の教材が入っていますので、それらの受講と競合しないように、週2回(水・金)の5時限に開講しています。

13. 履修受験届の記入例

HBの黒鉛筆で記入

時間割コードは、下の記入見本にならい、枠内に記入すること。
(英字と数字の区別をはっきりする。)

記入要領に該当する場合のみ記入すること。
(所属学部学務係で指示を受けること。)

2010年度 前期 履修受験届
理学部 (第 部) 回生
 氏名 杉本 太郎

記入例 G C E J L S T M H N
O I 2 3 4 5 6 7 8 9

A06SX999

第1部					第2部	
1	2	3	4	5	1	2
1 G 1 1 2 9		1 G 1 3 4 9	1 G 1 4 4 2		2 G 1 1 0 1	提出する前にコードと科目名を照合確認して下さい。
基礎物理学I		ドイツ語基礎1・2	英語1A		心理学への招待	
	1 G 2 2 2 2	1 G 2 3 2 2				※第2部の学生はこの欄に記入して下さい。
	解析I	基礎物理学実験I				
	1 G 3 2 7 2	1 G 3 3 4 2		1 G 3 5 0 4		
	バスケットボールI	英語2A	ドイツ語基礎1・2	現代の医療		
1 G 4 1 2 1		1 G 4 3 2 3				
線形代数I		基礎物理化学B				
1 G 5 1 0 1						
心理学への招待			基礎物理学I			
現住所(連絡先) 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-5-8					TEL 6761-1234	
勤務先名(第2部学生のみ) 大阪株式会社					TEL 6321-4321	
					携帯電話番号 TEL 090-123-4567	

連絡先を記入すること。
(2部学生で勤めている人は勤務先も記入)

複数時限にわたる科目(ペア科目)については、最初の時限には時間割コードと科目名を記入し、残りの時限には、時間割コードは空白のまま、下の欄に科目名のみを記入すること、なお、時限が連続しているときは、科目名を「→」で表示してもよい。

【英数字の記入見本】

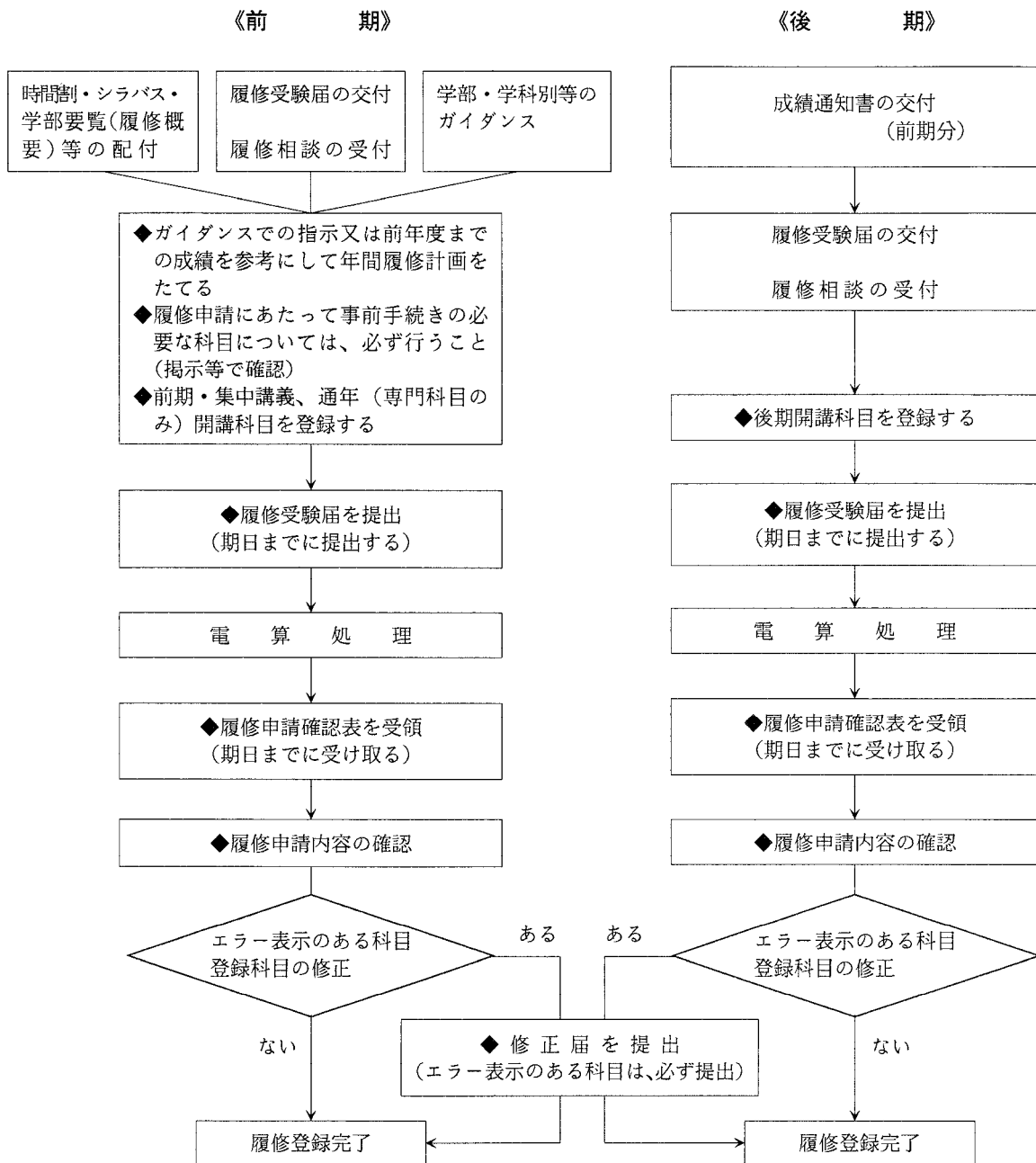
- G 線をつながない
つき出しをはっきり
- C セリフをつける
セリフを傾けない
- E ひげを出さない
垂直に
- J 上ぶたをはっきり
カーブをはっきり
- L 真下にまっすぐ
真横にまっすぐ

- S セリフをつける
セリフは下に長く
- T 縦線を傾けない
横線は水平にまっすぐ
- H 縦線を傾けない
横線は水平にまっすぐ
- N 縦線・斜線とも
まっすぐ

- 1 余計な飾りをつけない
縦線は真直ぐに
- 2 下線は真横に
ループはつけない
- 3 中央部は十分つき出す
カーブは大きく
- 4 間隔を十分あける
角をはっきりつける
- 5 間隔を十分あける
縦線をつき出す

- 6 線を十分長く
線をつなが
- 7 鍵をつける
余計な飾りをつけない
- 8 ループを大きく
線を確実ににつなぐ
- 9 線を確実ににつなぐ
縦線を十分長く
- 0 線を確実ににつなぐ
縦長の楕円にする

【履修申請手続の流れ】



注：◆印は、学生がしなければならない作業を表す。

Ⅱ 全学共通科目の授業科目

1. 全学共通科目の履修案内

日 本 語			英 語		
総合教育科目 A			Integrated General Courses A		
	主 題	人間と環境 都市・大阪 生命と人間 特 別 枠		主 題	Humanity and the Enviroment Studies of Osaka Humanity and Life
総合教育科目 B			Integrated General Courses B		
科目群	人 間 と 社 会		科目群	Humanity and Society	
	主 題	人間と知識・思想 現代社会と人間 社会と人権		主 題	Humanity and Knowledge Humanity and Modern Society Society and Human Rights
科目群	歴 史 と 文 化		科目群	History and Culture	
	主 題	歴 史 地域と文化 文学と芸術		主 題	History Regions and Culture Literature and the Arts
科目群	自 然 と 人 間		科目群	Nature and Humanity	
	主 題	現代の自然科学 自然科学と人間		主 題	Modern Natural Science Natural Science and Humanity
科目群	情 報 と 人 間		科目群	Information and Humanity	
	主 題	情報と人間		主 題	Information and Humanity
科目群	初年次教育		科目群	First Year Experience	
	主 題	初年次教育		主 題	First Year Experience
基礎教育科目			Basics in the Sciences		
	主 題	数 学 物 理 学 化 学 生 物 学 地 球 学 図 形 科 学		主 題	Mathematics Physics Chemistry Biology Geosciences Graphics
外国語科目			Foreign Languages		
	主 題	英 語 ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 中 国 語 ロ シ ア 語 朝 鮮 語 日 本 語		主 題	English German French Chinese Russian Korean Japanese
健康スポーツ科学科目			Health, Exercise and Sport Sciences; HESS		
	主 題	健康スポーツ科学講義 健康スポーツ科学実習 { 実験実習 スポーツ実習		主 題	Health, Exercise and Sport Sciences throughout Life Practice Courses { Experimental Education for HESS Practice-Field Work for HESS

2. 平成 22 年度 全学共通科目の授業科目一覧

○総合教育科目 A

総合教育科目 A では、すぐれた現代的・実証的な問題を「主題」として取り上げ、総合大学としての本学の教育・研究の蓄積を生かして、一つ一つの「主題」を様々な学問領域から多面的に取り扱うことによって、今日的な問題について多面的かつ総合的な理解力と判断力を養うことをめざしている。今年度開講の三つの主題の内、「人間と環境」では、人間と環境の関わりを、公害、科学技術、医療、法・行政、経済活動等の視点から検討する。「都市・大阪」では、本学がそこに立地する大阪の都市としての歴史・文化や在り方、地理、都市生活、都市政策や都市づくり、経済活動などを多面的に取り扱う。また「生命と人間」では、生命倫理、戦争、医療、福祉、進化等、人間の生死に深くかかわる問題に、様々な学問領域からアプローチする。いずれの主題に属する科目も、一つ一つ完結した科目であるが、同じ主題に属する科目を複数受講することによって、その主題についてより深い知見を得ることができる。

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
人間と環境	日 本 の 公 害	2	2		全：金・5				32
	人 間 と 居 住 環 境	2	2	全：金・5					32
	開 発 と 環 境	2	2		全：金・5				33
都 市 ・ 大 阪	歴 史 の な か の 大 阪	2	2				全：木・1		33
	大 阪 の 自 然	2	2		全：金・5				34
	都 市 生 活 と 人 間 福 祉	2	2	全：金・5					34
	大 阪 の 地 理	2	2	全：水・5					35
	都 市 の 経 済 と ビ ジ ネ ス	2	2		全：水・5				35・36
	現 代 都 市 論	2	2		全：水・5				36
	国 際 地 域 経 済 と 大 阪	2	2		全：水・4				37
	大 阪 落 語 へ の 招 待	2	2	全：金・5					38
	東 ア ジ ア 市 民 社 会 論 入 門	2	2	全：金・3					39
	市 大 都 市 研 究 の 最 前 線	2	2		全：水・5				39・40
生 命 と 人 間	生 と 死 の 倫 理	2	2		全：水・5				40
	戦 争 と 人 間	2	2	全：水・5		全：火・1			41
	生 命 と 進 化	2	2		全：金・5				41・42
	現 代 の 医 療	2	2	全：水・5					42
	人 体 を 考 え る	2	2	全：金・5					42・43
	生 命 と 法	2	2	全：金・5		全：金・2			43
	技 術 と 生 命	2	2		全：金・5				44
特別 枠	大阪市大でどう学ぶか	2	2	全：水・5					44・45

○総合教育科目B

科目群：人間と社会

「人間と社会」の目標は、社会の構成要素である人間そのものと、人間が形成する社会について、多様な側面から総合的に理解することである。そのために多数の科目が配置されているが、主題「人間の知識・思想」では、人間の心理・思想・行為など人間の内面や人間の行動に関する科目が配置され、人間そのものに対する理解を深めることが目標である。「現代社会と人間」の目標は、政治・経済・法制度など社会、とりわけ現代社会の仕組みと人間の関わりを理解することである。「社会と人権」では、人間の権利とそれに関連する諸問題に関する科目を提供し、人権尊重の認識を深めることを目標とする。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
人間と知識・思想	哲学入門	2	2	全：火・4					48
	論理学入門	2	2				全：月・1		48
	心理学への招待	2	2	全文：月・3		全：月・1			49~52
				全文：木・4					
				全理：火・3					
				全理：金・1					
	認知の仕組み	2	2		全：火・3				52
	行動と学習の心理	2	2		全：木・4				52・53
	対人行動の影響と意味	2	2	全：月・3					53
	ゲームで学ぶ社会行動	2	2		全：木・4				54
	日常の中の不思議を探す演習	2	2		全：火・3				54・55
	教育と発達心理学	2	2	全：火・2					55
教育と発達心理学演習	2	2		全：木・3				56	
読むこと書くことの科学	2	2		全：火・4				56・57	
現代社会と人間	現代文化の社会学	2	2		全：火・2				57
	社会科学のフロンティア	2	2	全：木・2					58
	日本国憲法	2	2	全：木・2		全：木・1			58
	都市的世界の社会学	2	2		全：木・2				59
	日本と世界の教育	2	2	全：水・3					59
	宗教と社会	2	2	全：木・4					60
	現代社会学入門	2	2	全：月・2			全：水・2		60・61
	現代の社会問題	2	2	全：金・2					61
	世界のなかの日本経済	2	2	全：火・2		全：火・1			62
	現代経済学入門	2	2	全：水・3		全：水・2			62
	法と社会	2	2		全：木・4				62・63
	現代の経営	2	2		全：火・3		全：月・1		63
	ライフサイクルと教育	2	2		全：木・2				64
	現代社会と健康	2	2	全：火・1	全：火・1	全：水・1			65
				全：木・2	全：木・2				
	家族と社会	2	2	全：金・5					65・66
現代社会におけるキャリアデザイン	2	2		全：火・3				66・67	
現代社会と大学	2	2	全：木・4					67	
現代の経営演習	2	2		全：月・4				68	
現代社会と大学演習	2	2		全：木・3				68	

主題	授業科目	毎週 時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲載項
				前 期	後 期	前 期	後 期		
社 会 と 人 権	現代の部落問題	2	2		全：金・2	全：金・1			69・70
	都市社会と差別	2	2	全：金・1					70
	部落解放のフロンティア	2	2		全：金・1				71
	部落差別の成立と展開	2	2	全：金・1			全：金・1		72・73
				全：金・2					
	障害者と人権Ⅰ	2	2	全：金・2		全：金・2			73
	障害者と人権Ⅱ	2	2		全：金・2		全：金・2		73・74
	ジェンダーと現代社会Ⅰ	2	2	全：金・2					75
	ジェンダーと現代社会Ⅱ	2	2		全：金・2				75
	ジェンダーと現代社会	2	2			全：月・1			75
	エスニック・スタディ入門編	2	2	全：金・2		全：金・1			76
	エスニック・スタディ応用編				全：金・2				76
	部落産業論	2	2	全：金・2		全：金・1			77
	障害者と人権Ⅲ 演習	2	2	全：水・1					77・78
人権と多様性の研究 演習	2	2	全：水・4					78	

科目群：歴史と文化

「歴史と文化」は、人間の築きあげた社会や文化を歴史的、地理的に展望すること、文化の高度に洗練された部分である文学や芸術の真髄に触れることを目的とする科目からなる。これらを通じて、人間の生と営みの意義を認識し、現代を主体的に生きていくことのできる人間としての自己を形成すること、総合的思考力を養い、専門科目の完全な習得のために必要な知的基礎と豊かな人間性を涵養することを目指している。主題「歴史」は、人間社会の構造の形成過程、言語文化の展開などを学び、歴史的なものの考え方を養成する。「地域と文化」は、世界諸地域の空間的仕組みとさまざまな伝統的・現代的文化の理解を通じて、国際化時代にふさわしい知性を養う。「文学と芸術」は古来からの人間の生の軌跡を示す文学・美術などの享受により、古典の素養を身につけ、人間性について深く思索する姿勢を培う。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
歴史	日本史の見方	2	2	全：金・1		全：木・2			79
	東洋史の見方	2	2	全：木・2					80
	西洋史の見方	2	2	全：水・3		全：月・2			80
	日本社会の歴史	2	2		全：水・3				81
	東洋社会の歴史	2	2				全：火・1		81
	西洋社会の歴史	2	2		全：火・3				82
	現代の歴史	2	2				全：火・2		82・83
	考古学入門	2	2		全：水・2				83
	ことばの歴史	2	2				全：木・2		83・84
地域と文化	歴史学の世界 演習	2	2		全：火・2				84
	現代の地理学	2	2	全：木・3			全：木・1		84・85
	都市の地理学	2	2		全：月・3				86
	文化人類学入門	2	2	全：火・3		全：火・1			86
	ことばと文化	2	2		全：水・2				87
	景観と文化	2	2	全：木・2					87・88
	アジアの文化	2	2	全：月・3					88
	民族と社会	2	2		全：水・4				88・89
	アジアの地域と文化 演習	2	2	全：火・2					89
文学と芸術	日本事情 I A	2	2	全：火・1					89
	日本事情 I B	2	2		全：火・1				90
	日本事情 II A	2	2	全：水・3					90
	日本事情 II B	2	2		全：水・4				91
文学と芸術	日本の古典文学	2	2		全：火・2				91・92
	東洋の文学	2	2	全：木・2					92
	日本の詩歌	2	2	全：火・3					92・93
	東洋美術の流れ	2	2		全：金・2				93
	音楽の諸相	2	2	全：水・4					94
	視覚文化の世界	2	2		全：火・4				94
文学と芸術へのいざない 演習	2	2	全：月・2					95	

科目群：自然と人間

高度に発達に発達した現代の科学技術社会において、自然と人間の関わりを自然科学の視点から理解することは、理科系文科系を問わず不可欠である。そのために本科目群では、自然を理解する科学の方法を学び、自然を正しく理解することを目的とした主題「現代の自然科学」と、人間と自然科学・人間と科学技術との関わりや、科学とは一体何であるかについて考える主題「自然科学と人間」とを提供する。

主題「現代の自然科学」は、文科系学生、生活科学部人間福祉学科と医学部看護学科の学生を対象とする。

主題「自然科学と人間」は、文科系及び理科系の学生を対象とする。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
現代の自然科学	数学の考え方	2	2		全文：月・3	全：月・1		理科系学生は履修不可	95・96
	ニュートンからアインシュタインへ	2	2	全文：木・2			全：月・1		96・97
	物質の多様性	2	2		全文：月・2	全：木・1			97・98
	現代の分子科学	2	2	全文：月・3			全：水・1		98
	生物学への招待	2	2	全文：水・3		全：水・1			99
	地球の科学	2	2		全文：火・1				99・100
	実験で知る自然の世界	4	3		全文：水3・4				100
	地球学入門	2	2		全文：火・1				101
	現代の理学 A	2	2	全文・火 2					101・102
自然科学と人間	科学と社会	2	2	全：木・4				102	
	現代科学と人間	2	2	全：木・4				102・103	
	近代科学の成立	2	2		全：木・4		全：木・1	103	
	ドキュメンタリー・環境と生命	2	2		全：水・4			104	
	実験で知る自然環境と人間	4	3	全：水 3・4				104・105	
	森林環境と人間社会	2	2	全：火・3	全：火・4			105	
	21世紀の植物科学と食糧・環境問題	2	2		全：火・3			106	
	植物の機能と人間社会	2	2		全：月・2			106・107	
植物と人間 演習	2	2	全：集中				107		

科目群：情報と人間

「情報と人間」の目標は、情報社会に生きる人間として、情報の価値を知るとともに、これを資産として活用するための知識と技能の習得を通じて、情報に関する科学的な見方、考え方を養い、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる能力を養うことにある。

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
情報と人間	情報基礎	4	2	9クラス 曜日・時限は シラバス参照	3クラス 曜日・時限は シラバス参照	1クラス 全：金1・2			108・109
	プログラミング入門	4	2	全：月 3・4 全：金 3・4	3クラス 曜日・時限は シラバス参照				109・110
	情報の探索と利用	2	2	全：月・3	全：月・1				111・112
	地図と地理情報	2	2		全：火・2				112
	情報化の光と影	2	2		全：木・2		全：木・1		112・113
	社会と統計	2	2		全：金・3		全：金・1		113・114

○科目群：初年次教育

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
初年次教育	初年次セミナー	2	2	曜日・時限は シラバス参照					115～120

○総合教育科目 B「特別枠」

主題	授業科目	毎週時間	単位数	第 1 部		第 2 部		備考	シラバス掲載項
				前期	後期	前期	後期		
特別枠	単位互換科目	2	別冊参照	曜日・時限は シラバス参照	曜日・時限は シラバス参照	曜日・時限は シラバス参照	曜日・時限は シラバス参照		

○基礎教育科目（曜日・時限はシラバス参照）

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		備 考	シラバス 掲 載 項	
			前 期	後 期			
数	線形代数Ⅰ	2	2	○		122	
	線形代数Ⅱ	2	2		○	122・123	
	解析Ⅰ	2	2	○		123	
	解析Ⅱ	2	2		○	124	
	解析Ⅲ	2	2	○		124・125	
	解析Ⅳ	2	2		○	125	
	応用数学A	2	2	○		126	
	応用数学B	2	2		○	126・127	
	応用数学C	2	2		○	127	
	基礎数学A	2	2	○		第2部開講（前期） 127・128	
	基礎数学B	2	2		○	第2部開講（後期） 128・129	
	学	統計学A	2	2	○		129
統計学B		2	2		○	129	
物	基礎物理学Ⅰ	4	4	○	週2コマ開講	130	
	基礎物理学Ⅱ	4	4		○	週2コマ開講 130	
	基礎物理学Ⅰ-A	2	2		○	131	
	基礎物理学Ⅱ-A	2	2	○		131	
	基礎物理学Ⅰ-E	2	2	○		132	
	基礎物理学Ⅱ-E	2	2		○	132	
	基礎物理学Ⅲ	2	2	○		133	
	基礎物理学Ⅳ	2	2		○	133・134	
	基礎物理学Ⅳ-E	2	2		○	134	
	理	物理学Ⅰ	2	2	○		134・135
		物理学Ⅱ	2	2		○	135
		物理学A	2	2	○		135・136
		物理学B	2	2		○	136
		入門物理学Ⅰ	2	2	○		136・137
入門物理学Ⅱ		2	2		○	137	
入門物理学実験		4	2		○	137・138	
基礎物理学実験Ⅰ		6	3	○	○	138・139	
基礎物理学実験Ⅱ		6	3	○	○	139	

授 業 科 目	毎 週 時 間 数	単 位 数	第 1 部		備 考	シラバス 掲 載 項
			前 期	後 期		
化 学	基礎物理化学 A	2	2	○	○	140
	基礎物理化学 B	2	2		○	140
	基礎有機化学	2	2	○		141
	基礎有機化学 I	2	2	○		141
	基礎有機化学 II	2	2		○	142
	基礎無機化学	2	2	○	○	142
	基礎分析化学	2	2	○		143
	基礎有機化学 M	2	2		○	143
	入 門 化 学	2	2	○		144
	基礎化学実験 I	6	3	○	○	144・145
	基礎化学実験 II	6	3	○	○	145
	化 学 実 験	4	2		○	145・146
生 物 学	生物学概論 A	2	2	○	○	146
	生物学概論 B	2	2		○	146・147
	生物学概論 C	2	2		○	147
	生物学概論 D	2	2	○		147・148
	生物学概論 I	2	2	○		148
	生物学概論 II	2	2		○	148・149
	生物学概論 III	2	2	○		149
	生 物 学 A	2	2	○		149
	生 物 学 B	2	2		○	150
	生物学実験 A	4	2	○		150
	生物学実験 B	4	2		○	151
	生物学実験 M	6	3		○	151
地 球 学	一般地球学 A-I	2	2	○		152
	一般地球学 A-II	2	2		○	152
	一般地球学 B-I	2	2	○		153
	一般地球学 B-II	2	2		○	153
	建 設 地 学	2	2		○	154
	建設地学実習	2	1		○	154・155
	地球学実験 A	4	2	○		155
	地球学実験 B	4	2		○	155・156
図 形 学	図形科学 I	2	2	○		156
	図形科学 II	2	2		○	157

○外国語科目（曜日・時限はシラバス参照）

授 業 科 目		毎 週 時間数	単位数	第1部		第2部		備 考	シラバス掲載項		
				前期	後期	前期	後期		第1部		第2部
									前期	後期	前・後期
英	College English I	2	1	○		○			163~171	218~220	
	College English II	2	1	○		○					
	College English III	2	1		○		○				
	College English IV	2	1		○		○				
	College English V	2	1	○		○					
	College English VI	2	1		○		○				
語	ACE : TOEIC650	2	1	○	○	○		172~173	221~222		
	ACE : TOEFL80	2	1	○	○						
	ACE : Films	2	1		○						
	ACE : Media English	2	1	○	○	○					
	ACE : Critical Writing	2	1	○	○		○				
	ACE : Presentation	2	1		○						
	ACE : Intensive Reading	2	1	○	○						
	ACE : Discussion	2	1	○			○				
	ACE : Literature	2	1	○							
ド イ ツ 語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講	177~181 183~185	225~227	
	基礎1	2	1			○					
	基礎2	2	1			○					
	基礎3	2	1		○		○				
	基礎4	2	1		○		○				
	応用1A	2	1	○							
	応用2A	2	1		○						
	応用1B	2	1	○							
	応用2B	2	1		○						
	特修1	2	2			○					
	特修2	2	2		○		○				
	特修1a	2	2	○							
	特修1b	2	2	○							
	特修3a	2	2	○							
	特修3b	2	2	○							
	特修4	2	2		○						
	特修5	2	2	○							
特修6	2	2		○							
特修7	2	2	○								
特修8	2	2		○							
特修9	2	2	○								
特修10	2	2		○							
フ ラ ン ス 語	基礎1・2	4	2	○				週2コマ開講	187~192	228~230	
	基礎1	2	1			○					
	基礎2	2	1			○					
	基礎3	2	1		○		○				
	基礎4	2	1		○		○				
	応用1A	2	1	○							
	応用2A	2	1		○						
	応用1B	2	1	○							
	応用2B	2	1		○						
	特修1	2	2	○		○					
	特修2	2	2		○		○				
	特修3	2	2	○							
	特修4	2	2		○						
	特修5	2	2	○							
	特修6	2	2		○						
	特修7	2	2	○							

授 業 科 目	毎 週 時 間 数	単 位 数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス掲載項		
			前 期	後 期	前 期	後 期		第 1 部		第 2 部
								前 期	後 期	前・後 期
フ ラ ン ス 語 特 修 8	2	2		○				191・193		
特 修 9	2	2	○	○						
特 修 10	2	2		○						
中 国 語	基 礎 1・2	4	2	○			週 2 コマ開講	194～201	231～233	
	基 礎 1	2	1			○				
	基 礎 2	2	1			○				
	基 礎 3	2	1		○					○
	基 礎 4	2	1		○					○
	応 用 1 A	2	1	○						
	応 用 2 A	2	1		○					
	応 用 1 B	2	1	○						
	応 用 2 B	2	1		○					
	特 修 1	2	2	○		○				
	特 修 2	2	2		○					○
	特 修 3	2	2	○						
	特 修 4	2	2		○					
	特 修 5	2	2	○						
特 修 6	2	2		○						
特 修 7	2	2	○							
特 修 8	2	2		○						
特 修 9	2	2	○							
特 修 10	2	2		○						
ロ シ ア 語	基 礎 1・2	4	2	○			週 2 コマ開講	203～207	234～236	
	基 礎 1	2	1			○				
	基 礎 2	2	1			○				
	基 礎 3	2	1		○					○
	基 礎 4	2	1		○					○
	応 用 1 A	2	1	○						
	応 用 2 A	2	1		○					
	応 用 1 B	2	1	○						
	応 用 2 B	2	1		○					
	特 修 1	2	2	○		○				
	特 修 2	2	2		○					○
	特 修 3	2	2	○						
	特 修 4	2	2		○					
	朝 鮮 語	基 礎 1・2	4	2	○					
基 礎 1		2	1			○				
基 礎 2		2	1			○				
基 礎 3		2	1		○		○			
基 礎 4		2	1		○		○			
応 用 1 A		2	1	○						
応 用 2 A		2	1		○					
応 用 1 B		2	1	○						
応 用 2 B		2	1		○					
特 修 1		2	2	○		○				
特 修 2		2	2		○		○			
特 修 3		2	2	○						
特 修 4		2	2		○					
日 本 語		1 A	2	1	○			留学生のみ対象 " " " " "	214・215	
	1 B	2	1		○					
	2 A	2	1	○						
	2 B	2	1		○					
	3 A	2	1	○						
	3 B	2	1		○					

授 業 科 目	毎 週 時 間 数	単 位 数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス掲載項		
			前 期	後 期	前 期	後 期		第 1 部		第 2 部
								前 期	後 期	前・後 期
日 本 語	4 A	2	1	○				留学生のみ対象 " " "	214~216	
	4 B	2	1							
	5 A	2	1	○						
	5 B	2	1		○					

○健康・スポーツ科学科目

(健康・スポーツ科学講義)

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
			前 期	後 期	前 期	後 期		
健 康 運 動 科 学	2	2	火 ² 全 木 ³ 全	火 ² 全		火 ² 全	旧：健康運動科学論	244
体カトレーニング科学	2	2	木 ⁴ 全	木 ⁴ 全			旧：体カトレーニング科学論	245
ス ポ ー ツ 実 践 科 学	2	2	木 ³ 全 木 ⁴ 全				旧：スポーツ実践科学論	245・246

(健康・スポーツ科学実習)

授業科目	毎週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
			前 期	後 期	前 期	後 期		
健康運動科学実験実習 1	2	1		火 ⁴ 全 木 ¹ EJI (全文)			旧：健康運動科学科目 1	246・247
健康運動科学実験実習 2	2	1					旧：健康運動科学科目 2 休講	
体カトレーニング科学実験実習 1	2	1	木 ² STI (全理)				旧：体カトレーニング科目 1	247
体カトレーニング科学実験実習 2	2	1					旧：体カトレーニング科目 2 休講	
スポーツ実践科学実験実習 1	2	1		木 ² STI (全理)				248
バスケットボール 1	2	1	火 ³ CLI (全文) 火 ⁴ 全 水 ² 全 木 ² STI (全理)	木 ¹ EJI (全文) 木 ² STI (全理)	火 ² 全			248・249
バスケットボール 2	2	1	木 ¹ EJI (全文)					249
バレーボール 1	2	1	火 ³ CLI (全文) 火 ⁴ 全					249
バレーボール 2	2	1		火 ³ CLI (全文) 火 ⁴ 全				250
サッカー 1	2	1	火 ³ CLI (全文) 火 ⁴ 全 木 ¹ EJI (全文) 木 ² STI (全理)	火 ³ CLI (全文) 火 ⁴ 全 木 ¹ EJI (全文) 木 ² STI (全理)				250・251
サッカー 2	2	1					休 講	
ハンドボール 1	2	1					休 講	
ハンドボール 2	2	1					休 講	
陸 上 競 技 1	2	1					休 講	
陸 上 競 技 2	2	1					休 講	

授業科目	毎 週 時間数	単位数	第 1 部		第 2 部		備 考	シラバス 掲 載 項
			前 期	後 期	前 期	後 期		
アーチェリー 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木1 EJI (全文) 木2 STI (全理)		火2 全			251・252
アーチェリー 2	2	1		火3 CLI (全文)				252
ソフトボール 1	2	1	火3 CLI (全文) 木1 EJI (全文)					252・253
ソフトボール 2	2	1					休 講	
テニ ス 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全 木4 全					253・254
テニ ス 2	2	1		木1 EJI (全文) 木2 STI (全理) 木3 全 木4 全				254
卓 球 1	2	1					休 講	
卓 球 2	2	1					休 講	
バドミントン 1	2	1			木2 全			257
バドミントン 2	2	1					休 講	
ゴ ル フ 1	2	1					休 講	
ゴ ル フ 2	2	1					休 講	
フ ッ ト サ ル 1	2	1	火3 CLI (全文) 火4 全 木3 全 木4 全	火3 CLI (全文) 火4 全 木3 全 木4 全	木2 全			255・256
ジョギング・マラソン 1	2	1	火4 全 木1 EJI (全文)	火3 CLI (全文) 木2 STI (全理)				256
ジョギング・マラソン 2	2	1		火4 全				256・257
空 手 道 1	2	1	火4 全					258
健 康 管 理 1	2	1	水5 全	水5 全				258
健 康 管 理 2	2	1					休 講	

参考(1)

平成 22 年度 新設・廃止科目一覧

平成 22 年度から下記のとおり科目を新設・廃止及び科目名の変更をします。

新設・廃止・変更	教 科	科目群	主 題	科 目 名	備 考
新 設 科 目	総合教育科目 A		都 市 ・ 大 阪	都市生活と人間福祉	
”	健康スポーツ科学科目		健康スポーツ科学実習	空 手 道 1	
廃 止 科 目	総合教育科目 A		都 市 ・ 大 阪	大阪の都市生活	
”	基礎教育科目(実験)			基礎物質科学実験	
”	基礎教育科目(講義)			基礎生体物質学	
”	基礎教育科目(講義)			基礎物理学 F	
科目名変更	基礎教育科目(講義)			基礎物理学 IV	旧名： 基礎物理学IV-A
	基礎教育科目(講義)			基礎物理学 IV-E	旧名： 基礎物理学IV-B
	総合教育科目 B	人間と社会	社 会 と 人 権	ジェンダーと現代社会	旧名： 女性学

参考(2)

平成9年度から22年度までの総合教育科目の開講実績一覧

〔科目名は、22年度を基準に記載し、旧科目については、新科目に置き換える。

ただし、単位互換科目は、他大学等提供科目を含む〕

(○：開講、 ———— ：未開設を示す。)

○総合教育科目 A

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
人間と環境	環境と歴史	○		○	○			○	○			○		○	
	日本の公害		○	○			○	○		○			○	○	
	技術と環境	○		○		○	○		○		○		○		○
	環境と健康					○	○			○	○			○	
	開発と環境	○		○	○				○		○	○		○	
	環境と法・行政	○		○							○		○		
	環境と経済				○							○			○
	人間と居住環境														○
都市・大阪	歴史のなかの大阪		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	大阪の自然	○		○	○		○	○		○	○		○	○	
	都市生活と人間福祉														○
	大阪の都市づくり	○		○				○	○		○		○	○	
	都市の経済とビジネス							○	○		○		○	○	
	大阪の地理							○	○		○		○	○	
	現代都市論							○	○		○		○	○	
	大阪の空間文化論							○	○		○		○		
	国際地域経済と大阪										○		○		○
	大阪落語への招待												○	○	
	東アジア市民社会論入門														○
	市大都市研究の最前線														○
生命と人間	生と死の倫理		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	戦争と人間	○		○		○	○		○	○		○	○		○
	生命と進化	○		○		○	○		○	○		○	○		○
	現代の医療	○		○		○	○		○	○		○	○		○
	人体を考える	○		○				○	○			○			○
	生体のしくみ		○				○			○	○			○	
	生命と法				○		○	○		○			○	○	○
	健康へのアプローチ				○		○			○			○		○
	技術と生命					○	○		○			○			○
	生物の時間と人間の生活									○		○		○	
特別枠	大阪市大でどう学ぶか								○		○		○		○

○総合教育科目 B

科目群：人間と社会

主 題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
人 間 と 知 識 ・ 思 想	哲 学 入 門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	論 理 学 入 門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	心理学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西 洋 の 思 想	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東 洋 の 思 想	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	論 理 学 の 展 開	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	認知の仕組み	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文化と社会の心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	性格心理学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人 間 と 宗 教	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	倫 理 学 入 門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行動と学習の心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	感覚と知覚の心理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	対人行動の影響と意味										○	○	○	○	○
	ゲームで学ぶ社会行動										○	○	○	○	○
	日常の中の不思議を探し演習										○	○	○	○	○
	教育と発達心理学											○	○	○	○
	教育と発達心理学 演習											○	○	○	○
	読むこと書くことの科学												○	○	○
現 代 社 会 と 人 間	現代文化の社会学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会科学のフロンティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日 本 国 憲 法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市的世界の社会学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本と世界の教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	宗 教 と 社 会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代社会学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の社会問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	世界のなかの日本経済	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代経済学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法 と 社 会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	政 治 と 人 間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代の経営	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本 の 企 業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ライフサイクルと教育	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
現代社会と健康	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
家 族 と 社 会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
現代 社会と 人間	メディアの社会学								○	○		○		○		○	
	現代社会におけるキャリアデザイン									○		○		○		○	
	現代社会と大学									○		○		○		○	
	基礎会计学									○			○		○		
	現代文化の社会学 演習	—	○		○		○		○				○		○		
	現代の経営 演習	—	—	○		○	○	○					○			○	
	日本の企業 演習	—	○		○				○			○	○		○		
	国際理解と教育 演習	—	—	—	○	○			○					○			
	現代の社会問題 演習	—	—	—	—	—	○	○									
	現代社会と大学 演習	—	—	—	—	—	—	—	—	○		○		○		○	
社 会 と 人 権	現代の部落問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	都市社会と差別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部落解放のフロンティア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部落差別の成立と展開	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障害者と人権Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障害者と人権Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ジェンダーと現代社会Ⅰ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	
	ジェンダーと現代社会Ⅱ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	
	ジェンダーと現代社会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	エスニック・スタディ入門編	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	エスニック・スタディ応用編	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部落産業論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	大阪の部落産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	障害者と人権Ⅲ 演習	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	エスニック・スタディ 演習	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
市民活動のインターシップ 演習	—	—	—	—	—	—	—	—	○								
人権と多様性の研究 演習	—	—	—	—	—	—	—	—	○		○				○		

科目群：歴史と文化

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度		
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部
歴 史	日本史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	東洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	西洋史の見方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本社会の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	東洋社会の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	西洋社会の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現代の歴史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
歴史	考古学入門	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ことばの歴史		○	○		○	○		○	○		○		○	○
	歴史学の世界 演習		○		○		○		○		○		○		○
地域と文化	現代の地理学	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	都市の地理学	○		○	○		○		○		○		○		○
	文化人類学入門	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	文化とコミュニケーション	○			○			○			○			○	
	言語学入門	○	○	○		○	○	○		○	○			○	
	ことばと文化	○		○	○		○	○		○	○		○		○
	景観と文化	○	○	○		○		○		○		○		○	
	アジアの文化										○	○		○	○
	西洋の文化	○		○	○		○	○		○		○			
	民族と社会								○	○		○			
	アジアの地域と文化 演習		○		○							○		○	
	日本事情ⅠA	○		○		○		○		○		○		○	
	日本事情ⅠB	○		○		○		○		○		○		○	
	日本事情ⅡA	○		○		○		○		○		○		○	
日本事情ⅡB	○		○		○		○		○		○		○		
文学と芸術	日本の古典文学										○		○		○
	東洋の文学			○				○					○		○
	西洋の文学	○	○		○	○		○	○		○	○	○	○	
	日本の詩歌		○	○		○		○		○		○		○	○
	日本の物語	○		○		○		○	○		○	○			
	視覚文化の世界													○	○
	芸術の世界	○		○	○	○		○	○		○		○		○
	美の本質	○		○		○		○							
	東洋美術の流れ	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○		○
	西洋美術の流れ	○		○	○		○		○		○		○		○
音楽の諸相									○	○		○		○	
文学と芸術へのいざない 演習		○		○		○		○		○		○		○	

科目群：自然と人間

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
現代の自然科学	数学の考え方											○	○		○
	数学の歩み										○	○		○	○
	ニュートンからアインシュタインへ	○		○	○		○	○		○	○	○	○		○
	マイクロとマクロの世界	○	○		○		○	○		○	○		○	○	○

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
現代の自然科学	物質の多様性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	化学の世界	○			○	○		○	○		○	○		○	○
	現代の分子科学	○			○	○		○	○		○	○		○	○
	生物学への招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地球の科学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実験で知る自然の世界	○		○		○		○		○		○		○	
	地球学入門									○		○		○	
	現代の理学A												○		
自然科学と人間	科学と社会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	現代科学と人間	○		○		○		○		○		○		○	
	近代科学の成立		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	日本の科学技術	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○
	心と脳	○		○	○	○		○		○		○		○	
	ドキュメンタリー・環境と生命							○		○		○		○	
	実験で知る自然環境と人間								○		○		○		○
	森林環境と人間社会									○		○		○	
	21世紀の植物と食糧・環境問題										○		○		○
	植物の機能と人間社会												○		○
	植物の栄養と人間社会											○			
	植物と人間 演習				○		○		○		○		○		○

科目群：情報と人間

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
情報と人間	情報基礎										○	○	○	○	○
	プログラミング入門										○	○	○		○
	情報の探索と利用										○		○		○
	地図と地理情報	○		○	○		○	○		○		○	○		○
	情報化の光と影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会と統計											○	○		○

科目群：初年次教育

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
初年次	初年次セミナー													○	○

○総合教育科目 B
特別枠

主題	授 業 科 目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部	1部2部
特別枠	単位互換科目										○	○	○	○	○

Ⅲ 全学共通科目シラバス（講義概要）等

1. 総合教育科目 A

科目名 英文科目名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単位数
		②は第2部 ①は第1部
		表示が無い場合は第1部
		授 業 担 当 者

日本の公害

Environmental Disruption of Japan

(後期 金・5 全)

2 単位

経営学研究科 畑 明郎

●科目の主題と目標

廃棄物の処理・処分をめぐる紛争が全国で多発している。廃棄物問題の原因、排出者・生産者責任、リサイクルが起こす環境問題などを検討し、廃棄物問題の法政策課題を明らかにし、解決策を提言する。

教員らが直接関わった産廃不法投棄事件、廃棄物焼却問題、産廃リサイクルと埋め戻し問題、廃棄物問題、廃棄物問題の法政策などの具体的事例を紹介しながら、廃棄物問題の解決策を考える。

●授業内容・授業計画

教科書を用いて、下記の項目について解説する。

- ① 香川県豊島と青森・岩手県境不法投棄事件
- ② 福井県敦賀市壜曲事件
- ③ 滋賀県栗東市 R D 事件
- ④ 岐阜市椿洞事件
- ⑤ 四日市市大矢知平津事件
- ⑥ 所沢市くぬぎ山問題
- ⑦ 四日市ガス化溶融炉問題

- ⑧ 石原産業のフェロシルト事件
- ⑨ 小牧市桃花台の地盤沈下事件
- ⑩ 函館市周辺の廃棄物問題
- ⑪ 久留米市の廃棄物処分場問題
- ⑫ 水俣市大規模産廃処分場計画の結末
- ⑬ 1990 年代以降の廃棄物問題
- ⑭ 廃棄物処理法と産廃特措法の問題点と課題
- ⑮ 廃棄物問題への政策提言

●評価方法

出席率、期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

新聞やテレビなどの環境問題報道を視聴し、授業中に DVD も使用するので、欠席しないようにすること。

●教材

教科書：畑明郎・杉本裕明編『廃棄物列島・日本』世界思想社、2009 年。

試験時に教科書持ち込み可とするので、必ず教科書を購入すること。

人間と居住環境

Life and Residential Environment

(前期 金・5 全)

2 単位

生活科学研究科 三浦 研 他

●科目の主題と目標

私たちを取り巻く居住環境は、日常生活の舞台となるため、さまざまな社会問題、環境課題と密接な関係があります。本講座では、高齢化や地球温暖化の中で、安全に安心して、そして快適に生活するために、居住環境に関連して必要となる多様な知識や実践例について学びます。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の授業として、各教員が分担して講義します。

- 第 1 回 ガイダンス,安心・快適な居住環境(三浦 研)
- 第 2 回 お年寄りに安心な住まい(三浦 研)
- 第 3 回 快適な居住デザイン(中西 ひろむ)
- 第 4 回 地震時に身を守るためには?(生田 英輔)
- 第 5 回 日常生活における事故の実態(延原 理恵)
- 第 6 回 住まいの設備や生活機器の安全・安心 1
(岡田 明)
- 第 7 回 住まいの設備や生活機器の安全・安心 2
(長田 敏)
- 第 8 回 ヒートアイランドと健康被害(永村 一雄)
- 第 9 回 安心の住まいのために—集合住宅の設備と障害事例(出口 弘士)
- 第 10 回 住まいの安全:バリアフリーについて考える
1(上田 博之)
- 第 11 回 住まいの安全:バリアフリーについて考える
2(鈴木 哲夫)

第 12 回 安全・安心のための照明環境(土井 正)

第 13 回 障害者、ロービジョン者に安全で快適な光環境(岩田三千子)

第 14 回 まとめ、安心・快適な居住環境(三浦 研)

●評価方法

期末の筆記試験(選択式)を原則とするが、講義内容によって小テストまたはレポートを課す場合がある。採点する小テストまたはレポート課題を課した場合、ひとつの課題について 14 分の 1 の配点を行う。最高点を 100 点として、60 点以上を合格とする。追試等は原則として一切行わない。

●受講生へのコメント

非常勤講師を含む教員によるオムニバス形式で行いますが、講師の都合により授業の順番が前後することがあるため、授業時の連絡をよく聞くこと。実践を踏まえた多様な知識を提供するので、毎回の講義出席が前提であり、出された小テストや課題について、積極的に取り組んで欲しい。また、日頃から居住環境について関心を持ち、関連する情報を収集する学習姿勢を望みたい。

●教材

講義では、プロジェクターや OHP、スライド、ビデオ等を用い、必要に応じて、レジュメ・資料のプリントを配布や、参考文献の紹介を行います。

開発と環境

Development and Environment

(後期 金・5 全)

2 単位

経済学研究科 瀬戸口 明久

●科目の主題と目標

テーマ：近代日本の環境史

この授業は、私たちの身の回りの「景観」を歴史的な産物として見る視点を得ることを目標とする。現在の私たちが見ている「景観」は、ずっと変わらずに存在してきたわけではない。この授業では「都市」「農」「自然」の3つの領域における近代日本の歴史的な展開を論じる。この授業によって、今後の「景観」をめぐる都市計画や農業政策、自然保護などについて考えるための、歴史学的な視座を提供したい。

●授業内容・授業計画

ガイダンス：開発と風景

「都市」の景観（1）都市公園

「都市」の景観（2）動物園

「都市」の景観（3）鉄道

「農」の景観（1）害虫

「農」の景観（2）イネ

「農」の景観（3）里山

「自然」の景観（1）狩猟

「自然」の景観（2）森林

「自然」の景観（3）国立公園

まとめ：これからの国土開発

●評価方法

期末試験とレスポンス・ペーパー

●受講生へのコメント

授業計画の変更や参考書等については、担当者のホームページを参照してください。

<http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/~aseto/lecture.html>

●教材

教科書：授業時にプリントを配布する。

参考書：授業中に指示する。

歴史のなかの大阪

History of Osaka

(後期② 木・1 全)

2 単位

文学研究科 塚田 孝

●科目の主題と目標

私たちが住み、生活している大阪について、歴史的に振り返ることで、現在の私たちの立脚点を確かめる手掛りをえたい。

豊臣秀吉の大坂城とその城下町建設に始まる近世（江戸時代）の大坂は、現代都市大阪につながってくる直接の基点である。しかし、一方で、近世の大坂に生きた人々は、現在のわれわれの生活感覚とは異質な面も多い。この講義では、現代の基点である側面と異質な側面を意識しつつ、豊臣期から近世にかけての大坂の都市社会史にしばって話してみたい。講義では、鍵となる近世の史料（活字）を入り口として話を進めていくが、これにより大坂の歴史をより身近に感じてもらえればと思っている。

●授業内容・授業計画

この講義の前半では、大坂の都市空間の形成過程と、都市社会を構成する諸身分・諸階層について概観する。後半では、孝子・忠勤褒賞の記録を手掛りに、都市民衆の生活の細部をうかがってみたい。

①大和川付替え 300 年と都市大阪の形成

②秀吉の大坂城と都市建設

③町奉行所と蔵屋敷－大坂の武士－

④大坂三郷の町と町人－①町の仕組みと家持－

⑤大坂三郷の町と町人－②町抱えと借屋層

⑥孝子・忠勤褒賞の動向と特徴

⑦都市民衆の暮らし①－職人・商人－

⑧都市民衆の暮らし②－身分的周縁－

各テーマについて1～2回程度で進めていくつもりである。重点的に述べる部分では、最先端の学説なども紹介するつもりなので、歴史学という学問の方法の一端にも触れてもらえればと思う。なお、授業の一環として、大阪歴史博物館の見学会を実施する（例年は、授業期間中の土曜日に実施）。

●評価方法

授業中に行なう小テスト、およびレポートなどで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

身近な大阪に関する講義なので、話に出てきた場所(史跡など)に自ら足を運んでみるくらいの積極的な姿勢で受講してほしい。

●教材

教科書：塚田孝『歴史のなかの大阪』岩波書店、2002年教科書を軸として、補助的にプリントを配布して授業を進める予定である。

大阪の自然

Natural History in and around Osaka Plain

(後期 金・5 全)

2 単位

理学研究科 三田村 宗樹 他

●科目の主題と目標

大阪およびその周辺に広がる現在の自然環境は、地球の歴史の変遷の結果として成立したものである。私たちが生活している大阪平野は、もっとも新しい地質時代の新生代第四紀(およそ 200 万年前から現在まで)に形成されてきた。したがって、第四紀は現在の自然を知るうえで重要である。とくに平野やその周辺を構成する各種の地盤は人間生活や災害にも密接に関係している。また、このような環境は、大阪にとどまらず、日本各地の海岸平野に立地する大都市周辺にも共通した状況と見られる。

ここでは、大阪平野とそれを取り巻く地質環境や植生変遷について解説し、われわれの生活との関係について考える。

●授業内容・授業計画

1. 大阪平野とその周辺の地形配置および構成地質とその変遷(三田村担当)

大阪周辺の山地・丘陵地・台地・低地で見られる地層や岩石を中心にして、地球の歴史や地球規模の現象が地域に対してどのような働きをしているのかを考える。

- (1)山地の地質 大阪周辺の山地を主として構成する古生代～中生代の地層の形成過程とプレートテクトニクス(2回)。斜面災害と山地の地質(2回)。
- (2)丘陵の地質 泉南・泉北、千里丘陵など現在ベッドタウンとして開発されている丘陵地を構成する地

層とその成り立ちと第四紀の自然環境の変遷。氷河性海水準変動・ミランコピッチサイクルと丘陵地の地層や化石(2回)。

- (3)平野の地質 縄文海進と平野の地層。建設工事と地盤災害に関係する平野の地層とその特性(2回)。山地と低地間に介在する活断層と地震(1回)

2. 大阪周辺の森林植生とその変遷史(塚腰 実 担当)

- (1)化石植物群:メタセコイア化石植物群、第四紀化石植物群の特徴、古気候の変遷と古植生(2回)。
- (2)現在の森林植生:植生の類型区分と分布、植生の遷移と二次林、人工林、人類が与えた植生への影響(3回)。

●評価方法

授業の初期に与えるフィールドワーク課題に関するレポート(20点)と期末試験(80点)で評価する。

●受講生へのコメント

講義は地学分野からみた「大阪の自然」が中心であるが、地学の基本的な考え方も含めて授業を行うので、高校での地学の履修の有無を問わない。

●教材

主な参考書: 地学団体研究会大阪支部編『関西自然史ハイキング』創元社、同『大地のおいたち』築地書館、梶山・市原著『大阪平野のおいたち』青木書店(三田村・塚腰担当分)、大阪市立自然史博物館展示解説第13集『ネイチャースクエア 大阪の自然誌』(塚腰担当分)。

都市生活と人間福祉

Urban life and well-being

(前期 金・5 全)

2 単位

生活科学研究科 所 道彦 他

●科目の主題と目標

現代社会では、多くの人々が都市において生活を営んでいる。そして、社会の変化の中で様々な生活問題が顕在化し、これらに対応するための取り組みが実施されている。本講義では、人間福祉学の立場から、都市における生活上のニーズの特性、ニーズ充足のための人的・物的資源の現状、福祉に関する諸制度・施策の課題について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式で、各教員が授業を担当する。

- ・イントロダクション 所道彦・三船直子
- ・都市生活の心理学 三船直子
- ・都市生活と乳幼児 長濱輝代
- ・都市と学校生活(2回) 多田美智子
- ・都市生活と子ども・家族①(2回) 大堀彰子

- ・都市生活と子ども・家族②(2回) 和知富士子
- ・都市生活と子ども家庭福祉 山縣文治
- ・高齢社会と都市生活 岡田進一
- ・共生社会と都市生活 要田洋江
- ・都市生活と貧困問題 所道彦
- ・都市生活の社会福祉学 白澤政和

●評価方法

出席点およびレポート(毎回授業時)により評価する。

●受講生へのコメント

各回の授業でレポートを課し、授業終了時に提出を求める。結果的に授業時間が延長される場合もあるので十分留意すること。

都合により講義の順番が前後する場合がある。

●教材

教科書: 別途指示する。

大阪の地理

Geography of Osaka

(前期 水・5 全)

2 単位

都市研究プラザ・文学研究科

水内 俊雄

●科目の主題と目標

現代都市、特に大阪府、大阪市をベースに生起するさまざまな社会問題の起源、歴史、現状について、実際に都市のフィールドワーク 3 回を行なうことによって、実感的にも把握してもらうことをめざしている。都市社会地理学として、都市社会の現状を「批判的」にどのように見るか、そして語り、文章にまとめることを少しでも身につけてもらいたい。その次に要請される、提言、そして実践など、水内が関わっている調査活動の紹介などを通じて、地理学が大阪の問題の解決にどのように貢献するのかを紹介してみたい。

●授業内容・授業計画

授業内容は地図や文字資料、映像をヴィジュアルに見せながら進めることを基本とするので、語られる都市空間の現実感覚を授業で養ってもらいたい。そしてフィールドワークが非常に重要な位置を占めるので、普通の講義で紹介するフィールドワーク術を学ぶとともに、実地でまちを見る、そして絵図、地図を読むトレーニングを積んでもらいたい。

- 1) 絵図からみた近世都市空間
- 2) 明治期末期の都市空間の拡大の諸相
- 3) 大正期の都市社会政策と居住状況
- 4) フィールドワーク 1 (大阪市 or その近辺)
- 5) 郊外の誕生、スラムの拡大
- 6) 戦時体制、空襲と都市

- 7) 戦後闇市から、戦災復興事業の功罪
- 8) ニュータウン、団地、スプロール
- 9) 都市改造、都市再開発
- 10) フィールドワーク 2 (大阪市 or その近辺)
- 11) 同和対策事業と住環境改善
- 12) 日雇労働者のまち、在日のまち、沖縄人のまち
- 13) 福祉政策と都市居住の関連
- 14) 現代都市とホームレス
- 15) フィールドワーク 3 (大阪市 or その近辺)

●評価方法

毎回のミニレポート提出を出席点とする平常点に加えて、3 回課す予定のフィールドワークレポートを必須とする。このレポート内容をベースに成績評価をおこなう。

●受講生へのコメント

この手の研究は、まず現場に対してどれだけの情報を持ち、実際にその場を知っているかと言う、現場のリアリティ感覚が最も問われる。フィールドワークで都市を「批判的に見る」目をやしなっておいて欲しい。また下記の使用教材は地図が多用された内容となっており、さらに理解を深めたい場合には、ぜひ購読をおすすめする。

●教材

『モダン都市の系譜—地図から読み解く社会と空間—』(ナカニシヤ出版)の内容にそって講義やフィールドワークを行うので、よりよく理解したい人には購入を薦める。

都市の経済とビジネス

Urban Economy and Business

(後期 水・5 全)

2 単位

創造都市研究科 小長谷 一之

●科目の主題と目標

生産拠点の移転など、21 世紀に入り、経済のグローバル化によって国家・国境の役割がますます低下しています。一方、先進国の経済は、知識集約型の最先端産業や、イノベーション・アイデアに基づく新産業の段階に移行していきませんが、シリコンバレーをみてもわかるように、これらは都市圏のスケールでの頭脳産業都市に基盤をおいているのです。このように、経済の主体・単位として「国家」よりも「都市」がますます重要となってきました。大阪・関西の活性化も頭脳型の都市産業の振興にかかっているといつて過言ではありません。こうした点から、最近、アメリカのサンフランシスコ郊外に広がるサンフランシスコ=ベイエリア大都市圏は、京阪神都市圏の一つのモデルとして考えられます。より広くとらえて、カリフォルニアは、関西と同じく政府をもたない国内第二地域として、世界中でもっとも成功した地域なのです。

関西としては、北大阪にバイオ、都心に IT 産業、湾岸に環境関連など、「カリフォルニアモデル」をベースに 21 世紀戦略を考えていくことが有望です。このような点についても説明する予定です。

- [1] アメリカの IT 産業都市について—ベンチャー型企業の発生によるまちづくり、
- [2] まちづくり型ビジネスの起こし方—観光などの都市型産業振興の成功の法則性、
- [3] クリエイティブ都市経済論—「創造都市=ハイテク大学芸術文化都市」の作り方、

の順で説明していきます。

●授業内容・授業計画

- [1] IT ベンチャーの振興政策
- 第 1 回 (10 月 6 日) オリエンテーション
- 第 2 回 (10 月 13 日) 都市経済の基礎—なぜ新産業振興が大切か

- 第3回(10月20日)産業振興型まちづくり
 第4回(10月27日)ソフト系IT産業地域の例ー
 ニューヨーク・シリコンアレー
 第5回(11月10日)ソフト系IT産業地域の例ー
 サンフランシスコ・マルチメディアガルチ
 とシリコンバレー

[2]まちづくり型のビジネスを成功させる3つの法則

- 第6回(11月17日)都市型産業/まちづくりが成
 功するにはーソーシャル・キャピタル論
 第7回(11月24日)都市型産業/まちづくりが成
 功するにはーマーケティング論
 第8回(12月1日)サービス業型ベンチャーのまち
 づくりー商業・町屋・アート
 第9回(12月8日)サービス業型ベンチャーのまち
 づくりー観光

[3]クリエイティブ都市経済論

- 第10回(12月15日)クリエイティブ都市経済論(1)

- 第11回(12月22日)クリエイティブ都市経済論(2)
 第12回(1月12日)クリエイティブ都市経済論(3)
 第13回(1月19日)クリエイティブ都市経済論(4)
 第14回(1月26日)クリエイティブ都市経済論(5)
 第15回(2月3日)試験

●評価方法

期末の筆記試験(論述式)を原則とする。

●受講生へのコメント

とにかく気楽に教材を読んでみてください。内容はわ
 かりやすく説明します。

●教材

教科書:リチャード・フロリダ著/小長谷一之訳(2009)
 『クリエイティブ都市経済論ー地域活性化の条件』日本
 評論社。
 参考書:塩沢由典・小長谷一之編(2009)『まちづくりと
 創造都市2ー地域再生編』晃洋書房。

現代都市論

Contemporary Urban Studies

(後期 水・5 全)

2単位

経済学研究科 松澤 俊雄・長尾 謙吉

●科目の主題と目標

総合教育科目A「都市・大阪」科目群にあって、本科
 目は「都市」の空間的構造を歴史的・現実的側面から分
 析し、その存在の有効性について考えることに重きをお
 いた少々「理屈っぽい」講義かもしれない。

今年度の前半は、長尾が担当し、都市論の系譜と都市
 への研究視座について理解することを目標とする。後半
 は松澤が担当し、経済活動が展開する場である「都市空
 間」の成長・発展を支える「交通」機能をテーマに講義
 を進める。

●授業内容・授業計画

[前半]

- ① 授業計画の説明、都市とは何か
- ② 都市論の系譜1:シカゴ学派と都市研究の確立
(テキスト第1章)
- ③ 都市論の系譜2:ロサンゼルス学派と都市再編
(テキスト第15章)
- ④ 都市の空間構造1:都心と盛り場(テキスト第3章)
- ⑤ 都市の空間構造2:郊外と都市の画一性(テキ
 スト第10章)
- ⑥ 都市の空間構造3:都心周辺部と都市の多様性
(テキスト第6章)
- ⑦ 都市の時空間:時間地理学と都市・地域計画
(テキスト第7章)

[後半]

- ⑧ 都市活動・都市空間と人々の移動:「交通」、「公共
 交通」の生成
- ⑨ 都市の拡大と人々の移動:都市圏の発展と交通需要
- ⑩ 都市の通勤交通:自動車利用の限界
- ⑪ 都市交通と時間:都市規模/都市構造/移動目的
 と交通への時間消費
- ⑫ 都市公共交通へのアクセス・イグレス:公共交通
 機関と利用のしやすさ
- ⑬ 都市計画・都市づくり・まちづくりと公共交通:
 「路面公共交通(LRT)」考
- ⑭ 都市交通政策の方向性と政策主体:公の役割
 (道路交通混雑発生メカニズム)(「時間」の経済学
 的分析)

●評価方法

期末試験100 [前半50:後半50]

●受講生へのコメント

「都市」「都市問題」や「交通」等に関心を持ち、その
 分析や方法論にも関心をもった学生を歓迎する。

●教材

前半のテキストは、加藤政洋・大城直樹編『都市空間
 の地理学』ミネルヴァ書房。後半は、別途のテキストを
 使用する予定。書名などは追って指示する。
 必要に応じて、講義時にハンドアウトを配布し、資料や
 参考文献などを提示する。

国際地域経済と大阪

特集：グローバル化、地域共同体、都市
International Regional Economy and Osaka

(後期 水・4 全)

2 単位

創造都市研究科 小長谷一之、中本悟、李捷生、
田中宏、藤井正男、金俊行、

●科目の主題と目標

グローバル化のもとで国民国家の権能は低下するとともに、再生産単位としての国民経済は多孔の状態となり、国民経済の諸関係も従来の相互依存関係とは質的に新たな段階に入っている。一方では、アメリカ主導のグローバル化のもとで、国民国家はさまざまな地域主義と地域共同体を模索しており、その性格もまた多様である。アメリカン・グローバリズムを促進するものもあれば、それに対して防衛的な性格のものもある。大阪経済もまた、こうしたグローバリズムとリージョナリズムのもとにあるローカル・エコノミーとして捉えようとするのが、本講義の基本的な視点である。

本講義のねらいは、以下のとおりである。

第1に、多様な性格の地域共同体を類型と段階の双方から解明し、地域共同体の動態を活写する。

第2に、グローバル化の視点から地域共同体を捉え返し、グローバル化のインパクトを解明する。グローバリズムでは解決できない、あるいは地域共同体の存在を脅かすグローバル化の問題を解明する。

第3に、現段階の地域共同体とグローバル化を越える諸契機・諸要因を分析し、現行のグローバル化を批判的に検討する。ここでは、地域共同体とグローバル化の双方を変革する諸契機を解明する。

第4に、大阪経済をグローバリズムとリージョナリズムの視点でとらえ、その現状と課題を考察する。

●授業内容・授業計画

オムニバス形式の通常の講義とし、各教員が分担で講じる。

[1] グローバリゼーションとはなにか

第1回 (10月6日) グローバリゼーション論争 (中本悟)

第2回 (10月13日) グローバリゼーションとリージョ

ナリズム (中本悟)

[2] 地域共同体の諸類型

第3回 (10月20日) NAFTA (北米自由貿易協定) と反NAFTA (中本悟)

第4回 (10月27日) EU と社会的市場経済の発展 (非常勤：立命館大学・田中宏)

第5回 (11月10日) アジアにおける共同体：構想と現実 (非常勤：大阪経済法科大学・金俊行)

第6回 (11月17日) アジアにおける通貨危機と金融協力 (非常勤：大阪経済法科大学・金俊行)

[3] グローバリゼーション・アジア共同体への対応

第7回 (11月24日) グローバリゼーションと東アジアにおける雇用システムの変容 (李捷生)

第8回 (12月1日) グローバリゼーション下の中国における新労働法 (李捷生)

第9回 (12月8日) 日本企業の対アジア進出のインパクト (非常勤：帝塚山大学・藤井正男)

第10回 (12月15日) 在中日系企業の事業活動と経営戦略 (非常勤：帝塚山大学・藤井正男)

第11回 (12月22日) 異文化の労務管理—在中日系企業のケース— (非常勤：帝塚山大学・藤井正男)

[4] グローバリゼーションと都市

第12回 (1月12日) グローバリゼーションと都市経済 (1) (小長谷一之)

第13回 (1月19日) グローバリゼーションと都市経済 (2) (小長谷一之)

第14回 (1月26日) グローバリゼーションと都市経済 (3) (小長谷一之)

第15回 (2月3日) 試験

●評価方法

期末の筆記試験 (選択式) を原則とする。

●教材

教科書：田中・中本編『グローバル化と地域共同体』晃洋書房、2010年。

大阪落語への招待

Introduction to Osaka Rakugo

(前期 金・5 全)

2 単位

文学研究科 久堀 裕朗
ゲスト 桂 春之輔・春雨 ほか

●科目の主題と目標

江戸時代、商都として栄えた大阪は、多くの新しい文化を生み出し、育んだが、その中の一つに落語をあげることができる。落語は、16世紀末の安土桃山時代、大名の側近にあって咄相手や講釈をした御伽衆の営為に端を発し、直接には17世紀後半、京都・大阪・江戸で辻咄をする商業的落語家が登場し、その芸が発達を遂げたものである。江戸後期には寄席での興行が始まり、近代にかけて大阪・江戸（東京）を中心に最盛期を迎えた。当初は単に「はなし」と呼ばれ、その後「軽口・軽口ばなし」と言われたが、咄を効果的に結ぶ「落ち」の技法が確立されるとともに「落としばなし」の名称が定着、近代に入って「落語（らくご）」と音読みされるようになった。一人の演者が、扇子や手拭いその他、わずかな道具を使うだけで、全ての登場人物を演じ分け、季節や場面を髣髴とさせる高度な話芸が生まれたのは、先人たちの長きにわたる丹精のたまものである。

この科目は、「大阪落語」の第一線で活躍する落語家をゲストスピーカーに迎えて、落語の実演をたっぷり聴くとともに「落語の情（優しさと思いやり）」という観点から、主として大阪を中心に発達を遂げてきた落語の本質と特色について考察する。落語の歴史、芸の約束事、周辺芸能との関係、東西落語の比較など、様々な視点を導入することによって「落語」というジャンルへの理解を深め、併せて伝統芸に対する演者の姿勢を知ることにより、現代における落語の意義やあり方について受講者の思索を深めることを目標とする。またそれらを通して、落語にとどまらず、広く大阪の歴史・文化・芸能について考える視座を提供しようとするものである。

●授業内容・授業計画

① 開講にあたって

科目の趣旨、講義計画、履修の心得、評価のこと、など。

②～⑤ 初級編

まずは、落語とはいかなる芸能かを4回にわたって解説する。落語を演じるときの基本的なルールや、扇子と手拭いの使い方、落語のルーツや現在に至るまでの歴史、そして江戸落語との比較など、様々な角度から大阪落語を分析する。(テーマ)落

語とは・落語の演じ方・東西落語・落語のルーツなど。

⑥～⑨ 中級編

続く4回は中級編として、長屋の暮らしや、落語に影響を与えた他の芸能、寄席囃子などを取り上げ、昔の大阪や大阪落語の芸に対する理解を深める。(テーマ)長屋の暮らし・落語と義太夫・落語と大阪の芝居・寄席囃子など。

⑩～⑬ 上級編

最後の4回は上級編として、「落語の情」という観点から、大阪落語の特色について更に深く掘り下げていく。また最終回には、寄席への招待として、それまでの授業に増して本格的に落語の実演に接する機会を提供する。(テーマ)落語の中の男と女・親子の情愛など。

⑭ 終講にあたって

授業全体のまとめ

●評価方法

毎回の授業に対する感想・意見(コミュニケーションカードに記入・提出)と期末のレポートによる(評価の比重は、前者50%・後者50%)。ただし、本科目は、出席することに大きな意義があるので、②～⑭の授業のうち5回以上欠席した者については、原則として成績評価を行わない。

●受講生へのコメント

本科目で取り上げるのは、落語という一伝統芸能であるが、講義で扱われるテーマは、落語の世界にとどまらない広がりを持つものである。各回の講義を一つの契機として、受講者が、落語のみならず、芸能全般、伝統と現代、大阪の歴史と文化等々について、更に考察を発展させていくことを期待したい。

※本科目の設置趣旨から、市民への公開授業としても提供するため、受講者数は200名程度とする。

●教材

テキスト：プリント配布。

参考書：天満天神繁昌亭・上方落語協会編 やまだりよこ著『上方落語名鑑ぶらす上方囃』(出版文化社)
豊田善敬編『桂春団治はなしの世界』(東方出版)

東アジア市民社会論入門

Civil Society in East Asia

(前期 金・3 全)

2 単位

創造都市研究科 田坂 敏雄

●科目の主題と目標

欧米や日本はもとより、東アジアにおいても新しい社会づくりの取り組みが「市民社会」論として提起されている。本授業では、東アジアの市民社会論の動向や特徴を探り、国家社会主義に代わる未来社会論として市民社会論を考えてみたい。その中で、ひとつの課題はソーシャル・ガバナンスを官・民でどうつくるか、あるいは市民参加型のガバナンスの有り様を東アジアの現状を踏まえて具体的に提起することである。

●授業内容・授業計画

授業計画は次の通り。

- 第1回：講義のねらいと講義計画
- 第2回：アソシエーションと市民社会
- 第3回：市民社会とソーシャル・キャピタル
- 第4回：東アジアの少子高齢化と市民社会の役割
- 第5回：東アジア市民社会の課題
- 第6回：フィリピン市民社会論
- 第7回：フィリピン地方自治への市民参加
- 第8回：タイの市民社会論
- 第9回：タイの「30パーツ医療制度」と市民社会
- 第10回：インドネシア市民社会の可能性
- 第11回：シンガポール「シビック・ソサエティ」の行方
- 第12回：北京市・社区における政府と草根 NGO の連携

第13回：日本の地域づくりと社会的企業の可能性

第14回：日本の市民社会と近隣政府

第15回：まとめ

授業内容は、最初の5回までは東アジアの市民社会を考えるうえでの基礎理論的な内容を示し、その後の9回は東アジアの各国別に解説する。とくに第5回は、本授業の総論にあたるものであり、第3回～第5回はアソシエーション革命やソーシャル・キャピタルなどの基礎を解説する。また第6回と第8回、第10回は、東南アジアの市民社会論の特徴を考える回である。第12回で中国の現状を考え、第13回～第14回で日本の市民社会論の動向を示す。

●評価方法

期末試験（教科書の持ち込みあり）

●受講生へのコメント

授業の理解を助けるため、毎回、レジメを配布する。授業には出来るだけ出席すること。受講生の皆さんが自らの将来を考えるうえで、何らかのヒントを得ることが出来るかもしれない。

●教材

田坂敏雄編『東アジア市民社会の展望』（御茶の水書房）、2009年

市大都市研究の最前線

The Cutting Edges of Urban Studies in OCU

(後期 水・5)

2 単位

都市研究プラザ・文学研究科

水内 俊雄

都市研究プラザ・創造都市研究科

全 泓奎

●科目の主題と目標

この科目は、2006年に開設された全く新しいタイプの研究教育組織である都市研究プラザが提供している。2007年には文部科学省のグローバルCOE（世界最高水準の研究拠点）に選ばれて、「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」と題する5年間のプログラムを推進している。一気に数十名にのぼる若手研究員が国内外から集まり、ヘッドクォーターをガラス張りで開放的なデザインの学内の高原記念館におくとともに、大阪市内を中心に6つの現場プラザと香港、上海、バンコク、ジョグジャカルタ、メルボルン、ロサンゼルス、ソウル、そして台北など7つの海外サブセンターを展開して、現場密着のフィールド調査とグローバルな視野からの理論アプローチとを両立させて最先端の都市研究に挑戦している。その舞台裏事情も含め、雰囲気味わってもらいながら、都市問題や都市政策に関して社会に貢献する大学像を実感し、そしてそうした経験を受講生の勉学や社会

に出る準備の糧としてもらいたい。

●授業内容・授業計画

1：

都市研究プラザの紹介と授業の概要を提示し、以下、各研究ユニットの紹介を列挙する。この紹介内容にしたがって講義を進めていく。

2－5：

第1ユニットと称する、都市論ユニットの研究紹介をする。都市論ユニットは、市民知をベースに都市論の最先端を理論的・実践的に追究する研究ユニットである。都市経済学、都市政策学、都市史学、建築史学を包摂し、多様な研究活動を行っている。大学の外にも和泉・阿波座・豊崎の各現場プラザも設け、それぞれ特色ある活動を行っている。

6－8：

第2ユニットは文化創造ユニットであり、都市再生の

ための文化創造の仕組みづくりを追究する研究ユニットである。文化資源学、芸術学、都市計画学、建築景観論をベースに研究活動を行っている。船場、西成、大淀（天神橋）などの現場プラザが活動拠点となっている。

9-12:

第3ユニットは、社会的排除から包摂をめざす研究ユニットであり、都市社会地理学、都市社会学、都市居住学などの視点から多彩な研究活動を行っている。とくに、生活困難者の応援や、NPO 団体、組織の支援を通じたまちづくり団体や研究会と連携した活動も活発に行っている。西成、阿倍野、大淀（天神橋）などの現場プラザが活動拠点となっている。

13-14:

第4ユニットは、グローバルユニットと称して、都市研究プラザの国際発信や情報基盤整備をおこなっており、GIS やアーカイブの収集に特色ある活動をおこなっている。

15:

総括、まとめ。

●評価方法

毎回のミニレポート方式の平常点として評価するので、毎回の出席が前提となる。

●受講生へのコメント

こうした都市研究プラザの活動に関心があれば、受講時にどんどんアクセスしていただきたいし、社会への窓口としていろいろなサジェスションが可能である。意欲と好奇心をもって、臨んでいただきたい。

●教材

参考書として、『文化創造と社会包摂—文化多様性・市民知・まちづくり』佐々木雅幸・水内俊雄編著、水曜社を指定する。その他の参考書は、講義中に適宜指示する。

生と死の倫理

Bioethics

(後期 水・5 全)

2 単位

文学研究科 土屋 貴志

●科目の主題と目標

生命倫理学 (bioethics) のトピックのうち、人工妊娠中絶を取り上げる。本科目は、人工妊娠中絶をめぐる今日の倫理的・法的・社会的問題に関して、学生諸君が自分の意見を持ち、その意見の根拠を他者が納得できるように説明できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業予定は下記の通りだが、適宜変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 妊娠と出産について
3. 中絶をめぐる日本の状況
4. 人工妊娠中絶の手術
5. 中絶論争 (1) 生命尊重派の主張
6. 中絶論争 (2) 中絶権擁護派の主張
7. 討論1 (母体保護法の経済的理由を削除すべきか)
8. 中間的総括 (中間レポート)
9. 出生前診断と選択的中絶 (1)
10. 出生前診断と選択的中絶 (2)
11. 減胎手術
12. 中絶胎児の利用
13. 討論2 (中絶胎児の利用を進めるべきか)
14. 中絶カウンセリング
15. 全体の総括 (期末レポート)

これらのテーマについて、講義やプリント資料、ビデオ視聴などによって基本的知識を得たあと、問題点を絞り込み、そこで下される倫理的判断 (意見) を抽出し、その根拠を検討する。倫理的判断の根拠の検討にあつ

ては、グループディスカッションや討論なども取り入れる。

●評価方法

担当教員は、授業期間中に2回課すレポートの成績に、授業への参加姿勢などを勘案して評点原案を作成する。受講者は、半期にわたる自らの学習活動を評点化しその根拠を記した「自己評価レポート」を最終授業時に提出する。担当教員は評点原案と自己評価レポートの内容を突き合わせて成績を決定する。

●受講生へのコメント

1. 所定の事項を記入した受講カードを提出すること。受講カードは所見と評価を記録する「カルテ」として用いる。受講者は自分の受講カードの記載内容をいつでも閲覧できる。
2. 受講者の顔と名前を覚えたいので、顔と氏名を積極的に売り込むこと。履修者数が20人を越えた場合は、受講カードへの顔写真の貼付を受講者全員に義務づける。
3. レポート・自己評価レポート・受講カードは成績採点終了後に返却する。返却の掲示が出たら、8号館2階の学生支援課共通教育担当まで、各自受け取りに来ること。
4. 受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも未提出の場合は履修放棄とみなす。

●教材

教科書：とくに指定しない。

参考書：授業中に紹介する。

その他、プリント資料を配布し、ビデオを上映する

戦争と人間

War and Human

(前期①水・5 全) 2単位

(前期②火・1 全) 2単位

文学研究科 早瀬 晋三

●科目の主題と目標

「ポスト戦後時代の東南アジア」。首相の靖国神社参拝問題などで「戦後が終わらない」日本にたいして、ほかの東・東南アジアでは「ポスト戦後」の動きが顕著になってきている。「ポスト戦後」状況は戦争を忘却し、「戦前」に直結する危険性も孕んでいる。だとすると、戦争責任や戦後責任を無縁と考えている日本の若い世代には、現在を「戦前」にしないための責任が生じてきている、とすることができる。いま、日本の若い世代は、アジアにおける対日戦争の歴史とその「記憶」の伝えられ方に目を向け、今後の交流を考えていく必要があるだろう。

●授業内容・授業計画

本講義では、今日の東南アジア各国・地域の博物館での展示や碑文、教科書で、日本との戦争がどのように語られ、今日のそれぞれの社会に影響を与えているかを考える。また、戦中の日本人が東南アジアの歴史や文化にたいして無知であったことから、現地の社会と摩擦を起こしたことを理解し、「ポスト戦後」時代に必要な歴史・文化的知識について考える。

マスコミなどでは、おもに中国や韓国の反日報道がとりあげられているが、日本の「大東亜共栄圏」構想に巻き込まれた東南アジアでも、新たな動きが起きている。戦後の東南アジアでは、日本との経済関係が発展したが、近年の中国の経済成長とともに中国との関係が緊密になってきている。社会に出て接する機会の多い東南アジアの今日の対日観について学び、今後の交流を考える。

1. 授業の目的

2. 「ポスト戦後」責任とは？
3. シンガポールー多民族国家形成のための教訓
4. マレーシアーつぎの世代へ繋ぐ記憶と忘却
インドネシアーフロンティア史のなかの虐殺
5. タイー観光資源としての戦争遺跡
6. タイー日本人の慰霊活動
7. 討論ー日本人の慰霊活動
8. ミャンマー（ビルマ）ー語られない日本の占領
9. フィリピンーアメリカと日本のはざま
10. フィリピンーフィリピン人の対日観
11. 韓国と中国の対日観
12. 日本の戦争博物館
13. 討論ー「ポスト戦後」責任とは？
14. 総括

●評価方法

授業中に書く小レポート（30％）と試験（70％）。正直者がバカをみない評価をします。試験には書籍2冊まで持ち込み可です。

●受講生へのコメント

現在を「戦前」にしないためにどのような努力が必要なのか、まずは知り、そして考えてください。視聴覚教材でわかった気にならず、文献もしっかり読んでください。

●教材

教科書：早瀬晋三『戦争の記憶を歩く 東南アジアのいま』岩波書店、2007年。

生命と進化

Life and Evolution

(後期 金・5 全) 2単位

理学研究科 若林 和幸 他

●科目の主題と目標

地球上の生命は、地球の歴史とともに進化してきた。その記録は、私達を含めた現在の生命体に残されている。この科目では、主に細胞と分子レベルで進化について、わかりやすく紹介する。

●授業内容・授業計画

1. 細胞の進化（若林和幸担当）

地球の誕生から約10億年を経て最初の生命である原核細胞が出現し、その後、約20億年をかけて私達の体を構成するような真核細胞が出現した。この原核細胞から真核細胞への進化の過程について、細胞生物学、形態学、生化学的観点から解説する。

- (1) ガイダンス、イントロダクション
- (2)・(3) 細胞の種類、構造と細胞小器官の機能。
- (4) 化学進化から生命の誕生。
- (5)・(6) 原核細胞から真核細胞への道すじ。核や細胞小器官の形成と細胞機能の多様化。

(7) 細胞の多様化、巨大化を支えたエネルギー獲得系の進化。

2. 分子の進化（小柳光正担当）

進化の研究は分子生物学技術の導入によって大きく進展し、進化をDNAやタンパク質といった分子のレベルで研究する分子進化学が誕生した。この分子進化学の基礎、方法、その成果について具体的に解説する。

- (1)・(2) 分子の進化を理解するために必要な分子生物学の知識について説明する。
- (3)・(4) 分子時計や中立説など分子進化学の基礎となる概念を説明する。
- (5)・(6)・(7) 分子進化学によって初めて明らかとなった生物の系統関係や進化のメカニズムについて、方法論を交えて紹介する。

●評価方法

期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

本講義は、分子や細胞レベルの内容を中心として生命とは何か、進化とは何かを考える話題を提供する。

●教材

主な参考書：ニコラス H.バートンほか著、宮田隆監訳

「進化」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、宮田隆「分子進化学への招待」(講談社ブルーバックス)、中村運「細胞の起源と進化」(培風館)

現代の医療

Recent Advance in Medical Treatment

(前期 水・5 全)

2 単位

医学研究科 河田 則文 他

●科目の主題と目標

近年、医療技術は目覚ましい進歩を遂げ、疾病の早期診断や最先端治療が行われるようになってきた。特に、悪性腫瘍(がん)は内視鏡や各種画像診断技術の進歩で早期診断が可能になり、最新の治療により侵襲の少ない治療法でも治癒しうるようになってきた。また、進行癌に関しても新しい分子標的薬などの出現でその予後が改善しつつある。悪性疾患としては胃がん、大腸がん、肝臓がん、子宮がん、乳がん、白血病等の早期発見、治療の進歩について解説する。一方、メタボリックシンドロームという言葉をよく耳にするようになったが、肥満と飽食の時代を迎え、糖尿病、高脂血症、高血圧らをすべて合併する疾患が注目を集めている。メタボリックシンドロームを予防することは最終的には心臓病や脳血管障害への予防へとつながるため、社会人が十分認識しておく必要があり、成人のみでなく小児期からの運動不足や身体的ケアの必要性が問われている。手術に関しては以前と比べるとできるだけ患者に加える負担を少なくする工夫が行われており、各種内視鏡手術も増加してきている。職場や人間関係のあつれきから生じるうつ病や痴呆など精神科的・神経内科的疾患も増えている。本格的な高齢化社会へと突入した我が国では、人口構造の変化が急激に伴って疾患発症年齢や疾患の種類も刻々と変化している。このように医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、国民の医療や福祉に対する関心も高まりつつある。そのため、医療従事者以外も、現代の医療に対して一定の知識を有することが望ましい。授業に関しては、基本的には臓器別の講義を行う。画像診断学、救急医学のよ

うに全身の臓器全般にかかわる講義もある。14回の講義全体を通して、現代の医療に関して知識を深めてもらう予定である。

●授業内容・授業計画

- 1 循環器疾患(心臓血管、高血圧)
- 2 消化器疾患(胃、小腸、大腸)
- 3 肝臓、胆嚢、膵臓疾患(肝炎など)
- 4 内分泌・代謝疾患(糖尿病、高脂血症など)
- 5 血液疾患(貧血、白血病など)
- 6 神経・筋肉疾患、老年医学(ギランバレー症候群など)
- 7 神経精神疾患(うつ病など)
- 8 産婦人科学
- 9 整形外科学
- 10 腫瘍外科学
- 11 循環器外科学
- 12 放射線医学
- 13 小児科
- 14 救急医療

●評価方法

出欠
レポート

●受講生へのコメント

健康、医療についての一定の知識は、社会人として必須のものである。現代の医療についての理解を深めてほしい。

●教材

特定のものは使用しない。

人体を考える

Life Sciences of Our Body

(前期 金・5 全)

2 単位

医学研究科 中島 裕司 他

●科目の主題と目標

私たちの体は恒常性が保たれ健康を維持できる。本コースでは人体について、構造、機能、疾患から考えることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. 脊椎動物の基本体制(器官構築形態学、中島裕司) 脊椎動物の共通パターンとその形成メカニズムを概説する。
2. 生命誕生と脊椎動物の体づくり(器官構築形態学、山岸敏之) 受精卵から胚葉、器官が形成される過程について解

説する。

3. ヒトのからだを構成する器官(器官構築形態学、山岸敏之) 人体を構成する器官の形態と機能について解説する。
4. 体の動きと神経(機能細胞形態学、桐生寿美子)
5. 過労が蝕む脳や下垂体(機能細胞形態学、木山博資)
6. 運動器官としての筋肉(脳神経科学、森 啓) 筋組織の基本的な形態、機能を理解する。調節器官としての運動神経、自律神経、心筋組織と筋と

- の関係から筋の正常と異常の概略を理解する。
7. 尿の生成（脳神経科学、森 啓）
排泄物としての尿の意義を考え、その生成過程を中心に肝臓、膀胱、括約筋など周辺組織の協調的な調整機構を学ぶ。尿生成の生理と病態を通じて物質代謝という視点での理解を深める。
 8. 特殊感覚としての視覚（脳神経科学、森 啓）
網膜の光刺激から視神経細胞での電気刺激への変換は感覚器の基本的な仕組みの代表である。視神経から脳組織までの神経連絡の働きを中心とした情報処理の意義についても理解する。
 9. がん（都市環境病理学、魏 民）
がん発生について分子生物学的な基礎的事項について講義する。
 10. 発ガンリスクとその予防（都市環境病理学、鰐淵英機）
ヒトのがんの発生リスクについてとその予防に関して講義する。
 11. メタボリックシンドロームと肝疾患（病理病態学、伊倉義弘）
メタボリックシンドロームの成因、メカニズム、症状を概説し、さらに本シンドロームに起因した

- 脂肪性肝疾患について述べる。
12. 性感染症と癌（病理病態学、岩佐葉子）
性感染症の中で、ヒトパピローマウイルス感染は子宮頸癌の原因として重要である。しかし、感染を防ぐことで発癌を防止できる。頸癌発症に至る病態生理、治療、予防について述べる。
 - 13, 14. 様々なストレスに対する人体の反応について（法医学、石川隆紀）
ストレス応答は細胞が持つ基本的な生命現象の1つであり、その破綻は、がん、循環器疾患、中枢神経系疾患など多様な疾患の発症要因となる。ストレスに対する人体の反応について概説する。

●評価方法

出席とレポート。出席率70%以下のものには単位を与えない。レポートは興味のあるテーマについて8月4日（水）までに学生支援課に提出すること。レポートの表紙は、表題、選んだテーマの講義担当者の氏名、学籍番号、名前を明記すること。

●受講生へのコメント

講義に出席し、考えることを重視する。

●教 材

講義の際、担当者から配布、紹介する。

生命と法

Life and Law

（前期① 金・5 全） 2単位

（前期② 金・2 全） 2単位

法学研究科 松田 竹男 他

●科目の主題と目標

「生命にかかわる法的諸問題」を主題とする。直接、間接を問わず、生命と無関係な法はほぼ存在し得ないといえるであろう。また同時に法は社会内におけるさまざまな異なる価値を調整し、結びつける役割をも果たしている。戦争のルール、死刑や堕胎の是非、安楽死、過労死など従来から論じられてきたものに加えて、最近では、医療や科学技術の進歩に伴い、臓器移植や遺伝子治療などへの対処が法の重要な任務となっている。本講義では、生命と法をめぐる諸問題のなかから重要だと思われる問題を、オムニバス方式で論じていく。

●授業内容・授業計画

授業は、医事法を始め、法制史、刑事法、労働法、国際法などを専攻する本学あるいは他大学の法学関係教員が講師となり、オムニバス形式で勧められる。各回の授業で行われる予定のものは、以下のとおりであるが、変更になることもある。各回のより詳細な内容については、初回授業のさいに配布する資料で示す予定である。

- 1 「生命と法」序説
- 2 安楽死・尊厳死
- 3 患者の自己決定権
- 4 医療事故への対応
- 5 社会保障と生命
- 6 医療の崩壊を考える

- 7 生殖補助医療
- 8 臓器移植
- 9 死刑をめぐる諸問題
- 10 過労死を考える
- 11 遺伝子をめぐる諸問題
- 12 患者情報の保護と利用
- 13 知的財産権と衣料品アクセス問題
- 14 まとめ

●評価方法

通常の学期末試験による。

●受講生へのコメント

細かい法理論や判例などの理解よりも、社会の実態と問題点の析出、その解決手段としての法の機能や考え方を解明することに重点を置きたい。

●教 材

講義の際に、必要に応じて資料などを配布する。当該講義のみの配布とし、後からの配布要求は受け付けないので、受領し忘れることのないよう留意してほしい。

技術と生命

—電気と暮らし—

Technology and Life —Electricity and Life—

(後期 金・5 全)

2 単位

工学研究科 細田 誠、辻本 浩章

●科目の主題と目標

電気は我々の現代生活に無くてはならない技術の一つである。また、人類の繁栄や生存において、今後も重要な影響を及ぼしていくと考えられる。その電気や電子機器がどのような原理に基づいて動作し、我々の生活環境にどのような影響を及ぼしているか、また、将来、どのような影響を及ぼしていくと予測されるかについて概説する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 電気の歴史 その発見と発展の歴史、電力事業の変遷 : 向井
- 第2回 電気を測る 電圧、電流、電力、電気を安全に使うには : 田中
- 第3回 電気をつくる 発電のしくみ : 武智
- 第4回 電気機器と生活 電気による力の発生と人間社会 : 辻本
- 第5回 環境に優しい発電 発電と地球環境 : 宮崎
- 第6回 電気と光 電球からレーザーまで、光源の過去から未来 : 熊谷
- 第7回 半導体の話 エレクトロニクス社会を支える

機能 : 中山正昭

- 第8回 省エネルギー1 やわらかエレクトロニクス : 中山弘
- 第9回 省エネルギー2 電気自動車の現状と未来 : 南
- 第10回 電子回路の話 その機能と利用、電子機器の発展と社会 : 高橋
- 第11回 デジタル技術と情報伝達 世界を変えたインターネットと携帯電話 : 福田
- 第12回 テレビ放送 画像情報とテレビの原理、放送の発展 : 會田
- 第13回 コンピュータのしくみハード、ソフトとは、情報化社会の発展: 村治
- 第14回 電波の話 電波とはなにか、様々な応用と未来 : 菜嶋
- 第15回 試験

●評価方法

期末試験 60点以上合格。

●教材

講義でプリント等を配布することがある。

大阪市大でどう学ぶか

What and How to Learn in OCU

(前期 水・5 新入学生)

2 単位

大学教育研究センター 矢野 裕俊 他

●科目の主題と目標

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

ところで、あなたは数ある大学の中からはなぜ市大を選びましたか。市大がどういう大学か、どこまで知っていますか。何となくという人も多いかと思いますが、せっかく市大に入ったのですから、まずは自分の大学がどんな大学かを知り、そこで何をどう学び、どういう職業人や人間になるかを考えてみませんか。この科目の目的はこうした自分探しとでもいうべきことを入学直後の前期に行うことによって、これから大学で学ぶ意義について考え、学ぶ意欲を自ら育ててもらうことにあります。

また、大学での学習は高校までと大きく違い、自分で学ぶことが基本になっています。さらに最近、インターネットによる情報の検索やコンピューター技法も不可欠な時代です。さいわい本学には国内有数規模の学術情報総合センターがあります。この科目を受講する間にぜひ大学で学ぶための基本的な力(スタディ・スキル)も身につけてください。

この科目は、学びの場としての大阪市立大学について知り、現在(入学時点)の自分に目を向け、これからの在学期間で何をどのように学ぶのか、そして学んだこと

を卒業後どのように生かすのかを考え、それらを具体的に明らかにすることを目標にします。

なお、科目の趣旨から、授業は1回生ならびに編入学生を対象に行います。2回生以上で受講を希望する人は最初の授業時に授業担当者まで申し出て、必ず許可を受けてください。

●授業内容・授業計画

本学の歴史を遡れば120年前の大阪商業講習所まで行きますが、大学としては1928年の大阪商科大学が始まりです。戦後、1949年に大阪市立大学となってからは日本で最大の公立総合大学となり、現在8学部9研究科を擁しています。

この本学の歴史や各学部の歩みと現在を知ることで、大阪市大という大学のアイデンティティを持ってもらえればと思います。また、自分の学部以外の話を聞くことによって、総合大学で学ぶメリットを感じ取ってください。

授業計画は、第1回と最終回到大学教育研究センターの教員が大学で学ぶことについて話します。第2回目からは、学長、大学史資料室、経営学研究科長(商学部長)、経済学研究科長(経済学部長)、法学研究科長(法学部長)、

文学研究科長（文学部長）、理学研究科長（理学部長）、工学研究科長（工学部長）、医学研究科長（医学部長）、生活科学研究科長（生活科学部長）、創造都市研究科長、看護学研究科長のそれぞれが、大学・学部・研究科の歩みと今後の展望、自身の経験にそくした学問の面白さなどについて話します。

●評価方法

最初の授業の後、「市大に入学して－期待と抱負－」という題で、大学で学ぶことや市大への期待・抱負などをレポートにしてもらいます。

2 回目の授業からは、その日の授業で学んだことや考えたことを授業の最後の 5 分間で感想カード（400 字）にまとめて提出してもらいます。

最後の授業の後は、「この授業で学んだことは何か、そ

れを今後の学習にどう生かしていくのか」をテーマに最終レポートを書いてもらいます。

成績評価は上記 2 通のレポート（各 20%）と感想カード（60%）で行います。試験は行いません。なお、欠席や遅刻をしないように注意してください。

●受講生へのコメント

この授業は講義形式ですので、スタディ・スキルの習得を中心とするものではありません。スキルを身につけたい人は 1 回生だけを対象に少人数で行う「初年次セミナー」の受講を勧めます。

●教 材

教科書：使用しません。

参考書：授業で適宜紹介します。

プリント：授業で適宜配布します。

2. 総合教育科目 B

科目名 英文科目名	(開講期 曜日・時限 クラス)	単位数
	②は第2部 ①は第1部	
	表示が無い場合は第1部	
		授業担当者

哲学入門

Introduction to Philosophy

(前期 火・4 全)

2 単位

文学研究科 美濃 正

●科目の主題と目標

古代ギリシアで生まれた哲学という学問への標準的な入門コースを提供することを目標とします。哲学とはどのような特性を持つ学問であり、哲学で取り扱われる問題とはどのような問題であるのか、について基本的な理解が得られるように、できるだけ具体的事例をまじえながら講義する予定です。

●授業内容・授業計画

各回の授業は次のような内容で進める計画です。

- 1 哲学の基本的特性 (神話や宗教との違い)
- 2 哲学の基本的特性つづき (東洋の諸思想との違い)
- 3 哲学的問題の特徴—パラドクス1 (一般的説明)
- 4 パラドクス2 (嘘つきパラドクス1)
- 5 パラドクス3 (嘘つきパラドクス2)
- 6 パラドクス4 (ゼノンのパラドクス1)
- 7 パラドクス5 (ゼノンのパラドクス2)
- 8 哲学の具体的問題—自由をめぐる問題1 (一般的

説明)

- 9 自由をめぐる問題2 (非両立論)
- 10 自由をめぐる問題3 (両立論)
- 11 自由をめぐる問題4 (自由のパラドクスの解決)
- 12 心身問題1 (一般的説明)
- 13 心身問題2 (心身二元論)
- 14 心身問題3 (唯物論)
- 15 心身問題4 (心身関係のパラドクスの解決)

●評価方法

中間レポートと最終試験の成績によって評価する予定です。

●受講生へのコメント

基本的には講義形式の授業ですが、質問や意見発表などにより授業に積極的に参加することを望みます。オフィスアワーについては、授業中に知らせます。

●教材

適宜、授業中に必要な資料配布を行います。

論理学入門

Introduction to Logic

(後期② 月・1 全)

2 単位

文学研究科 美濃 正

●科目の主題と目標

論理学は科学的な思考にとって不可欠な推論およびその原理について研究する学問である。推論とは、前提から一定の規則に従って結論を導き出すことである。たとえば「殺すことは不正であり、肉を食うことは殺すことである」という前提から、「肉を食うことは不正である」という結論が得られる。このように、もし前提が真ならば、結論も必ず真となる推論を妥当な推論と言う。たとえ真なる前提から出発しても、推論が妥当でなければ真なる結論を得ることはできない。逆に、推論が妥当であれば、結論が偽であるときには前提も偽だということが分かる。このように推論の妥当性はきわめて重要な性質であり、この性質について深く研究することが論理学の課題だと言ってよい。この科目では、文または命題を最小単位とする「命題論理」を中心に、推論の原理について学ぶ。

●授業内容・授業計画

- 第1課 論理学とはどんなものか
- 第2課 論理的結合子の導入と説明 I (否定・連言など)
- 第3課 論理的結合子の導入と説明 II (条件法など)
- 第4課 結合子の特性とシェファー・ストローク
- 第5課 真理表
- 第6課 推論の妥当性と真理値分析 I
- 第7課 推論の妥当性と真理値分析 II

- 第8課 恒真命題(トートロジー)
- 第9課 推論の妥当性と文集合の矛盾性
- 第10課 命題論理における「真理の木」の方法 I
- 第11課 命題論理における「真理の木」の方法 II
- 第12課 命題論理の健全性と完全性
- 第13課 述語論理をちょっとだけ I
- 第14課 述語論理をちょっとだけ II
- 第15課 全体のまとめ

●評価方法

4 回程度、演習問題を出題し、その解答をレポートとして提出してもらおう。それらのレポートの点数にもとづいて成績評価を行う予定(現時点では行わない予定だが、場合によって期末試験を行うことになる可能性もある)。

●受講生へのコメント

原則として、学生諸君の理解を促進するため、提出されたレポートは採点して一週間後に返却する。出席はとらないが、欠席を重ねてレポートを一度でも出しそなうと、単位修得がかなり難しくなるので要注意。

少しでも分からないことがあったら遠慮せずに質問する積極性がこの科目では特に望まれる。

●教材

R. ジェフリー『形式論理学』(産業図書)を教科書として用いる(参考図書は授業中に紹介)。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 月・3 全文)

2 単位

文学研究科 川辺 光一

●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で進められる。各テーマは1、2回の講義で完結する予定である。ただし、授業進行の関係上、講義の順番が変更されたり、一部を省略したりすることもあるということを付記しておく。

1. 心理学の歴史とその研究手法

2. 感覚・知覚
3. 学習・記憶
4. 思考・言語
5. 動機づけ・情動
6. 心の発達
7. 性格
8. 対人行動・集団行動
9. 心と脳

●評価方法

基本的に、期末試験の成績をもとに行われるが、出席率も考慮する。また、授業期間中に小テストを実施する場合もあるが、その場合このテストの結果も考慮に入れる。期末試験においては、授業内容についての深い理解が求められるので、講義には必ず出席すること。

●受講生へのコメント

この講義を期に心理学に対して正しい知識を持ってもらうと同時に、人間の心や行動についてより深く洞察してもらいたい。

●教材

毎回、その日の講義に関する図表等をプリントとして配布する。

参考書：梅本堯夫・大山正編著「心理学への招待—こころの科学を知る」サイエンス社
金児暁嗣編「サイコロジー事始め」有斐閣
鹿取廣人・杉本敏夫編「心理学」東京大学出版会

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期 木・4 全文)

2 単位

非常勤 山口 哲生

●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるか

を問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

人や動物がなぜそのような行動を行うかを理解するために、以下の各領域から主要なトピックを選び講義する。

1. 心理学とは
2. 心理学の歴史
3. 反射の原理
4. 行為の原理 (1)
5. 行為の原理 (2)

6. 知覚：刺激性制御と概念形成
7. 意思決定（1）：自己制御と衝動性
8. 意思決定（2）：価値割引
9. 記憶：遅延見本合わせ課題
10. 推論：ベイズ推論
11. 言語：人口言語習得と記号によるコミュニケーション
12. 動機づけと情動
13. 日常場面に見られる反射の原理
14. 日常場面に見られる行為の原理
15. まとめ

●評価方法

学期末試験（80%）及び講義中に実施する小テスト（20%）の成績により評価する。

●受講生へのコメント

本講では、心理学の実験や調査に参加する機会をできるだけ多く提供する予定なので、授業内容の理解を深める為にも受講生は積極的に参加されたい。

●教材

教科書：伊藤正人 2005 「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」（昭和堂）

心理学への招待

Introduction to Psychology

（前期 火・3 全理）

2単位

文学研究科 池上 知子

●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

心理学の各領域から主要なトピックを精選して講義する。なお、講義内容に対する理解を深めるため、適宜、心理検査や心理実験を実施し、ビデオ教材等も活用する。

内容は、おおよそ以下の通りである。各テーマに2回程度充てる予定である。

1. 心理学とは何か：科学と常識のあいだ
2. 心と体を結ぶもの：脳科学と心理学
3. 心と身体疾患
4. 心を動かす源泉：欲求と感情
5. 行動異常と心の力学
6. 心を支える記憶のはたらき
7. 心の個人差と形成因

●評価方法

主として学期末に行う試験の成績にもとづき評価する。

●受講生へのコメント

講義形式の授業ではあるが、参加型の授業を目指したため、授業時間中に受講者に発言を求めることが多くなる。受講者は積極的に意見を述べてほしい。また、心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、授業時間内に種々の質問紙調査に協力を求めたり、授業時間外に実験への参加協力を要請する場合もある。

●教材

教科書：特に使用しない。適宜プリントを配布。

参考書：無藤隆他編『よくわかる心理学』（ミネルヴァ書房）

OHP、ビデオを使用する予定。

心理学への招待

Introduction to Psychology

（前期 金・1 全理）

2単位

非常勤 恒松 伸

●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人

の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、

言語、思考、性格、知能などのことである。理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

以下を主要な内容とし、それぞれ1～2コマ程度を目安として、講義を進める予定である（ただし、進捗状況により、講義の順番の変更や一部の省略もありうる）。

1. はじめに：心理学とは
2. 心理学の歴史：研究対象の変遷
3. 行動の原因はどこに：心的過程と外的環境
4. 行動に影響するさまざまな要因：学習・成熟・動機づけ等
5. 行動とは何か：定義と種類
6. 学習の基礎と応用（1）：基本的行動随伴性
7. 学習の基礎と応用（2）：日常場面への応用例
8. 認知：言語と概念

9. 選択：セルフコントロールと衝動性

10. 経済：個体の消費行動の理解

●評価方法

主として期末試験の成績により評価する。講義期間中に行動実験または質問紙調査等を実施する場合は、その参加の有無も成績に加味するので、留意されたい。詳しくは、第1回目の講義で説明する。

●受講生へのコメント

本講義では、私たちが環境に適応していく上で、最も基本的な機能である「学習」と「行動」を中心に、心理学の歴史、さまざまな種類の行動の変化に影響する要因、行動の原因論等に触れる。さらに、心理学の実証的研究より明らかにされたいくつかの重要な知見や日常場面への応用例を紹介したいと考える。講義は、以下の指定教科書を適宜参照しながら進められるので、毎回忘れずに持参すること。なお、レジュメ・資料を配布することがあるが、それらは、当日の講義中のみで入手可能である。したがって、講義の内容を十分に理解するためには、毎回の出席が必要である。

●教材

教科書：伊藤正人 2005 「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」 昭天堂

参考書：必要に応じて、講義内で随時紹介する。

心理学への招待

Introduction to Psychology

(前期② 月・1 全)

2単位

文学研究科 伊藤 正人

●科目の主題と目標

あなた方の多くは“心理学”を、「人の心を見抜く」学問といった理解をしてはいないだろうか。そうした理解が必ずしも正しくないことが、この講義を受講することによって明らかとなるだろう。もちろん、心理学は「人の性格を判定したり」、「人の行動を予測したり」もするが、それらのことができるのは心理学が人や動物の行動の基礎となる心の働きを科学的に研究する学問だからである。

心とは感覚、知覚、認知、感情、欲求、学習、記憶、言語、思考、性格、知能などのことである。心理学者は様々なアプローチの仕方によって、これらがどのように生じ、その結果どのような行動として現れるか、あるいは逆に、行動の結果として心がどのような影響を受けるかを問題にしている。

この講義はあなた方に、心に対する知識を獲得してもらうと同時に、心理学への理解を深めてもらうことによって、日常生活の場面で人がなぜそのような行動をとるのかということに対する回答をあなた方自身で見いだすことができるようになることを目的とする。

●授業内容・授業計画

本講義では、下記の教科書を用い、人や動物がなぜそ

のような行動をとるのかを理解する行動分析的な枠組みについて概説する。また、このような枠組みから日常場面の様々な出来事がどのように理解できるかを検討する。大まかな授業計画は以下の通りである。

(1) はじめに：行動分析的視点

第1部：実験室から得られた行動の原理

(2) 現代心理学の2つの立場

(3) 行動とは：生得的行動と習得的行動

(4) 反射の原理：条件反射の形成

(5) 反射の原理：複合条件

(6) 行為の原理：新しい条件づけの発見

(7) 行為の原理：強化の原理

(8) 行為の原理：選択・意思決定

(9) 動機づけ：行為の原因

第2部：日常場面に見る反射と行為の原理

(10) 怒り恐怖・好き嫌い

(11) やる気・意欲

(12) ほめる・しかる

(13) 自己制御と社会的ジレンマ

(14) まとめ

●評価方法

レポートの評価による。

●受講生へのコメント

受講生は、教科書に取り上げられている映画をあらかじめ見ておくとよい。

●教材

教科書：伊藤正人「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」 昭和堂 2005

参考書：伊藤正人「心理学研究法入門：行動研究のための研究計画とデータ解析」 昭和堂 2006
金見暁嗣（編）「サイコロジー事始め」 有斐閣 2003

河野哲也「心は体の外にある：エロコジカルな私の哲学」 NHK ブックス 2006

中島義明（編）「心理学辞典」 有斐閣 1999

小川 隆（監修）「行動心理ハンドブック」 培風館 1989

杉山尚子「行動分析学入門：ヒトの行動の思いがけない理由」 集英社新書 2005

認知の仕組み

Mechanism of Cognition

(後期 火・3 全)

2単位

文学研究科 佐伯 大輔

●科目の主題と目標

ヒトの認知機能は、どのようなメカニズムによって発揮されるのか。講義では、この問題を解明するために、これまで認知心理学分野において行われてきた実証的研究の知見を学ぶことを目標とする。さらに、これらの研究に共通する科学的方法論について学ぶことを通して、ヒトの「心」を客観的に観る方法とその重要性について理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

「認知」とは、知覚・記憶・思考などを含む精神機能を表す言葉であり、心理学を構成する多くの研究分野で使用される重要な概念である。認知の機能には、環境からの情報の理解、保持、利用、さらに、新たな情報の生成がある。認知心理学は、これらの認知機能がどのようなメカニズムによって発揮されるのかを、科学的方法論に基づいて明らかにすることを目的としており、これまでに、様々な理論やモデルが提案されている。

授業では、認知心理学に関係する以下の研究テーマについて、これまで実証的方法に基づいてなされてきたヒトの認知メカニズムに関する研究を解説する。

1. 認知心理学とは：歴史と方法
2. 記憶の基礎
3. 様々な記憶 (1)：感覚記憶
4. 様々な記憶 (2)：短期記憶
5. 様々な記憶 (3)：長期記憶

6. 記憶研究の展開
7. 注意 (1)：聴覚
8. 注意 (2)：視覚
9. 表象 (1)：命題的表象
10. 表象 (2)：アナログ表象
11. 言語
12. 問題解決
13. 推論
14. 判断と意思決定

●評価方法

定期試験により成績評価を行う。

●受講生へのコメント

授業中の私語は厳禁とする。

●教材

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

J.R. アンダーソン（著） 富田達彦・増井 透・川崎恵里子・岸 学（訳）(1982) 認知心理学概論 誠信書房
道又 爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢 学（著）(2003)「認知心理学 — 知のアーキテクチャを探る」 有斐閣アルマ
森 敏昭・井上 毅・松井孝雄（著）(1995)「グラフィック 認知心理学」 サイエンス社

行動と学習の心理

Psychology of behavior and learning

(後期 木・4 全)

2単位

非常勤 山口 哲生

●科目の主題と目標

ヒトを含む動物がおこなうすべての行動は、二者択一の選択行動として捉えることができる。Herrnstein (1961)により発見された対応法則 (the matching law) を出発点とする選択行動研究は、さまざまな選択場面におけるヒトや動物の選択行動がどのような要因により影響され、また、そこにどのような行動の規則性が見られ

るのかを問題としてきた。近年では、選択行動研究は、ミクロ経済学との学際的研究分野である行動経済学や、行動生態学との学際的研究分野である採餌行動研究などへ展開されている。本講では、対応法則の発見を通して、ヒトを含む動物の意志決定に関する1つの研究領域として確立した選択行動研究の最先端を紹介する。

●授業内容・授業計画

1. 行動的接近法
2. オペラント条件づけの基礎
3. オペラント条件づけの理論
4. オペラント条件づけと選択行動研究
5. 対応法則と一般対応法則
6. セルフコントロールと衝動性
7. 報酬の価値割引
8. リスク選択とプロスペクト理論
9. ゲーム理論：囚人のジレンマゲーム
10. 選択行動研究と行動経済学（Ⅰ）：心理学とミクロ経済学
11. 選択行動研究と行動経済学（Ⅱ）：喫煙・飲酒・薬物摂取の行動経済学
12. 選択行動研究と行動生態学（Ⅰ）：心理学と行動

生態学

13. 選択行動研究と行動生態学（Ⅱ）：対応法則と理想自由分布理論
14. 選択行動研究の今後
15. まとめ

●評価方法

学期末試験(80%)及び講義中に実施する小テスト(20%)の成績により評価する。

●受講生へのコメント

本講では、心理学の実験や調査に参加する機会をできるだけ多く提供する予定なので、授業内容の理解を深める為にも受講生は積極的に参加されたい。

●教材

教科書：伊藤正人 2005 「行動と学習の心理学：日常生活を理解する」(昭和堂)

対人行動の影響と意味

Various Effects and Meanings of Interpersonal Behavior

(前期 月・3 全)

2 単位

大学教育研究センター

渡邊 席子

●科目の主題と目標

この授業で主に取り上げるのは、説得的コミュニケーションと呼ばれる分野に関することからである。説得的コミュニケーションとは、人々の態度や行動を変化させることを目的とする複合的なコミュニケーションである。この授業で目指すのは、①説得的コミュニケーションに関する学術的知見の基礎を理解すること、②授業中に行われる演習、グループワーク、ストーリー作成等に参画することによって、日常的な対人行動と説得的コミュニケーションに関する学術的知見とを結びつけて理解すること、および、③実際の対人行動場面においてこれらの学術的知見がわれわれの生活に害をなす形で利用される可能性を知り、そのような場面において己の身を守るために何が必要かを自覚して、日常的な防衛意識・行動に結びつける、の3点である。

●授業内容・授業計画

この授業では、個人ワークのみならずグループワークを多用する。説得的コミュニケーションに関連する講義を行い、演習課題に取り組みながら、日常的な問題をからめた各種ストーリー(小話、短編演劇シナリオ、セールス戦略など)を作成し、グループワークを通じて相互に発表・評価しあう。授業計画は以下のとおりである。

第1回：授業の進め方に関するガイダンス

第2～6回：ユニット1＝説得的コミュニケーションに関する講義(古典的研究1)、およびストーリーづくり1

第7～11回：ユニット2＝説得的コミュニケーションに関する講義(古典的研究2、近年の研究)、

およびストーリーづくり2

第12～14回：ユニット3＝説得的コミュニケーションに関する講義(カルトマインドコントロールと説得的コミュニケーション)、およびストーリーづくり3

第15回：まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に1度以上、説得的コミュニケーションに関連する講義内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。また、ストーリーづくりの詳細に関しては、授業の進行にあわせて随時説明する。

●評価方法

(1) 平常点(学ぼうとする意思・態度・行動、課題・宿題・報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか、授業期間中に行う小テスト等)：80点満点

(2) ストーリー作成に対する学生同士の相互評価：20点満点 合計 100点満点

●受講生へのコメント

- ・受講を希望する学生は、必ず第1回目の授業に出席すること。
- ・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いてきていることを前提に授業を行う。
- ・授業は3つのユニットから成っている。特に重要な回を欠席した場合、以降そのユニットの授業に参画できないこともある。

●教材

教科書は用いない。必要な教材は授業中に配布する。

ゲームで学ぶ社会行動

Learning about Social Behavior with Experimental Games

(後期 木・4 全)

2 単位

大学教育研究センター

渡邊 席子

●科目の主題と目標

この授業のキーワードはキャリア(=生き方、含労働)である。また、この授業の目標は、自立的にキャリアを発達させ、自己と社会とを結び付けていくことのできる知的行動力の育成である。自らが置かれている社会的状況を読み、最適な行動を選択し、いかなる状況にも適応していける知的行動力を身につけることは、ひとりの社会人として、自らのキャリアを自立的に発達させていくために必要不可欠である。ゆえにこの授業ではまず、①自分自身を理解する、すなわち自己概念を明確化し、②キャリアを自立的に発達させるために今何を考えるべきか、何をすべきか、ゲーミング・シミュレーション教材作成を通じて理解する。続いて、③仮想社会を想定した意思決定ゲーミングに参画し、自分が組み込まれている社会と自分自身との関係を俯瞰し、社会的生物としていかにあるべきか、「おとな」として責任ある行動をいかにとるべきかを積極的・主体的に学びとる。

●授業内容・授業計画

この授業では、個人ワークのみならずグループワークを多用し、ゲーミング・シミュレーションを介した学習成果についての相互評価・自己評価を行いながら、社会的生物としていかに自身のキャリア(=生き方、含労働)を発達させるかを問う。授業計画は以下のとおりである。

第1回：授業の進め方に関するガイダンス

第2～8回：ユニット1＝「社会で生きることについて問う(キャリアデザイン)」をテーマに、大学生向けゲーミング・シミュレーション教材をつくる(キャリアカウンセリング理

論についての基礎講義、教材作成、相互評価、自己評価)

第9～11回：ユニット2＝「自分」と「社会」(ユニット3へのつなぎとなる講義、演習)

第12～14回：ユニット3＝意思決定ゲーミング・シミュレーションの実施(ゲーミング・シミュレーションへの参画、討論、相互評価、自己評価)

第15回：まとめと総合自己評価

なお、授業期間中に1度以上、授業内容の理解度チェックをかねた小テストを行う。

●評価方法

(1) 平常点(学ぼうとする意思・態度・行動、課題・宿題・報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか、授業期間中に行う小テスト等)：80 点満点

(2) 学生同士の相互評価：20 点満点

→合計 100 点満点

●受講生へのコメント

- ・受講を希望する学生は、必ず第1回目の授業に出席すること。
- ・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それら解いてきていることを前提に授業を行う。
- ・授業は3つのユニットから成っている。特に重要な回を欠席した場合、以降そのユニットの授業に参画できないことがある。

●教材

教科書は用いない。必要な教材やゲーミングマニュアル等は授業中に配布する。

日常の中の不思議を探す 演習

Seminar: Let's find out wonders in our daily life

(後期 火・3 全)

2 単位

大学教育研究センター

渡邊 席子

●科目の主題と目標

本演習の目標は、各種課題への取組みを通じて、受講生が自分なりのクリティカル・シンキングの手法を確立することである。本演習では、われわれの周りにある身近な場面のもつ意味を、当たり前と受け流さず、鵜呑みにせず、今一度自分の頭で考え、捉えなおす各種課題に取り組む。これらの課題を解くにあたっては、クリティカル・シンキング(批判的・創造的・科学的にものを考え、妥当な自己点検を行う総合的思考力)の手法の獲得が不可欠となる。クリ

ティカル・シンキングの手法は、大学での学びに要するのみならず、われわれが社会人として自分のキャリア(=生き方、含労働)を自らデザインし、発達させていくためにも必要である。本演習では、受講者に対し、自らを取り巻く社会的諸問題の本質を見極め、自立的解決を目指して的確な意思決定を為し行動するための知的底力を培う機会を提供したい。

●授業内容・授業計画

演習では、コミュニケーションの4スキル(読む・書く・聴く・話す)の中で特に、「他者の話を礼節をもって”

聴く」こと」にポイントをおきながら、クリティカル・シンキング手法の確立を目指す各種課題に取り組む。演習のスケジュールは以下のとおりである。

第1回：演習の進め方に関するガイダンス、受講者決定
第2～6回：クリティカル・シンキング演習1(時事問題に関する討論、自己評価)

第7～10回：「社会ではたらくこと」に関する調査課題(調査、発表／討論、相互評価、自己評価)

第11～14回：クリティカル・シンキング演習2(何が問題の本質かを見極める調査、発表／討論、相互評価、自己評価)

第15回：まとめと総合自己評価

本演習は、ものごとを自分の頭で考え、これから社会に出て行く大人にふさわしい総合的思考力とは何かを受講生「自らが」掴み、自分なりの方法を見出すことを目指すものであり、単なる討論スキルアップ講座ではない。誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学ぶ」意思を持つ学生の受講を強く希望する。

●評価方法

調査結果の発表時、教員はもちろん学生同士でも相互評価を行い、それらの結果を成績に組み入れる。

(1) 課題への取り組みに対する評価(教員・学生それぞれからの評価)：60点満点

(2) 参画への意思・態度・行動(積極的に意見を述べたか、報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか等)：40点満点 →合計100点満点

●受講生へのコメント

・受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。また、受講人数の上限を15名とし、全回出席を基本とする。

・授業の進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いてきていることを前提に演習を進める。

●教材

教材は演習中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講者自身が調査の上集めて持ち寄る場合もある。

教育と発達心理学

Psychology on Education and Development

(前期 火・2 全)

2単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

「人間の発達はどのように理解しうるのか?」「教育はいかにあるべきと考えるのか?」という問題を考えます。絶対的な答えがある問題ではなく、またそのような答えがあると考えることの危険性を認識する必要もあります。人間の発達の多様性と可変性・可塑性を心身でもって認識してほしいと思います。

●授業内容・授業計画

発達心理学の歴史の中に登場する重要人物たちが、人間の発達と教育についてどのような理解をし、どのような世界観を持っていたのかを考えることを通じて、

第1週 ガイダンス

第2週 ビネーと知能テスト

第3・4週 ガードナーと多重知能理論

第5・6週 ピアジェの発生的認識論

第7・8週 ピアジェ以降の認知発達心理学

第9週 レポートの講評

第10・11・12週 ヴィゴツキーの思想

第13・14週 生涯発達心理学

第15週 最終レポートの提出と自己評価

●評価方法

第1回レポートが20点、第2回レポートが20点、ミニアドベンチャーへの回答が22点、概念地図の作成が12

点、授業の際に書いてもらうコミュニケーションカードが26点の計100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。

レポート課題(2回)の他に、ミニアドベンチャーという課題を出します。これは、図書館の使い方や文献の引用の仕方などを身をもって体験してもらうためのものです。授業もこの課題への回答合わせから始めることが多いですから、必ずやってきましょう。また、授業の内容をもとに概念地図を作ります。作り方は授業中に説明します。

なお、授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないの単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

●教材

授業中に参考文献を呈示する

教育と発達心理学 演習

Seminar: Psychology on Education and Development

(後期 木・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

発達と学習・教育に関する事柄について、受講生の問題設定と調査に基づいて考えると同時に、それらに関する社会的な活動に実際に参加することを通じて、発達や障害に関して自分自身で多面的に考える力を身につけることを目指す。

●授業内容・授業計画

- | | |
|---|-------------------------|
| 第1週 | ガイダンス |
| 第2～3週 | 講義(発表の方法等について) |
| 第4～9週 | 受講生による発表と討論 |
| 原則として、「発達の障害について」「学習について」「アイデンティティと時間的展望について」の3つのテーマを2週ずつ | |
| 第10～11週 | スペシャルオリンピックス
参加報告と議論 |
| 第12～14週 | レポートの作成 |
| 第15週 | 最終討論会 |

受講生を学習組と活動参加組みにわけます。活動参加組みは、知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックスの日常プログラム(原則的に日曜日に開催)に3回以上参加する。学習組は、レポートやレジメ作成の課題を多くする(例えば、活動参加組みはレジメ作成が1枚だが、学習重点組みは3枚など)。なお、2010年

11月5～6日にはナショナルゲーム(国内大会)があるため、そちらへのボランティア参加を何らかの形で組み込む可能性もあります。

●評価方法

レポート執筆、発表、討論、授業への参加状況をそれぞれ同じ割合で(100点満点に比べると25点ずつ)評価します。なお、活動参加組については、活動への参加状況も評価の対象になります。

●受講生へのコメント

演習形式の授業のため、受講生数を16名程度以下に制限します。多くの受講希望者が集まった場合は抽選をしますので、あらかじめご了承ください。

演習形式ですので、受講生の発表や議論を中心に授業を進めます。授業への積極的な関与を期待します。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の2時限目と昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に提示する。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

●教材

藤田哲也(編)「絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を実践」(ミネルヴァ書房)(2,800円)を教科書として指定します。

読むこと書くことの科学

Cognitive Psychology on Reading and Writing

(後期 火・4 全)

2 単位

大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

現代社会に参加していく上で必須の能力であるリテラシー(読み書き能力)について、その仕組みや発達を理解することを通じて、次の事柄を実現することを目指します。

- ・自分自身のリテラシーの発達過程を振り返り、分析しつつ、これからの大学生活のあり方をリテラシーを軸に展望できる。
- ・自分自身が自分や身近な他者・大学・社会をどのように理解し、それらに向かって如何に情報を発信するかについて考えられるようになる。
- ・必要に応じて過去(これまでの人生)を改めて分析したり将来を多面的に検討したりしながら、自分自身が現在取り組んでいる事柄(学業など)の意義や意味を検討・表現することを通じて、大阪市立大学

で学ぶ大学生としての自己認識を深める。

●授業内容・授業計画

人はなぜ、何のために読むのか・書くのか、それは発達に応じてどのように変化するのかについて、主に大学教育を中心に考えます。大学生の皆さんにとって、文章を書くこと、読むことの意味は何でしょうか? それを通じてどのように成長するのでしょうか? そして、学生の皆さんの読み書きは大学にとってどのような意義があるのでしょうか?このような問いについて考えます。

1. ガイダンス
- 2-3. アカデミックライティングとは
- 3-5. 引用の練習
6. 7. 8. 受講生による発表会
9. レポート相互評価
- 10-11. 読み書きの認知プロセス

- 12-13. 読み書き能力の発達と障害
 14. リテラシーのあり方とその評価
 15. まとめ

●評価方法

第1回レポートと発表が20点、発表へのコメントが15点、第2回レポートが25点、ミニアドベンチャーへの回答が20点、授業の際に書いてもらうコミュニケーションカードが20点の計100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

総合科目においては、専門知識を覚えることよりも、学生が自分で考え、悩むことが重要です。授業の内容をもとに大いに考え、議論してください。

授業では、受講生による発表会等を取り入れて、学生に話してもらう機会を作ります。是非とも、積極的に参加してください。また、レポート課題(2回)の他に、ミニアドベンチャーという課題を出します。これは、図

書館の使い方や文献の引用の仕方などを身をもって体験してもらうためのものです。授業もこの課題への回答合わせから始めることが多いですから、必ずやってきましょう。

なお、授業には遅刻せずに、毎回出席するのが常識です。この常識に従って授業を進めますので、欠席を理由とする課題の不提出等は認めません。「卒業が危ないの単位をください」という依頼も受け付けません。

担当教員のオフィスアワーは火曜日の昼休み。内線番号とメールアドレスは授業中に呈示します。

授業に関するwebページはこちら。

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/~nishigaki/>

●教材

教科書は指定しない。参考文献は授業中に適宜指示する。

現代文化の社会学

Contemporary Cultural Studies

(後期 火・2 全)

2単位

文学研究科 石田 佐恵子

●科目の主題と目標

現代文化を社会的に考えるとどのようなことでしょうか。本講義では、現代文化のなかから、特にテレビ文化をとりあげ、「クイズ形式」をキーワードにその特質を論じます。

現代文化は、以下のような特徴を持つと論じられています。①テレビ、携帯電話、インターネットなどの電子的なメディアが日常生活に大きな影響を与えている、②音楽、マンガ、インターネット記事などの文化商品が、国境を越えて流通し、グローバルな脈絡において消費されている、③ポストモダンと呼ばれる社会状況に共通の生活様式・価値観などが世界規模で出現しつつある。

このように、現代文化とは、私たち自身にとって馴染みの深い日常生活そのものであり、生きられている文化に他なりません。この講義を通して、現代文化現象についての理解を深め、それらを読み解く能力を養うことを目標とします。

●授業内容・授業計画

上記テーマを以下のパートに分けて論じます。

(1) 現代文化研究におけるテレビ文化研究の位置づけ(第1-3回)。(2) クイズ形式の文化の特徴(第4-5回)。(3) 放送史におけるクイズ番組の制作と消費の変遷(第6-10回)。(4) 現代文化と知識消費(第11

-13回)。(5) まとめ(第14回)。以上のような学習成果をふまえて、最終的には、現代文化現象についての考察・分析を行うことを目指します。

●評価方法

講義時には、毎回出席をとります。この出席の配点は30%程度。授業時に随時行うミニ・レポートは出席点としてカウントします。

学期末には「現代文化現象についての考察・分析を行う」段階として、論述形式の試験を実施します。評価は70%程度。

●受講生へのコメント

現代のメディア文化のさまざまな領域について、積極的に関心を持っている受講生を望みます。なお、受講に際し、他の学生に迷惑をかけるような行為(私語・遅刻など)を行う者には、退出を求めることがあるので、充分留意してください。

●教材

教科書:石田佐恵子・小川博司(編)『クイズ文化の社会学』世界思想社、2003。

参考書:岩淵功一(編)『グローバル・プリズム』平凡社、2003。萩原滋(編)『テレビニュースの世界像』勁草書房、2007。その他、授業中に適宜指示します。

社会科学のフロンティア

The Frontier of Social Sciences

(前期 木・2 全)

2 単位

経済学研究科 中村 健吾

●科目の主題と目標

1951年に調印された欧州石炭鉄鋼共同体設立条約から公式に始まったといえる欧州統合の過程は、2007年にEUの加盟国が27カ国を数えるにいたり、しかもいったんは「欧州憲法条約」の制定を射程に入れるところにまで達しました。この講義科目において掲げられる基本的な問いは、現時点でのEUという「一種独特の」政治システムを「国家」として捉えるべきか、それとも「帝国」として捉えるべきか、というものです。この問いへの答えを探するために、本講義ではEUの諸機関と政治的意思決定過程について、かなり立ち入って分析することになります。そうした作業をとおして、欧州における国家は、もはや単なる国民国家ではなく、国家性のスプラナショナルな次元、ナショナルな次元、サブナショナルな次元、ひいては市民社会の「私的な」次元が複雑に絡み合った多次元的な国家性へと変容していることが明らかになるでしょう。そのうえで、「多次元ネットワーク・ガバナンス」のアプローチをはじめとするいくつかの学説を参照しながら、政治体としてのEUの特徴を浮き彫りにしていきます。

●授業内容・授業計画

講義は教科書に沿って、ほぼ以下のような順序で進行

します。

1. 欧州統合とは何か？：その歴史
2. トランスナショナルな金融主導型成長レジームの形成と、EUにおける多次元ネットワーク・ガバナンス
3. 国境を越える融合官僚制の形成：国家性の脱国民化
4. 政治過程への市民社会の関与：政治システムの脱国家化
5. EUの環境政策における多次元ネットワーク・ガバナンス
6. EU社会政策の変質
7. EUは国家か、それとも帝国か？

●評価方法

期末試験の成績で評価します。

●受講生へのコメント

講義の主題は21世紀の社会科学の先端領域に属しますが、可能なかぎりわかりやすいお話にするつもりです。

●教材

次の教科書を毎回の講義において使用するので、受講生は必ず購入してください。

中村健吾著『欧州統合と近代国家の変容』昭和堂。

日本国憲法

The Constitution of Japan

(前期① 木・2 全)

2 単位

(前期② 木・1 全)

2 単位

法学研究科 米澤 広一

●科目の主題と目標

「日本国憲法」は教員免許取得のための必修科目に指定されているため、受講生の多くが教育問題に関心を持っている。そこで、本講義では、後掲の教科書に沿って、学校教育での憲法問題について解説を加え、日本国憲法への関心と理解を深めることを、目標とする。

なお、法学部生に対しては、本講義は、教職の単位としてのみ認定される（全学共通教育の単位としては認定されない）。

●授業内容・授業計画

- 1 明治憲法から日本国憲法へ
- 2 未成年者の人権享有主体性、生徒の自己決定権
- 3 日の丸・君が代と学校
- 4 宗教と公立学校、生徒と政治
- 5 教育情報の本人開示と公開
- 6 教科書の検定、採択、給付、使用
- 7 学校事故の賠償と防止

- 8 障害児の教育を受ける権利
- 9 外国人の子どもの教育を受ける権利
- 10 親の教育の自由
- 11 教師の「教育の自由」
- 12 私立学校と憲法、児童の権利条約
- 13 国会
- 14 内閣
- 15 裁判所

●評価方法

学期末に行う定期試験によって評価する。

●受講生へのコメント

教職の単位を必要としない法学部生は、専門科目の憲法Ⅰ、憲法Ⅱのみを受講されたい。

●教材

教科書：米沢広一『憲法と教育15講』[改訂版]（北樹出版）

都市的世界の社会学

Sociology of Urbanism

(後期 木・2 全)

2 単位

文学研究科 谷 富夫

●科目の主題と目標

本講では、現代都市に特徴的な現象をいくつか取り上げ、そのメカニズムと人間的意味を考察する。

本講を通して、都市に関する社会学の理論と知識を身につけることが、たとえばこの大阪という大都市でよりよく生きるための一助となることが理解されよう。

●授業内容・授業計画

① 都市の社会理論——第1～4講

「アーバニズム理論」は、20世紀初頭のシカゴで生まれ、その後の批判、修正を経て、今なお有効性を保持している都市理論の一つである。このアーバニズム理論を軸に近年のいくつかの都市理論を学び、都市にアプローチする基本的視座を得ることから本講を始めよう。

② 大都市コミュニティ形成論——第5～7講

地域社会は今や解体の一途をたどっている。隣は何をする人ぞ、である。しかし、今後ますます深刻化する少子高齢化社会において、地域社会の解体は放置できない都市問題である。地域社会の福祉力や教育力の問題へ「コミュニティ形成論」の角度からアプローチする。

③ 都市グローバル化とエスニシティ——第8～10講

日本社会で多文化化、多民族化が進行している。それは、とりわけ大都市で顕著である。異なる民

族間でどのような社会関係を結ぶことができるのか——古くて新しいエスニシティ問題を、大阪都市圏の調査結果をもとに考察する。

④ 都市で生まれる新宗教——第11～13講

なぜ若者は宗教に惹かれるのか？ しかも大学生や高学歴エリート層が。ある新宗教教団の青年信者を東京と大阪で調査したデータをもとに、都市と宗教、宗教と若者の関係について考える。

⑤ 現代都市を生きる——第14講

都市的世界を深く認識することが、私たちがよりよく生きるために必要であることを確認し、本講を閉じる。

●評価方法

授業中に数回小レポート(合計50点)を、学期末にレポートか試験(50点)を課す。

●受講生へのコメント

必ず前回までの講義ノートを持参のうえ、出席のこと。

●教材

参考書：倉沢進『都市空間の比較社会学』放送大学教育振興会。井上俊・伊藤公雄編『都市の世界』(社会学ベーシックス4)世界思想社。その他、授業中に適宜指示する。

プリントを配布、ビデオやスライドも使用する予定。

日本と世界の教育

Education in Japan and the World

(前期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 湯浅 恭正

●科目の主題と目標

主題：日本と世界の教育の事情を比較することを通して、日本の教育の課題を考察する。

目標：教育の目標や内容、子どもの発達と自立とそれらを促す教育実践について、比較する能力の形成を目指しながら、日本の教育の課題を考察する視点と方法を身に付けることができる。

●授業内容・授業計画

① 本授業のオリエンテーション・教育の見方と教養＝1時間

② 日本と世界の教育を比較するために、日本の教育実践の展開過程を考察する。＝6時間

- ・戦後の日本の教育の展開過程
- ・戦後初期の日本の教育実践の展開
- ・教育の現代化と日本の教育
- ・学力低下・「おちこぼれ」と教育
- ・「ゆとり」・体験学習と教育
- ・個性・新学力観と教育

・学校から排除されてきた子どもと教育

③ 中間の試験

④ 世界の教育の見方・フランスの教育＝1時間

⑤ フィンランドの教育と日本＝1時間

⑥ ドイツの教育と日本＝2時間

⑦ 中国・韓国の教育と日本＝1時間

⑧ 英米の教育と日本＝1時間

⑨ 最終試験

●評価方法

中間試験と最終試験が60パーセント、出席とミニレポートが40パーセント

●受講生へのコメント

参考資料による理解とともに教育の課題について積極的に議論し、考察する姿勢を期待する。

●教材

教育理論・実践の資料を配付するので特に教科書は用いない。

宗教と社会

Religion and Human Society

(前期 木・4 全)

2 単位

文学研究科 仲原 孝

●科目の主題と目標

あらゆる宗教は社会を構成する。したがって宗教には必ず社会的な問題がつきまとう。この授業ではこうした宗教をめぐる社会的問題を、講義形式でさまざまな角度から考察して行く。

●授業内容・授業計画

今年は「宗教多元論」の問題について考察する。あらゆる宗教は自己自身を絶対的な真理と見なすものであり、無数の宗教が共存しなければならない現代世界では宗教対立が深刻な問題となっている。講義では、この問題に取り組んだ先人の思想を吟味しながら、宗教共存の可能性を探る。

授業計画は次のとおり（ただし授業進捗の関係上、授業計画に多少の変更が行われる場合もありうることを付記しておく）。

1. 宗教多元論の問題
2. ヒックの宗教多元論の原理
3. 排他主義・包括主義・多元主義
4. ヒックの宗教多元論の限界
5. ラーナーの「無名のキリスト教」論
6. ラーナーとカント
7. 宗教的アプリオリは存在するか
8. ニーチェの道徳的パースペクティヴィズム
9. 貴族的道徳と奴隷的道徳

10. パースペクティヴィズムと永遠回帰思想
11. ニヒリズムと宗教多元論
12. 西谷啓治の「空」の宗教哲学
13. 仏教とキリスト教
14. 「空」は宗教多元論と調和するか
15. あるべき宗教多元論とは

●評価方法

小論文形式の試験またはレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらすべてが満たされていることが、単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

宗教の問題に唯一の確定的な答はありえない。講義の目的はあくまで受講者各自が問題を考える上での手がかりを提供するところにある。したがって、小論文では講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められ、ノートや参考書をまとめただけの答案は最低の評価となるので注意すること。

●教材

教科書は用いない。必要な資料は印刷して配布する。宗教学・宗教哲学全般に関する一般的な参考書としては次のものを推薦しておく。藤田正勝・細谷昌史編『シリーズ新しい教養の科学—宗教学』(昭和堂)。

現代社会学入門

Invitation to Contemporary Sociology

(前期 月・2 全)

2 単位

文学研究科 進藤 雄三

●科目の主題と目標

社会学という学問領域についての概括的知識を学習するとともに、現代社会に生起している多様な社会現象を主題ごとに検討し、社会学的思考法についての理解を深める。

●授業内容・授業計画

- 1 社会学：オリエンテーション
- 2 自己論：「私」という存在を問う／「個人化」
- 3 家族：「婚活」の誕生／家族のゆくえ
- 4 逸脱：犯罪は凶悪化／増大したか？
- 5 医療：「医師不足」はなぜ起きた？
- 6 政治：支配と権力／世界史における日本
- 7 情報・メディア：メディアはメッセージ？
- 8 教育：資格社会の陥穽／日本型学歴社会
- 9 宗教：世界における宗教／苦難と幸福の神義論

- 10 ジェンダー：「家父長制」と資本制？
- 11 エスニシティ論：「エスニシティ」の誕生
- 12 エイジング論：高齢社会の誕生／「エイジズム」
- 13 グローバリゼーション論：それは何を意味するのか
- 14 現代社会の歴史的位相：日本、世界の共時変容
- 15 試験

●評価方法

出席2・コメント3・試験5の三者によって判定する

●受講生へのコメント

次回講義のさいに使用されるキーワードを指示するので、参考書の該当箇所を読んでくること。

●教材

参考書：『新しい世紀の社会学中辞典』ミネルヴァ書房、2005

現代社会学入門

Invitation to Contemporary Sociology

(前期② 水・2 全)

2 単位

文学研究科 川野 英二

●科目の主題と目標

現代社会の諸問題について主要なトピックをとりあげ、関連する社会学的分析を検討することをつうじて、社会学的なもの見方・考え方を学び、幅広い視野や多様な関心をもつことをめざします。

●授業内容・授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会学の方法と視点
- 3 自己：個人化と親密性の変容
- 4 文化：文化とメディア
- 5 ジェンダー：ジェンダーと家族
- 6 グローバル化：ネオリベラリズムと福祉国家の再編
- 7 教育：学校と職業
- 8 労働：雇用と労働の変容
- 9 都市：グローバル化と都市

- 10 地域：地域社会の衰退と再生
- 11 階層：階層と不平等
- 12 貧困：貧困と社会的排除
- 13 政治：国家と市民社会の再編
- 14 社会学と社会調査Ⅰ：量的調査
- 15 社会学と社会調査Ⅱ：質的調査

●評価方法

出席とコミュニケーションカード(40%)、試験(60%)の結果を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

授業はテキストを参考にして進めるので、該当する章をあらかじめ読んでおくこと。

●教材

友枝・山田(編)『Do! ソシオロジー — 現代日本を社会学で診る』有斐閣アルマ

現代の社会問題

Contemporary Social Problem

(前期 金・2 全)

2 単位

非常勤 堤 圭史郎

●科目の主題と目標

近年、最も注目された話題の1つは「派遣切り」であろう。企業の意向により一方的に解雇へ追い込まれた非正規労働者の中には、野宿を強いられた人々も生み出された。しかし、過去を振り返れば、似たような現象が90年代末の日本社会でも起こったことが思い出されるのであり、それどころか90年代以前においても、都市において野宿者の存在は決して珍しいものではなかった。

ならば、野宿者とは何者なのか—講義では「ホームレス問題」「フリーター問題」を通して、それらと戦後日本の社会変動との関係について理解を深める。

●授業内容・授業計画

1. 野宿者の「何」を問うのか?
2. 野宿者の社会問題化
3. 「正当化」される差別
4. 野宿者の析出過程
5. 「寄せ場」とは何か
6. 寄せ場と野宿
7. 寄せ場と都市社会
8. 寄せ場の変容と地域社会の対応
9. 非正規雇用の拡大

10. 「ニート」論の陥穽
11. 社会からの排除／学校からの排除
12. 「ネットカフェ難民」とは誰か?
13. 「孤立」した生の諸相
14. まとめ
15. 試験

●評価方法

期末試験70点、小レポート等平常の課題30点の配分により評価する。

●受講生へのコメント

「ホームレス」をめぐる諸問題とみなさんの日常生活をめぐる諸変化との関係について、“ゆるゆる”と考えてみてください。

●教材

教科書：『包摂と排除のリアリティ』ミネルヴァ書房、2010(仮タイトル・近刊)。他、適宜プリントを配布する。

参考書：『排除される若者たち—フリーターと不平等の再生産』解放出版社、2005。他、講義中に適宜指示する。

世界のなかの日本経済

Japan's Economy in the World

(前期① 火・2) 2単位

(前期② 火・1) 2単位

経済学研究科 山下 英次

●科目の主題と目標

グローバル金融・経済危機と日本経済

●授業内容・授業計画

- 第1章 今次危機の5段階—我々はいまどの段階にいるのか？
- 第2章 今次危機のより直接的な原因は何か？
- 第3章 市場万能論の大失敗 (2回分で)
- 第4章 米国のマクロ経済政策の失敗の再来と大調整の始まり (3回分で)
- 第5章 アメリカ経済全体のバランスシート調整が必要 (2回分で)
- 第6章 国際通貨・金融システムを債権国のロジック

に沿ったものに改めるべし

- 第7章 グローバル・ガヴァナンスの多極化 (Multi-polarization)
- 第8章 日本の進むべき道は？ (3回分で)

●評価方法

学期末の筆記試験の成績で評価する

●受講生へのコメント

ノートをこまめに取ることをお勧めします。

●教材

現代経済学入門

Introduction to Modern Economics

(前期① 水・3 全) 2単位

(前期② 水・2 全)

経済学研究科 長沼 進一

●科目の主題と目標

現代社会に生きる私たちにとって経済は欠かすことのできない活動の一つです。生存のために自然に働きかけるといふ経済行為は市場メカニズムをつうじてますます複雑な現象として現れています。私たちは労働し、財やサービスを生産することにより、交換を通して必要なものを獲得するという基本的活動は社会的分業を媒介としてシステムができあがっています。このような経済システムを理解し、人間のよりよき生存状態 (well-being) を達成することが大切になってきます。

個人や企業などにとって合理的な行動が国民経済や世界経済にとっては不合理な結果をもたらすことがあるという矛盾について考えてみましょう。講義では日本の直面している経済問題が理解できるように解説しようと思います。

●授業内容・授業計画

- 第1講 経済学の学び方
- 第2講 経済的豊かさの指標

- 第3講 国民所得の生産
- 第4講 国民所得の分配
- 第5講 国民所得の支出
- 第6講 価格メカニズムの役割
- 第7講 消費者行動の理論
- 第8講 生産者行動の理論
- 第9講 価格メカニズムと経済厚生
- 第10講 貨幣と金融の役割
- 第11講 財政の役割
- 第12講 貿易と経済厚生
- 第13講 経済成長と経済変動

●評価方法

期末試験の成績によって評価します。

●教材

特定の教科書はないが参考書として下記のものを利用してください。

- 中谷 巖『マクロ経済学入門』日経文庫
- 奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫

法と社会

law and society

(後期 木・4 全) 2単位

法学研究科 恒光 徹

●科目の主題と目標

20世紀における犯罪学と刑事政策学の歴史を学ぶなかで、日常の犯罪報道や刑事裁判報道などを批判的に理解する力を身につけることを目標とする科目です。

●授業内容・授業計画

- 犯罪学における生物学的方法の20世紀における展開
 - ①ゴーリングの身体的劣性の主張
 - ②双生児の研究

- ③性染色体異常による犯罪行動の説明の試み
- ④犯罪性=低知能説
- 犯罪学社会学的方法の20世紀における展開
 - ⑤アメリカ社会学派
 - ⑥精神分析学的方法
- 刑事政策学の方法の20世紀における展開
 - ⑦刑の個別化
 - イタリア実証学派の刑事制度理論とフランス行刑学派の理論

⑧-⑭刑罰の人道化と改善機能の重視（第2次大戦後の刑事政策の特徴、新社会防衛論、反社会復帰思想の台頭）

●評価方法

定期試験 60 点、予告なしの 2 回の小テスト 40 点で評価します。

●受講生へのコメント

授業中の質問は大歓迎です。ただし、私語、途中退室は厳禁です。授業後の質問も受け付けます。

●教材

参考書：「ビギナーズ刑事政策」成文堂
毎回、資料を配布します。

現代の経営

Contemporary Business Management

(後期 火・3 全)

2 単位

特 任 松下幸史朗

●科目の主題と目標

この講義の目標は、2000 年以降、企業経営を捉える上で重要になってきた「コーポレートガバナンス（企業統治）」と「企業の社会的責任（CSR）」を理解することである。講義の前半では、株式会社の仕組みを説明し、コーポレートガバナンスの論点（会社は誰のものか、経営者をどのように規律づけるかなど）を学習する。後半では、CSR を検討する。そこでは、企業の「責任」とは何か、その責任を果たすためにはどのようなことが必要かなどについて議論する。

●授業内容・授業計画

第 1 回：ガイダンス
第 2 回～第 6 回：コーポレートガバナンス

第 7 回～第 13 回：企業の社会的責任

第 14 回：講義のまとめ

第 15 回：学期末試験

●評価方法

学期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

講義の中での不明瞭な箇所については、自分で調べ・質問するなど積極的な姿勢で臨んで欲しい。

●教材

テキストは使用しない。参考書は講義中に紹介する。

現代の経営 —医療福祉の経営—

Contemporary Business Management —Healthcare Management—

(後期② 月・1 全)

2 単位

特 任 松村 眞吾

●科目の主題と目標

高齢化の進行とともに、医療福祉分野の役割が増大しつつある。また膨らむ医療費・介護費の問題、医師不足など人的資源の問題、情報資源の活用など、様々な問題・課題が山積している。本講義では、医療福祉経営の実際を学び、医療福祉経営のソリューション（問題解決）のための理解と認識を持ってもらう。

●授業内容・授業計画

下記の授業計画に沿って講義を進める。問題提起を行いながら考える場を作っていく、具体的に医療福祉経営とは何か、今後の医療福祉経営で必要なことを示していきたい。

授業計画

第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 医療経営の実際 1
第 3 回 医療経営の実際 2
第 4 回 医療経営の実際 3
第 5 回 医療福祉での経営諸資源(ヒト・モノ・カネ・情報)の状況 1
第 6 回 医療福祉での経営諸資源(ヒト・モノ・カネ・情報)の状況 2

第 7 回 コストマネジメント

第 8 回 品質マネジメント 1

第 9 回 品質マネジメント 2

第 10 回 戦略マネジメント

第 11 回 医療福祉政策 1

第 12 回 医療福祉政策 2

第 13 回 事例研究 1

第 14 回 事例研究 2

第 15 回 学期末試験

●評価方法

講義中課題、学期末試験などで総合評価する。

●受講生へのコメント

メディアのいう「医療崩壊」を表面的になぞるのではなく、医療福祉現場で、どういった経営が行なわれ、何が問題・課題なのかを、正しく理解しましょう。

●教材

テキストは随時、配布または告知する。

具体的なトピックス紹介を考えているので、時々新聞・雑誌記事なども用いる予定

ライフサイクルと教育

Lifecycle and Education

(後期 木・2 全)

2 単位

大学教育研究センター 矢野 裕俊

●科目の主題と目標

教育を人がよりよく生きるための支援の体系としてみるならば、教育が関わるのは、人間の誕生から死に至るまでの一生だということになる。人間は生物学的な「ヒト」として成長、発達を規定されると同時に、社会の中で「人」として生きていく上では、それぞれの発達段階で達成しなければならない課題、通っていかねばならない道筋がある。教育はそうした課題の遂行に関わって、特定の人間関係を媒介として家庭をはじめ学校、地域社会、職場などで展開される、学習のために場を用意し、それにある種の方向付けを与える全体的な営みである。したがって、この科目で取り扱う教育は学校教育に限られない。

この科目では人と人との関係の中で人が学び育つという側面とともに、日常的な組織的教育活動とは異なるさまざまなライフイベント（入学、就職、病い、死別など）がもつ教育力にも注目し、現代社会における青年期から成人期への移行の問題と成人した人々の学びがもつ意味について、教育の文脈にそくして多角的に考え、それを毎回の授業のテーマに關したレポートとしてまとめると同時に、ライフサイクルと教育の関係およびそこで問題となる主要概念についての基礎的理解を得ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1. オリエンテーション（授業のねらい、内容の解説と進め方、評価の説明）
2. ライフサイクルとは何か 人生をとらえる方法の意義とその限界
3. 「自分」の「今」について考える（1）あなたは大人か子どもか
4. 「自分」の「今」について考える（2）大人になることのむずかしさ
5. 「自分」の「今」について考える（3）「大人—子ども」概念を再考する

6. 「自分」の「今」について考える（4）アイデンティティとは何か、「自分」とは何か、イニシエーション
7. 労働とライフサイクル（1）現代社会の労働と生活
8. 労働とライフサイクル（2）自分にとっての「適職」はあるか
9. 病気、死とライフサイクル
10. ライフサイクルと学び さまざまな学びのかたち
11. 学ぶことの意味について考える（1）知識・スキル・社会的規範の習得
12. 学ぶことの意味について考える（2）学びによる自己実現
13. 学ぶことの意味について考える（3）学びと社会的排除
14. まとめ

●評価方法

評価は、授業への出席のうえ、1) 毎回のふりかえりレポート（60%） 2) レポート（40%） 2 項目について評定し、その総合により行う。

●受講生へのコメント

「ふりかえりレポート」を書くなどにより、自ら考えることとそれを表現し、他の受講生の考えから学ぶなど、授業への積極的な参加が求められる。

●教材

教科書は使用せず、資料（教材）を配布する。参考書として以下の5つを挙げておく。それ以外は授業時に適宜紹介する。

- ・ レビンソン『ライフサイクルの心理学』（上・下）、講談社、1992.
- ・ 河合隼雄『大人になることのむずかしさ—青年期の問題—』岩波書店、1996.
- ・ V・ヘネップ『通過儀礼』思索社、1977.
- ・ E. H. エリクソン『自我同一性』誠信書房、1973.
- ・ 佐藤忠男『大人になるということ』岩波書店、1998

現代社会と健康

Today's Health Science

(前期① 火・1 全)	2 単位
(前期① 木・2 全)	2 単位
(後期① 火・1 全)	2 単位
(後期① 木・2 全)	2 単位
(前期② 水・1 全)	2 単位

医学研究科 運動生体医学

藤本繁夫 (1 部前・後期 火 1 を担当)

吉川貴仁 (1 部前・後期 木 2 および 2 部前期水 1 を担当)

●科目の主題と目標

文明の進歩に伴い現代社会は細分化し、我々の生活は便利にかつ快適になってきた。その反面、社会機構や人間関係はより複雑になり、健康を損ねる条件は時代と共に変わりつつある。公害や産業廃棄物などによる環境汚染、生活の便利さとは表裏の運動不足の習慣、アンバランスな食生活、複雑な社会生活や人間関係によるストレス病など種々の健康を阻害する要因が溢れている。

一方では、社会の高齢化が進み、日本人の健康寿命は延長しているが、生活習慣病や癌などの病気はかえって増加の傾向を示し、メタボリック症候群や種々のアレルギー疾患の増加、エイズや新型インフルエンザに代表されるような新しい感染症が出現し、健康的な日常生活はむしろ脅かされるようになってきている。

“現代社会と健康”は、自身の健康をキー・ワードにして、健康維持・増進のための情報を提供し、積極的な健康づくりについて講義する科目である。医学と健康の領域では、疾患の治療・予防にとどまらず健康を維持し、生活における“Quality of Life”を優先した研究が進んでいる。健康は自身で守るべきものであるが、そのためには正しい医学知識の理解に基づいて実践する必要がある。新しい時代に即した健康と医学の情報は、現代人が充実した、生きがいのある社会生活をおくる上で必要不可欠な情報といえる。

“現代社会と健康”は、以下の教育内容について健康の最新情報を系統的に講述してゆく。講義の担当者が、臨床経験と教育経験を積んだ第一線の臨床医であることもこの科目の特徴である。特に大学生の時期に、また社会人になってからも活用できるように実践的な教育と指導を行なうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

- 1, 総論 (健康とは、病気とは、病気の傾向とその動態)

- 2, 現代社会の健康を害する因子 (公害, 環境, 社会生活他)
- 3, 健康生理学 (運動に必要な心・肺・筋・代謝の機能)
- 4, 運動と健康 (健康維持のための運動, 運動効果とスポーツ障害)
- 5, 食生活と健康 (スポーツ栄養学, 食生活と肥満, 食中毒)
- 6, 生活環境と健康 (麻薬, 酒, タバコ, 嗜好品)
- 7, 現代社会と性 (エイズ, 性病とその予防, 避妊法)
- 8, 現代社会と精神衛生 (ストレスと心身症, 神経症)
- 9, 病気とその予防
 - ① 癌
 - ② メタボリック症候群 (肥満, 高血圧, 糖尿病など)
 - ③ アレルギー疾患 (気管支喘息, 鼻炎, 湿疹など)
 - ④ 感染症 (伝染病, 結核, インフルエンザなど)
 - ⑤ 血管障害 (心筋梗塞, 狭心症, 脳卒中など)
- 10, 一般に必要な救急処置 (AED など), 健康政策

●評価方法

期末試験の成績に平常の受講状況 (出席率) を加え評価する。

●受講生へのコメント

自らの健康に関心があり、健康の維持・増進方法と病気の予防に興味のある学生の受講を希望します。心身の成長が一段落したこの時期に、自分の一生涯を見すえた“自分の健康”について考えてみよう。(生涯の健康維持に、また病気の予防に興味のある学生の受講を期待しています)

●教 材

- 1, スポーツ医学 (やさしいスチューデントトレーナーシリーズ) 嵯峨野書院
- 2, (病気に関しては、最新の情報をスライド、プリントで講義する)

家族と社会

Family and Modern Society

(前期 金・5 全)

2 単位

松田 いらあ

●科目の主題と目標

高度経済成長期に確立された日本の近代家族モデルは、バブル崩壊から今世紀にかけて、大きな変化を経験してきた。

この講義においてはまず、家族社会学の考え方および

日本型近代家族の過去・現在・未来についての先行研究を紹介する。その際ジェンダーへの視点を導入する。

つぎに、現代日本社会における家族をめぐる諸現象を、とりわけ家族の個人化のはらむ両義性という観点から解説する。そこでの焦点は、近代家族が空洞化する一方、

かつて家族が担っていると考えられてきた親密関係が多様な形で模索されている現状の理解することである。

●授業内容・授業計画

1. 家族とは何か
2. 前近代家族
3. 近代家族
4. 日本の近代家族（1）—過去
5. 日本の近代家族（2）—現在
6. 日本の近代家族（3）—未来
7. 映像にみる家族—前半の授業のまとめ
8. 家族と格差
9. 家族の個人化
10. 家族と消費
11. 家族とジェンダー

12. 家族と性愛関係
13. 家族というひとつの共同性のゆくえ
14. 家族について学ぶ困難—後半の授業のまとめ
15. 試験

●評価方法

期末試験（100点）のみで評価を行う。

●受講生へのコメント

家族とは、私たちの存在そのものと良くも悪くも不可分の関係にあるため、学問の対象とすることが難しい。この授業を、家族について考え、語ることの困難を理解する第一歩にしてほしい。

●教材

教科書：使用しない。

参考書：授業中、適宜指示する。

現代社会におけるキャリアデザイン（後期 火・3 全）

2単位

Career Design in Modern Society

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

「就職」で人生の大半が決まるという従来の日本人の典型的な職業観・働き方・生き方モデルが急激に変化・多様化している。それに伴い、多様な選択肢から、我々1人1人が、自らの生き方・働き方を選び取っていく必要性にも迫られている。一生をかけて自分のキャリアを主体的にデザインしていくことが必要となってきている。

このような主体的キャリアデザインには、「自ら問題を設定し、自ら考え、自ら解決・行動すること」が一層重要となる。また、そのためには、「情報や知識を複数の視点から注意深く、かつ論理的に分析する」姿勢と能力が必要であり、それとともに、他者の意見や情報を鵜呑みにするのではなく、自分の思いこみも点検しながら、自らの意見をまとめ表現していける力を身につけることが必要となる。こうした力を「クリティカル・シンキング」と呼ぶが、なかでも本科目では、キャリアをめぐる現代の社会変化を題材に、他者の意見や情報、自らの思いこみ等を分析・点検しながら、多角的に考え、自分の意見にまとめ・表現していく力の修得を目指す。

本科目は、就職支援・対策のための科目ではなく、教養教育の一環としてのキャリアデザインを考えるものである。キャリアや職場をめぐる現代の社会変化の状況について学び、その中における、個人の生涯を通じてのキャリアデザインのあり方や可能性について、受講生が自らの問題として考えること、そして最終的には現在の自分を相対化できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業は具体的には、以下の内容に沿って進める。

- 1 回目：ガイダンス・イントロダクション・キャリアデザインとは？
- 2 回目：なぜ今キャリアデザイン？

—大学へ行くことの意味の変化

3 回目～14 回目の授業の中では、以下の 1.～3. の側面についてそれぞれ 2～3 回分の授業を使って扱い、以下の 4. の側面については 4 回分の授業を使って考えていく予定である。

1. 現代社会における職場・仕事をめぐる動向
2. キャリア選択の多様性と現代の若年労働者の状況
3. 必要とされる能力・スキルとは？
4. 自らのキャリアデザインについて考える（自己イメージと他者から見た自分像・これからの自らのキャリアと現在の自分、現代社会におけるキャリアデザインとは 等）

前半は講義を中心に、毎回の小レポート課題に書かれた意見のフィードバックを行いつつ進め、中盤～後半は、課外課題・レポート等にもとづく発表やグループワーク、授業内ディスカッションなど参加型の授業を行う予定。

●評価方法

1) 毎時間提出の小レポートと授業参加度 55 点、および 2) 期末レポート等課外課題（複数の課外課題を予定）とその発表等 45 点の総合評価とする。

ただしこれに加えて、全体回数の 3 分の 2 以上の出席が最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

本授業では、各テーマの現状・動向を、ただ知識として吸収するだけでなく、毎回、自らの問題として向き合い・考えていくことを求める。そのため、毎時間の授業内レポートや課外課題等で自らの意見を根拠とともに論理的に表明してほしい。それらを出来る限り授業でフィードバックしながら進めたいと考えている。

また、全学共通教育科目であり、異なる学部学科の異なる考え方や観点を持つ多様な受講生のなかで、互いの意見を分かりやすく伝え合い、意見交換を行い、自分の考え方を相対化する経験を得る機会として欲しい。そのため、授業内の発表やグループワーク等にも積極的に参加してほしい。

現代社会と大学

University and Modern Society

(前期 木・4 全)

2単位

大学教育研究センター

飯吉 弘子

●科目の主題と目標

同世代の2人に1人が大学や短大に進学する時代を迎えた日本の大学は、広く大衆や世界に開かれた場となり、かつてないほど多くの役割を社会から期待されている。大学に関する論議も頻繁に行われ、大学は存在意義・あり方を社会から問われている。

「大学」とはそもそもどのような場か？自分が通っている「自分の大学」はどういうところなのか？当たり前のように今通っている大学はどうやって出来たのか？考えてみたことはあるだろうか。

今ある「大学」はどのように出来たのか。大学が現在抱える諸問題はどのようなもので、何故生じたのか。また、大学および学生に対する社会からの現在の評価はいつ頃生まれたのか。授業ではこれらの点について、現在の問題を起点としつつ、歴史の側面からも考えることを通して、今後の大学のあり方を考えることを目指す。

「大学」というテーマは、学生にとって、学部を超えた共通の身近なテーマであるとともに、自らの足もとから社会や世界に広がるテーマでもある。本授業を通して、自分の大学の色(特色)を実感し、そこから広がる現代社会を考えつつ、学生としての自分を相対化して捉えてみてほしい。

本授業で大学について考えることを通し、自らの足もとを改めて確認し、大阪市大での自らの学びのあり方・学生としての関わり方について考えることを最終目標とする。

●授業内容・授業計画

以下の5つの内、1.と2.の側面を中心に、見ていくこととする。

1. 今ある大学はどのようにできたのか？
～大学「制度」成立過程
2. 今の学生・昔の学生～大学で学ぶ「学生」の変化
3. 大学とはどういう存在なのか？
～「社会との関係」の変遷
4. 大学で学ぶということ？
～「教育機能」と教養教育
5. これからの大学はどうなっていくのか？
～法人化・大学評価・学士課程教育

最終的には、社会における自らの今後の人生・キャリア・働くということについて考えることを通して、現在の自己を相対化し把握する契機として欲しい。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

授業計画としては、初回授業はガイダンスを行い、2～6回目授業で1.の側面について扱い、その後、7～10回目で2.と3.について、11～14回目で4.と5.について考えていく予定である。

なお、それぞれのテーマを扱う際には、現在の状況と同時にその背景についても考え、また、日本の大学全体の問題と同時に、自分がその中で学んでいる大阪市立大学という長い歴史を持つ1公立大学のケースについても考える。日本の大学全体の中に大阪市大はどのように位置づけられるのだろうか。「大阪市大らしさ」とは何か、についても考えていく。

●評価方法

評価割合は1)毎時間提出のレポート課題と授業参加が60%、2)期末レポートが40%とする。

ただしこれに加えて、全体の3分の2以上の出席回数が、最低限求められる。これは、本授業が、単なる知識伝達型授業ではなく、授業における思考や論理的意見表明、各種活動への積極参加など思考・学習プロセスやその成果を重視する授業だからである。

●受講生へのコメント

この授業は、講義をただ聴き知識を吸収するのではなく、大学に関するテーマについて自らの問題として考えることを通して、「学生」としての自らの立場や、「大学で学ぶ」ということの意味を考えることを目標としている。そのため毎回の小レポートや授業内発表等で、大学に関する問題への自らの意見を積極的に表明することを求める。それら意見を出来る限り授業内でフィードバックしつつ授業を進めていく。

また、現在の大学をめぐる動向・大学や学生への社会の眼差しを実感するために、毎回、大学に関する記事・ニュース等を探すことを課外課題として課し、その要約と意見を毎回の小レポートに記入することも求める。

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。サブテキストとして『大阪市立大学の125年』を使用する。

現代の経営 演習

Seminar on Firms and its Management

(後期 月・4 全)

2 単位

経営学研究科 翟 林瑜

●科目の主題と目標

企業は、われわれに、消費する財、働く場と投資する場を提供する欠かせない存在である。他方、企業は、詐欺的な株式上場や不正会計などでときどき不祥事を起こす。企業は経営に関する意思決定を正しく行うためにどうすればよいか、法制度は経営者の行動をよい方向に導くためにどうすればよいか、株式投資家はどのような企業に投資すればよいか、をみなさんと一緒に考える。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス
- 2～5. 意思決定と経営
- 6～10. 情報の非対称性と企業行動

11～14. 株式投資家の投資行動

●評価方法

取り組みの積極度(発言の頻度など)、チームワークへの貢献度、出席状況とレポートなどで総合的に評価する。

●受講者へのコメント

演習科目なので、受講生は最大 20 名とする。演習においては、いくつかのチームに分けて、討議を行う。企業を見る目を養うために、同時並行的に株式模擬投資を行い、投資の成果を競い合う。

●教材

随時資料を配布する。

現代社会と大学 演習

Seminar: University and Modern Society

(後期 木・3 全)

2 単位

大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

本授業では、現代の大学が抱える多様な問題を共通題材として調べ考え発表・ディスカッションすることによって、「大学」や「自分自身が大学で学ぶ意味」をより客観的に捉えなおしたり、考察したりすることを目指す。現代社会において大学が抱える諸問題や大学と学生の位置づけのあり方等さまざまなテーマについて、自分で調べ、考え、その成果を発表し、学年・学部学科を超えたメンバーでのディスカッションを行う中で、自らテーマを設定し、自分の意見をまとめ、互いに伝えあい話し合う経験をする。その経験を通して、自ら課題を発見し解決策を考える力や多角的に物事を捉える力・相互の考えを深めるコミュニケーションを行う力の基礎の修得を目指す、受講生参加型の演習授業である。

このように大学という存在のあり方について考え、大学の一部である「学生」という立場で内側から見る「大学」と、外側から見られている「大学」像・「学生」像を比較し実感することを通して、最終的には、今後の大学自体のあり方とともに「自らの学びや学生としてのあり方」を考え、自己の相対化・客観化を行うことを目指す。

●授業内容・授業計画

本授業では、大学に関する以下の 6 テーマ(他に興味のあるテーマがあれば応相談)の中から、各自 or グループの調査希望に沿って選んだ 4～5 つのテーマに関して進める。

- 【テーマ】
1. 大学の大众化と学生の学力の問題
 2. 社会から求められる能力・スキル
 3. 出口としての大学・大学院
 4. 大学の入り口と初年次教育
 5. 21 世紀に求められる教育内容

6. グローバル化と大学

授業は以下のとおり進める予定。

- 1 回目授業：ガイダンス・メンバー紹介・希望テーマ調査
- 2～3 回目：調査テーマ決定・調査方法の検討・グループ分け等必要に応じて資料検索・収集と調査のまとめ方指導
- 4～14 回目：上記 4～5 テーマについて、テーマ毎に授業 2～3 回分を 1 サイクル(発表と補足講義+ディスカッション)として授業を進める。

●評価方法

1)授業内提出課題、2)テーマについての調査報告発表の相互評価、3)それをもとにまとめた最終レポート、4)ディスカッションへの参加度合い、5)授業活動全体への参加度合いをそれぞれ 20%ずつ総合評価する。(20 点×5 項目=100 点)

なお、授業内の活動参加を重視する科目のため、全体の 3 分の 2 以上の出席回数最低限求められる。

●受講者へのコメント

本演習では、自らの発表担当回に限らず、授業内外での多くの自律学習と、授業内の活動への積極的な参加が求められるが、それらに真剣に取り組むことで、課題設定・探求力、思考力、自律的学習力・コミュニケーション力等の基本が身につくと考える。投げ出さずに最後までがんばって取り組んでほしい。

参加型の演習授業のため、受講生を 15 名程度に制限する

●教材

教科書は使用しない。随時授業時間中に紹介・配布する。

現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(後期 金・2 全)

2 単位

特 任 上杉 聰

●科目の主題と目標

部落差別は、なぜ今、どんな形で残っているのか。どうすれば撤廃できるのか。こうした問題を解き明かすために、本講義では、明治維新から現代までの部落の歴史を取り上げる。歴史を解明することで、問題がより具体的に分析・把握できる。その結果として、部落差別の撤廃にむけた展望や政策についても検討する。さらに、学生同士のグループ討論を行い、市大近くにある被差別部落の方からも、そこにおける歴史と解放運動のお話をうかがう機会を作りたい。

部落差別を必要としてきたこの社会を、歴史と現実を踏まえ、改めて根底から見直し、差別を克服したいと願う学生諸君と共に考える授業にしていきたい。

なお、この講義内容を深く理解し、一緒に考えるためには、前期の「部落差別の成立と展開」を取っておくことを希望する。

●授業内容・授業計画

- 第1回 部落差別は今、どんな形であるのか
- 第2回 グループ討論
- 第3回 なぜ部落差別は今まで残ったのか
- 第4回 「解放令」と「四民平等」という錯覚
- 第5回 部落解放反対騒擾の悲劇はなぜ起こったか
- 第6回 旧「非人」部落の分解と近代社会
- 第7回 旧「穢多」部落の経済的変化と資本主義

- 第8回 キリスト教と自由民権運動
- 第9回 明治憲法体制と法体系における差別
- 第10回 部落の改善と水平社運動
- 第11回 日本国憲法の制定と部落問題
- 第12回 戦後の部落改善と解決の未来へ
- 第13回 浅香部落の解放運動
- 第14回 グループ討論（テーマと進行は学生諸君が決めて実施する）

●評価方法

期末の試験と出席により評価を行う。

●受講者へのコメント

今も根強く部落差別が残っていることに疑問を持つ諸君は多いと思う。そのため、まず現在起こっている差別から紹介し、それを歴史的にたどることで、明治初年以来の近代社会に差別が残されてきた仕組みを解明する。そこには、おそらく多くの学生諸君にとって予想外の知識が待っているはずだ。近代の歴史をたどれば、同時に差別を撤廃する方法をさぐることができる。

部落差別を最終的に克服する課題は、学生諸君の世代に委ねられている。その重大な課題について真剣に考えてみたいと思う諸君の受講を期待する。

●教科書（毎回使用するので必ず入手のこと）

上杉 聰『これでなっとく！部落の歴史』（2010年、解放出版社）

現代の部落問題

Buraku Issues in Modern Japanese Society

(前期② 金・1 全)

2 単位

非常勤 内田 龍史、中村 清二、
谷元 昭信、齋藤 直子

●科目の主題と目標

部落問題は、日本の歴史と文化に根ざした深刻な社会問題の一つである。この問題を解決するため、1969年から「同和対策事業」の法的措置が講じられてきた。その法律は2002年3月で終了したが、同和対策事業だけでは解決できない差別の問題が依然として多く残されている。

この講義では、現代の日本社会における部落問題とは何かを知り深く考えるとともに、現在その解決のために運動体、NGO/NPO、学校、企業などがどのような活動を行っているのかを知り、今後の課題を考える。

科目の目標としては、部落問題について正しい知識を身につけるとどまらず、部落問題に関する自分なりの意見を持ち、それを表現する力を育て、ひいては様々な問題を解決することのできるスキル（能力）を身につけることにある。真剣な参加を期待したい。

●授業内容・授業計画

内田龍史（部落解放・人権研究所企画・研究部員）が部落問題についての基礎的な知識と理論の紹介を担当

し、中村清二（部落解放・人権研究所研究部長）と谷元昭信（ヒューマンライツ教育財団理事）が部落問題解決の実践的課題について担当し、齋藤直子が結婚差別について講義する。授業計画は次の通りである。

- 内田龍史 4月9日～4月30日
 - ①部落問題の基礎知識
 - ②現代の部落問題の諸相（1）
 - ③部落解放への取り組み
 - ④現代の部落問題の諸相（2）
- 中村清二 5月14日～6月4日
 - ①今日の部落の実態と課題
 - ②部落出身者のアイデンティティと生き方
 - ③学校発・人権の街づくり - 教育コミュニティ -
 - ④グローバル化時代の企業と人権
- 谷元昭信 6月11日～7月2日
 - ①部落問題認識をめぐる諸問題
 - ②部落解放運動の史的展開と今日的課題
 - ③人権の法制度確立への現状と展望

④人権のまちづくり運動の展開と現状

齋藤直子 7月9日～7月16日

- ①結婚差別を考える（その1）…日本における結婚の現状と結婚差別
- ②結婚差別を考える（その2）…ワークショップ

●評価方法

毎回提出してもらおうコミュニケーションカード、小レポート、ワークショップへの参加などによって総合的に評価する。授業時に小レポートを課題として指示することもあるので注意すること。

●受講生へのコメント

【内田龍史】今から10数年前、大阪市立大学に入学し、私自身も大学の講義を通じて本格的に部落問題と出会い、向きあうことになりました。部落問題を学ぶことを通じて、現代社会におけるさまざまなマイノリティとの共生を展望する、そのキッカケとなるような講義を展開したいと思います。

【中村清二】部落問題との出会いを大切にしていくことを望みます。それは差別への認識を深めていくことだけではなく、自ら自身のアイデンティティ、人間性を豊かにしていくことだと思います。そのお手伝いをするのが授業です。幸いにして情報（文献）はたくさんありま

すので、皆さんからの積極的なアプローチを求めます。

【谷元昭信】部落解放運動は、2006年に社会的に指弾される不祥事を引き起こしました。その背景分析などを踏まえながら、現在の部落問題の認識の方法論や運動的・行政的・市民的課題を実践現場からえぐり出し、今後の課題をみなさんと率直に意見交換したいと思っています。そのことを通じて、人と人との豊かな関係づくり、人と社会との公正な関係づくりのために、一人ひとりの生き方に何が求められているのかを模索していきたいと思えます。

【齋藤直子】私の担当する2回の授業では、結婚差別について考えていきます。部落出身者に対する結婚差別について考察することを通じて、結婚制度のあり方そのもの、あるいは受講者みなさん自身の結婚のあり方について考えを深められるような授業をしていきたいと思えます。1回目の授業は講義形式ですが、2回目の授業は受講生のみなさんに結婚や結婚差別について討論してもらいます。討論を通じて、部落問題や結婚差別について、より深く理解してもらうことが目的です。

●教材

『講義レジュメと資料』を授業開始時に配布する。その他、参考文献については、授業の時に紹介する。

都市社会と差別

Discrimination in Urban Society

（前期 金・1 全）

2単位

非常勤

中川 健一

●科目の主題と目標

講師は40年近く通信社に勤務してきたジャーナリストで、研究や教育の専門家ではない。そのため講義では、講師がこれまで取材してきた具体例を挙げながら、「都市社会と差別」の実態や原因、そして差別克服に向けた道筋を、受講生の皆さんと考えていきたい。

まず「差別と偏見とは何か？」という総論から入り、部落差別、女性差別、障がい者差別、民族差別などの概況や背景を学んでもらう。さらに「格差社会と雇用」「報道と人権」などのテーマや、差別社会を共生社会へと創り変える展望について講義する。

全体を通じ、受講生が差別問題を知識として学ぶだけでなく、「共に生きる社会」実現に向け、将来さまざまな専門分野で行動していくための「入門編」といった内容である。

●授業内容・授業計画

講義は以下のようなテーマを中心に考える

- ①はじめに
- ②差別とは何か？
- ③偏見とは何か？
- ④差別意識の現状
- ⑤部落差別
- ⑥女性差別

⑦グループ討論

⑧障がい者差別

⑨民族差別

⑩その他の差別（上）

⑪その他の差別（下）

⑫「格差社会」など労働問題と差別

⑬報道と人権

⑭共生社会創造の展望

⑮まとめ

●評価方法

出席状況、コミュニケーションカードの内容、レポートなどで評価する。

●受講生へのコメント

講師が教えるだけの一方通行ではなく、受講生から疑問や意見をどんどん出してもらい、自由闊達（かつたつ）に議論し合う「双方向」の授業にしたい。ビデオなども活用する。

学生の「活字離れ」「新聞離れ」が深刻だが、新聞購読は知的生活の基本だ。講義では、新聞をはじめ「情報をクリティカルに読む習慣」を養うため、その時々ニュースについても解説したい。

●教材

講義の際に指示する。

部落解放のフロンティア

Frontiers of Buraku Liberation

(後期 金・1 全)

2 単位

特 任 上杉 聰
非常勤 友永 健三、大賀 正行

●科目の主題と目標

部落問題は日本の歴史と文化に根ざす深刻な社会問題の一つである。この問題をどう理解するか重要だが、理解することと問題を解決することはまた次元が異なっている。この講義の主題は、「いかにして部落問題を解決するか」ということであり、部落問題の解決（部落解放）のために最先端（フロンティア）で取り組んでいるお二人の講師を中心に、その実践について客観的かつ理論的に分析してもらい、これからの実践的課題についても考察する。当然のことながら、部落解放のフロンティアの一つではない。受講者には、あなた自身のフロンティアを見いだすことを目標としてもらう。

この講義は部落問題について知らない人を排除するものではないが、問題解決という実践的課題に焦点を絞るため、すでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育を受けていない人には、前期に『部落差別の成立と展開』や『都市社会と差別』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

●授業内容・授業計画

この講義は、部落解放の最前線で活躍する講師を招き、今のような問題意識にあり、何が課題とされ、どのように取り組まれているのかを聞き、自らの課題としてどのように受けとめるのかを考える。人権問題研究センターの上杉聰が全体をコーディネートする。前半の6回は部落解放・人権研究所理事であり反差別国際運動（IMDAR）事務局次長である友永健三先生が講義を行う。後半4回を、「第三期の部落解放運動」を提唱し、解放運動に大きな影響を与えた大賀正行先生（部落解放・人権研究所名誉理事）が講義する。そして、市大に隣接する浅香部落で進められてきた解放運動について、それを担ってきた方から聞く機会も持つ。その間にグループ討論を行い、講義で学んだ内容を受講生同士が議論することで、より深める。最後に、上杉がまとめを兼ねて講義を行う。

授業計画は次の通りである。

- 第1回目：＜上杉担当＞○部落差別の現在（いま）
- 第2回目：＜友永担当＞○部落問題をどうとらえるか
- 第3回目：＜友永担当＞○今、改めて部落地名総鑑差別事件を問う
- 第4回目：＜友永担当＞○部落解放・人権施策の確立を求めて
- 第5回目：＜友永担当＞○世界人権宣言と国際人権規約
- 第6回目：＜友永担当＞○人種差別撤廃条約の締結の意義と課題

第7回目：＜友永担当＞○同和教育の成果を踏まえ人権教育の創造を

第8回目：＜上杉担当＞○グループ討論

第9回目：＜大賀担当＞○第3期の新しい部落解放運動を考える（1）第3期とは—運動史の概括と大賀の生い立ち

第10回目：＜大賀担当＞○第3期の新しい部落解放運動を考える（2）第2期の時代と大賀の実践

第11回目：＜大賀担当＞○第3期の新しい部落解放運動を考える（3）部落解放理論の発展と実践

第12回目：＜大賀担当＞○第3期の新しい部落解放運動を考える（4）岐路に立つ部落解放運動と新しい実践

第13回目：＜外部講師＞○浅香部落の解放運動から

第14回目：＜上杉担当＞○部落解放の戦略と可能性(1)

第15回目：＜上杉担当＞○部落解放の戦略と可能性(2)
(振り替え授業等により、若干の日程の変更が生じる場合もある。)

●評価方法

出席状況と、毎回提出してもらうコミュニケーションカードの内容、グループ討論への参加度によって総合的に評価する。コミュニケーションカードの内容については、それぞれの担当者が評価する。

●受講生へのコメント

今日、新自由主義的な経済政策が破綻し、世界的にも国内的にも不況の深刻化とともに失業者が増大し、差別が深刻化してきています。このような時代の転換期にあたって部落差別の撤廃をはじめ一切の差別を撤廃し、人権文化を世界的に築き上げることは決定的に重要です。そのため何かできるかを共に考えて行きたいと思っています。(友永)

部落問題とは、単に部落の人々のきのどくな問題ではない。日本の近代化、戦後民主主義、日本社会のあり方、さらには各自の人生観や生きざまに関わる重要な社会問題です。したがって、部落解放運動は、外国人問題、障害者問題はじめ他のすべての人権問題と関わり、先進的な影響を与えてきました。また学校、大学、行政、企業、宗教など広範に人権啓発の取組みを触発し、人権社会の実現に大きく貢献してきました。こうしたことを部落解放運動の歴史や理論その実践を通して学んでいただきたいと願っています。(大賀)

●教 材

『2010年度 部落解放のフロンティア---講義レジュメと資料』を、第1回目に配布する。

参考図書などについては、『講義レジュメと資料』を参照。

部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(前期 金・1 全)

2 単位

(前期 金・2 全)

特任 上杉 聰

●科目の主題と目標

被差別部落とそれを生みだした社会の歴史について、もうすでに小、中、高の段階で、ある程度学んだと思う。「土農工商穢多非人」のピラミッド図式や、部落の始まりは江戸時代の初期にあるなど、聞き飽きた人がいるかもしれない。

だが、部落の歴史研究の進展は、とくにこの30年間めまぐるしく、その固定観念をゆさぶられる段階に到達している。本講義では、そうした最先端の研究成果をもとに、部落差別とは何か、そしてその始まりと歴史について、平易に、しかし本格的に検討してみたい。

どんな物事においてもそうだが、歴史を知ることは、現状を知り、将来の展望を導き出すために不可欠だ。大学に学んでいるこの機会に、部落問題を一度根底から考えてみたい、また本格的に取り組んでみたいと考える諸君に、是非とも歴史から深く学ぶ方法を知ってもらいたいと考えている。

●授業内容・授業計画

- 第1回 なぜ部落の歴史を勉強するか
- 第2回 「土農工商穢多・非人」のまちがい
- 第3回 「社会外」という部落のあり方
- 第4回 「部落は江戸時代に作られた」のまちがい
- 第5回 中世の部落の姿
- 第6回 討論（テーマを学生が決め運営する）
- 第7回 宗教と部落差別

- 第8回 戦国時代に何が起こったか
- 第9回 江戸時代に差別制度が深刻化
- 第10回 差別のゆるみと強制
- 第11回 賤民制度が廃止される
- 第12回 浅香部落と大阪市立大学
- 第13回 討論（テーマを学生が決め運営する）
- 第14回 総括授業

●評価方法

期末試験と出席で評価する。

●受講生へのコメント

真実は人を自由にする。厳しく理不尽な差別の歴史だが、それを根底から考え直すとき、私たちの精神は自由となり、解放される。部落の歴史を知ることは楽しいことだ。もし、お説教やドグマを求めて講義を受けに来る人がいれば、その人をガッカリさせてあげたいし、大学らしい知性溢れる授業にしよう努力したい。

●教材

教科書（毎回授業で使用するので必ず入手のこと）

上杉 聰『これでわかった！部落の歴史』（解放出版社）

参考書

上杉 聰『天皇制と部落差別』（解放出版社）

同 上『部落史がかわる』（三一書房）

同 上『よみがえる部落史』（社会思想社）

部落差別の成立と展開

History of Discrimination against Buraku

(後期② 金・1 全)

2 単位

非常勤 辻本 正教

●科目の主題と目標

1970年代以降活発化してきた部落史論は、膨大な地域史料の発掘とともに、これまでとまったく違った様相を呈してきている。中でも、近世大和における旧穢多村とそれ以外の「一般村」との間における土地所有実態等の解明から、これまでの部落史観がその根本から崩されようとしていることの意義は大きい。被差別部落はその成立からして悲惨であり貧困であったとする従来の歴史観が打ち破られたのである。近世大和における多くの旧穢多村は他に比して遜色なく土地を所有し、経済活動もまた他に比してより活況を呈していたことが公然化されたのである。逆に、部落の貧困化は明治期以降、とりわけ松方デフレ以降に現出したものであったということが明らかとなってきたわけであるが、そんな中、では一体、部落差別とは何であり、何によって形作られたものであったのかという点の解明が、従来に増して必要とされ

るようになってきたのである。そこでこの講義は、部落解放にむけた展望とも重ね合わせながら、従来の部落史観の転換を図っていくものとする。

●授業内容・授業計画

従来の部落史論の多くは、部落の成立が近世にあるものとし、穢多身分は近世幕藩勢力によって創出されたとする立場をとりつづけてきた。ところが、一般の歴史学界ではすでに、そのような考え方が一笑に付されている現実にあるのである。では何故そのような部落史が今なお通用しているかという、圧倒的多くの歴史学者が今なお部落問題をタブーとし、彼と彼女らがもっているはずの本音をいまだに語ろうとしないという理由が一つ。

さらには、部落史に手を染められている学者・研究者の中に、現実の部落解放運動に対する意識・無意識を問わない遠慮や配慮があったからだと言える。

本講では上記のような二側面からする制約をとっばら

いつつ、自由な立場で部落史を、いや日本史の一断面を切りとってみたい。その意味で本講では部落の成立を中世とみるいわゆる中世起源説をとり、古代をその前史、近世をその爛熟期ととらえて論を進めていく。また、近代にあっては融和運動の歴史、ならびにそれと密接不可分にかかわるものとしての全国水平社の歴史をこれまでにはない視点で明らかにしてゆく。

方法論としては、従来の文献史学に見える社会経済史的観点の限界性や、民俗学的手法の限界性を超えるべく、精神史とでも言うべき方法をとる。より具体的には、我

が国の古代・中世、果ては近世に至るまでの社会を席卷した道教や陰陽五行説、ないし易学などをも駆使しながら、そこに神道や密教の歴史や教理内容にも触れていく形で展開していきたい。

講義時間の割り振りは、総論1、古代2、中世3、近世2、近代2、グループ討論2、まとめ1を予定している。

●評価方法

レポートと出席率（三分の二程度の出席を期待する。）

●受講生へのコメント

レジメを基にするが、適宜、参考書を紹介する。

障害者与人権 I

Human Rights of People with Disabilities I

(前期① 金・2 全) 2単位

(前期② 金・2 全) 2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

「障害者与人権」の講義は、1973年に当時の教養部で起きた障害者差別につながる発言を契機にして、全学的な問題解決の必要性からもうけられた講義である。この講義には講師として障害のある本人も参加している。

障害者はこれまで長い間偏見と差別の中で、一人の人間として生きていく権利を奪われてきた。現在でも健常者中心の価値観の中で、社会生活はきびしい状況に置かれている。

この講義では、このような社会のあり方を具体的な問題を考察することを通して問い直していく。受講生は自分の問題として考えて欲しい。

●授業内容

- ①オリエンテーションと障害者の自分史（堀、南部障害者解放センター）
- ②障害者問題入門1（牧口一二、堀）
- ③障害者問題入門2（牧口、堀）
- ④障害者問題入門3（牧口、堀）
- ⑤障害者問題入門4（牧口、堀）
- ⑥障害者の就労1（酒井京子、堀）
- ⑦障害者の就労2（酒井、堀）
- ⑧障害者の就労3（酒井、堀）

- ⑨障害者の就労4（酒井、堀）
- ⑩障害者の自立生活1（南部障害者解放センター、堀）
- ⑪障害者の自立生活2（南部障害者解放センター、堀）
- ⑫障害者と芸術（金満里、堀）
- ⑬障害者の教育1（堀）
- ⑭世界の障害者問題の現状（堀）
- ⑮まとめ（堀）

●評価方法

コミュニケーションカードによる出席点（50%）とレポート（50%）により評価する。

●受講生へのコメント

受講生には「障害者与人権I」と「障害者与人権II」の両方を履修してほしい。IとIIでひとまとめの講義と考えている。講義中に積極的に質問を出して欲しい。また意見を述べて欲しい。受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。
参考文献：牧口一二著『ちがうことこそええこっちゃ』（河合出版）
堀 智著『ちがうからこそ豊かに学びあえる』（明治図書）

障害者与人権 II

Human Rights of People with Disabilities II

(後期① 金・2 全) 2単位

(後期② 金・2 全) 2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

「障害者与人権」の講義は、1973年に当時の教養部で起きた障害者差別につながる発言を契機にして、全学的な問題解決の必要性からもうけられた講義である。この講義には講師として障害のある本人も参加している。

障害者はこれまで長い間偏見と差別の中で、一人の人間として生きていく権利を奪われてきた。現在でも健常者中心の価値観の中で、社会生活はきびしい状況に置か

れている。

この講義では、このような社会のあり方を具体的な問題を考察することを通して問い直していく。受講生は自分の問題として考えて欲しい。

●授業内容

- ①オリエンテーションと障害者の自分史（堀、南部障害者解放センター）
- ②障害者と法の下での平等1（松本晶行、（佐藤 修）、

堀)

- ③障害者と法の下での平等2 (松本、(佐藤)、堀)
- ④障害者と法の下での平等3 (松本、(佐藤)、堀)
- ⑤障害者と法の下での平等4 (松本、(佐藤)、堀)
- ⑥精神障害者の人権1 (仲野実、堀)
- ⑦精神障害者の人権2 (仲野、堀)
- ⑧精神障害者の人権3 (仲野、堀)
- ⑨精神障害者の人権4 (仲野、堀)
- ⑩障害者の自立生活3 (南部障害者解放センター、堀)
- ⑪障害者の自立生活4 (南部障害者解放センター、堀)
- ⑫障害者の教育2 (堀)
- ⑬障害者の教育3 (堀)
- ⑭知的障害者問題の人権 (堀)

⑮まとめ (堀)

●評価方法

コミュニケーションカードによる出席点 (50%) とレポート (50%) により評価する。

●受講者へのコメント

受講生には「障害者と人権Ⅰ」と「障害者と人権Ⅱ」の両方を履修してほしい。ⅠとⅡでひとまとめの講義と考えている。講義中に積極的に質問を出して欲しい。また意見を述べて欲しい。受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考文献：仲野実著『「近代」を抜ける』(批評社)

ジェンダーと現代社会Ⅰ

Gender in Modern SocietyⅠ

(前期 金・2 全)

2単位

人権問題研究センター 古久保 さくら 他

[平成20年度以前に「女性学入門編」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。]

●科目の主題と目標

わたし達は社会的存在であり、社会的につくられた文化による刷り込みを日々受けている。社会的文化的刷り込みとしてのジェンダーに自覚的になり、社会のなかで当然と認識し、目にしていながら理解してこなかった問題を見えるもの、語りうるもののできる能力をつけること、これが本講義の主目標である。

本講義では、学生諸氏が慣れ親しんできた学校教育とマスメディアという領域を中心に、個々人の経験にジェンダーがどのように連関しているのかについて、考察したい。

そのことを通じて「個人」として生きることの難しさと大事さを考えてもらいたいと思う。

●授業内容・授業計画

以下の内容を計画しているが、非常勤講師の日程の都合で、若干の変更の可能性はある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～6回 メディアにおけるジェンダー
 - ① CMにみるジェンダー
 - ② アニメーションにみるジェンダー
 - ③ アニメーションを批判的に見てみよう
 - ④ 「従軍慰安婦」問題報道とジェンダー
 - ⑤ ジェンダー視角から報道をみる
- 第7回 グループディスカッション
- 第8回～10回 変容期にあるジェンダー

① 変容期にあるジェンダー：国内の状況

② 変容期にあるジェンダー：国際的な動き

③ 男女共同参画社会化はすすんだか
第11回～14回 教育におけるジェンダー平等をめざして

① 教育におけるジェンダー格差

② 「ジェンダーフリー」教育の現状

③ ワークショップ

④ キャンパスセクシュアルハラスメント

第15回 まとめ 質疑応答

●評価方法

出席点(毎回提出した感想文による)・中間レポート・最終レポートにより評価する。

●受講者へのコメント

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカード(感想文)の提出が義務づけられている。これをまとめて「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

●教材

参考文献は、1回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材としてDVDを利用する。

ジェンダーと現代社会Ⅱ

Gender in Modern Society Ⅱ

(後期 金・2 全)

2 単位

人権問題研究センター 古久保 さくら 他

[平成 20 年度以前に「女性学応用編」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。]

●科目の主題と目標

本講義の主目的は、ジェンダースタディーズという学問で扱う問題領域のうち、セクシュアリティというテーマを中心に引き上げ、それを様々な角度から考察する事を通じて、その問題のもつ複雑さを理解し、関連問題の克服のための方策をともに考えるという姿勢を習得することにある。それは、物事を複眼的に考察するという能力を養う事でもあると考える。

本講義では、メンズ・リブ運動の活動家や、フェミニスト・カウンセラー、弁護士など多様な非常勤講師をむかえ、現状の問題とその解決に向けた具体的方策などを講義いただく予定である。

●授業内容・授業計画

以下の内容を計画しているが、非常勤講師の日程の都合で、若干の変更の可能性はある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 若者の性行動におけるジェンダー
- 第3回 異性愛だけが性愛か？
- 第4回 グループディスカッション
- 第5回 男性性とセクシュアリティ DV という問題
- 第6回 性暴力被害者の心理と援助者の役割
- 第7回 キャンパス・セクシュアル・ハラスメントという問題

- 第8回 ワークショップ：アサーティブ・トレーニング
- 第9回 法律家からみたジェンダー・セクシュアリティ
- 第10回 労働としての性の商品化
- 第11回 ジェンダー視点からみた性の商品化
- 第12回 グループディスカッション
- 第13回 生殖をめぐる商品化
- 第14回 まとめにかえて「自己責任」を考える
- 第15回 質疑応答とレポート提出

●評価方法

出席点(毎回感想文を提出する)・最終レポートにより評価する。

●受講生へのコメント

双方向型授業をめざすため、毎回のコミュニケーションカードの提出が義務づけられている。これをまとめて「ジェンダー・ペーパー」の発行を手伝ってくれる学生を募集している。積極的に関与してくれることを期待している。

また、数度にわたりグループワークが計画されているので、積極的な受講姿勢が求められる。

●教材

参考文献は、1 回目の授業時に一覧表を渡す。それ以外にも随時指示する予定である。何回かの授業では、教材として DVD を利用する。

ジェンダーと現代社会

Gender in Modern Society

(前期② 月・1 全)

2 単位

非常勤 日野 玲子

[平成 21 年度以前に「女性学」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。]

●科目の主題と目標

本科目は「婦人問題講座」「女性学」を受け継ぎながら、女性学・男性学・ジェンダー研究の視点から現代社会を検討することを課題とする。女性学が登場した 1970 年代以降、女性差別撤廃に対する国際的な動きとともに、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法などの法整備が行われてきた。その結果、制度的には女性差別撤廃の取り組みが進められ、現在では「女性優遇」社会だと受け止める学生がいるようだが、現代社会はジェンダー平等な社会となっているのだろうか。大学におけるセクシュアル・ハラスメント、デート DV など、権力関係(暴力)の視点で現代社会をみると、さまざまな課題が浮き彫りになってくる。そうした暴力を生み出す背景には、社会的文化的経済的に現代社会が、性別分離を制度化した社会で成り立っていることが考えられる。社会的に維持され、構造化されているジェンダー秩序を見抜き、ジェンダー平等な関係を考える機会を提供して、受講者が自らの問題として考える場となるよう努めるつもりである。

●授業内容・授業計画

- 第1回 オリエンテーション ジェンダーという考え方
- 第2回 文化の力を知る (1) ——ジェンダー化された身体
- 第3回 文化の力を知る (2)
- 第4回 ジェンダー意識の形成

- 第5回 ジェンダー秩序を考える (1)
- 第6回 ジェンダー秩序を考える (2)
- 第7回 男女共同参画社会基本法について
- 第8回 女性に対する暴力を考える
セクシュアル・ハラスメントをうみだす土壌
- 第9回 家庭内暴力(夫や恋人からの暴力)について
- 第10回 デートDV——暴力防止のために
- 第11回 男性学の課題と主張
- 第12回 ジェンダーと教育——隠れたカリキュラム
- 第13回 ジェンダーの視点にたつ男女平等教育
- 第14回 結婚制度とジェンダー
・授業の展開によって、内容が変わる場合があります。

●評価方法

授業時におけるレポート(30%)と試験に代わるレポート(70%)

●受講者へのコメント

実践的なテーマを扱うため、積極的な参加を求める。

●教材

各時間にプリント資料を配布。視聴覚教材も使用。

<参考図書>

- ・木村涼子・古久保さくら編著『ジェンダーで考える教育の現在』解放出版社 2008
- ・天野正子・木村涼子編『ジェンダーで学ぶ教育』世界思想社 2003

エスニック・スタディ入門編

Ethnic Study

(前期① 金・2 全) 2単位

(前期② 金・1 全) 2単位

経済学研究科 朴 一

●科目の主題と目標

バブル崩壊後、日本を目指す外国人労働者はやや減少したものの、途上国に比べ高賃金の日本は、依然として外国人労働者の格好の出稼ぎ先となっている。日本に滞在、居住する外国人は、景気低迷期に入っても増加傾向を示しており、2002年時点で外国人労働者と不法残留者を合わせた在日外国人の実数は200万人を超えた。

このうちの約半数が永住権をもつ在日コリアンと在日中国人（華人）である。彼らの多くは、戦前・戦中期の植民地政策によって日本への渡航を余儀なくされた歴史的経緯を有する人達の子孫である。日本に生活基盤を置く彼らは、日本人と同じように、日本で生まれ、日本社会で育ち、日本社会のさまざまな分野で活躍している。

だが、彼らはルーツや国籍が違うという理由で、就職、入居、結婚など人生のさまざまな場面で、日本社会からの圧迫を受けることが少なくない。どうして、こうした民族差別が存在するのだろうか。この講義では、日本人にとって最も身近な外国人である在日コリアンに光をあてて、日本の「内なる国際化」に問われた課題について考えてみたい。

●授業内容・授業計画

1. 私の彼は外国人

2. 金由美さんからのメッセージ
3. あなたは在日の歴史を知っていますか
4. 二つの大震災と在日外国人
5. 忘れられた皇軍
6. 被爆者は日本人だけではない
7. こころの壁、法の壁
8. 無年金外国人は訴える
9. 同情するなら職をくれ
10. 国民とは誰か、住民とは誰か
11. 在日コリアン新世代の生き方とは
12. 海峡を越えた力道山
13. 「帰化代議士」新井将敬の葛藤
14. 日本の経営に挑む孫正義

●評価方法

出席とレポートを重視して採点。

●受講生へのコメント

そのつどプリントを配付しますが、テキストは必要です。

●教材

- ・朴一『在日という生き方』講談社メチエ
- ・朴一『在日ってなんでんねん』講談社+α新書

エスニック・スタディ応用編

Ethnic Study

—世界の民族問題— (後期 金・2 全) 2単位

経済学研究科 朴 一 他

●科目の主題と目標

20世紀は、世界のあらゆる地域で民族紛争が繰り返された時代であった。ロシア（旧ソ連）、東欧、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アラブ、北米など、世界中で民族独立運動や民族間の抗争、衝突が繰り返され、そして現在も異なる民族やエスニック集団の間で「文明の衝突」が起こっている。なぜ、これほど民族紛争は繰り返されるのか。また人類はこうした民族紛争を解決するために、どのような処方提示してきたのか。講義では、フランス、中国、マレーシア、日本などの国を事例にして、現代世界の民族問題の断面に迫ってみたい。

●授業内容・授業計画

1. 日本における外国人労働者問題①
2. 日本における外国人労働者問題②
3. 日本におけるエスニック問題③

4. 日本におけるエスニック問題④
5. フランスにおける移民問題①
6. フランスにおける移民問題②
7. マレーシアにおける民族問題①
8. マレーシアにおける民族問題②
9. 中国における少数民族問題①
10. 中国における少数民族問題②
11. 民族問題への理論的アプローチ①
12. 民族問題への理論的アプローチ②

●評価方法

出席、レポート、試験を総合して採点

●教材

そのつどプリントを配付。参考書はそれぞれの講義で提示する。

部落産業論 —産業経済社会と人権—

Industrial Economics of Buraku (Discriminated Community)
—Industrial Economy and Human Rights—

(前期① 金・2 全) 2単位

(前期② 金・1 全) 2単位

非常勤 田中 充

●科目の主題と目標

部落差別の経済的側面は、特に主要産業・労働雇用面に現れている。そこで、部落の人々の携わってきている産業・労働などが、日本経済の発展・推移の過程でどのように位置づけられてきているかという実態を本質的に見極め、「部落完全解放」という国家・国民的課題の一助としたい。

立派な伝統的地場産業であり、広く内外の国民・消費者の文化生活を支えてきている重要な産業・中小企業であるのに、わが国ではまったく不当な差別の結果、産業構造の最末端に位置させられてきている部落の産業、その代表的な業種＝皮革関連産業・リサイクル・環境産業および食肉産業などに焦点を合わせ、これらの業界の特質・現状および問題点と、それに対する行政施策のあり方などをケーススタディーを通じて考察する。

大都市・地方はもとより、産業業種として、諸外国の場合とも比較検討し、今後の内外国民経済の重要な担い手という観点からも当該産業の発展課題などを模索し、提言を試みる。

なお、当問題は、究極の「人権問題」という立場から、今後一層増加することが必至である外国人労働問題とも関連して考察したい。

●授業内容・授業計画

1. 基本的認識 —産業経済社会と人権問題—
2. 部落の産業問題に対する社会学的・経済学的・経営学的アプローチ
 - (1) 日本の産業経済社会の発展・推移と中小・零細企業問題
 - (2) 中小・零細企業の本質と問題点
 - (3) 伝統的地場産業の本質と問題点
 - (4) 部落の産業固有の本質と問題点
 - (5) 企業の経営組織・形態の発展推移と部落の産業
 - (6) 産業の構造および組織と部落の産業
3. 部落の産業の実態と関連行政施策の推移

4. 部落の産業、今後の課題

- (1) サービス経済化・情報化・国際化の進展と部落の産業
- (2) 国民文化生活・ニュービジネス分野における部落の産業の存続・発展の方向性

●評価方法

本講義を受講することによって、自分自身が何を理解しえたか、「国民的課題」にいかに関与すべきかなど、意見表明の場として、期末テストを論述式で行う。

●受講者へのコメント

たとえ単なる単位修得目的で受講したとしても、やがては自ら「国民的課題」として取り組む問題意識が芽生えることはもとより、積極的に選択した受講生一層の理解と認識の高まりを期待する。

●教材

教科書：田中充編著『日本の経済構造と部落産業（21世紀増補版）—革新的中小企業への発展課題—』（関西大学出版部）

参考書：同『日本経済と部落産業』（解放出版社）

藤田敬三・竹内正己編『中小企業論（第4版）』

有斐閣双書、Mitsuru Tanaka “Small Business of Buraku in Japan's Economy” Kansai Univ. Press.2004,9. その他適宜紹介。

ビデオ・資料コピーなどによって、より具体的に実態認識を深める。

●キーワード

大都市および地方における部落の産業・中小企業・慢性的窮乏・国際化・貿易の自由化・生活文化産業・ニュービジネス・部落解放と人権・企業努力・企業育成政策・中小企業に対するリーダーシップとカタライザー・社会的合理的分業

今こそ部落・人権問題を正しく認識し、あるべき解決策を構築しよう。

障害者与人権Ⅲ 演習

Seminar: Human Rights of People with Disabilities Ⅲ

(この科目は少人数の対話型ゼミナール形式の授業である。)

(前期 水・1 全)

2単位

生活科学研究科 堀 智晴 他

●科目の主題と目標

本学では、総合教育科目として「障害者与人権Ⅰ、Ⅱ」を開講している。この講義はいわば障害者問題入門に当たる。この「障害者与人権Ⅲ」は、この入門をさらに専門的に深め、演習として開講するものである。

障害のある人にも講義をしてもらう。また、障害者授

産施設や自立生活センターを見学してそこで意見交換を行う。

●授業内容・授業計画

- ①オリエンテーション（堀）
- ②自分と障害者との出会いについて語り合う（堀）
- ③障害者問題の歴史1（楠敏雄、堀）

- ④障害者問題の歴史2（楠、堀）
- ⑤障害者の教育問題（楠、堀）
- ⑥障害者の就労問題（楠、堀）
- ⑦障害者の自立生活（川嶋雅恵、堀）
- ⑧障害者施策の検討1（川嶋、堀）
- ⑨障害者施策の検討2（川嶋、堀）
- ⑩知的障害者通所授産施設の見学（楠、堀）
- ⑪知的障害者通所授産施設の見学についての感想を話し合う（堀）
- ⑫自立生活センターの見学（川嶋、堀）
- ⑬自立生活センターの見学についての感想を話し合う（堀） 障害者の教育1（堀）
- ⑭現代の障害者問題の課題（川嶋、堀）

- ⑮まとめ（堀）

●評価方法

ゼミ形式での討議への参加（60%）とレポート（40%）により評価する。

●受講生へのコメント

受講生は「障害者と人権Ⅰ、Ⅱ」をすでに履修していることが望ましい。受講生の数は、20名程度に限る。ゼミ形式による演習なので積極的に発言すること。また、受講生は、ボランティア活動をするなどして障害者と接する機会を持って欲しい。

●教材

適宜資料を配付する。ビデオも活用する。

参考文献：楠敏雄著『自立と共生を求めて』（解放出版社）

人権と多様性の研究 演習

Seminar: Research of Human Rights and Diversity

（前期 水・4 全）

2単位

特任 上杉 聡

●科目の主題と目標

大阪市立大学は人権問題の解決に力を入れており、部落、女性（ジェンダー）、障害者、民族（エスニック）など差別や人権にかかわる科目を数多く開講している（主題「社会と人権」に属する14科目）。これらの講義を受けている学生諸君のなかには、認識を深めながらも、そのいっぽうで、そもそも人権とは何か？差別とは何か？多様なあり方に共通するものは何か？など、深い問題意識を抱いた人が多いのではないだろうか。

本演習では、受講生が互いに多様な人権問題の学習をしていることを前提に、各自が学んできたこと、考えてきた「問題意識」を互いに発表し、討議することで、人権と差別に関する、より深い認識を獲得することを第1の課題とする。そのきっかけとして、教員から差別と人権の歴史について提起を行う。

また、人権に関する講義の場合、以前は、知識注入型の教育が主であった。しかし、この問題を各自のものとするためには、参加型の学習方法が不可欠である。こうして今は、コミュニケーションカードやグループ討論、ワークショップなどが授業で模索されている。当演習は、より良い方法を新たに学びながら、進行中の各講座で、担当教師と協力してそれを実施することも視野に入れ、参加型技術の獲得を第2の課題とする。

人権問題は、今後の日本社会において、大きな地位を

得ることが予想される。これに関わろうとする者は、当事者との高いコミュニケーション能力や学問（全体）性を追求することが必要とされる。本講座は、そうした活動や職業に通用する人材を養成することを第3の課題とする。

●授業内容・授業計画

- 1、ガイダンス、メンバーの自己紹介と交流（1回）
 - 2、差別と人権の歴史と本質についての講義と討論（2回）
 - 3、部落、性、障害者、民族、などに関する受講生からのレポートと討論（5～6回）
 - 4、参加型学習手法の講義（外部講師による）とその検討（4回）
 - 5、当事者性と学問性の追求について外部講師等からの経験報告と討論（2回）
- （1～5の順序は、フレキシブルに入れ替えて進める。）

●評価方法

ゼミ形式での討議への参加とレポートで評価する。

●受講生へのコメント

主題「社会と人権」に属する科目のいくつかをすでに受講したか、受講中であることを参加の前提とする。また参加型のため、受講生は12名程度に限定する。

●教材

適宜、授業中に資料等を配布する。

日本史の見方

An Introduction to the Japanese History

(前期 金・1 全)

2 単位

文学研究科 栄原 永遠男

●科目の主題と目標

奈良時代というと、諸君はいったいどのようなことを思い浮かべるでしょうか。壮大な平城京や東大寺が造営され、阿修羅像に代表される天平彫刻の優品や絢爛豪華な正倉院宝物が製作された時代、聖武天皇や光明皇后、藤原不比等や仲麻呂などの藤原氏の人々や、万葉歌人大伴家持が活躍した時代、などなど。

これらが、多くの人々がもっているイメージだと思われれます。たしかに、この時代が、一面で華やかさに満ちた時代であったことはまちがいありません。しかし、実はこれは、この時代の一面にしかすぎないのです。

この時代には、長屋王の変、光明立后、藤原広嗣の反乱、橘奈良麻呂の乱、藤原仲麻呂の乱、道鏡事件その他、多くの事件・政変があいついで起き、諸勢力がぶつかりあい、殺し合いました。この時代は、政治的にみると大変な激動期だったのです。

では、なぜこのように大事件が頻発したのでしょうか。華やかな天平文化の背後で何が起こっていたのでしょうか。この授業では、近年の発掘調査や最近の研究の成果をふまえて、奈良時代の政治過程を、できるだけ具体的に検討していきます。

●授業内容・授業計画

律令国家が確立した8世紀の政治史を、歴史の流れにしたがって詳しく検討しています。今年度は、つぎのような内容で奈良時代前期～中期の政治過程を見ていきます。(以下の1～7まで各2回ずつ。ただし4は3回)

1. 長屋王の変
2. 藤原四子政権の成立と崩壊
3. 橘諸兄政権の成立
4. 藤原広嗣の乱
5. 聖武天皇の彷徨5年
6. 藤原仲麻呂の台頭
7. 聖武天皇の譲位

●評価方法

定期試験の成績により評価します。

●受講生へのコメント

この授業は、諸君が抱えている奈良時代のイメージや先入観とはかなり違う内容になります。高校までの授業や受験勉強、さまざまな影響で形成された先入観や固定観念にとらわれずに、歴史や現実を見ていく柔軟な眼を育ててほしいと思います。

●教材

教科書はありません。授業で使用する史料は、適宜プリントで配布します。

日本史の見方

An Introduction to the Japanese History

(前期② 木・2 全)

2 単位

文学研究科 佐賀 朝

●科目の主題と目標

「浮世絵の社会＝文化構造」と題し、何人かの著名な浮世絵師の作品を窓口として、日本の民衆文化を多彩な形で創造した近世の巨大都市・江戸の社会をのぞく。

本講義では、歌麿・写楽・広重・北斎などの作品について、まずは作品論的な観点から考察する。その上で、彼らの作品を成立させた社会的な背景を探るべく、浮世絵の画題となった江戸の多様な社会＝空間や文化現象について見る。具体的には、芝居興行、遊廓、両国(盛り場)、講中などを取り上げる。

こうした作業を通じて、日本の文化を社会史的な観点から研究していく方法を学ぶとともに、社会構造分析と結びついた文化研究の新しい可能性を探っていきたい。

●授業内容・授業計画

- ①はじめに
- ②～⑤写楽の役者絵と芝居の世界
写楽の第一期作品について／寛政期の芝居興行と江戸・上方／芝居地の社会構造
- ⑥～⑧広重名所絵の虚像と実像
広重名所絵の虚構性／両国一名所の社会構造
- ⑨～⑪歌麿の美人画と吉原
歌麿「北国五色墨」について／新吉原と仮宅

- ⑫～⑬北斎「富嶽三十六景」と江戸の富士信仰
北斎の作画変遷と「富嶽三十六景」／江戸の講中
- ⑭浮世絵の社会＝文化構造
錦絵の毒素／錦絵をめぐる社会構造

●評価方法

出席と毎回の感想・質問用紙記入、定期試験などにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

文化の表層をなぞるのではなく、文化をつくり出す基礎となった社会そのものの構造にもメスを入れる形で「江戸」の文化創造力の源泉に迫る講義です。絵画作品や映像なども使用しますが、内容は相当に高度で難解です。安易な受講態度で選択しないようにしてください。

●教材

- ・浅野秀剛・吉田伸之編『浮世絵を読む』1～6(朝日新聞社、1997～98年)
- ・吉田伸之『身分的周縁と社会＝文化構造』(部落問題研究所、2003年)
- ・上記は事実上のテキストだが、購入は不要。その他の文献などは、授業のなかで随時、紹介する。

東洋史の見方

An Introduction to the Asian History

(前期 木・2 全)

2 単位

文学研究科 井上 徹

●科目の主題と目標

「中国伝統社会の仕組みと近代化」

16 世紀は時代の転換期である。国際貿易と連動する商品経済の急速な発展のなかで、商業化・都市化がかつてない深度をもって展開し、新たな国家や社会の仕組みが模索された。16 世紀を転換点として、どのような社会が形成されたのかを考えてみたい。とくに注目するのは、明清両王朝の国家の仕組み、それを支える社会的流動性、国際関係と連動する商業化・都市化などである。これらの諸問題の検討によって伝統社会の固有の構造を明らかにしたうえで、19 世紀に始まる近代化の動きを紹介する。

●授業内容・授業計画

本講義では、ビデオや写真資料を用いて現代の中国社会の様子を紹介しながら、上記の問題を検討することにより、16 世紀以降、現代に至るまでの長期にわたる中国社会の基底にあるものを探求する。講義は以下の順序で進める。

第 1 回 ガイダンス

第 2 回	明朝の樹立
第 3 回	皇帝と官僚制度
第 4 回～第 5 回	人材登用制度と社会的流動性
第 6 回～第 7 回	海外貿易の展開
第 8 回～第 9 回	商業化・都市化
第 10 回～第 12 回	「西洋の衝撃」とは何か
第 12 回～第 14 回	近代化への歩み
第 15 回	まとめ

●評価方法

試験と出席状況によって評価する。

●受講生へのコメント

授業を聞くだけでなく、書籍、新聞、インターネット、旅行など様々な機会を用いて、それぞれ自主的に情報入手し、現代に立脚する歴史学の方法を思考するようにつとめてください。

●教材

プリントを配布する。授業中に適宜、参考文献を紹介する。

西洋史の見方

An Introduction to the Western History

(前期① 水・3 全)

2 単位

(前期② 月・2 全)

2 単位

文学研究科 井上 浩一

●科目の主題と目標

「裏から見たローマ史」

小さな都市国家から出発してローマは大帝国になりました。この授業では、ローマの歴史を裏側から、つまりローマと戦った人々の側からみてゆきます。ほとんどの人はローマに敗れ、悲劇的な最後を迎えました。クレオパトラは自殺しましたし、イエスは十字架刑に処せられました。しかし彼らがローマと戦ったその歴史はローマという国家・社会の特徴を浮き彫りにしてくれるでしょう。この授業ではそれらの人々の生涯を通じて、歴史について考えることにします。

●授業内容・授業計画

- 1、序論——世界史のなかのローマ
- 2、ハンニバル——イタリアに攻め込んだカルタゴの英雄
- 3、ローマの強さ——なぜハンニバルは勝てなかったのか？
- 4、スパルタクス——剣闘士奴隷の反乱
- 5、ウェルキングトリクス——カエサルと戦ったケルト人
- 6、ローマの強さ（2）——奴隷制経済
- 7、クレオパトラ——エジプト最後の女王
- 8、イエス——ローマ帝国によって十字架に架けられた男
- 9、メナヘム——ローマ帝国と戦った「メシア」
- 10、ブランディーナ——リヨンの女殉教者
- 11、アラリック——永遠の都ローマを征服したゲルマン人
- 12、まとめ

授業は講義形式が中心ですが、資料を読んだり、短いレポート（感想・意見）を書いてもらうこともあります。

●評価方法

授業と関連するテーマでレポートを書いてもらい、それを主たる資料として評価します（レポート作成については次項②参照）。授業中に書いてもらう小レポートも評価の参考にします。なお評価にあたっては、自分なりの歴史の見方・考え方を、具体的な素材に即して、どれくらいきちんとまとめているかを重視します。

●受講生へのコメント

①大学の歴史学は「暗記物」ではありません。本講義も高校世界史の予備知識なしで受講できます。ただし世界史をまったく習っていない人、すっかり忘れてしまった人は、世界史の教科書や入門書に少し目を通しておくと、講義が理解しやすくなると思います。

②レポート作成法の特別授業を 2 回行ないます。テーマの決定、文献調査（学術情報センター実習）、書物の読み方、レポートのまとめ方・書き方などを具体的に話します。大学において主体的に学ぶための技術を身につけてもらいたいと思います。なお、初年次セミナーを受講する人は特別授業を受ける必要はありません。

●教材

教科書は使いません。授業に必要な資料は毎回プリントとして配布します。ビデオ教材も適宜使用します。各テーマに関する参考文献はその都度紹介します。

日本社会の歴史

Japanese History and Culture

(後期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 仁木 宏

●科目の主題と目標

日本の戦国時代といえば、戦国大名が天下の覇権を争った時代とされている。その一方で、自治都市や惣村に代表される民衆の時代として知られている。この一見矛盾する歴史の動きをどうやって統一的にとらえたらよいのだろうか。

この授業では、山城国の西岡地域（現在の長岡京市・向日市・大山崎町など）を素材に、村々の動きが、応仁の乱から山崎合戦（「天王山の戦い」）にいたる政治・軍事の動きとどのようにかかわっていたのか、丁寧に明らかにしてゆくなかで上記の課題にせまる。

結果として、日本社会の歴史の多様性、特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことが理解できるようにする。

●授業内容・授業計画

講義はおおよそ以下のテーマでおこなう。

- 1：西岡の歴史環境
- 2：西岡の村々とその広がり
- 3：村の侍たち
- 4：徳政と用水相論
- 5：御家人から御被官人へ
- 6：「国」の結成
- 7：土豪の居館と村

- 8：寺と都市
- 9：城と職人
- 10：土豪支配と寺内
- 11：「都市的な場」の意義
- 12：近世的権力の登場
- 13：村の変貌
- 14：信長の力量
- 15：中世西岡の黄昏

講義は、テキストと、配布するプリントを中心におこなう。プロジェクターも利用する。

●評価方法

講義内容を的確に理解できているか、講義に能動的にかかわっているかを、小レポート（30/100）と定期試験（70/100）で評価する。

●受講生へのコメント

高校までの「日本史」受講の有無、暗記的知識の量は問わない。但し、受講にあたっては論理的展開をおってゆく努力が必要である。

●教材

テキスト：仁木宏『戦国時代、町と村のかたち』（山川出版社、2004年）。

参考文献：適宜しめす。

プリント：毎回配布する。

東洋社会の歴史

Asian History and Culture

(後期② 火・1 全)

2 単位

文学研究科 平田 茂樹

●科目の主題と目標

中国社会の歴史を考える際に基礎となるのは都市と農村である。現代中国の社会問題の一つとして都市と農村の格差問題があり、中国社会を理解する上で、都市を歴史的に考察することは不可欠な作業である。

本講義では、中国都市史研究の代表的な斯波義信氏の著作『中国都市史』を題材として、中国の都市がどのように発達していったかを講義していく。

ただ、歴史を過去の遺物と考えないように、講義の中では過去と現在、過去と未来の問題、具体的には東アジアの現代社会との問題について言及しながら、歴史を学ぶことを通じて、日本と世界との関係、あるいは自己の存在について長期の基軸からみつめる姿勢を養うことを狙いとする。

●授業内容・授業計画

教科書を用いながら、順次以下の項目について講義していく。

1. 授業の目的、授業内容の概略紹介
2. 歴史の中の都市—一県と郷鎮
3. 歴史の中の都市—都市のコスモロジー
4. 都市のシステム—定住の結節としての都市

5. 都市のシステム—都市の社会構造
6. 都市の解剖図—メガロポリス漢口
7. 都市の解剖図—寧波から上海へ
8. 都市の解剖図—台湾の都市化
9. 都市の解剖図—広東の仏山鎮
10. 宋代の都市の構造
11. 宋代都市の解剖図—開封
12. 宋代都市の解剖図—杭州
13. 宋代都市の解剖図—蘇州
14. 総括

●評価方法

授業中に書く小レポート（50%）と試験（50%）

●受講生へのコメント

毎回小レポートを書いてもらい、きちんとした東アジア理解を身につけてもらいます。毎回の取り組みが最終試験に直結します。主体的に自己の問題或いは周囲の問題を見つめる意識を持って出席するようにしてください。

●教材

斯波義信『中国都市史』（東京大学出版会）

西洋社会の歴史

History of Western Society

(後期 火・3 全)

2 単位

文学研究科 大黒 俊二

●科目の主題と目標

読み書きと書物のあり方という視点から西洋の文化史をたどる。古代から現代まで、人はいかにして文字と付き合ってきたか、本を読んできたか。「読む」とはどのような行為なのか。読むことがあまりに自然となった現代、人はあらためてこうした問いを発することはない。

しかし、紙上の黒いしみを追って意味を解し、伝えることは、自然な行為ではなく、歴史と文化に深く規定された営みである。たとえば古代ギリシアには「読む」行為はあってもそれを表す単語がなく、古代ローマ人にとって書物とは巻物であった。中世の間は黙読ができず、単語を分かち書きすることもなかった。近代初期、文字を知らぬ民衆は他人の朗読によって「読書」した。読み書きと書物の歴史は、西洋文化の思いがけない一面を浮かび上がらせ、旧知の事実意外な光を当ててくれることになろう。

●授業内容・授業計画

- ①「書くこと」と「読むこと」の歴史性
- ②声の文化と文字の文化
- ③声から文字へ（古代ギリシア）
- ④読みから書きへ（古代ローマ）
- ⑤卷子本から冊子本へ（古代末期－中世初期）
- ⑥ラテン語から俗語へ（中世初期）
- ⑦続け書きから分かち書きへ（中世初期）
- ⑧音読から黙読へ（中世中期）
- ⑨遍歴商人からもの書き商人へ（中世中・後期）
- ⑩手書本から印刷本へ（中世後期）
- ⑪エリートから民衆へ（近代初期）
- ⑫本学所蔵貴重書見学（近代初期）
- ⑬批判から革命へ（近代）
- ⑭民衆から大衆へ（近代）

⑮「ミネルヴァの梟は黄昏に飛び立つ」（現代）

●評価方法

出席 20%、レポート 40%、試験 40%。

●受講生へのコメント

読み書きの実践という点から見た西洋文化史の概説であるから、通常の西洋史とは趣の違った内容になる点に注意してほしい。単なる西洋史概説ではない。講義の前提として高校世界史A程度の知識が望ましいが、なくても理解できるよう努力するつもりである。

●教材

教科書はとくに用いない。以下の書物を参考書としてあげておく。いずれも通読には骨の折れる書物だが、一部でもよいから目を通してほしい。講義ととくに深い関係があるのは3と7である。

1. W. J. オング（桜井直文他訳）『声の文化と文字の文化』藤原書店、1991年。
2. I. イリイチ/B. サンダース（丸山真人訳）『A B C — 民衆の知性のアルファベット化』岩波書店、1991年。
3. R. シャルティエ/G. カヴァッロ編著（田村毅他訳）『読むことの歴史——ヨーロッパ読書史』大修館書店、2000年。
4. N. ボルツ（敷名・足立訳）『ゲーテンベルク銀河系の終焉——新しいコミュニケーションの姿』法政大学出版局、1999年。
5. 清水徹『書物について——その形而下学と形而上学』岩波書店、2001年。
6. H. ブランク（戸叶勝也訳）『ギリシア・ローマ時代の書物』朝文社、2006年。
7. 大黒俊二『声と文字』岩波書店、2010年。

現代の歴史

Modern History

(後期② 火・2 全)

2 単位

文学研究科 野村 親義

●科目の主題と目標

「近・現代アジア経済史」

本講義では、アンガス・マディソンらが構築した数量経済史研究の成果を踏まえ、19世紀初頭から現代にまで至るアジア経済史の動向を、論じます。19世紀初頭、世界のGDPの6割近くを占めていたアジアは、20世紀半ばには、世界のGDPの2割近くを占めるに過ぎない地域へと、その地位を大きく低下させました。その後、アジアは、「アジアの奇跡」などを経、現在は、19世紀初頭に得ていた世界経済に占める地位を、回復しつつあり

ます。本講義の目的は、アジアが世界経済に占める地位を大きく変化させてきた原因を、当時の政治・経済・社会情勢に配慮しつつ、理解する目を養うことにあります。

●授業内容・授業計画

1. 導入
2. アジアとはどこか
3. 19世紀以前のアジア(1)－インド
4. 19世紀以前のアジア(2)－中国・日本
5. 比較対象としての19世紀以前のヨーロッパ
6. 欧米における工業化とアジアの経済的地位の相対的

低下—統計が示すこと

7. 欧米における自由主義プロジェクトとアジアの植民地化
8. 植民地支配下のアジアの経済(1)—貿易・金融
9. 植民地支配下のアジアの経済(2)—製造業
10. 植民地支配下のアジアの経済(3)—労働
11. 植民地支配と独立運動
12. 独立と開発政策
13. 輸入代替型工業化
14. 輸出志向型工業化
15. アジアの奇跡とアジア通貨危機

●評価方法

授業中に行う小レポートと期末試験で評価します。

●受講生へのコメント

昨今の日本の政治・経済情勢は、アジア諸国の政治・経済情勢と分かちがたく結ばれています。本講義を通じ、アジア諸国の近・現代経済史への理解を深めることで、現在のアジア諸国の政治・経済情勢をよりよく理解する、一助としていただきたいと思います。

●教材

教科書はありません。プリントを授業中に配布します。

考古学入門

Introduction to Archaeology

(後期 水・2 全)

2単位

文学研究科

岸本 直文

●科目の主題と目標

ひとつひとつが暮らした住まいの跡、使っていた道具などのモノ、これらが地面のなかに埋もれて遺っている。これが遺跡である。人間の活動が多様であるので、遺跡にもさまざまな種類がある。考古学は、こうした遺跡を発掘調査することにより、遺された痕跡やモノから、そこで生活したひとつひとつの営みを復元する。考古学により明らかになった日本の歴史をたどり、興味をもってもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

日本の考古学では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代という時代区分をする。それぞれがどんな時代であったのか、研究史をひもとき、遺跡の発掘調査の事例を紹介しながら、いま考えられている歴史像を紹介する。

- 1 考古学とはなにか
- 2 考古学の資料は遺跡
- 3 遺跡の発掘調査
- 4 旧石器時代 氷河の時代の狩猟生活
- 5 縄文時代(1) 定住のはじまり

- 6 縄文時代(2) 縄文文化の豊かさと限界
- 7 弥生時代(1) 米作りの開始
- 8 弥生時代(2) ムラからクニへ
- 9 弥生時代(3) 墓にみる権力の形成
- 10 古墳時代(1) 邪馬台国の考古学
- 11 古墳時代(2) 巨大な前方後円墳の誕生
- 12 古墳時代(3) 古墳時代から飛鳥時代へ
- 13 古代 都城と官衙
- 14 北海道と南西諸島の考古学

●評価方法

小レポート提出2回(各15点)。期末試験(70点)。

●受講生へのコメント

遺跡は全国で40万カ所といわれる。どこにでもあり、ごく身近なところにある。有名な遺跡ばかりでなく、あまり知られていない数多くの遺跡のすべてが、みなさんが住んでいる地域の歴史を明らかにする素材となる。そうした身近な遺跡に関心をもってほしい。

●教材

プリントを配布する。

ことばの歴史

Japanese and its History

(後期② 木・2 全)

2単位

特 任

尾山 慎

●科目の主題と目標

日本人が漢字を理解している証左といえる現存最古の資料は5世紀後半の稲荷山古墳出土の鉄剣銘文である。それから、実に1600年近い時を経て、日本人は漢字を音訓の別をもって使いこなし、さらにそれに仮名を交ぜて書くという方法を獲得した。独自の文字を持たず、平仮名もまだない古代、異国語の文字である漢字しか方法はなかった。しかし、日本人は結果的に自分たち独自の書記を作り上げたのであった。そこにいかなる工夫と叡智があったのか。本講義では、主に漢字だけで日本語を書

記していた時代を中心として、「ことばの歴史」としてそれを「書き記すことの歴史」を考究する。

漢字しか使えないというのは、現代に生きる我々からすればかなり不便なことに思える。しかし、万葉集を始め、古代の資料を紐解くと、そこには実に多種多様で、ある意味で自由な書記の営みが見てとれるのである。今の我々が音、訓と区別する漢字の読みのみならず、たとえば「暖」で「はる」と読ませたり、またあるいは「蜂音」で「ぶ」とよませたり、たとえその場一回限りのものであっても、書記者の様々な工夫が認められるの

であり、日本語を話す者が、漢字を自家葉籠中におさめている姿を目の当たりにできる。各回の授業では様々な資料をみながら講義を進める。また、古代日本と海外の交流を言語の観点からとらえたり、日本語そのものの系統の話題にも及ぶ予定である。

●授業内容・授業計画

1. ガイダンス～漢字漢文との出会いー日本語を書き記すこと
2. 漢字・漢文とはー日本語と中国語
3. 漢字音概説
4. 日本語音韻の歴史
5. 日本語の系統
6. 万葉集とその表記
7. 木簡・金石文とその表記
8. 古事記・日本書紀とその表記
9. 日本の古辞書

10. 変体仮名と平仮名の成立
11. 漢文訓読と日本語
12. 古代日本人と外国語
13. 振り仮名の歴史
14. 総まとめ

●評価方法

出席および最終回のテストの点による。なお、四回以上欠席した者は、評価対象とならない。

●受講生へのコメント

かつて日本人はどのように自分たちの言語を書き記していたのか。どうして、今日のような姿になったのか。それを学ぶことによって、各自、日常普段の言語活動をあらためて内省し、言語と書記に対する鋭敏な感覚を養ってもらいたい。

●教材

授業中に配布するプリントを使用する。

歴史学の世界 演習

Seminar : World of History

(後期 火・2 全)

2 単位

文学研究科

佐賀 朝

●科目の主題と目標

「都市の社会史・文化史を読む」と題して、現代歴史学の成果をわかりやすく紹介した文献を素材として、「歴史学の世界」に触れる。

具体的には、近世～近代の社会史や都市史・地域史、文化史を主題にしたテキストを、「山川日本史リブレット」の中からいくつか取り上げて、受講生による分担・発表とディスカッションの形で読み進めていく。

こうした作業を通じて、近年の歴史学の分野における都市史や社会史の視点と方法についても学んでいきたい。

●授業内容・授業計画

山川日本史リブレットの中から以下の文献を候補とし、半年間に3冊ていどを目標に、読み進めていく。

- ・吉田伸之『21世紀の「江戸」』
- ・伊藤毅『町屋と町並み』
- ・杉森哲也『描かれた近世都市』
- ・浅野秀剛『錦絵を読む』
- ・荒川章二『軍用地と都市・民衆』

(ここに掲げたもの以外も適宜、候補にくわえる予定)

- ①ガイダンス
- ②～⑤ テキスト1
- ⑥～⑨ テキスト2
- ⑩～⑬ テキスト3
- ⑭まとめ

●評価方法

出席と感想用紙・課題シート等の内容、発表やディスカッションへの取り組みなどを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

社会史や都市史・地域史は、私たちにとって身近な、生活や生業(なりわい)の具体的なあり方と、それをめぐって形成される、人と人との結びつき(社会的関係)の姿を読み解いていくものです。「雑学」や「豆知識」だけを目的とした歴史ではなく、生活と社会関係の歴史的な仕組み(構造)を解き明かしていくための学問的な方法を学んでほしいと思います。

●教材

山川日本史リブレットから選択(別掲)

現代の地理学

Current Geography

(前期 木・3 全)

2 単位

文学研究科

祖田 亮次

●科目の主題と目標

本講義では、人間-環境関係について、様々な視点から考えます。その際、自然科学的な作業から自然現象を明らかにするのではなく、人文学的な視点から、何を問題と捉え、どのように考えればよいのかということの中

心に講義を進めます。

高校までに地理を履修した人は、地理=地名や特産品の暗記というイメージを持っているかもしれませんが、本来の地理学は、人間-環境関係を考察することを主眼としています。現代は、様々な環境問題が国際政治の場

において語られる一方で、人々は「身近な自然」に対しても意識的になっています。

水田や里山は自然なのか？ 近所を流れる河川はなぜこのような形になっているのか？ 国立公園や世界自然遺産はどのような意味を持つのか？ 熱帯雨林の消滅に日本はどう関わっているのか？ エコツーリズムの背景にはどのような政治的意図があるのか？ 自然災害をどう認識し、克服すべきなのか？

この講義では、これらの自然や環境に関わる具体的な現象や問題を取り上げながら、私たちがどのように自然や環境と関わっていくべきかを考察しようと思います。

大都市・大阪にいと気が付かないこと、大都市にいるからこそ意識すること、いろいろあると思います。皆さんの積極的な参加を期待します。

●授業内容・授業計画

- ① イントロダクション

- ②～③ 環境決定論・環境可能論, 風土論, 政治生態学
- ④～⑦ 河川改修, 自然再生, 災害文化, 流域社会論
- ⑧～⑩ 熱帯雨林, プランテーション, バイオマス社会論
- ⑪～⑫ 焼畑・狩猟採集・水田・里山, 半自然・半栽培
- ⑬～⑭ 国立公園・世界遺産, エコツーリズム

●評価方法

評価のおよその内訳は以下のとおりです。出席：20%、小テスト・課題提出：40%、レポート 40%

●受講生へのコメント

高校時代に地理を履修していたかどうかは、問題ではありません。2～3回に1回の割合で、小テストあるいは課題提出を求めます。

●教材

特定のテキストは使用しません。参考図書などがある場合は、講義の際に提示します。

現代の地理学

Current Geography

(後期② 木・1 全)

2 単位

文学研究科 山崎 孝史

●科目の主題と目標

本講義は、人文地理学への入門として、まず地理学の主要ツールである地図の役割について説明し、地図の変遷を歴史的にふり返ります。そして、空間・場所・スケールといった地理学の主要概念を用いて、日常の些細な出来事から、世界史上の大事件まで、どのようにアプローチできるか具体例を用いて解説します。大学の地理学は高校までの「地理」とはかなり違います。本講義を通して、地理学のものの見方や考え方が意外に役に立つことを学んでください。

●授業内容・授業計画

- ① イントロダクション：講義の構成と学習方法について解説
- ② 地図1：地図の深層を「読む」方法
- ③ 地図2：様々な古地図に表現される世界史
- ④ 地図3：地図のもつ恣意性とウソを見破る
- ⑤ 空間1：伸びたり、縮んだり、歪んだりする空間の性質
- ⑥ 空間2：造られた空間として古代から現代の都市を考える
- ⑦ 空間3：設計やゾーニングによって人間を制御する空間
- ⑧ 中間テスト
- ⑨ 場所1：私たちにとって特別な意味をもつ空間と

しての場所

- ⑩ 場所2：モニュメントに込められた想いと対立
- ⑪ 場所3：まちづくりと景観保存＝場所を失う、守る、造る
- ⑫ スケール1：ローカルからグローバルへと私たちを取りまく空間の重なり
- ⑬ スケール2：マクドやスタバなどグローバル企業の立地戦略
- ⑭ スケール3：グローバル化によって外国人が集住するコミュニティ
- ⑮ 期末テスト

●評価方法

出席 (10%)、テスト (60%)、レポート (30%) などによります。詳細は講義中に説明します。

●受講生へのコメント

講義の進行上、コンピュータおよびインターネットを使用できることが必要ですが、そうでない場合でも受講は可能です。

●教材

教科書は使用しません。必要な教材は担当教員のホームページを通して提供されます。詳しくは以下をご覧ください。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/yamataka/home.htm>

都市の地理学

Landscape and Culture

(後期 月・3 全)

2 単位

文学研究科 大場 茂明

●科目の主題と目標

現在、世界人口の過半数、先進工業国では国民の三分の二以上が都市に居住している。古代にメソポタミアで誕生して以来、都市の歴史は長いが、現代こそまさに「都市の時代」であるといえよう。また、都市は人々の日常生活や産業活動の舞台であると同時に、過密、環境汚染など様々な問題が集積している場所でもある。

そこで本講義では、自然・人文の諸現象が相互にむすびついて展開する地表面の空間的な構造を研究する地理学の立場から、都市の形態、機能、構造について内外の具体的事例を提示しつつ概説するとともに、近年の都市問題や今後のまちづくりの課題について考えていくことを通じて、激動する現代社会を理解するための一助とすることを目的とする。

●授業内容・授業計画

授業では、以下の項目に従って、映像資料などを用いて内外の具体的な素材を提示しつつ講述する(数字は授業回数)。なお、最初の 20 分間を利用して、コミュニケーション・カードに基づき、質疑応答など前回内容の確認を行う。

- ① 序：地理学では都市をどう捉えるか？
- ②・③ 都市の形成過程

- ④・⑤ 都市機能分化と空間構造の変容
- ⑥・⑦ 日本の都市
- ⑧・⑨ 現代社会と都市問題
- ⑩・⑪ 都市更新事業とまちづくり
- ⑫・⑬ 人口減少と都市の縮退
- ⑭ まとめと今後の展望：都市の未来像

●評価方法

評価は、毎回の授業終了時に記入してもらうコミュニケーション・カードによる平常点(20%)と、定期試験の点数(80%)によって行う。

●受講生へのコメント

授業では、理論や概念のみを取り上げるのではなく、具体例に則して進めていく。したがって、高校時代に地理を履修していたかどうかは問わないし、特別な予備知識も必要としない。むしろ、地理学というフィルター(=地理的なものの見方)を通じて、現代都市の諸現象を考察していく術(すべ)を身につけてもらいたいと考えている。

●教材

教科書：使用しない(講義資料として、授業時にプリントを配布する)。

参考書：必要に応じて授業時に紹介する。

文化人類学入門

Introduction to Cultural Anthropology

(前期① 火・3 全)

2 単位

(前期② 火・1 全)

2 単位

文学研究科 多和田 裕司

●科目の主題と目標

文化人類学とは、自分とは「異なる」人々にたいする理解を深め、同時に、どうすれば「異なる」もの同士の間でよりよいコミュニケーションを持つことが出来るのかを探ろうとする学問である。その意味で、文化人類学は、自分たちの身のまわりの人間関係といったことから、文化摩擦や民族紛争などの世界規模の問題にいたるまで、「異なる」ことに起因するさまざまな問題を考えるためのなんらかの手がかりを提供するものとなろう。

本講義においては、諸学説や具体的な民族誌の紹介をとおして、文化人類学がこれまで「他者／異文化」をどのようにとらえてきたかについて検討する。それとともに、受講者それぞれが「他者／異文化」と実際にかかわることで「他者／異文化理解」を経験する。

●授業内容・授業計画

主な内容は下記のとおり。

- ① 文化人類学とはどういう学問か
- ② 文化人類学の対象：他者、文化、異文化
- ③ 文化人類学の方法：フィールドワーク
- ④ レポート作成についての説明と助言
- ⑤⑥ 推論と偏見による異文化理解

- ⑦⑧ 「科学的」異文化理解への志向
- ⑨⑩ 文化相対主義とアメリカ文化人類学
- ⑪⑫ 文化を解釈する
- ⑬⑭ 双方向的異文化理解へ向けて
- ⑮ テスト

●評価方法

定期試験(60点満点)およびレポート(40点満点)によって評価する。

(レポート課題)

海外から日本を訪問中の人を対象にインタビューを行い、(1)その人が「日本にたいして感じたこと」、(2)自分が「そのインタビュー経験のなかで感じたこと」、についてまとめる。なお留学生や教員をインタビューの相手とすることは認めない。詳細については授業中に説明する。

●受講生へのコメント

文化人類学の知識を得るといよりも、人類学的なものを見方を習得してほしい。

●教材

教科書はとくに指定しない。授業中に適宜参考文献を紹介する。

ことばと文化

Japanese and our culture

(後期 水・2 全)

2 単位

文学研究科 丹羽 哲也

●科目の主題と目標

この科目の目標は、現代日本語およびその歴史的背景について、基礎的・体系的な知識を身につけ、我々が普段何気なく使っている言葉に対して、自覚を深めることである。日本語に関して、ことば遣いや敬語の誤りを嘆き、外来語の氾濫に眉をひそめ、方言の喪失を惜しみ、あるいは、現れては消えてゆく新語・流行語を面白がる、ということがよく行われる。これらは当然の関心であるが、ともすると興味や知識が断片的なままに終わりがちである。正しい日本語というものがあらかじめ定まっているわけでもなく、どういう言葉遣いをするのが良いのかは、一人一人が自分で決めていくべきことである。この授業は、そのようなことを考えてゆくのがとしたい。

●授業内容・授業計画

具体的には以下のようなことを扱う。

1 導入 (日本語の位置)

2～4 言葉の「乱れ」

日本語の「乱れ」と言われるものについて、言語変化、言語の位相、規範意識という観点から考察する。

5～9 敬語の体系と運用

敬語の3分類(尊敬語・謙譲語・丁寧語)を5分類に改めるという方針(文化審議会答申)に即して、敬語の体系を解説し、敬語の運用のあり方や誤用、また、敬語の歴史的変化についても考察する。

10～12 表記の問題

常用漢字や人名漢字など漢字制限に関わる問題や仮名遣の問題について解説する。

13～ 言語の地理的変異

方言分布の類型や新方言について解説する。

ことばに対する考え方には、規範主義的な考え方と記述主義的な考え方とがあり、日本語について何か問題にされるというのは前者の立場からの発言が多く、一方、学問研究としては後者の立場で進められることが多い。この両方の立場のバランスを取りながら、身の回りの言葉を取りあげていく。

●評価方法

毎回課される課題の提出(25%)と学期末の試験(75%)による。

●受講生へのコメント

課題の問題は、題材は身近でも、必ずしも簡単なものではない。問題を通して、ことばの論理性と多様性を学んでもらう。

●教材

プリントを配布する。

参考書: 金田一春彦『日本語(上・下)』(岩波新書)、井上史雄『日本語ウォッチング』(岩波新書)、同『敬語はこわくない』(講談社現代新書)、菊地康人『敬語再入門』(丸善ライブラリー)など、日本語に関して手軽に読める本はいろいろあります。

景観と文化

Landscape and Culture

(前期 木・2 全)

2 単位

非常勤 山野 正彦

●科目の主題と目標

この科目の目標は、人間が生活のために地表空間に作りあげる「景観 (landscape)」あるいは「場所(place)」が、人間の生活の仕方としての「文化 (culture)」とどのように関わっているのかを考えようとするところにある。文化が景観を作り出すという観点から、現代都市に出現する新しい景観の具体例を紹介しつつ、消費生活で覆いつくされた現代都市文化の特質と問題点を明らかにし、これからの「場所」づくりと、ほんものの(authentic)生活の仕方について熟考しようとする。

●授業内容・授業計画

1970年代ごろから都市空間に新しいコンセプトやデザインに基づいて建設された建築、町並み、商業・観光施設などが現われ、日常生活の様相が変化してきている。ポストモダンのデザインに従った斬新な建築群、ディズ

ニーのテーマパークのような商業建築やツーリストのための場所を創造しようとする傾向など、新しい景観と場所の創造を意図した再開発が進められている。授業では、現代の消費文化と資本の論理が生み出した景観の特徴を示すとともに、このような一見したところ魅力的で便利そうに見える都市の建造環境が、人間の生き方についてどのような問題点を含んでいるのかについて考察を進めてゆく。究極に、「景観」や「場所」がわれわれの生活のコンテクストとなり、アイデンティティの形成と密接につながっていることを明らかにしたい。授業内容は以下のとおりである。

(1) はじめに: 消費の景観と消費の文化 (2回)、(2) 再開発によって生み出された景観(2回)、(3) 場所のマクドナルド化と均質化(2回)、(4) 場所のディズニー化(2回)、(5) ショッピングモールの景観(2回)、(6) アメリカ村・堀江

境界の形成、(7) コンビニの機能と日常生活の変化、(8) ツーリズムの景観、(9) まとめ：場所づくりとほんものの生活の仕方再考

●評価方法

レポートによる

●受講生へのコメント

この科目は、単に科学的知識や技術を教えることを目的とするものではない。現代の都市文化と景観の性格について、人間の日々の生活の仕方と公共空間のありかたについて深く考えようとする受講者の参加を期待している。

●教材

参考書：レルフ、高野・阿部・石山訳『場所の現象学』、ちくま学芸文庫、1999。ボードリヤール、今村・塚原訳『消費社会の神話』、紀伊國屋書店、1995。フェザーストン、西山・時安訳『ほつれゆく文化』、法政大学出版局、2009。リッツア、正岡寛司監訳『マクドナルド化した世界』、早稲田大学出版部、2008。プライマン、能登路雅子監訳『ディズニー化する社会』、明石書店、2008ほか、その他、授業中に適宜指示する。

アジアの文化

Culture of Asia

(前期 月・3 全)

2 単位

文学研究科 中川 眞

●科目の主題と目標

本講義では東南アジア、特にインドネシアの文化について論じる。インドネシアはオランダの植民地を引き継ぐ形で第2次大戦後に独立したが、内発的な統一国家としてスタートしたわけではなく、様々な民族、文化が並存しており、分離独立の動きも消えない。本講義では、音楽、演劇、儀礼などの視点から、特にジャワ（イスラム）、バリ（ヒンドゥー）の両文化を比較しながらその特質を論じ、「多様性のなかの統一」という国是を検証する。さらに、「グローバルとローカル」という視点も導入し、伝統的な側面だけではなく、現代的な都市文化の創造についても論じる。私たちはアジアをひとくくりにはできないと同様に、インドネシアをもひとくくりにはできないことを思い知るだろう。

●授業内容・授業計画

- (1) グローバル化時代における東南アジアの文化
- (2-3) インドネシアへの序章
- (4-8) ジャワの芸能
- (9-12) バリの芸能と儀礼
- (13) 異文化のなかのインドネシア

(14) 新たな都市文化の創造

(15) まとめ

授業は基本的に講義形式であるが、可能であれば、途中でいくつかのワーキンググループをつくり、グループ毎の課題を決め、発表形式にしたい（双方向授業）。これは受講生の人数次第である。

●評価方法

初回の講義時に「私のなかのアジア文化」というテーマでレポート（1200字程度）を提出することが受講の条件である。この場合の「アジア」には日本は含まない。事前に調べる必要はなく、あなたの体験に即した感想文を自由に書いてほしい。その他、指定図書の読後レポート、イベントレポートなど、多くの課題が出される。

●受講生へのコメント

「評価方法」の項で書いたように、多量の課題が出される講義なので、生半可な気持ちで受講すると挫折する可能性があるため、注意されたい。但し、「アジア」への自分なりのアプローチは醸成されることであろう。

●教材

講義時に指示する。

民族と社会

Ethnicity and Society

(後期 水・4 全)

2 単位

非常勤 黄 蘊

●科目の主題と目標

文化と社会の比較研究においては、文化を比較する単位として「民族」が頻繁に用いられている。「民族」は一つの分析概念、人間社会を分類する基本的なカテゴリーの一つとしてその重要性がわれわれに認識されている。一方で、現代社会のさまざまな問題は「民族」と関連し、例えば一国内の多数民族と少数民族の対立、地域の民族紛争など、「民族」は同時にやっかいな概念でもある。

本講義は、「民族」という概念、カテゴリーの構築性、

また民族と社会にまつわる多様な問題を理解することを目的とする。具体的に民族の生成とその関連の現象、民族という概念の流動性や、現代の多民族国家における民族問題、地域間の「民族」をめぐる対立、連帯の諸相などについて考えていきたい。こうした「民族」にまつわる様々な事象に対する理解を深めることで、現代社会の抱える問題をより柔軟な視点で捉えることが可能になる。

●授業内容・授業計画

- ① 民族とは：「民族」の定義とその使われ方

- ②-③ 民族の生成：中国、日本の事例
- ④-⑤ 民族の生成：東南アジアの事例
- ⑥-⑦ 民族集団とその文化の変容
- ⑧-⑨ 多民族国家の民族問題
- ⑩-⑪ 民族、宗教紛争
- ⑫-⑬ 国境をまたぐ民族：接近と疎遠
- ⑭ 21世紀における民族と社会、近代性
- ⑮ テスト

●評価方法

定期試験と中間レポート、出席により評価する。

●受講生へのコメント

日頃から世界の様々な民族集団の文化、それらの社会の多様性に目を向けてほしい。多様な民族と社会の存在、その現実に対する関心、認識また理解を得られることはこの授業の究極的な目的といえよう。

●教材

教科書は特に指定しない。授業中適宜参考文献を紹介する。

アジアの地域と文化 演習

Seminar: Regional and Cultural Studies of Asia

(前期 火・2 全)

2単位

文学研究科 中川 眞

●科目の主題と目標

本演習ではインドネシアのガムラン音楽の演奏法習得を通じて、アジア的な音楽表現に親しむ。音楽は楽譜ではなく身体にある、ということを実感するだろう。そういった音楽的身体を体験することによって、音楽に対するこれまでの先入観は打ち砕かれていく。と同時に、日本とアジアの文化を比較し、アジアの眼差しから欧米の文化を見つめるための端緒を得るだろう。まずはガムラン音楽の基礎からはじめ、いくつかの楽器の習得し、最終的には3-4曲を演奏することができるようにしたい。

●授業内容・授業計画

- (1) ガムランの手ほどき
- (2-6) ランチャラン形式の演奏法習得
- (7) ガムランコンサートの鑑賞(随時)
- (8-12) ラドラン形式の演奏法習得

(13-14) 演奏の仕上げ

(15) まとめ

授業は基本的に実習形式であり、初歩からの演奏の手ほどきを行う。音楽経験の有無は問わない。また、ガムランのコンサートなどがあれば、それを聴きにきたい。

●評価方法

出席点とともに、演奏の習得レベルをチェックする。学期末の終了時に実技習得の見極めチェックを行う。

●受講生へのコメント

楽器の数に制約があるため、受講生の数を15名以内に制限する。受講希望多数の場合は選抜する。ガムランはコミュニティ重視の音楽であり、他者への関心と寛容性を心がけてもらいたい。

●教材

授業中に配布する。

日本事情 I A

Current Japanese Culture and Society I A

(前期 火・1 全)

2単位

非常勤 山東 功

●科目の主題と目標

「日本事情 I A」は留学生に対して現代日本の事情を紹介・解説する科目である。日本事情について紹介されたさまざまな文章の読解を通じて、日本に関する基礎知識を身につけるようにしていきたい。

なお、本科目受講者は留学生を対象にしているため、日本の学生は単位取得できないので注意すること。

●授業内容・授業計画

日本事情について紹介されたさまざまな文章の読解を通じて、日本に関する基礎知識を身につける。なお、期間中に学内教員による2回の特別講義が設けられているので、必ず出席すること。

①ガイダンス・授業科目「日本事情」について

②-⑩日本事情概説 日本語、日本文学、日本文化、日本史、日本地理、日本の政治・経済

⑬⑭特別講義(2回 日程については後日連絡)

⑮まとめ

●評価方法

レポート40% 平常点(出席・コメント)60%

●受講生へのコメント

問題意識を明確にしたレポートを特に評価するが、授業中の積極的な参加・質問等についても重視する。

●教材

プリントを配布する。

日本事情 I B

Current Japanese Culture and Society I B

(後期 火・1 全)

2 単位

非常勤 山東 功

●科目の主題と目標

「日本事情 I B」は留学生に対して現代日本の事情を紹介・解説する科目である。日常生活の中で疑問に思ったことについて、スピーチや学生同士の討論などを通して、納得のいく答えが見つけれられるようにしていきたい。

なお、本科目受講者は留学生を対象にしているため、日本の学生は単位取得できないので注意すること。

●授業内容・授業計画

「日本事情」の諸事項について、自分の力で調べ、自分の言葉で説明できるようにする。なお、期間中に学内教員による 2 回の特別講義が設けられているので、必ず出席すること。

①ガイダンス・授業科目「日本事情」について

②～④日本事情概説 住宅、買い物、食生活

⑤～⑫学生スピーチ 交通事情、四季、年中行事、祭り、教育、大衆娯楽、家族、宗教

⑬⑭特別講義 (2 回 日程については後日連絡)

⑮まとめ

●評価方法

レポート 40% 平常点 (出席・コメント) 60%

●受講者へのコメント

問題意識を明確にしたレポートを特に評価するが、授業中の積極的な参加・質問等についても重視する。

●教材

プリントを配布する。

日本事情 II A

Current Japanese Culture and Society II A

(前期 水・3 全)

2 単位

文学研究科 増田 聡

●科目の主題と目標

現代日本のポピュラー音楽文化や都市の音楽環境の諸相について議論する。留学生が参加する授業という特性を生かして、受講者間の討議を交えながら、比較文化論的な観点から現代日本および諸外国の音文化・大衆文化を検討する批判的視座の獲得を目指す。

●授業内容・授業計画

カラオケ、携帯オーディオプレイヤー、多彩な CM 音楽、携帯電話着信メロディ、J ポップ、レンタル CD 店、YouTube など、現在の日本の都市空間やメディア空間で目に (耳に) することができる音楽環境は、あるものは海外から由来し、あるものは日本に生まれたものであるが、さまざまな歴史的・社会的な文脈を経て現在あるような姿へと至っている。われわれが聞き流す「あたりまえ」の音楽や音楽環境が、異なる社会の耳にとってどのように聞こえているかを探るべく、留学生と日本人学生との意見交換を行いながら授業は進行する。よって、下記の授業計画は大まかな方向性を示すものであり、受講生の関心に応じて内容は適宜変更される。

授業はゼミ形式を軸に、ときおり講義を交えるかたちで行われる。何度かのレポート提出を経た後、受講生は、日本の (あるいは自国の、または他国の) 音楽文化について、IT 機器を使用しつつ映像や音楽を交えたプレゼンテーションを、最低一人あたり一回は必ず行うことになる。そのため、受講に際しては基礎的な情報処理知識 (ウェブ閲覧、音楽・動画の提示、プレゼンテーショ

ン資料作成など) を身につけていることが前提となる。発表準備はかなりの負担となるので、覚悟して受講すること。日本や諸外国のポピュラー音楽文化についての比較文化論的な知見を深めようとする学生の受講を期待する。

(1-2) イントロダクションと授業方針の決定

(3-5) J ポップ、歌謡曲における「日本的イメージ」の諸相

(6-9) 日本の都市音楽環境・音楽メディア環境について

(10-15) 諸外国の都市音楽環境・音楽メディア環境について

●評価方法

出席点と発表内容、討議への参加度、随時課されるミニレポート、および最終レポートを総合して評価する予定だが、受講者数によっては変更する可能性がある。

●受講生へのコメント

留学生特例科目のため、留学生は優先的に全員受け入れ、日本人学生を選抜して受講生の上限を 20 名程度とする予定。受講生の選抜方法などは初回の授業で指示するので必ず出席すること。初回の授業に欠席した学生の受講は認めない。また、出席と討議への参加度を非常に重視する。

●教材

授業内で指示する。

日本事情 II B

Current Japanese Culture and Society II B

(後期 水・4 全)

2 単位

非常勤

鈴木 伸太郎

●科目の主題と目標

留学生向けに日本の現状を分かりやすく解説するのが「日本事情」であるが、この講義は主に日本の経済や社会の最近の変化に着目しながら説明するものである。また、日本で生まれ育った人たちが聴いても参考になる内容になるようにしていきたい。

日本事情といっても、必ずしも日本の「特殊事情」の解説ではなく、公共サービスの担い手の問題や、少子高齢化など、世界の他の国々にも共通する課題の中で、日本はどのような「解」を出そうとしているのか、どの程度までそれが成功と言えるのか、などについて理解を深めることが講義の目的である。言い換えるなら、21世紀初頭の世界における一社会としての日本社会がテーマであり、留学生を含めて受講生の現在の生活空間である日本社会の理解を通して、世界の他の国々（あるいは受講生の出身国）の社会の「事情」についての理解が少しでも深まるようにしていきたいと思う。

●授業内容・授業計画

まずは日本政府の財政事情をとりあげる。その桁外れの深刻さ、そこに至る経緯、そうした深刻な財政問題が政策や社会生活全般に影を落としている現状、および将来の努力の方向性などについて理解することを目指す（2回分）。

こうした財政事情を背景に2001年以降、公共事業の削減が進められて来たが、その結果建設業が打撃を受け、特に地方経済が落ち込んでしまった。このような政策のジレンマについて理解を深める（2回分）。

地方経済回復の方策が模索されているが、その中で食

糧自給率低下の問題と合わせて、農業の産業としての回復が政策課題となっている（3回分）。

経済全体の回復には気長に新規事業を立ちあげていく努力が必要である。起業家や、その支援、特にリスクを社会全体で分担する方法等について説明する（3回分）。

また、少子高齢化は特に日本では他の国々に比べてスピードが速く、そのために将来に対する不安が増大しているのも事実である。年金や医療といった問題にそれが典型的に、また集中的に表われている。まず年金問題について概説する（2回分）。

次に医療問題について概説する（2回分）。

受講生の皆さんはこれらの問題についても理解を深めて、今後の社会の課題について自ら考えていく力を養ってほしいと思っている。受講する皆さんとともに私も考えていきたいと思っている。

●評価方法

レポート試験（やや長文・5000字程度）の評価が主体である。ただし、毎回の授業で作文という形で各自の意見を発表することを課題にする予定なので、課題への取り組み状況も考慮して評価する。

●受講生へのコメント

受講者は留学生であることを想定しているが、留学生以外の学生の履修も認める。しかし受講希望者が多い場合には、留学生以外の学生の履修を制限することがあるので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。

●教材

教科書は指定しない。参考書は随時紹介し、必要な資料は授業において配布する。

日本の古典文学

Introduction to the Classics of Japanese Literature

(後期 火・2 全)

2 単位

文学研究科

小林 直樹

●科目の主題と目標

人間が、長い時間の経過によっても侵食されることのない、不易の側面を有していることは言うまでもない。古の書物をひもとけば、古人の喜び、悲しみ、悩む姿が現前して、我々の共感を誘い、また数々の智慧の言葉が発せられて、我々の心をとらえる。時代を超えて読みつがれる古典というものは、こうした点によって支えられている面が大きいと言えよう。

けれども、その一方で、人間の営みの中には、時代と共に変化し、あるいは失われて、後代の人間の常識や感覚では、もはや捉えがなくなってしまうような部分が存在することも否定できない。古典を読む際、この点はいくらかの障害となって前方に立ちふさがることもある

う。が、我々が少し努力して古人の側に身を添わせるなら、そこに、日頃何らの疑念も抱かずに当然視してきた「常識」を相対化し、くつがえす新鮮な視点が潜んでいるのを発見することも稀ではないのである。

本科目では、実地に古典文学の世界に触れる中で、上記のような、現代において古典をよむ楽しみと意義を理解してもらうことを目的としている。何百年という時を超えて、古典の世界に飛び込み、しばし古人と哀歓を共にし、また大いに彼らに学びたいと思う。

●授業内容・授業計画

本年度は、軍記物語の名作の一つ、『平治物語』を絵巻化した『平治物語絵巻』をよむ。詞書（文章の部分）を読んだ後に、それに該当する絵画部分を鑑賞し、物語を

総合的に味わう。予定している授業の概略は以下の通り。

ガイダンス(1回)、総説(1回程度)、「三条殿夜討巻」(2回程度)、「信西巻」(2回程度)、「六波羅行幸巻」(2回程度)、「六波羅合戦巻」(1回程度)、「常葉巻」(5回程度)。

●評価方法

試験による。ただし、授業中に書いてもらうコミュニケーションカードの内容も加味する。

●受講生へのコメント

物語や歴史が好きな人にお奨め。授業中はテキストとスクリーンに写される絵画世界にひたすら没頭してほしい。

●教材

教科書：プリントを配布。

参考書：宮本常一『絵巻物に見る日本庶民生活誌』(中公新書)他

東洋の文学

Oriental Literature

(前期 木・2 全)

2単位

非常勤

福田 知可志

●科目の主題と目標

一昨年は『三国志演義』を扱ったが、本年は同じく中国古典小説の名作、『水滸伝』を取り上げる。義で結ばれたアウトロー達の活躍を生き生きと描いたこの作品は、「梁山泊」、「好漢」など、日本でも馴染みの深いフレーズでよく知られている。本講義では、『水滸伝』に描かれた個性豊かな登場人物の描写の妙を、原文を通じて体験し、受講者の中国古典小説への関心を高めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

水滸伝に登場する梁山泊の好漢や代表的な人物に関する記述を、先行研究の成果も踏まえ、紹介してゆく。授業計画は以下のとおり。

- ①～② 『水滸伝』について/ストーリーの紹介や中国小説史上の位置づけなど概説中心
- ③～⑨ 武闘派の好漢たち 林沖・魯智深・武松・史進・李逵・李俊・石秀…
- ⑩～⑫ 文官型・魔術師としての好漢たち 宋江・呉用・公孫勝…
- ⑬～⑭ その他の登場人物 高俅・扈三娘・西門慶・

李師師…

(以上列举した人物はあくまでも予定であり、要望があれば適宜変更する)

●評価方法

出席点(三分の一欠席、すなわち五回欠席者は不合格とする)及び授業中で課されるレポートを平常点として三割、期末試験を七割とし、総合して評価を決定する。

●受講生へのコメント

原文を扱うので、漢文の基礎学力を身につけていることが望ましい。必要に応じて基礎文法事項を確認する予定である。『水滸伝』を既知の者もそうでない者も原文読解を通じて、その味わいを楽しんで欲しい。

●教材

授業時に作成した資料を配布する。

参考書：高島俊男『水滸伝の世界』(大修館書店、一九八七年)

佐竹靖彦『梁山泊』(中央公論社、一九九二年)

訳 本：駒田信二訳『水滸伝』(『中国古典文学全集』十～十二巻、平凡社、一九五九～一九六一年)

日本の詩歌

Japanese Poetry

(前期 火・3 全)

2単位

文学研究科

村田 正博

●科目の主題と目標

詩歌は、古代の祭祀における呪詛の言葉と共同作業における結束の詠唱を母胎として生まれ、王朝の折節を彩り、主として貴族の交流の具として発展を遂げた一、それが古代の詩歌。王政が揺らぎ、王朝から逸脱したところで言葉の新しい可能性を追究し、風雅に遊び「わび・さび」といった境地へといたる一、それが中世の詩歌。明治維新を経て、西洋化が進む中で、一個の人格として思うこと、感じることを吐露するのが詩歌だと自覚し、恋を歌い苦悩をうたい勇気を歌う一、そうしてそこに人として生存してある根源の、言葉による把握と表明を行なおうとする一、それが近代の詩歌。時代三区区分法によって言うならば、ざっとしたところ、そんな展開をたどっ

て、日本の詩歌の千数百年の蓄積がある。

この展開は、政治や社会の展開に比べて、微細であり緩慢でもあり、それを考察の対象としてみたところで、はかばかしい成果をあげることができるものかどうか、必ずしも見透しは明るくはなく、大きな期待も寄せられていないのが現状である。

しかし、人間を人間としてあらしめる最も根幹をなすもので言葉があることを重視するならば、言葉を手立てとして人間存在の根源に迫ろうとする詩歌というものは、さまざまの言葉のありようの中で、最もその本質に関わるものであることに、人間として、実は、気づいていなければならない道理である。

われわれは、詩歌を、不当に軽く見てはいないであら

うか。詩歌は、言葉の、最も言葉らしい顕現なのであり、したがって、それが軽視されるとき、人間の存在そのものが軽視されているのだと言っても、けっして言い過ぎではないのである。

これから半期をかけて試みる授業が、以上のような主張に見合うものとなるかどうか一、担当者として精一杯の努力を約束するとともに、受講の諸君の感性と誠意に期待する。

●授業内容・授業計画

- ①詩とはなにか？ (2～3回)
- ②詩のことば・日常のことば (2～3回)
- ③新しい時代を拓いた詩 (4～5回)
- ④ゆかしき詩人たち (4～5回)
- ⑤詩人が追放されない国をめざして (最終回)
- ⑥まとめ・レポート受取 (最終回)

(授業回数は、だいたいの目安である。①の授業で③の内容にふれるといったことも、テーマの性質上、おそらくあるだろう。諒とされたい。)

●評価方法

毎回の授業に対する意見・感想(特製出席カード)と期末のレポート(授業の趣意に沿って諸君の思索のあとを披瀝すること)による(評価の比重は、前者50%・後者50%)。

●受講生へのコメント

教えるとは、夢を語ること、学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。

これは、フランスの詩人、アラゴンの言葉。そんな授業が実現されるように…。

●教材

プリント配布。

参考書：茨木のり子『詩のこころを読む』(岩波ジュニア新書)

澤 正宏・和田博文『日本の詩 近代篇』(和泉選書)

宗 左近『あなたにあいたくて生まれてきた詩』・『詩のささげもの』(ともに新潮社)

正津 勉『詩人の愛』(河出書房新社)

東洋美術の流れ

History of Eastern Art

(後期 金・2 全)

2単位

非常勤

土井 久美子

●科目の主題と目標

「美術」と聞いて思い浮かべるのはなんだろう。展覧会で見たヨーロッパの絵画、美術の授業、お寺の仏像や襖絵見学、掛け軸やきものなどの書画骨董...まだまだいろいろあると思う。しかし多くの人にとって「美術」はそんなに身近にあるものではないであろう。

我々が暮らす日本では、中国・朝鮮半島の影響をうけながら、様々な場面において多彩な造形が生み出されてきた。たとえば信仰のために作られた仏像、仏画、法具、荘厳具。貴族の生活のなかから生まれた絵巻。城郭をかざった襖絵・屏風。調度類。茶の湯の場で用いられた椀・釜・茶入など、能の舞台で用いられた面や装束、武家の女性が身に纏った小袖、などいろいろなものを作られてきた。こうして制作されたもののうち、すぐれた技によって作られ、今日まで伝えられた貴重な優品が今日「美術」とよばれている。

この授業では、日本で生み出された各種の造形を中心に紹介し、その作品が何のために、どのようにして作られたかなどについて具体的に見ていきたいと考える。そして紹介した東洋の美術作品がどのように捉えられているか、またそのみどころについて紹介したい。

●授業内容・授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 古代の造形 宗教と荘厳
- 3 中世の造形 古典文学とのかかわり
- 4 中世の造形 中国と日本
- 5 近世の造形 屏風と調度
- 6 近世の造形 茶の湯

- 7 近世の造形 衣裳と装身具
- 8 近代の造形 美術史という学問の導入
- 9 近代の造形 民芸
- 10 現代の造形

●評価方法

レポートの提出とテストを課す。出席状況を成績に加味することがある。さらに出席と同時に、受講態度も評価の基準とする。あまり受講態度のよろしくない学生は退出を御願いすることもある。

●受講生へのコメント

授業はパワーポイントを用いてすすめる。絵画、染織、陶磁、蒔絵など、様々な表現技法を用いたものがあるので、各自技法やスタイルについての見識を深めておいて欲しい。また授業でとりあげられる寺院や仏像などを、現地に赴き、必ず実際に見ていただくことを御願いする。受講前に読んでおくとよい本として次の数冊をあげておく。

- ・ ひらがな日本美術史 橋本治 新潮社
- ・ 日本美術の二〇世紀 山下裕二 晶文社
- ・ 日本美術応援団 山下裕二 赤瀬川源平
- ・ 京都、オトナの修学旅行 山下裕二 赤瀬川源平
- ・ 日本美術の歴史 辻惟雄 東京大学出版会

●教材

教科書にそって授業はすすめないが、広範囲に及ぶ地域と時代について短期間に学習するため、事前に上記参考図書を熟読のこと。

音楽の諸相

Aspects of Musics

(前期 水・4 全)

2 単位

文学研究科 増田 聡

●科目の主題と目標

英米圏を中心とした 20 世紀のポピュラー音楽史について論じる。19 世紀末に出現し、20 世紀初頭に欧米から世界中に普及していったレコードやラジオといった音響複製メディアは、それまでの音楽文化の姿を大きく変えることになった。さまざまな民族や都市文化の美学を反映した多様なポピュラー音楽が市場に出回り、音楽産業は巨大なビジネスになっていく。本講義では、とりわけ 20 世紀の音楽産業の発展に最大の影響をもたらした英米のポピュラー音楽史を、技術、経済、思想、政治、民族性、美学などの観点から、映像資料に基づいて概観していく。

●授業内容・授業計画

- (1) ポピュラー音楽の社会的背景
- (2-4) 初期音楽産業、ジャズとブルース (アメリカ黑人音楽文化と複製メディア)
- (5) ロックンロールの誕生
- (6) 公民権運動とフォークロック
- (7) 60 年代ソウル
- (8) 英国へのアメリカ黑人音楽の影響
- (9) サイケデリック文化とロック

(10) 70 年代ロックの拡大と展開

(11) パンク・ロック

(12) 70 年代黑人音楽の発展 (ファンク、ディスコ)

(13) 80 年代の MTV 文化とヒップホップ

(14) 90 年代以降のテクノ/クラブカルチャーの展開

(15) MTV 的な音楽/映像文法の諸相

順序は入れ替わったり、二つの主題を同じコマで行う場合もある。

●評価方法

学期末試験の点数により評価する。

●受講生へのコメント

例年受講希望者が多く、受講の可否は抽選となる可能性が高い。単位取得ではなく、講義内容に関心を持つ学生の受講を希望する。時間割を埋めるための履修登録は講義内容に関心をもつ学生にとって迷惑となるので避けること。初回授業に欠席した学生の受講は認めない。

●教材

教科書として下記を指定する。通読したうえで必ず毎回授業に持参すること。また、学期末試験時に使用する。増田聡・谷口文和『音楽未来形——デジタル時代の音楽文化のゆくえ』(洋泉社)

視覚文化の世界

The World of Visual Culture

(後期 火・4 全)

2 単位

非常勤

元井 めぐみ

●科目の主題と目標

服装というものは無くしてはならないものであり、身近な存在であるが、今日私たちが着ているものはほとんどが西洋由来のものであることは確かである。古代から現代まで人々がなぜそのような服を着、飾ったかを学ぶことはより端的に文化のあり方を知るきっかけとなる。服飾を通じて西洋の歴史を見ていくことでひとのおもしろさ、不思議さを学んでいく。

●授業内容・授業計画

- ①古代エジプトと古代メソポタミア
- ②古代エーゲ海文明とギリシャ
- ③古代ローマとビザンチン
- ④ロマネスクとゴシック
- ⑤スライド(古代～ロマネスク)
- ⑥ルネサンス

⑦バロックとロココ

⑧革命とナポレオン

⑨スライド(ルネサンス～ナポレオン)

⑩ロマン主義と世紀末

⑪ベル・エポック

⑫戦後

⑬現代

⑭スライド(ロマン主義～現代)

●評価方法

定期試験。授業態度なども減点の対象とします

●受講生へのコメント

知的好奇心を持ってください。

●教材

プリントを配布します。参考書はそのつど紹介します。

文学と芸術へのいざない 演習

Seminar: Introduction to the Literature and Art

(前期 月・2 全)

2 単位

文学研究科

高梨 友宏

●科目の主題と目標

美学・芸術学関係の文献の読習、発表、受講者相互のディスカッションを通じて、芸術への(共通)理解を深めることをめざす。

●授業内容・授業計画

本年度は美学・芸術学を専攻する教員が本授業を担当する。芸術諸ジャンル(絵画・音楽・文学・演劇・建築・映画・舞踏など)や時代(ルネサンス、近代、現代など)を特に限定することなく(ただし、講師自身がカバーできる範囲、参照可能な文献の存在など、条件にはおのずから限界があるので、こうした限界を超えるものについてはその限りではない)、広く芸術現象一般について、その本質、機能、魅力、意義等を、受講者とともに考察したい。その際、芸術への趣味や愛着は単に主観的・個人的なものにとどまるのか、あるいはそれは主観的・個人的なレベルを超えた普遍性を持ちうるのか、という問いを通奏低音として堅持したいと思う。

授業は全体として、受講者の「発表」によって構成される(1コマに1-2名程度の発表を予定している)。発表に際して受講者は以下に挙げる①~③の手順に則ることとする(ただし受講者の人数、関心の方向、知識の深淺等を考慮して、手順を変更する場合もありうる)。すなわち、

- ① 発表に際して、受講者は、関心を持つ作品(あるいは芸術家)を挙げる(パソコン、CD、DVD、書画カメラ、その他による作品提示)。
- ② なぜその作品(あるいは芸術家)に関心があるのか、なぜそれが好きなのか等について、それぞれ

の見解を開陳してもらう。それぞれの意見表明に対して、他の受講者および講師から質疑を差し向け、ディスカッションを展開する。講師は必要に応じて、美学・芸術学上の見解を紹介し、適当な文献の読習を指示するなど、ある程度の考察の方向を示す。参加者はそれぞれの課題を遂行しつつ、自らの見解を深め、更新する。

- ③ 二巡目以降の発表者は、更新された見解について発表し、ディスカッションを深める。

初回は授業方法の説明と受講者の自己紹介、発表順の確定に充て、2回目以降は受講者の発表を軸に授業を進める予定。受講者はそれぞれに関心を持つ作品(あるいは芸術家)の世界をより深く探求し、また他の受講者をその世界に「いざなう」よう努めることが期待される。

●評価方法

毎回の授業への積極的な参加態度、各自の課題への取り組みなどに基づいて評価する(期末試験は行わない)。

●受講生へのコメント

- 1) 受講者数は15名までとする
- 2) 受講希望者多数の場合、高学年の履修を優先し、くじ引き等の手段を講じて選抜する可能性がある。
- 3) 受講者それぞれが授業を推進する役目を果たすことになる(講師はできる限り多言を慎みたい)。発表の際のみならず、他者の発表を聞く場合にも、積極的な発言を期待する。

●教材

適宜指示する。また必要に応じてコピー等を配布する。

数学の考え方

Concepts of Mathematics

(後期 月・3 全文・H(人)・M(看)) 2 単位

特 任 住岡 武

[平成16年度以前に「現代数学の考え方」の単位を修得した者は、この科目は履修できない。]

●科目の主題と目標

数学に関連した内容や問題を色々な角度から解説していく。そしてそこに現れる様々な事柄について考えたり解いたりしていく中で、常識や先入観にとらわれない自由な発想というものの重要性を認識し、物事の本質のとらえ方を学び取ることを大きな目標とする。

●授業内容・授業計画

講義は数学的な考え方を重視するような内容を主に選ぶ。少し難しく思える式も現れるが、細かい計算に依存するようなところはできるだけ避ける。また、一つの話題は通常1、2回の講義で終わり、前の話が分からなくても次に影響しないように授業を進める。具体的には、例えば、次のような項目からいくつかの話題や問題を取りあげ、それらについて考えていきたい。

- (1) 巨大な数

- (2) 極限、無限級数
- (3) 平均
- (4) 論理数学
- (5) パラドックス
- (6) 非ユークリッド幾何

●評価方法

出席点、小テストで評価する。

●受講生へのコメント

数学の予備知識としては、おおむね文系学生の常識程度で十分であるが、数学への興味と論理的思考力のあることが不可欠である。

●教材

教科書は用いない。授業中に配付するプリント等を用いる。参考書は講義のなかで紹介する。

数学の考え方

Concepts of Mathematics

(前期② 月・1 全)

2 単位

理学研究科 西尾 昌治

●科目の主題と目標

数学は自然科学の基本的言語であることはもとより、人文科学・社会科学においても大切な概念・視点を供給し続けている重要な基礎科学である。

しかし現代数学はその豊富な歴史と研究対象の膨大さ・高度に専門化した研究手法の複雑さから、ともすればとても近寄りがたい対象のようにも見えるだろう。専門用語の複雑さ、その概念構成の厳密さのゆえに、現代数学の最先端の成果を平易に説明することはたいへん困難な状況になっているようにも見える。高度に専門化した数学的訓練を受けなければ、現代数学のもたらす豊かな実りを享受することは出来ないのだろうか。実際には決してそうではないと考える。数学は、もっと素朴な形で日常生活の様々な側面に、その本質を失うことなく静かに息づいていると思う。

この講義では、現代数学の中の重要なキーコンセプトを、様々な例を通して列伝的に紹介していく。その過程で、現代数学の取り扱っている問題や、『なぜそのように

考えるのか』といった発想法にまで立ち入ったことから学ぶことを目標とする。

●授業内容・授業計画

現代数学を語る上で重要な概念を、1～3回のオムニバス形式の講義で取り上げる。各話題の間には緩やかな関連があるが、基本的には各話題は独立である。数学関連の講義であるので、もちろん数式も使用する。また黒板を使用したオーソドックスな講義である。

●評価方法

毎回の小テスト（出席点）および課題レポートの提出による。

●受講生へのコメント

予備知識はあまり必要としない。高校の数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数Bで十分であるが、数学への興味は不可欠である。

●教材

教科書は用いない。適宜プリントを配布する。参考書は授業時間中に挙げる。

ニュートンからアインシュタインへ

History of Physical Concept from Newton to Einstein

(前期 木・2 全文・H(人)・M(看)) 2 単位

非常勤 内藤 清一

●科目の主題と目標

古典物理学から相対性理論や量子力学に代表される現代物理学に至る歴史的過程において、種々の自然現象を理解するために先人達により工夫、発見された種々の物理的思考方法を、できるだけ易しく理解できるように講義する。

●授業内容・授業計画

特に、力学的現象を中心に、ビデオ教材を利用しながら授業を進める。

1) ニュートンの法則 2) リンゴと月 3) 調和振動 4) 宇宙の航行 5) エネルギーの保存 6) 運動量の保存 7) 角運動量 8) 四つの力 9) 落体の法則 10) 慣性 11) 円運動 12) ミリカンの実験 13) ケプラーの法則 14) 波動 15) 温度と気体の法則 16) 曲がった空間とブラック・ホール

更に、“物理学読本”（朝永振一郎編、みすず書房）を準教科書として採用し、以下の項目より適宜説明する。

1) 月はなぜ地球に落ちてこないか。地球の重さはどうしてはかるか。 2) 光が波であるとはどういう意味か。 3) エネルギーの旅 4) 電気振動 5) 原子論の発展 6) 原子内部の構造 7) 量子の概念と物理学の将来

●評価方法

出席率、中間試験及びレポートなど。

●受講生へのコメント

講義内容が広範囲にわたるので欠席しないように心がける。また、講義項目は講義の進捗状況により変わることがある。数式は若干使用する。

●教材

教科書 朝永振一郎 “物理学読本”（みすず書房）。

ニュートンからアインシュタインへ

History of Physical Concept from Newton to Einstein

(後期② 月・1 全)

2 単位

特 任 河合 俊治

●科目の主題と目標

ニュートン力学、電磁気学、熱力学、相対性理論、量子力学等、ガリレイ、ニュートンの時代から現代に至るまでの物理学の発展と基礎概念、基本法則および身近な事象の背後にも深い物理理論が潜んでいること、理解を目標に講義する。

●授業内容・授業計画

以下の項目について、難しい数式を使用せずに易しく解説する。

- 1 見馴れた自然現象の陰にも物理学の深い理論が潜んでいる (1 回)
- 2 ニュートン力学 (2 回)
慣性、運動の法則、作用と反作用、ガリレイの実験 (羽毛と鉄球)、ケプラーの法則、万有引力の法則
- 3 電気と磁気の法則 (2 回)
電荷、電流、電場、磁場、電磁波
- 4 熱力学 (2 回)
熱、エネルギー保存則、不可逆現象

- 5 家電製品にみる物理 (1 回)
エアコン、冷蔵庫、電子レンジ、電磁調理器等

- 6 特殊相対性理論 (3 回)

光の速さの普遍性、同時刻の相対性、運動する物体の短縮、運動する時計の遅れ (浦島効果)、質量はエネルギーの一形態、 $E=mc^2$

- 7 一般相対性理論 (1 回)

曲がった時空と重力、ブラックホール、宇宙

- 8 量子力学—ミクロの世界の物理学 (2 回)

波動性と粒子性、不確定性関係、分子、原子、原子核、素粒子、・・・

●評価方法

レポート、試験、出席状況などによる総合評価。

●受講生へのコメント

講義内容は授業の進捗状況により若干変更することがある。講義への積極的参加を期待する。

●教 材

配布するプリント。

物質の多様性

The Versatility of Matter

(後期 月・2 全文・H (人)・M (看)) 2 単位

理学研究科 品田 哲郎

●科目の主題と目標

本講義では、現代社会を支える物質の一つ、薬を題材に取り上げる。

まず、東洋と西洋における薬の歴史について学ぶ。分子についての知識がなかった時代に、先人たちは病気や薬についてどのように考え、対処してきたのか。今に残る漢方薬などの伝承医薬を例に、先人の知恵や考え方を紹介したい。

現代の薬の多くは、ほんの 150 年ほどの間に生み出された。そこには分子科学の大きな進歩があり、現在では、分子レベルで、病気の機構や薬の構造を考えることができるようになった。しかし、目に見えない世界であり、分子科学の専門的知識が要求されるため、一般的に分かりにくいものとなっている。本講義では、分子の世界をわかりやすく解説することで、薬についての疑問を一つ一つ紐解いていきたい。

●授業内容・授業計画

以下を順次解説するとともに、「薬についての問い(50 項目ほどある)」を適宜実施し、具体例をもとに薬についての理解を深めていく。問いの一例を示す：子供には大人の量の半分を与える目安がある？；抗生物質は風邪に

効く？；薬は胎盤を通過できるのか？；注射剤、錠剤、座薬のうち効き目がもっとも遅いものは座薬？

授業計画

- ・ガイダンス
- ・薬の歴史：西洋、東洋における薬の発展。漢方薬：その考え方、など。
- ・体内で薬はどうなるのか：吸収、分布、代謝、排泄を考える。
- ・薬の効果
- ・薬が世にでるまで：開発の過程、安全性評価
- ・新薬とジェネリック、抗菌と抗ウイルス、こころと薬などの解説

●評価方法

出席、レポート、および試験によって評価する。

●受講生へのコメント

授業は板書を中心とし、補助的にプリント等を配布する。

授業では、これまでに皆さんが学んできた生命科学のさまざまな知識 (おそらく断片的か点在している) を繋ぎあわせて考えてほしい。それは、薬がさまざまな科学研究分野の英知を結集して作られているからである。

薬を理解することは、分子科学の理解とともに、自分たちの体の仕組みを知ることでもある。化学を履修していないことを前提に講義を進めるが、各臓器の名称や、それらの働きといった基本的な体の仕組みについては思い

出しておいてほしい。

●教材

授業中に参考文献等を示す。

物質の多様性

The Versatility of Matter

(前期② 木・1 全)

2 単位

理学研究科 吉野 治一

●科目の主題と目標

我々の身体や周囲の物質についてより深く理解するために、現代の物質観を構成する概念について解説する。題材として、敢えて1種類の物質「水」のみを取り上げる。水と他の物質の共通点および水の特殊性を学ぶことで、物質についての最新の知識を広く浅く習得する。

●授業内容・授業計画

全14章からなる教科書を1章ずつ読み進める。プレゼンテーション・ソフトを用いて解説する。以下、教科書の各章の内容。

1. 水分子1 原子・量子力学・素粒子 2. 水分子2 分子と原子・共有結合とイオン結合・水の分極 3. 水分子3 光子・分子運動の量子化・物質の色 4. 水分子4 電子の運動と磁性・スピン・磁気共鳴 5. 気体の水 物質量・圧力・温度 6. 液体の水1 分子が液体をつくる力・融解と沸騰・水の局所構造 7. 液体の水2 イオン・酸・塩基・水と電流 8. 液体の水3 表面張力・表面の効果・水と油 9. 水の相転移1 結晶・結晶構造・雪と

フラクタル 10. 水の相転移2 水の相図・臨界点と超臨界水・氷の相転移 11. 水の相転移3 熱力学の第一法則・熱力学の第二法則・水の熱力学 12. 水の相転移4 凝固点降下・過冷却・ガラス 13. 重水 同位体1・同位体2・核反応と重水 14. 水の起源 水素の誕生・酸素の誕生・地球と水

●評価方法

小テストおよびレポート。詳細は以下のwebサイトに掲載する。

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/~yoshino/Lect/Lect.htm>

●受講生へのコメント

海はなぜ青いのか、電子レンジが水だけを温めるのはなぜか、氷はなぜ水より軽いのか、など自然についての素朴な疑問や好奇心を持った受講生を歓迎する。

●教材

自筆教科書をpdfファイルとして上記サイトで配布する。各自印刷して持って来ること。教科書がない者は欠席とみなす。

現代の分子科学

Modern Molecular Science

(前期①月・3 全文・H(人)・M(看)) 2 単位

(後期②水・1 全)

2 単位

特任 工位 武治

●科目の主題と目標

私たちの日常の健康に重要な役割を果たす食品や医薬品は、化学物質からできている。また、PCをはじめとするエレクトロニクス、ニューセラミックス、高速光通信などに使われている素材は高度な化学技術の上に成り立っている。無論、私たちの身体はすべて化学物質からできており、生命体としての機能は物質の機能に支えられている。現代社会は、いわば「ユビキタス分子」、「ユビキタス分子科学」に支えられている。本科目では、化学を専門としない学生に、化学に興味をもってもらうこと、ちょっとした化学の知識と考え方が質の良い生活(QOL=Quality of Life)を日常的に送るために大変役に立つことを念頭において、どのような化合物が何のために、どのように使われているか、その根底にある化学の法則とはどのようなものか、また物質の構造はどのようにして決められるかなどを学ぶ。講義の進め方は私たちにとって身近な現象を取り上げ、それらの背後に潜む謎を解き明かすと共に、現代の分子科学の果たしている役割について考え、最終的に、「日常的に化学に親しめる」ように講義する。何気ない日常の現象がいかに「非

日常的なサイエンス」で支えられているかを学び、知的な満足・探求の面白さ・重要性を知る。

●授業内容・授業計画

①化学に強くなる「化学の基礎」

②生活と化学(水は何色、地球上の水はどこから来たかなど)

③環境・気候変動(地球温暖化)・低炭素社会と化学「環境問題では嘘がほんとうにまかり通っているか」

④地磁気の消滅と渡り鳥の謎

⑤生命の化学と分子進化

⑥DNAの分子科学

⑦近未来の通信・コンピュータ=量子暗号通信・量子コンピュータとはどんなものか?実証実験は近い?

各課題を2-3週間で消化する。

●評価方法

レポートと平常点を含む総合評価。

●受講生へのコメント

化学に関するどんな疑問・質問にも応えます。

●教材

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

生物学への招待

Introduction to Biology

(前期① 水・3 全文・H(人)・M(看)) 2単位

(前期② 水・1 全) 2単位

理学研究科 田中 俊雄 他

●科目の主題と目標

地球上に生命が誕生して35億年ほどが経過した。この間、生物は遺伝子DNAを営々と子孫に伝え、そこに刻まれた暗号を弛まなく変化させながら進化した。本講義では、まず、生命の最も基本的な単位である細胞(遺伝子・タンパク質)について理解し、肉眼では見ることのできないミクロの生命体、すなわち微生物の多様性やヒトとの関わりについて論じる。次いで、生命の特徴の1つである環境に対する反応について、主に植物を例にとって概説する。さらに、動物を題材としたマクロな視点から生物進化をとらえ、進化における性の意義を解説する。

[第1ターム] ヒトのゲノムが解読された今日においても、微生物はあいかわらず私たちにとって未知の存在であり、あるものは私たちの生命を脅かす存在である。多種多様な微生物の姿をとおして、その分類上の位置づけや生物界における意義、役割について学ぶ。

[第2ターム] 生物は、まわりの環境の情報を捉え、それに適切に反応することによって生命活動を営んでいる。まず、植物の生命活動に影響する環境要因の種類と反応の概要について述べ、次に、各環境シグナルの受容のしくみ、受容されたシグナルの変換・伝達機構、そして伝達されたシグナルに対する応答や適応のメカニズムについて解説する。

[第3ターム] 当たり前と思っていることもよく考えると不思議なことが多い。動物にはなぜ雄と雌があるのだろうか。なぜ雄と雌の数はほぼ1対1なのか。動物に

は一夫一妻のものもいれば、ハレムを作るものもいるし、一妻多夫のものもいる。なぜだろう。中には性転換するものもいる。これら性にまつわるさまざまな現象も現代の進化理論から統一的に説明できる。

●授業内容・授業計画

[第1ターム] 担当：田中俊雄

1. 細胞(遺伝子、タンパク質)とは何か
2. 微生物とは何か
3. 微生物の多様性
4. 微生物とヒトとの関わり
5. 微生物についてのまとめと小テスト

[第2ターム] 担当：保尊隆享

1. 環境要因の種類と反応の概要
2. 光に対する反応
3. 重力に対する反応
4. 水に対する反応
5. 温度に対する反応

[第3ターム] 担当：幸田正典

1. 生物進化とその機構-なぜ、雄と雌がいるのか?
2. 動物の多様な「婚姻形態」-なぜ、そうなるのか?
3. 性転換や環境により決まる性
4. ヒトの進化：ヒトはどこから来たのか?

●評価方法

小テスト、レポート、出席点。

●教材

プリント：適宜配布

参考書等：田中 担当：村尾澤夫ら『くらしと微生物』(培風館)、保尊 担当：テイツ・サイガー『植物生理学』(培風館)、幸田 担当：長谷川真理子『クジャクの羽はなぜ美しい』(紀伊国屋書店)

地球の科学

Earth system science

(後期 火・1 全文・H(人)・M(看)) 2単位

理学研究科 益田 晴恵・領木 邦浩

●科目の主題と目標

「環境の世紀」と言われる21世紀に、私たちは生きていく。私たちが暮らす自然環境が、様々な自然現象の微妙なバランスの上に保たれていることを理解することなくして、地球環境問題を考えることは難しい。本講義では、地球表層部で起る様々な自然現象を、人間社会の関係から考察しよう。そのために、地震や環境汚染などの身近な自然災害を取りあげよう。また、地球システムという概念に基づいて、地球の歴史、物質とエネルギー循環を理解し、人類の社会的選択についても考えたい。

●授業内容・授業計画

人間の社会活動と関係の深い地震や都市災害、環境汚染、地下資源など、地球の現在の姿と将来予測を概説する。また、地球の姿を理解してこようとしてきた科学史

を織りまぜながら、最新の地球学の知識に基づいて、地球の歴史を概観し、地球について理解することの意義を考える。以下にその内容を示す。

- 1 地震と災害
- 2 津波の発生と伝播、被害と対策
- 3 活断層と表層地質構造
- 4 断層周辺の歪と応力
- 5 構造探査と資源調査
- 6 都市地盤の特性と住環境
- 7 地磁気の変遷と地球中心核(以上、領木担当)
- 8 地球誕生と初期進化、地球システムの概念
- 9 海洋と大気の歴史
- 10 プレートテクトニクスとブルームテクトニクス、固体地球内部でのエネルギー循環と物質分化

- 11 地球の表層循環，大気圏と水圏の構造とエネルギー循環
- 12 炭素循環と生物活動，地球温暖化
- 13 水循環と水質汚濁
- 14 生物と地球の共進化，大量絶滅事件（以上，益田担当）

●評価方法

出席点 40 点，レポートと期末試験各 30 点。出席点には，講義ごとに行う小テストを含む。

●受講生へのコメント

これまでに地学の授業を受けたことがないことを前提に授業を行う。自然環境問題に興味がある人はもちろん、持たない人にも、「地球の歴史と現在の姿を知る」ことの大切さがわかる授業を行いたい。

●教材

講義の資料は準備する。参考書は授業中に指示する。

実験で知る自然の世界

Expedition to Science World

（後期 水・3-4 全文・H（人）・M（看）） 3単位

理学研究科 飯尾 英夫 他

●科目の主題と目標

現代における自然科学の発達は著しく、私たちの身の周りのみならず、社会のあり方にまで大きな影響を及ぼしている。本科目は、文科系専攻（H・人間福祉とM・看護学科を含む）の学生を対象に、身近なテーマの自然科学実験を通して自然の世界に親しみながら、現代人にとって必要な自然科学の知識を身につけてもらうことを目指す。

●授業内容・授業計画

第1回目はガイダンスおよび消火訓練を行い、第2回目からは以下の実験を行う。（ ）内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

1. 「植物の形態とフラクタル」（伊東明、名波哲）
構内に生育する植物の形態を観察し、さらに樹形形成過程のコンピュータシミュレーションを行って、植物の形の多様性と生態学的意義を理解する。
2. 「DNAとRNAの抽出」（若林和幸、曾我康一）
生物の設計図である遺伝子の本体は核酸であり、DNAとRNAの2つの種類が存在する。植物組織から変性剤等を用い、DNAとRNAをそれぞれ分けて抽出し観察する。
3. 「地球の重力加速度」（鐘本勝一）
ガリレオやニュートンの言うように物体の自由落下が等加速度的かどうかを確かめ、ボルダの振り子の周期から重力加速度を求める。
4. 「楽器と声の音波」（小原 顕）
電子楽器や自分の声をマイクrohホンで電気信号に変え、音を波としてとらえて、音の基本的な性質を理解する。
- 5～6. 「でたらめの数学（確率篇）（統計編）」（小森洋平）
「ランダム」という言葉はウィキペディアによると「でたらめである事。何ら法則性がない事、人為的、作為的でない事」とあります。つまりどういうことなのでしょう。「確率」と「統計」という数学の言葉を使ってこの「でたらめ」を科学してみましょう。
7. 「おいしい水の話—陸水の化学成分形成」（益田晴恵、土江秀和）
ミネラルウォーターの分析を通して、水循環と水質について考える。

8. 「3Dで診る大阪の地形」（原口 強）

デジタル標高地形図「大阪」を立体視し、地形の凹凸を実感しながら地形図の読み方を学び、大阪の様々な地形を生みだした歴史や地質構造を考える。

9. 「医薬品の活性成分—解熱剤からアスピリンの単離」（館祥光）

身近な化学物質の一つである医薬品を通じて物質の性質を理解するとともに、医薬品に含まれる物質とその役割について考察する。

10. 「地球温暖化・温室効果ガス、二酸化炭素分子の秘密」（工位武治）

二酸化炭素は何故に地球温暖化の原因物質なのかを分子の世界の言葉で考え、この分子に隠された秘密を先端化学によって解き明かす。また、地球温暖化は日常生活に何をもたらしつつあるかを知る。

11. 「生物発光と化学発光」（品田哲郎、飯尾英夫）

生物発光および化学発光は熱を伴わない発光（冷光）である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。

12. 「平面を覆う正多角形のタイルの図形は3種類しかない」（村田恵三）

正多角形で平面を覆うには、許される多角形は、3，4，6角形しかなく、それ以外にはない。これを利用して水面を覆う多数の6角形で、自然に微結晶から、大きな結晶に成長することを体験する。結晶化とは自己組織化そのものである。これと、二酸化炭素排出削減の効果について学ぶ。

●評価方法

毎回の平常点を総合して成績を付ける。また、最後にどれか1つの実験に関するレポートを出してもらい、平常点に加点する。

●受講生へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。第1回目のガイダンス（基礎教育実験棟308室集合）時に受講者を決める。『実験で知る自然環境と人間』（前期開講）と本科目をともに履修することはできない。

●教材

実験指導書を配布する。

地球学入門

Introduction to Geosciences

(後期 火・1 全文・H (人)・M (看)) 2単位

理学研究科 前島 渉

●科目の主題と目標

現在の地球の姿は46億年にわたる地球の生成流転のほんのつかの間の姿にすぎない。地球の創生以来、幾多のできごとがあり、地球は変貌をとげてきた。そして現在の豊かな地球がつくりあげられてきた。人間社会と地球自然とのかかわりが問い直されているいま、かけがえない地球について理解をより深めるために、そしてわれわれ人間が今後地球に対してどうあるべきかを考えていくために、惑星としての地球から身近な地域まで、さまざまなスケールで地球をとらえる。

●授業内容・授業計画

まず現在の地球の構成と構造を概観する。とくに、人間の様々な活動の場である地球表層部の構成と運動について、自然災害との関連を含めて解説する。ついで、太陽系における地球の特異性を理解するために、地球環境の生い立ちと変遷を、他の惑星との比較を含めて解説する。また、地層に残された記録から過去の地球環境を探る方法とその具体例を紹介し、地球史規模での環境変動とその背景要因を考える。

- 1) 地球の構成と構造：地球の内部を探る様々な方法、地震波の伝わり方と地球の内部構造、重力からみた地球の内部構造。(2-3回)
- 2) 地球の表層部：地球表層部の物質と構造、大陸移動説、海洋底の拡大、プレートテクトニクス、プルームテクトニクス。(2-3回)
- 3) 日本列島周辺のプレート運動と地震活動：日本列島周辺のプレート配置と運動、沈み込みプレート境

界における巨大地震の発生機構、内陸部における活断層と直下型地震。(2回)

- 4) 地球の生成と進化：隕石が語る原始太陽系と地球の創成、地球の大気・水の起源とその変遷、地球になれなかった金星と火星。(2-3回)
- 5) 過去の地球環境を探る：地層に残された過去の地球環境変遷の記録、地層から読みとる地球の変動リズム、地層に記録された年・月・日・時。(2回)
- 6) 生物の大量絶滅とその背景：古生代/中生代境界における大量絶滅-プルームの冬-、中生代/新生代境界における大量絶滅-衝突の冬- (1回)。
- 7) 地球の年齢を測る：地球の年齢を知るさまざまな試みとその社会背景、放射性同位体による岩石の年代測定。(1-2回)

●評価方法

定期試験(60%)、レポートなど(40%)を総合して評価する。

●受講生へのコメント

高等学校で地学を履修しなかった学生を念頭において講義する。授業内容の講義項目は授業の進捗状況によって変わることがある。「地球の科学」の単位取得者は本科目を受講することはできない。

●教材

教科書は使用しない。授業に必要な資料をプリントとして配付する。参考書は必要に応じて授業中に適宜指示する。

現代の理学A

Modern Science A

(前期 火・2 全文・H (人)・M (看)) 2単位

理学研究科 平澤 栄次 他

●科目の主題と目標

高校で履修した数学・理科の内容のみでは、文科系学生が社会にでるまでに必要な理系の教養として十分とはいえない。この講義では、入学生が高校ではよく学べなかった数学・理科をもう一度学ぶとともに、その必要を理解する。そして講義の終了時には、大学生として社会に出るまでに必要な教養の理学とは何かを知り、大学在学中に理学を学ぶ心構えとする。

●授業内容・授業計画

下記の1講から14講までを授業14回で行なう。

- 1講：地球システム：地球のエネルギー・物質循環 (益田 晴恵)・4月13日
- 2講：人間-自然相互作用：環境汚染の拡大と対策

(益田 晴恵)・4月20日

- 3講：生物の進化(武山智博)・4月27日
- 4講：生活の中の生体触媒(濱口 祐)・5月11日
- 5講：宇宙の創生と物質世界の成り立ち(村田 恵三)・5月18日
- 6講：元素の化学1(木下 勇)・5月25日
- 7講：元素の化学2(木下 勇)・6月1日
- 8講：満月が大きくみえる～体内時計が発振する暮らしのリズム～(平澤 栄次)・6月8日
- 9講：動物行動学：動物の行動の意味と仕組みを探る面白い学問(幸田 正典)・6月15日
- 10講：地球温暖化の化学(中島 信昭)・6月22日
- 11講：南極の地学からみた大陸地殻の形成と進化

(隅田 祥光)・6月29日

12 講：柔らかい幾何学への招待 (栢田 幹也)・7月6日

13 講：集合と論理の話 (伊達山 正人)・7月13日

14 講：総合討論：温暖化ガス 10 年後 25%削減への提言 (平澤 栄次 他)・7月20日

●評価方法

レポートを提出できる条件は、出席回数 10 回以上とす

る。点数は、レポートに 100 点を配点するが、質問票内容に加点する場合がある。ただし、出席の回数は採点の対象にしない。

●受講生へのコメント

出席・質問は授業毎に出席・質問票を配布して集約する。

●教材

必要に応じて資料を配布する。

科学と社会

Science and Society

(前期 木・4 全)

2 単位

非常勤 木野 茂

●科目の主題と目標

この授業では環境問題をテーマにするが、そのなかで科学と社会のかかわりを人間を軸にして考えたい。

また、この授業を受けることで、他の人とコミュニケーションを取る力と自分で考える力をつけてもらうことを目標にしたい。

この授業は私 (現在、立命館大学) が本学にいたときに始めた科目であるが、いつも授業を行う上で重視しているのは、①分かりやすく、②興味深く、③双方向型に (一方的な講義にならないように)、である。

●授業内容・授業計画

1. 公害の原点：水俣病から学ぶ環境問題とは何か？
2. 水俣病は今も終わっていない
- 3～5. 授業前半：公害と労災職業病 (住民と労働者)
授業後半：グループワーク (ディベート準備)
6. チーム・ディベート大会
(地球温暖化問題をテーマに全員参加型の授業)
7. 環境公害行政の現場から
(ゲスト：二木洋子さん・高槻市会議員)
8. アスベスト問題
9. 薬害エイズは今・・・
(ゲスト：花井十伍さん・薬害HIV被害者)

10～11. 原子力の光と影

12. 環境問題と差別 (受講生による討論劇を予定)

13. 薬害を防いだ労働者

(ゲスト：北野静雄さん・大鵬薬品労組)

14. 環境問題と専門家の役割

●評価方法

レポート評価 7、授業への積極度 3 で総合評価する。レポートの課題は授業で扱った範囲内なら自由で、内容は自力で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。

●受講生へのコメント

この授業は、環境問題に関心を持っている人はもちろん、聞くだけの授業に不満な人、一度ディベートをやってみた人、風変わりな授業を経験してみたい人にお勧めである。

なお、ゲストの都合で授業の順番を変更することがある。関連科目：「ドキュメンタリー・環境と生命」

問い合わせは e-mail で：skino@fc.ritsumei.ac.jp

●教材

教科書：木野茂編『新版 環境と人間－公害に学ぶ』(東京教学社)。

教室では、毎回、授業用プリントを配布する。

参考文献やビデオは学術情報総合センターに多数揃えられているので、自由に利用すること。

現代科学と人間

Today's Natural Sciences and Human Beings

(前期 木・4 全)

2 単位

理学研究科 宮田 真人 他

●科目の主題と目標

自然科学の最先端の知識を正確に理解した上で、現代の人間生活に及ぼす科学的成果の功罪を考察する。

●授業内容・授業計画

1. パンデミックへの警鐘－病原微生物の逆襲：1970 年代、人類は抗生物質やワクチンなどによってすべての感染症を制圧したかに見えたが、それは一瞬の幻想にすぎなかった。今日、AIDS、O157、炭疽菌、プリオン、SARS、鳥インフルエンザな

ど、感染症が話題にあがらない日がめずらしいと言って過言ではない。現代社会は高度に発達した医療技術を有している反面で、グローバル化、高齢化、テロリズムの横行といった、アウトブレイクを誘発する要因も多々有している。感染症を扱ったいろんなカテゴリーの映画を用いて、病原体とアウトブレイクの秘密に迫る。
(宮田真人)

2. 幹細胞学について：近年、医療面での期待を含めて

幹細胞移植や ES 細胞などに関するトピックスが新聞などをにぎわせている。これらの細胞は「未分化細胞」と言われている。この未分化細胞の対局に位置するのが「分化した細胞」である。この違いは何なのだろうか？この違いを分子（遺伝子）の言葉を使って明らかにしたい。その後幹細胞について解説し、医療面での技術的・道徳的な問題点について意見交換を行いたい。（小宮 透）

3. 近代科学の研究手法：今日の物質文明の繁栄をもたらした近代科学、そこでは物理学における研究手法が原点となっている。自然現象の解明を目指す際の基本的アプローチの方法を、物理現象を例にとって分かり易く解説する。同時に、そこで得られた成果を人類が賢く享受する為の方法を教える（浜端広充）
4. グリーンケミストリー：地球規模での環境に対す

る視点無くしては社会的活動が極めて困難な時代が訪れた。物質を取り扱う科学としてどのような視点を持つことが必要だろうか？近年、持続可能な将来を目指す視点で、“グリーンケミストリー”が提唱されている。これを紹介することによって、環境に対する新しい考え方を提案する（木下 勇）

5. 討論会：講義内容からテーマを選び、発表と討論を行う。

●評価方法

質問カード（毎時間提出）・レポート・討論により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

積極的な発言を希望する。

●教材

教科書は使わないので、参考図書を各時間に指示する。また、ビデオを用いる。

近代科学の成立

The Development of Modern Science

（後期① 木・4 全） 2 単位

（後期② 木・1 全） 2 単位

非常勤 大久保 稔

●科目の主題と目標

今日の科学の進歩は止まることを知らず、日進月歩の勢いで発展している。科学の本質は究理であるが、はじめ哲学主導型科学から出発して、のちに技術と結びつき、また理論的な追究ともあいまって、技術支援型&理論主導型科学としての性格をつよめてきている。しかし巨大な自然力を解放した結果、強力な生産力だけでなく反社会的な破壊力さえも生み出してしまった。本講では近代科学の成立にいたる歴史的経緯を明らかにすると共に、その影響について考察する。

●授業内容・授業計画

近代科学がどのような経過をたどり成立してきたか、を要点をまとめて時系列的に話をする。また、単なる歴史の後追いに終わらせず、未来展望ともからめて、今後の科学のあり方についても触れる。

講義の項目は以下のように 14 回にわける。

- 1 科学とはなにか
労働の役割、科学の特徴、科学と技術
- 2 科学の歴史
 - 1) 科学のあけぼの期 疑似科学
 - 2) 古代ギリシアの自然哲学 論証の科学
 - 3) 中世、科学の低迷 神学のしもべ
 - 4) アラビアの錬金術 神秘的実験科学
 - 5) 科学と宗教のたたかい 科学の受難
 - 6) 近世、科学の復活 サロンの実験科学
 - 7) フランスでの科学発展 哲学と科学の分離

- 8) イギリスでの産業革命 科学と技術の接近
- 9) 近代、科学の躍進 技術支援型&理論主導型科学
- 3 我が国科学の推移 和魂洋才から和魂和才へ
- 4 個別科学の例 化学 質の変化の科学
- 5 近代科学の影響
 - 1) 現代の科学 科学と技術の相互高揚
 - 2) 科学の功罪 苦情、公害、環境破壊

●評価方法

「試験に代わるレポート」の出題によって行う。出席率も考慮する。

●受講生へのコメント

- 1 事業開始 5 分前までに入室してほしい。
- 2 講義に先立ち約 10 分間、その時々話題について小話をする。
- 3 理系、文系を問わず、科学に強い関心を持ち、積極的に受講を希望する諸君を待つ。
- 4 参考書をざっと読んであらかじめ概要をつかんでおいてほしい。

参考書「例」

鈴木、馬場共著「科学・技術史概論」建帛社
藤村、他 「科学—その歩み」東京教学社
平田 寛 著 「図説 科学・技術の歴史」（上・下）朝倉書店

●教材

教科書は使わない。図、表で要点をまとめたプリントを配布する。

ドキュメンタリー・環境と生命

Documentary・Environment and Life

(後期 水・4 全)

2 単位

非常勤 木野 茂

●科目の主題と目標

この授業では環境と生命に関するテレビ・ドキュメンタリーの中から選んだ9本を教材にし、鑑賞後の意見交換を通じて、自分の意見を人に伝える力と自分の考えをまとめる力をつけることを目指す。

さらに、ドキュメンタリーに関連するテーマを自分たちで設定してグループ研究を行い、その成果を教室で発表し、クラスメイトとQ&Aを行い、プレゼンテーションとディスカッションの力をつける。

●授業内容・授業計画

9回目までの授業では最初に30～50分程度のテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、内容は環境と生命に関するもので、テーマは多岐に渡っている。

授業で取り上げる番組一覧は第1回目の授業で発表する。教室での鑑賞後は、自分の感想や考えを400字程度にまとめ、メーリングリストでクラスメイトと交換する。

また、ドキュメンタリーの鑑賞と並行して、ドキュメンタリーごとにグループ研究を始める。グループは各自の関心を尊重しながら5～6人程度になるよう調整する。ドキュメンタリーの鑑賞後はグループごとに別れてグループワークを行う。

10回目からは、グループ研究の成果をグループ全員で

プレゼンテーションし、クラスメイトとQ&Aを行う。このときの司会進行は受講生に行ってもらう。

●評価方法

毎週のメーリングリストへの感想意見5、番組要約1、グループ研究2、レポート2の割合で総合評価する。

番組要約は各自1回ずつである。

レポートの課題は、授業期間中に放送されるテレビ・ドキュメンタリーの中から一つを選び、その番組要約と感想意見をまとめることである。

●受講生へのコメント

ドキュメンタリーの好きな人、環境と生命に関心を持つ人、聞くだけでなく自分たちも参加できる授業を求めている人を歓迎する。とくにグループワークをやってみたい人にはお勧めである。

毎週のメーリングリストで最も良かったと思う意見を全員の投票で選び、1分間スピーチとちょっとしたプレゼントで表彰するアトラクションもある。

この授業では、何事にも縛られずに自由に学ぶことの楽しさを味わってほしい。

関連科目：「科学と社会」

問い合わせはe-mailで：skino@fc.ritsumeit.ac.jp

●教材

毎回、プリントを配布する。

実験で知る自然環境と人間

Eploration into our Natural Environment

(前期 水・3-4 全)

3 単位

理学研究科 飯尾 英夫 他

●科目の主題と目標

複雑な地球環境のもと私たち現代人が生きていく上では、私たちを取り巻く自然環境や私たち自身のことを深く理解することが要請されている。本科目では理系学生も含め全学の学生を対象に、地球環境や人間についての身近なテーマを取り上げる。実験・実習をつうじ幅広く体験し、自ら対応できる力をつちかい総合的に判断する力を養う。

●授業内容・授業計画

第1回目はガイダンスおよび消防訓練を行い、第2回目からは以下の実験を行う。()内は各テーマの担当教員を示し、適宜、実験室の技術職員が加わる。

1. 「動物のからだ」(水野寿朗)

自由生活をする動物には我々ヒトと同様に外皮、神経系、筋肉、消化管など基本的な器官が揃っている。小動物のすがたを実体顕微鏡で観察し、動物のからだの成立ちについて理解を深める。

2. 「色で見分ける殺菌パワー」(田中俊雄、藤田憲一)

メチレンブルーは細胞の酸化・還元力のインディケーターであり、細胞の生死を簡便に判定できる。本課題では、酵母を用いて市販の抗菌剤、抗生物質

の殺菌力を評価するとともに、身近な食品成分の殺菌力についても検討する。

3. 「自分の体温時計」(宇高寛子、平澤栄次)

体内時計で制御されている深部体温を起床から就寝まで継続して基礎(婦人)体温計で測定する。そして、測定結果、特に体温の上昇・下降の記録から、自分の体内時計がどのようなタイプかを分析して、日常の体調との関連を調べる。

4. 「都市環境とセミの生活」(後藤真介)

近年大阪では、クマゼミが著しく増加した。都市環境とセミの生活の関係を考察するために、キャンパス内でクマゼミの観察を行うとともに、クマゼミの卵が雨に日に孵化するしくみについての実験を行う。

5. 「放射線を測る」(神田展行)

五感に感じない放射線を測定器を使って測る。また、霧箱を使って放射線の飛跡を観察したり、身の回りの自然放射線を測定してみる。

6. 「3Dで診る東南の地形」(原口 強)

デジタル標高地形図「東京」を立体視し、地形の凹凸を実感しながら地形図の読み方を学び、東京の

様々な地形を生み出した歴史や地質構造を考える。

7. 「河原の礫と海岸の礫（前島 渉）

礫の形や丸さかげんが河原の礫と海岸の礫とでどうちがっているかを調べ、川の水の流れと海岸の波による礫の摩滅の受け方のちがいを理解するとともに、川や海岸の波の作用と我々の生活との関連を考える。

8. 「分子の宝石—分子結晶をつくろう—」（亀尾 肇）

分子を結晶にすると宝石のようにキラキラと美しい輝きを放つ。実験では、キノンとヒドロキノンを用いて、金属光沢をもつ結晶をつくり、分子の水素結合や電荷移動相互作用を考えていく。

9. 「地球温暖化・温室効果ガス、二酸化炭素分子の秘密（工位武治）

二酸化炭素は何故に地球温暖化の原因物質なのかを分子の世界の言葉で考え、この分子に隠された秘密を先端化学によって解き明かす。また、地球温暖化は日常生活に何をもちたらしつつあるかを知る。

10. 「生物発光と化学発光」（品田哲郎、飯尾英夫）

生物発光および化学発光は熱を伴わない発光（冷光）である。ルミノールと過シュウ酸エステルを用いて、その発光現象を観察する。

11. 「身の回りにおける色素の謎を探る」（臼杵克之助、飯尾英夫）

美しく華やかな花や果実の色素を抽出する。そして化学合成で手にした色素とその性質を比較することにより、物質の機能と分子構造との関連を考察する。

12. 「平面を覆う正多角形のタイルの図形は3種類しかない」（村田恵三）

正多角形で平面を覆うには、許される多角形は、3, 4, 6角形しかなく、それ以外はない。これを利用して水面を覆う多数の6角形で、自然に微結晶から、大きな結晶に成長することを体験する。結晶化とは自己組織化そのものである。これと、2酸化炭素排出削減の効果について学ぶ。

●評価方法

毎回の平常点を総合して成績を付ける。また、最後にどれか1つの実験に関するレポートを出してもらい、平常点に加点する。

●受講生へのコメント

初心者歓迎。白衣貸与。定員48名。第1回目のガイダンス（基礎教育実験棟308号室集合）時に受講者を決める。

『実験で知る自然の世界』（後期開講）と本科目をともに履修することはできない。

●教材

実験指導書を配布する。

森林環境と人間社会

Forest environment and human society

（前期 火・3 全） 2単位

（後期 火・4 全） 2単位

大学教育研究センター 大久保 敦

●科目の主題と目標

この授業では科学的な視点で森林環境を観ることを通して、森林環境と人間社会の関わりを学習します。また特に、これまで取り上げられることのなかった、地球46億年の歴史の中で森林の生い立ちや森林存在の意義を考えます。

授業目標

半期の授業のみでは森林環境問題の全てを網羅することは不可能です。従って、この授業では森林環境問題を考える「きっかけ作り」を目指します。具体的には

- ①森林に関する興味・関心を持つこと
- ②森林に関する科学的な基礎知識を身につけること
- ③森林環境と人間社会の関わりについて意識を持つこととの3点を目標とします。

●授業内容・授業計画

- ①森と林の違いは？（森林の基本概念）
- ②身の回りの植物
- ③森林の恩恵1
- ④森林の恩恵2
- ⑤森林の恩恵3
- ⑥森林の恩恵4
- ⑦森林の生い立ち1 陸に上がった植物
- ⑧森林の生い立ち2 最初の森林の出現
- ⑨森林の生い立ち3 針葉樹の森林・広葉樹の森林の出現

⑩日本の森林

⑪世界の森林

⑫人間社会と森林1 日本の森林問題

⑬人間社会と森林1 地球規模の森林問題

⑭人間社会と森林3 人間社会と森林問題

●評価方法

1. 平常点（50点）

- ・授業参加度：30点（毎授業後提出の課題など）
- ・小レポート：20点

2. 最終レポート（50点）*内容を重視します

3. 出席(10回の出席が単位修得最低要件)

- ・欠席回数に応じて総合点から減点

1、2、3を総合的に評価

●受講生へのコメント

積極的に授業に参加しようとする人を期待しています（受身の授業を期待している人には不向き）。授業の内容は毎回完結していますが、それぞれリンクしているので授業目標を達成するために、出席を重視します（評価方法参照）。高校時代に生物を履修していない人を対象に授業内容を設定します。

●教材

教科書は使用しません。その都度、参考図書などを紹介します。

21世紀の植物科学と食糧・環境問題

(後期 火・3 全)

2 単位

Plant Biology for Addressing Societal Challenges of the 21st Century

理学研究科 飯野 盛利 他

●科目の主題と目標

この世紀、人類はかつてない深刻な問題に直面することが予測されている。その一つは、増え続ける人口を支えるための食糧供給の問題（食糧問題）であり、もう一つは、人類の活動による環境破壊がもたらす諸問題（環境問題）である。植物の光合成によって固定される光エネルギーは、私たち人間を含めた全ての動物の生命活動を支えている。植物の機能を理解し、植物を基礎にする生態系を理解することは、食糧・環境問題の根本を理解し、その解決策を探るための重要な基盤である。本講義では、食糧・環境問題を植物科学の視点から考える。

●授業内容・授業計画

1. 食糧・環境問題の現状（飯野盛利 担当、1 回分）
2. 生態学から見た環境問題（伊東明 担当、3 回分）
環境問題には様々な側面がある。ここでは、「生態学」の視点から環境問題を考えて見たい。生き物と環境との関わりを研究してきた生態学には、生物（人間）にとって環境とは何か、環境が変わると生物にどんな影響が出るか、生物の活動が環境にどう影響するか、など、環境問題を考えるときの参考になりそうな概念がたくさんある。そこで、（1）共有地の悲劇 （2）生物多様性 （3）森林破壊と地球温暖化、など、具体的なトピックスを紹介しながら、関連する生態学の基本概念について解説し、環境問題に関する情報や報道を理解する時の助けとしたい。
3. 食糧・環境問題に対する植物遺伝学からのアプローチ（植松千代美 担当、3 回分）
不可分の関係にある食糧問題と環境問題の現状を認識することが問題解決の第一歩となる。植物科学、特に遺伝学の立場からその解決を目指す取り組みとその問題点について以下の点から解説する。

（1）環境問題と食糧問題入門、（2）遺伝子組換え植物とその功罪。

4. 植物園から考える環境問題（伊東・植松 担当、3 回分）

植物園では「都市と森の共生をめざす」プロジェクトにより森林の機能、そこに生息する動物の多様性、植物園における草本植物の保全などについて調査。それらの成果をもとに、（1）タンポポの多様性と保全、（2）森林の二酸化炭素固定、（3）森林に暮らす動物の多様性、について解説する。

5. 地球温暖化防止のために（3 回分）

外部講師が（1）地球温暖化—国際会議の現場から—、（2）木質バイオエタノールを中心とする自然エネルギー利用の可能性、（3）菜の花プロジェクト、などについて最新の状況を紹介する。

6. 生物の進化および地球環境の変遷と食糧・環境問題（飯野盛利 担当、2 回分）

誕生から現在までの生物の進化、およびそれと密接に関連する地球環境の変遷について、最近の研究成果も踏まえて概説する。これらの知見から現在の食糧・環境問題のもつ意味を探る。

●評価方法

授業で課す小テスト・レポートと各担当者が期末に課すレポート、ならびに出席率によって評価する。

●受講生へのコメント

食糧・環境問題は社会的な問題であり、解決策は一つとは限らない。受講生各自がこれらの問題にどう対処するかを考えるきっかけとなることを期待する。

●教材

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布し、参考図書を紹介する。

植物の機能と人間社会

(後期 月・2 全)

2 単位

Plant Function and Human Society

理学研究科 曾我 康一

●科目の主題と目標

植物の持つ機能には、有用で優れたものが多く存在する。植物の機能を利用したり、植物の機能を模倣したりするためには、まず、植物の持つ機能を理解する必要がある。この科目では、はじめに、植物の性質について概説し、次に、私たちの生活に植物の機能がどのように役立っているかを具体例を示しながら解説する。

●授業内容・授業計画

以下のテーマを 14 回の授業で解説する。

1. 植物の特徴
2. 環境要因に対する植物の反応
3. 植物の組織培養・遺伝子組換え(GM)技術
4. GM 植物と農業
5. 植物工場と宇宙農業
6. 植物を利用した有用物質の生産
7. 植物による環境浄化

●評価方法

試験

●受講生へのコメント

高等学校において生物を履修していないことを前提に授業をおこなう。また、授業毎に質問票を配布・回収し、

次回以降の授業時に質問に答える。

●教材

プリントを適宜配布する。

参考書：神阪盛一郎、谷本英一 共編 「新しい植物科学－環境と食と農の基礎」(培風館)

植物と人間 演習

Seminar : Plants and Human Life

(前期 集中 全)

2 単位

理学研究科 飯野 盛利 他

●科目の主題と目標

植物は生態系における生産者として、私たち人間を含む、ほぼ全ての生物の生存に必要な有機物とエネルギーを作り出している。植物は、私たちの食料としてだけではなく、衣料や医薬品の原料として、あるいは鑑賞用としても利用されている。このように、私たちの生活は植物と切っても切れない関係にある。本講義は、理学部附属植物園で収集・保存されている植物を活用して、植物と人間の関係について学び、植物についての理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

・森林と環境 (担当：名波哲)

森林は、環境条件や人間の影響の程度、成立してからの時間などに応じて、多様な姿を持っている。植物園に復元されているさまざまな森林型を観察しながら、森林を構成する植物の集団としての性質や、植物と無機的環境との相互作用、森林環境の創出と維持のしくみを理解する。

・植物の進化 (担当：大久保敦、大教センター)

かつて地球上の陸地には植物も動物も存在しない時代があった。植物がどのようにして水中から陸上へ進出し、現在のような多様な姿の森林に至ったのか、その歴史を植物園に植栽されている実際の植物を観察しながらたどる。

・遺伝資源と多様性 (担当：植松千代美)

植物園には様々なバラ科植物が植栽されているが、それらの中からナシ属野生種のコレクションを例に、観察や簡単な実験を通して遺伝的多様性、野生種から栽培種への進化、遺伝資源の重要性などを学ぶ。

・有用植物 (担当：飯野盛利)

植物園で収集・保存されている熱帯植物には、鑑賞植物として親しまれているもの、食料、香辛料として、また工業用に利用されているものなどが含まれている。それらを観察、学習する。また、各自が興味をもった植物について、図書、インターネット、文献などで調べ、それをポスターにまとめることを実習する。

●評価方法

各担当教員が提示した課題のレポートをそれぞれ 100 点満点で評価し、4 課題の評点を平均して科目の評価とする。また、演習科目であることを考慮して、講義時間中における発言などの積極的参加を評価し、加点する。

●受講生へのコメント

授業は夏季休暇中の研修期間に、大阪府交野市にある理学部附属植物園において、集中・オムニバス方式で行う。野外での実習が含まれるので、帽子など日除け対策を講じること。

●教材

プリントを適宜配布する。

情報基礎

2 単位

Introduction to Information Processing

(以下の科目の単位を修得した者は、この科目は履修できない。)

平成 17 年度以前の「情報処理 I」

平成 17 年度以前の「コンピュータのシステムとその応用」

平成 10 年度以前の「コンピュータのシステム」)

創造都市研究科

< 1 部 >

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
全	前・月・3-4	村上 晴美	全理	前・金・1-2	(米澤 剛)
全文	前・火・1-2	安倍 広多	全	前・金・1-2	ベンカテッシュ・ラガワン
全	前・火・1-2	(豊田 博俊)	全理	前・金・3-4	中野 秀男
全文	前・木・3-4	大西 克実	全	前・金・3-4	永田 好克
全	前・木・3-4	(豊田 博俊)			

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
全	後・木・1-2	(米澤 剛)	全	後・金・3-4	安倍 広多
全	後・金・1-2	村上 晴美			

< 2 部 >

クラス	期・曜・時	担当者
全	前・金・1-2	永田 好克

●科目の主題と目標

日常の行動において行っているさまざまな情報処理の過程の中で、コンピュータを道具として使いこなすことをコンピュータリテラシと呼ぶ。研究や学習ばかりでなく、日常生活においてもコンピュータの利用が不可欠になりつつある中で、将来も柔軟にコンピュータとかわっていけるよう、リテラシの奥行きを深めることを目的とする。いくつかの代表的なツールに慣れ親しむことを交えながら、コンピュータの動作原理についてソフトウェア・ハードウェアの両面から理解を深める。また情報利用者・情報発信者として安全にかつ責任を持ってコンピュータを活用できる能力を涵養する。

.....

担当者：安倍、豊田、永田、村上

●授業内容・授業計画

①② コンピュータになじむ

この授業で採用しているシステムに慣れる。また電子メール、Web ブラウザ、ワードプロセッサなどの初歩的なツールに慣れる。

③④ Web ページの作成手始め

簡単な Web ページを作成しながら、ファイルシステム、ソースファイルの編集、HTML の基礎を理解する。

⑤ 画像と描画ツール

画像ファイルの取り扱いや、画像描画ツールの考え方を理解する。

⑥⑦ 情報の符号化

デジタルとアナログの違い、2 進数や16進数の表現、

情報符号化の考え方、情報圧縮、文字コードなどを理解する。

⑧ コンピュータの仕組み

コンピュータシステムを構成するハードウェアとソフトウェアについての基礎的な知識を習得する。

⑨ インターネット通信の仕組み

インターネット通信によって目的のコンピュータと情報を交換する仕組みを理解する。

⑩⑪ 洗練された Web ページを目指して

ソースファイル編集の視点から、また、Web ページ閲覧者の視点から、洗練された Web ページとは何かを理解する。

⑫ 情報セキュリティ

通信の秘密と信憑性を確保する技術とその意味について理解する。

⑬ 情報システムの利用と社会的問題

情報システムの利用につきまとう社会的問題について、その事象と対処法を理解する。

⑭ 表計算、プレゼンテーションなど

表計算、プレゼンテーション、あるいはその他の基礎的内容や発展的内容を取り扱う。

なお、担当教員によって取り上げる順番や回数配分を変更することがある。

.....

担当者：大西、中野秀男、米澤、ラガワン

● 授業内容・授業計画

① コンピュータとその操作の基礎

- ② 電子メールとコミュニケーション
電子メールの作成で文書作成の基礎を修得し併せてコミュニケーションの便利さと問題点を覚える。
- ③④ リテラシと情報セキュリティ
コンピュータリテラシ、ネットワークリテラシ、メディアリテラシやリテラシのレベル等を学び、併せて情報セキュリティ、プライバシーや知的財産権／著作権などの考え方を知る。
- ⑤⑥ 情報発信－ホームページ作成
各自のホームページ作成を通して、インターネット世界での情報収集や情報発信の便利さと、問題点を覚える。併せて、プライバシーや著作権の重要性も理解する。
- ⑦⑧ 調べ方－情報検索
インターネットでの検索エンジン等を使いながら、基礎的な情報検索手法を学ぶ。併せて、インターネットでのセキュリティについても理解を深める。
- ⑨⑩ 考え方－アルゴリズム
コンピュータで考え方を実現するのはプログラミングであるが、その基本となるアルゴリズムを疑似言語等を使いながら修得する。論理的な考え方を身につけることも目的の一つである。
- ⑪⑫ 空間情報の利用
地球上の位置と直接・間接に関連づけられた対象物や現象に関する情報である空間情報の取扱い方法の理解を深める。
- ⑬⑭ 情報セキュリティ

ここまでで修得した情報検索や学術情報総合センターの図書サービス等を使い、文章の組み立てを考えながら、表作成と文章作成を組み合わせたレポート作成を修得する。

講義の部分ではVOD (Video On Demand)等の教材を使って自学自習が可能になるように配慮している。また、演習では各自の習熟度に応じての対応を考えている。

なお、担当者はそのクラスの採点責任者であるが、講義の内容に応じて、教材作成担当者がその時間の質問などを受ける場合もある。

●評価方法

出席、レポート、期末試験により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

コンピュータに関する予備知識や経験がほとんどない学生は、特に前半に授業外でも積極的にコンピュータに慣れる機会を作り、経験者に追いつく努力をすることが望ましい。

●教材

講義メモや Web ページなどを活用する。

参考書：

- 情報処理学会編集 ITText 一般教育シリーズ「情報とコンピューティング」
- 情報処理学会編集 ITText 一般教育シリーズ「情報と社会」

プログラミング入門

Introduction to Programming

(前期① 月・3－4 全) 2単位

(後期① 金・1－2 全) 2単位

創造都市研究科 松浦 敏雄

●科目の主題と目標

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を、教育用の疑似言語を用いて体験的に学ぶ。

さらに、特定の言語(Java を用いる予定)を通して、プログラミングの経験を積み重ね、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) 変数、文、制御構造などプログラミングの基本概念を学ぶ。
- (2) 条件分岐： 条件分岐の書き方を学び、簡単なプログラムを作成する。
- (3) 繰り返し： 繰り返し構造を学び、簡単なプログラムを作成する。
- (4) 実数、配列： 実数の扱い方、および、配列を用いたプログラムを作成する。

- (5) 図形描画： 図形描画プログラムの作成を通して、変数や制御構造等について復習する。
- (6) 中間試験
- (7) Java によるプログラム開発方法について学ぶ。(他の言語を採用する可能性あり)
- (8) if 文、while 文の使い方を学び、簡単なプログラムを作成する。
- (9) 二重ループ、変数の有効範囲等について学ぶ。
- (10) 配列、文字列の扱い方を学び、簡単なプログラムを作成する。
- (11) オブジェクト指向の考え方について学ぶ。
- (12) メソッドの記述方法、ファイルの扱い方等について学び、簡単なプログラムを作成する。
- (13) クラスの定義方法について学び、クラス記述を含むプログラムを作成する。
- (14) 最終課題のプログラムを作成する。
- (15) 最終課題のプログラムを作成する。

●評価方法

レポートおよび試験により総合的に判断する。

●受講生へのコメント

エディタ、Web ブラウザなどは自由に使えることを前提とする。「情報基礎」を受講していることが望ましい。

演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

配布資料および Web ページなどを利用する。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(前期① 金・3-4 全) 2単位

(後期① 金・3-4 全) 2単位

創造都市研究科 石橋 勇人

●科目の主題と目標

この講義は、いわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通してコンピュータについての理解を深めることを目的とする。特定の言語 (Python を用いる予定) を通してプログラミングを体験的に学びつつ、どのプログラミング言語にも共通する概念を身につけ、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

各回、原則として 1 コマを講義、1 コマを演習に充てる。毎回課題を課し、提出を求める。

- (1) イントロダクション (授業の概要、プログラム作成から実行までの流れ、など)
- (2) 変数と制御構造
- (3) リストとディクショナリ
- (4) 文字列処理
- (5) ファイル入出力と関数
- (6) 中間課題

- (7) オブジェクト指向プログラミング
- (8) 再帰呼び出し
- (9) プログラムと効率
- (10) GUI プログラミング
- (11) コマンドの作成
- (12) ネットワークプログラミング
- (13) 最終課題
- (14) 試験

※ 内容や順序は必要に応じて適宜変更する場合がある。

●評価方法

演習課題、試験および出席率

●受講生へのコメント

エディタ、Web ブラウザ、電子メールなどは自由に使えることを前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Web ページなどを使用する。

プログラミング入門

Introduction to Programming

(後期 木・3-4 全)

2単位

創造都市研究科 (兼) 学術情報総合センター 大西 克実

●科目の主題と目標

この講義はいわゆる職業的プログラマを養成するためのものではない。プログラミングとは何かを体験し、それを通して、コンピュータについての理解を深めることを目的とする。まず、どのプログラミング言語にも共通する概念を体験的に学ぶ。さらに、特定の言語 (Java を用いる予定) を通して、プログラミングを体験的に学び、自由にプログラムが書けるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

- (1) プログラム言語の構成・ソースファイルの入力・コンパイル、コマンドプロンプト使用法
- (2) Java・形式、コメント・入力扱い方・変数、演算子、型
- (3) 型の変換・制御構造 (if, while)
- (4) 制御構造 (for, continue, break)・配列・アルゴリズム (1) [数列]
- (5) 参照型の特徴・アルゴリズム (2) [成績処理]
- (6) メソッド・クラス・オブジェクト指向プログラ

ミング

- (7) データ構造・再帰呼び出し
- (8) 整列問題 (1)
- (9) 整列問題 (2)
- (10) ファイル入出力
- (11) アプレットプログラミング (1) GUI 部品
- (12) アプレットプログラミング (2) イベント処理
- (13) ネットワーキング

(それぞれが、1 回の授業に対応するわけではない)

●評価方法

出席とレポート

●受講生へのコメント

エディタ、Web ブラウザなどは自由に使えること (「情報基礎」程度) を前提とする。演習を重視した授業を行うので、できるだけ欠席しないこと。

●教材

Web ページなどで提示する。

情報の探索と利用ーインターネットでレポート、論文作成の手引きー（前期 月・3 全） 2単位

Information retrieval and it's application

創造都市研究科 北 克一 他

●科目の主題と目標

本講義では、インターネットを活用し、情報の探索と利用の「達人」をめざす。

このために、インターネットを使用したレポートや論文作成のステップを、段階的に取り上げる。また、「畳の上の水練」にならないように、各ステップでは、実際にコンピュータを操作し、力が身につく実践的な授業を行う。

なお、対象とする情報源は、インターネット上の無料サイトと学内で無料使用ができる情報資源の範囲に限定する。

●授業内容・授業計画

- ①インターネットで、レポート、論文作成のステップ（概説）
- ②ー⑦テーマを絞り込む：絞込みの3方法
 - ・ 辞典・事典・用語集の活用：インターネット上の資源
 - ・ 文献リストを読む：雑誌記事索引の利用
 - ・ 検索エンジンやリンク集、アーカイブサイトの活用
- ⑧ー⑨資料・文献、情報を集める
 - ・ 図書を探す：OPAC、総合目録、横断検索など
 - ・ 雑誌論文を手に入れる：ILL: InterLibrary Loan、国立国会図書館複写サービスなど
 - ・ 新聞、統計、白書などを集める：各種のデータ

ベースなど

- ・ レファレンスサービスを活用する

⑩資料文献、情報を見分けるー騙されないためのコツ

- ・ あやしい資料・文献、情報のタイプと見分け方
- ・ あやしいレポート、論文を作らないための注意点

⑪ー⑫レポート、論文を執筆する

- ・ レポート、論文の執筆準備とデータ処理法
- ・ Web データ、PDF データの活用等
- ・ 評価されるレポート、論文の構造、そのコツ
- ・ 引用の記述：資料および情報の引用

⑬レイアウトを工夫する、

- ・ 読んでもらえるレポート、論文のレイアウト
- ・ 図表などの挿入
- ・ プレゼンテーションに強くなろう
- ・ レポート、論文を電子提出する

電子提出のマナーと技術

●評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する。

●受講生へのコメント

講義と実際の演習を組み合わせる進行する。

●教材

適時にプリントを配布する。

情報の探索と利用ーインターネットでレポート、論文作成の手引きー（後期 月・1 全） 2単位

Information retrieval and it's application

非常勤 米谷 優子 他

●科目の主題と目標

本講義では、インターネットを活用し、情報の探索と利用の「達人」をめざす。

このために、インターネットを使用したレポートや論文作成のステップを、段階的に取り上げる。また、「畳の上の水練」にならないように、各ステップでは、実際にコンピュータを操作し、力が身につく実践的な授業を行う。なお、対象とする情報源は、インターネット上の無料サイトと学内で無料使用ができる情報資源の範囲に限定する。

●授業内容・授業計画

- ①インターネットで、レポート、論文作成のステップ（概説）
- ②ー⑦テーマを絞り込む：絞込みの3方法
 - ・ 辞典・事典・用語集の活用：インターネット上の資源
 - ・ 文献リストを読む：雑誌記事索引の利用
 - ・ 検索エンジンやリンク集、アーカイブサイトの活用
- ⑧ー⑨資料・文献、情報を集める

- ・ 図書を探す：OPAC、総合目録、横断検索など
- ・ 雑誌論文を手に入れる：ILL: InterLibrary Loan、国立国会図書館複写サービスなど
- ・ 新聞、統計、白書などを集める：各種のデータベースなど

- ・ レファレンスサービスを活用する

⑩資料・文献、情報を見分けるー騙されないためのコツ

- ・ あやしい資料・文献、情報のタイプと見分け方
- ・ あやしいレポート、論文を作らないための注意点

⑪ー⑫レポート、論文を執筆する

- ・ レポート、論文の執筆準備とデータ処理法
- ・ Web データ、PDF データの活用等
- ・ 評価されるレポート、論文の構造、そのコツ
- ・ 引用の記述：資料および情報の引用

⑬レイアウトを工夫する、

- ・ 読んでもらえるレポート、論文のレイアウト
- ・ 図表などの挿入
- ・ プレゼンテーションに強くなろう
- ・ レポート、論文を電子提出する
- ・ 電子提出のマナーと技術

●評価方法

演習課題の提出レポートを対象に評価する。

●受講生へのコメント

講義と実際の演習を組み合わせる。

●教材

高嶺裕樹著『デジタル情報資源の検索増訂2版』日本図書館協会発売, 2009.

その他、適時にプリントを配布する。

地図と地理情報

Map and Geographic Information

(後期 火・2 全)

2 単位

文学研究科 木村 義成

●科目の主題と目標

地図や地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google Map や Yahoo Map に代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。近年の IT 技術の進展により、地理情報は、GIS (地理情報システム) で管理・分析できるようになり、GPS (全地球測位システム) で高精度の位置情報を取得できるようになった。カーナビゲーションは、それらの一例である。

本講義では、地図学の基礎や、地理情報の取得・分析方法を中心に説明を行う。また、地理情報がどのような分野で、どのように活用されているかについて数多く紹介することで、日々の生活の中で、地理情報がどのように役立つか理解してもらおう。

●授業内容・授業計画

本講義では、以下のような内容説明する。

第1回

- ・講義ガイダンス

第2回～3回

- ・GIS (Geographic Information System) とは？
- ・GPS (Global Positioning System) とは？
- ・地理情報の取得方法
- ・地理情報の管理方法
- ・地理情報の表現方法

第4～8回

- ・地理情報を用いた空間分析法

第9～11回

- ・危機管理分野 (防災、犯罪、感染症) における地理情報の利用

第12回

- ・環境分野における地理情報の利用

第13回

- ・マーケティング分野における地理情報の利用

第14～第15回

- ・総括

●評価方法

講義中の課題やレポート等から総合的に評価する。

●受講生へのコメント

この講義により、地理的・空間的な考え方を身につけてもらおう。

●教材

講義は、プロジェクターを利用し、適宜、プリントを配布する。

参考文献については、講義中に紹介する。

なお、自習する際には以下の書籍を推薦する。

岡部篤行著『空間情報科学の挑戦』岩波書店、マーク・モンモニア著『地図は嘘つきである』晶文社、Paul A. Longley, et al.『Geographic Information Systems and Science』John Wiley & Sons

情報化の光と影

Information Age : It's Bright and Dark Side

(後期① 木・2 全)

2 単位

(後期② 木・1 全)

2 単位

経済学研究科 中島 義裕 他

●科目の主題と目標

情報化は、コンピュータや IT のみに代表されるものではない。そのルーツは、大衆が多くの知識を得るために開発されたゲーテンベルグの活版印刷システムに見ることが出来る。しかし、人々は本を離れ、インターネットを介しウェブやメールで、画像や動画を含む多くの知識を簡単に得ることが出来るようになった。さらに携帯電話の普及により、子供達までも携帯メールというきわめて手軽な情報交換ツールをフルに利用している時代となっている。便利な社会であることに異論はないが、それで十分なのであろうか？ 本科目では、この現在社会における情報化について、文学、法学、医学、経営学、経済学という多視点から眺め、その功罪についてともに

考えてみたい。

●授業内容・授業計画

文学研究科・美濃 正 (1,2,3)

「人工知能論の光と影」といったテーマで講義する。コンピュータの急速な発達に伴って、人工知能論も隆盛を極めた時期があったが、今日ではコンピュータを用いて人工的に「知能をもつ存在」を製作するという希望はこれも急速に萎みつつあると言ってよい。その原因はどこにあるのか？少なくとも部分的には、コンピュータという機械を成立させている原理そのもののうちにあると考えられる。その原理とはどのようなものであり、そのどこに問題があるのか？こういった点について、コンピュータとコンピュータ科学の祖とも言うことができる

アラン・チューリングの業績などを顧みながら、考えてみたい。

法学研究科・国友明彦 (4,5)

情報を不当な模倣から守る法が知的財産法である。ここでは、そのうち、「情報化」との関係でとりわけ重要な著作権法の基礎および初心者向けの具体的な問題（なるべく、インターネットにおいて特に問題となるものを折り込むようにする）について講じる。

医学研究科・中村 肇 (6,7)

人は外界の状況を5感でキャッチし、その情報をうまく処理しながら生きている。また、遺伝子という情報伝達ツールで個人の情報が次の世代に受け継がれている。情報化は単にPCを使いこなすことだけではない。医療は個人の情報を扱うサービスであるが、医師と患者の間には、医師が圧倒的に情報を多く持つという「情報の非対称性」が存在している。インターネットが当たり前のように普及した情報時代の現在、そこには莫大な情報が流れ、患者も簡単に専門情報にアクセスできるようになり、医学知識の情報格差は減少しているが、多くの問題点も存在する。このような医学医療面の情報化について一緒に考えてみたい。

経営学研究科・太田雅春、テキ 林瑜、高橋信弘 (8,9,10)

情報システム及び情報ネットワークの進展は、企業経営だけではなく企業関係も変貌させつつあり、それは私たちの生活、価値観さえも変えさせようとしている。本講義では、次のような視点で、企業と情報、企業と情報

システムの関係を論じる。

(1) 情報化と企業戦略、太田雅晴

(2) 情報と企業行動、テキ林瑜

(3) 情報と金融市場、高橋信弘

経済学研究科・中島義裕 (11,12,13)

市場は取引を実現させる場所であるが、同時に価格を発見する所でもある。情報化は、一般に迅速な情報伝達や情報格差の解消を通じて適正な価格形成に寄与すると考えられる。しかしながら、状況によっては逆の効果を与える場合もある。この講義では、価格形成について実験経済学や人工市場などの新しい手法を利用して基礎的な理論から説明し、情報の非対称性などが価格形成にもたらす影響などの理解を深めていく。

●評価方法

期末試験、レポート、出席、小テストなど（講義担当者による）。1 研究科 20 点、計 100 点で評価する。

●受講者へのコメント

情報化社会について、いろいろな側面から一緒に考えてみよう。オムニバス形式なので、毎回出席するのが望ましい。

●教材

法学研究科：中山信弘『マルチメディアと著作権』（1996、岩波新書新赤版 426）のうち特に「第1章 著作権とは」

その他必要に応じて掲示、または講義中に配布する。

社会と統計

Social Statistics

(後期①・金・3 全) 2 単位

(後期②・金・1 全) 2 単位

経営学研究科 藤井 輝明

●科目の主題と目標

統計資料の読み方、利用の仕方を、身近な領域を中心に習得する。社会をデータから客観的に観察する態度を身につけ、社会が単純な決定関係にはないことの理解を深め、統計的方法の理解の基礎とする。

●授業内容・授業計画

人間は「子供」時代には「偶然の遊び」を楽しむが、「大人」の人間は統計的思考に慣れていないだけでなく、生理学的に確率を理解しないようにできているとさえいわれる。また、自分の思いこみや考え方を覆す事実を突きつけられたときの「意図しないハプニングの驚き」はどのような人間にとってもさしあたり気持ちの良いものではない。「偶然の思考」の学としての統計学は、こうした偶然の中に秩序を見いだす技の体系である。

他方、統計とは、政府などが社会の様々な側面を記録・調査し、公表した、数字の並びという意味でも用いられる。この意味での統計は、作成の目的、設計、政府による利用、そして公表された統計が人々によって利用される過程も体系的に計画される必要があり、その中に偶然性の処理の手法を含みつつ、社会に対する事前の認識、

公正な作成方法の評価、統計をめぐる政府と国民との関係など、社会的側面もあわせて考えなければ、理解できない。統計学のこの二つの側面を理解できるよう授業するつもりである。

統計学は、企業や官庁で大学時代に最も学んで欲しい学問の一つに挙げられて久しい。2007年の統計法改正によって、統計は社会の情報基盤と位置づけられ、政府だけでなく国民の合理的意思決定の基礎資料たることを要請されている。より国民が利用できる統計の提供が模索される一方、国民が統計により経験的合理的に意思決定する力は従来に増してその必要性が高まっている。

- ① イントロダクション
- ② 代表値と散らばりの尺度
- ③ 期待値の性質と変数の標準化
- ④ 共分散と相関
- ⑤ 相関と回帰
- ⑥ 多変量回帰
- ⑦ データの集計
- ⑧ 予備日
- ⑨ 統計過程と統計の公共性

- ⑩ 公的統計制度 日本の統計制度改革を中心に
- ⑪ 人口統計 高齢化、少子化、人口移動などの把握
- ⑫ 労働統計 雇用や賃金の状態
- ⑬ 家計に関する統計 収入、支出、資産などについての統計の読み方と加工法
- ⑭ 予備日
- ⑮ 期末試験

●評価方法

期末試験と、中間テスト、レポート等、平常点を総合的に判断する。

●受講者へのコメント

大学で授業をうける権利は他人に対する責任を伴う。私語、暴言等の妨害行為、授業中の遊興、交信、合理的理由のない帽子の着用等他人の学習意欲を減退させる外部効果のある行為、その他授業参加者の尊厳を踏みにじ

る行為を行うことは認められていないから、これらを行うものは参加できない。

この講義が自分の時間割にはなく、自分の目的に合うかどうか確認するように。

●教材

教科書は授業中に指示する。

科目選択などのための事前の参考資料としては、過年度のプリントを担当者のHPにアップロードしてあるほか、たとえば以下の文献を参照せよ。

- ① 金子治平・上藤一郎（編）（2007）「よくわかる統計学 I 基礎編」（ミネルヴァ書房）
- ② 御園謙吉・良永良平（編）（2007）「よくわかる統計学 II 経済統計編」（ミネルヴァ書房）

初年次セミナー

First Year Seminar

〔この科目は、1回生を対象にした少人数の対話型で行うゼミナール形式の授業である〕

(前期 1回生のみ)

2単位

大学1回生となった諸君一、諸君は、これから始まるうとする大学生活というものに、きっと、胸をときめかせ、夢をふくらませておられることだろう。大学生活をどのようなものとして実現してゆくか一、それは、諸君の思索と感性とによって、自由にデザインし、細心に・大胆に造型してゆけば、よい。型にはめられた無難より、新しい時代を拓こうとする混沌こそ、若い諸君には、ふさわしい。

しかし、それは、我流を通すということでは、必ずしも、ない。我流を通すことで新しい時代を拓いた、いわゆる天才と称される人々がいたことは、たぶん、確かである。しかし、天才は、大学で学んでなれるものではなく、大学もまた、天才を輩出することを任務とは考えていない。

大学は、学ぶこと・感じること・思索することを通して、諸君の中に潜んでいる可能性をそれぞれに発見するための場であり、その可能性を人類の幸福のために発揮する、その方策をともにさぐろうとするところである。大学に入られた諸君の前に、共通教育科目・専門教育科目、さらに大学院前期博士課程・後期博士課程が用意されているのは、その目的の実現のためにほかならない。

共通教育では、幅広い教養を身につけることにより、多様な分野と関わりを持つことができる間口の広さを一、専門教育では、選び取った専門分野に関する深い理解を一、大学院においては、当該の専門分野の研究者・専門家の養成を一、それぞれの目的としている。その、まさしく入り口に、諸君は、いま立っているわけである。

果敢に・柔軟に、諸君がそれぞれの道程を進んで行くならば、必ずや、諸君は、みずから望む以上の可能性を諸君の中に見出されることであろう。だが、同時に、自分の立っている位置や向かうべき方向がわからず、文字どおり途方に暮れることがあるだろうことも予想される。その状況における真摯な模索こそが、諸君が、これまで形成してきた自分というものの殻から脱皮して、もうひとつ大きく成長するための、言わば生みの苦しみというものであって、諸君の可能性を本物にするための、だれもが経験する試練なのだ。

存分に苦しみなさい。その試練に耐え抜こうとする意志があれば、道は開けるだろう。と同時に、学びの道における少しばかりの先達として、この大学では「初年次セミナー」と名づけられた、これから大学で学ぶにあたってまず身につけておくのが望ましい、言わば学び・考えるためのマナーについて、諸君とともに思索する時間を、以下のように用意している。もちろん、こういう趣旨だから、講義を聴くだけというのではなく、少人数のクラス編成で active learning をめざす時間であり、諸君が

それぞれの道程を拓いてゆくための底力を養成する、その介添えをすることができればとの大学の念願をかたちにしたものである。

これら「初年次セミナー」では、通常の授業では必ずしもあらわではない、大学教員の、諸君と同様に迷い・苦しみ、それを克服しようとする姿にふれることもあるだろうし、同輩の人々の、同じ弱さや卓抜する力量に安堵したり発憤させられたりすることもあるだろう。その経験は、諸君がこれから大学生活を豊かなものとして実現してゆかれる際の、よき手引きとなるものであることを願って、今年度は、9名の教員による、9コマの「初年次セミナー」をもって、諸君との道交（感応道交、心ばかりか魂まで結ばれること）をはかろうと目論んでいる。

「初年次セミナー」

(前期 火・2) 文学研究科 小林 直樹

●科目の主題と目標

「昔話」をキーワードに、「大学における基本的な学習の仕方」を学ぶことを主題とする。

大学における勉強では、自分自身で問題を見つけ、考え、調査し、それについて整理しまとめた内容を、誰もが理解できるように言語化し、他者と共有しようとする姿勢が大切である。また、他者の異なる視点を柔軟に受け止めることによって、自己の問題意識をさらに広げ、かつ深化させようとすることも重要である。

この時間は、「昔話」やその周辺領域（「伝説」「童話」「おとぎ話」など）をめぐる問題を素材に、テーマ設定や調査、発表、討論、レポート作成などを経験しながら、大学で学ぶ上で必要な上記の姿勢を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

おおよそのスケジュール（案）は以下の通り。

第1回：ガイダンスと自己紹介

第2～3回：テーマ設定と質疑応答

第4回：文献検索の方法

第5回：発表の仕方とレポートの書き方

第6～8回：中間報告と討議

第9～14回：発表とレポート作成

●評価方法

平常点（授業に参加する積極的な姿勢）、発表内容、レポートを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

- ・受講生は10名程度とする。
- ・全回出席が基本。授業時間内外における積極的な取り組みを期待する。
- ・「おはなし」「物語」が好きな人にお奨め。

●教材

教科書は使用しない。参考図書は授業中に指示する。

「初年次セミナー」

(前期 火・3) 文学研究科 白田 由樹

●科目の主題と目標

本講では、受講生ひとりひとりに歴史や文学、芸術、政治、経済、自然科学などの諸分野から興味のある人物についてテーマを設定してもらい、口頭発表とレポート作成を行います。それもただ漠然と「誰それについて」というのではなく、「その人物の何について」問題設定するのかを皆さん自身に考えてもらい、文献資料の検索と読解、他の受講生との意見交換を通じて、自分の考えを固め、それを口頭(発表)や文章(レポート)で伝えるプロセスを実践していきます。

授業の目標は「大学での学びの基本」を身につけることです。つまり、自分でテーマを見つけ出し、資料・文献の検索や収集方法を学び、収集した資料から情報を整理して自分の考えをまとめていくこと。また、それを的確に伝えるための口頭発表やレポートの作法を学び、受講生が相互にコミュニケーションをとることを通じて、各人の考え方や視野を広げていくことを目指します。

●授業内容・授業計画

各回において随時、講義やガイダンス、グループ討議、一人一人の進行状況報告を入れながら、以下の行程を進めていきます。

1～2回：ガイダンス、受講者決定、テーマ提示

3～5回：テーマの絞り込み、文献検索、資料収集

6～8回：資料の読み込みと情報整理、アウトライン作成、第1回レポート提出

9～11回：資料や情報の見直し、アウトライン調整、第2回レポート提出・発表準備

12～14回：口頭発表、質疑応答と相互評価、フィードバック、最終レポート提出

各過程で必要となる方法の伝達、学術情報総合センターの利用ガイダンス、レポートや発表のための個別指導は授業の中で行いますが、これらはすべて、受講生各自が授業外の時間においても十分な準備を行い、自発的に取り組むことを前提としています。また、自分の考えを表現するだけでなく、他の受講生たちと意見を交換しあい、互いの考え方や価値観を理解するといったコミュニケーションの姿勢が求められます。

●評価方法

授業への参加とそれぞれの過程における取り組み姿勢(40%)、レポートと発表(40%)、質疑応答への参加(20%)を総合して評価します。具体的には、各回で提出してもらったワークシートや文献資料リスト、発表や質疑と3回のレポートをもとに評価・採点を行います。

●受講生へのコメント

受講生は12名程度までとし、受講希望者が人数を超える場合には抽選とします。

大学での学びの基本として、確かな情報源に当たり、資料を読みこなし、他者の意見も聞きながら自分の考えをまとめ、表現していくという作業には時間や手間がかかり、迷いや悩みもいろいろ出てくるでしょう。けれども、そこを経験しなければ見えてこないものがあり、またそれが皆さんの視野や思考を広げていく上でも大事な過程となるはずですよ。しんどいところも前向きに考えて取り組んでください。

また毎回、授業の冒頭において課題の指示や前回のフィードバックを行い、グループ討議などを入れながら進めていくので、よほどの事情がない限り、遅刻や欠席はしないでください。

●教材

教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布し、資料等を紹介します。

「初年次セミナー」

(前期 木・3) 大学教育研究センター 渡邊 席子

●科目の主題と目標

本セミナーは、①誰かに答えを教えてもらうのではなく、大学で、社会で、自ら学ぶために必要な「考える力」の基礎の確立、および、②コミュニケーションに必要な4つのスキル(読む・書く・聴く・話す)の基礎の確立を目標とする演習科目である。また、本セミナーには、さまざまな学部の1回生が集うこととなる。自分とは異なる興味・関心・専攻分野をもつ他学部の学生と交流する機会を積極的に利用して、人間の思考の多様性を直に知り相互理解を深めることも、セミナーの目標のひとつである。以上の目標を達成するため、本セミナーは active learning 形式(学生による討論、発表、グループワークを伴う形式)を取り入れる。受講者には、積極的にセミナーに参画することを通じて、知的思考方法、知的表現方法、礼節ある討論の姿勢を学んでいただきたい。

●授業内容・授業計画

セミナーでは、個人またはグループで active learning 課題に取り組む。課題への取り組みを通じて、何が問題の本質であるのかを見極めながら(考える)、受講者同士で創造的な討論を行い(聴く・話す)、800～2000字程度の各種レポートをまとめ(書く)、書いたものを相互評価・自己評価し(読む)、自分の知的スキルの強みを把握し、弱みのカバーを目指す。

第1回：セミナーの進め方に関するガイダンス、受講者決定

第2～3回：基礎演習1(解決すべき問題を発見する、今の自分にできることを知り、もっと伸ばしたいことを把握、整理する。)

第4～9回：基礎演習2(問題をいかに解決するか、何がどこまで解決できているかをどのようにして知るか。討論、レポート作成、自己評価、相互評価。)

第10～14回：基礎演習3(自分が発見した問題は「本当

に問題なのか。)

第15回：まとめと総合自己評価

上記のように本セミナーは、単なるレポートの書き方講座や、プレゼンテーション・討論スキルアップ講座ではない。なぜレポートを表すのか、なぜプレゼンテーションや討論を行うのか、そもそもなぜものを考えるのかを含め、これから社会に出て行く大人にふさわしい知力とは何かを受講生「自らが」掘み、自分なりの手法の発見を目指すものである。誰かに答えを教えてもらう受け身の姿勢ではなく、「自ら学ぶ」意思を持つ学生の受講を強く希望する。

●評価方法

- (1)課題への取り組みに対する評価（教員・学生それぞれからの評価）：60点満点
- (2)参画への意思・態度・行動(積極的に意見を述べたか、報告書等の内容、タイムマネジメントができていたか等)：40点満点 →合計 100点満点

●受講者へのコメント

・受講希望者は、第1回目のガイダンスに必ず出席すること。また、受講人数の上限を12名とし、全回出席を基本とする。

・セミナーの進行に付随して課題・宿題を提示し、それらを解いてきていることを前提にセミナーを進める。

●教材

教材はセミナー中に適宜配布される。なお、教材となりうる素材を受講者自身が調査の上集めて持ち寄る場合もある。

「初年次セミナー」

(前期 火・4) 大学教育研究センター 飯吉 弘子

●科目の主題と目標

本授業では、「大学生としての基本的な学びの姿勢」を身につけることを目指している。レポート作成の一連の流れやプロセスに沿って、高校までの学びのあり方は異なる「大学での学び方」の基本を理解し身につけることを目指す。すなわちレポート作成のプロセスの中で、「自ら」調べ・「自ら」考え、考えたことを他者に伝わるように表現することを経験する中で、とくに「自分で考える」ことの重要性に気付いてもらいたいと考えている。また、「自分とは異なる考えを持つ他者とそれらを共有する経験」も重視して授業を進める。

この授業の最終的な目標は、第1に「自ら課題を探し考える力や姿勢の基本を身につける」、第2に「資料・文献の調べ方やレポート作成の基本を学ぶ」、第3に「プレゼンテーションと意見交換の基本を学ぶ」である。

「大学生として学び考えること」を学んでほしい!

●授業内容・授業計画

具体的には、以下のプロセスを個人のペースにあわせて進めるが、授業進行の目安は以下の通りである。

- 1～2回：ガイダンスとテーマ選定
- 3～5回：文献検索、資料収集、テーマ・仮説の決定

6～8回：資料読解、アウトライン決定、レポート執筆と第1次提出

9～11回：資料読解、アウトライン調整、レポート執筆と第2次提出・発表準備

12～14回：発表と相互評価、最終レポート提出

毎回、各自の進行状況報告を行い、クラス全体で問題の共有化・意見交換を行う。

各プロセスの進め方の説明、学術情報総合センターの活用法のガイダンス、レポート執筆の個別指導も行うが、大前提となるのは、授業時間内外における受講生個々人の自発的かつ積極的な取り組み・学びである。

●評価方法

授業への参加、プロセスへの真摯な取り組み、レポート・発表などを総合評価する。すなわち、最終レポートや発表の評価はもちろん、作業プロセスの記録・授業内提出物・資料やレポート作成の途中成果物(第1次草稿・第2次草稿ほか)等をすべてファイリング保存しておき、最終レポートと共に提出してもらい、それらの全体の評価を行う。

成績評価の割合は、授業への参加度合 20%、提出課題 20%、最終発表の相互評価 20%、最終レポート 30%、途中資料・プロセス 10%とする。

●受講生へのコメント

1. 毎回の授業で報告や意見交換を行い、1人1人が「考える」プロセスに教員もじっくりつきあいながら個別指導を行うため、受講生は12名程度までとする。
2. 自分で考え・探っていくという作業は、途中プロセスは苦しい反面、それが最終的に形になっていくと楽しい作業でもある。途中で投げ出さず最後までがんばって取り組んでほしい。
3. 全学共通のセミナーなので、様々な学部・分野の仲間とのコミュニケーションを存分に図り、多様な考え方やアプローチがあることを実感してほしい。

●教材

必要に応じて、授業中に資料等を紹介する。

「初年次セミナー」

(前期 火・4) 大学教育研究センター 西垣 順子

●科目の主題と目標

大学での学びを拡充させるための基本的な認識とスキルを身につけることを目指します。ひとりひとりの大阪市大での学習を考え直し、大阪市大で4年間(6年間)どのように学ぶか、さらにはこれから先の何十年かの人生を如何に生きるかをデザインしてみましょう。

●授業内容・授業計画

この授業では、上述の目的のために、頭と心と体を総動員して学習する経験を積んでもらいます。具体的なテーマは下記に示したとおりです。概ねこの順序で実施しますが、同時並行で行うものもあります。詳しいスケ

ジュールは初回の授業で配布します。

- 1) ガイダンスと大学教育に関する解説
- 2) 自分のカリキュラムを再検討する
- 3) 活動に参加しよう

(知的障害者のスポーツプログラムであるスペシャルオリンピックへのボランティア参加者を募ります)

- 4) 社会のあり方について考えよう

(多様な個性や能力を持つ人々が共生できる社会のあり方について検討しましょう)

- 6) レポートの書き方

- 7) プレゼンテーションと議論をする

●評価方法

レポート課題、プレゼンテーション、授業での発言状況をもとに評価します。比率は3：3：4です。

●受講生へのコメント

受講生数は15名程度以下に制限します。人数を超えた場合は抽選を行います。

受講生を学習重点組と活動参加組に分けます。活動参加組は、知的障害者のスポーツの祭典であるスペシャルオリンピックの日常プログラム(原則的に日曜日に開催)に3回以上参加してもらいます。学習重点組は、レポートや資料作成が中心です(例えば、活動参加組は資料作成課題が1つだが、学習重点組は3つなど)

教員が教えることよりも、受講生の皆さんが行動したり考えたりすることが多い授業です。それがなければ授業が成り立ちませんので、積極的に参加してください。

●教材

溝上慎一(著)「大学生学び・入門—大学での学習は役に立つ」(有斐閣)(1,600円)を教科書として指定します。

「初年次セミナー」

(前期 水・3) 文学研究科 川野 英二

●科目の主題と目標

ゼミ発表など人前で発表をするさいの準備や心構え、資料収集やレポートの書き方など、基礎的なアカデミック・スキルをワークショップやグループ学習などの実習をおして学ぶ。

●授業内容・授業計画

授業では、①大勢の人の前で口頭発表する方法と注意(パブリック・コミュニケーションとプレゼンテーション)、②問いを立てること、アイデアをまとめること、他人と議論すること(ブレインストーミング、ディベート)、③資料を調べ、読解し、論文やレポートをまとめること(資料収集、クリティカル・リーディング、ライティング)など、アカデミック・コミュニケーションの基礎を実習形式で学び、最後に口頭発表とレポートを完成させる。

第1～2回 パブリック・コミュニケーション

- ・アイスブレイキングと他己紹介、自己紹介

第3～5回 プレゼンテーション

- ・パワーポイント、ハンドアウト

第6～7回 ブレインストーミング

- ・リスティング、クエスチョニング、フリーライティング

- ・マインド・マップ、KJ法

第8～9回 ディベート

第10回 資料収集

- ・資料検索：図書館、インターネット

- ・資料整理：文献リスト

第11回 クリティカル・リーディング

- ・スキミング、スキヤニング

第12～14回 ライティング

- ・レポートの書き方

第15回 最終発表

参考書：鹿島 茂(2003)『勝つための論文の書き方』文春新書、T・W・クルーシアス C・E・チャネル(2004)『大学で学ぶ議論の技法』慶應義塾大学出版会、そのほか授業中に指示する。

●評価方法

レポート60点、平常点40点で評価する。

●受講生へのコメント

ワークショップ形式で授業を行うので、積極的に参加できる受講生を望む。

●教材

菊田千春・北林利春『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』東洋経済新報社

「初年次セミナー」

(前期 木・2) 文学研究科 井狩 幸男

●科目の主題と目標

言語に焦点を当てながら、わかりやすい表現の仕方について学ぶことを目的とする。日常生活において、私たちは実に多くの情報に接し、またその中で、わかりにくいと感じることを数多く経験する。また、発信の観点からは、大学生生活に限ってみても、共通教育や専門の授業、課題やレポート、卒論、就活の面接などにおいて、自分の考えや意見を求められることが多い。その際に「わかりやすさ」を意識するのとならないのでは、同じ情報を扱う場合でも、表現の仕方が大きく異なる。本演習では頻繁に課題を出し、発表を求める。同時に、必要に応じて授業の中で、「わかりやすさ」とは何かを考える機会を設ける。そして、それらを通して、効果的な表現力の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

まず、わかりにくい情報を探すことから始め、どこがわかりにくいのか、なぜわかりにくいのかについて考え、それに基づき代替案を提案してもらおう。次に、各自でテーマを決め、プレゼンテーションを行ってもらおう。プレゼンテーションでは、PowerPointを使用する。そして最後に、特定のテーマを与え、ポスターの作成に挑戦してもらおう。必要に応じて、インターネットを使ったデータ

収集や Word, Excel, PowerPoint 等のアプリケーションソフトの効果的な利用方法を指導する。

- 第1回 発表に関する説明、課題1の指示
- 第2～4回 課題1の発表、課題1のコメントと課題2の指示
- 第5～8回 課題2の発表、課題2のコメントと課題3の指示
- 第9～12回 課題3の発表、課題3のコメントと課題4の指示
- 第13回 課題4の発表、課題4に関するコメント
- 第14回 本演習のまとめ、最終課題の指示

●評価方法

5回の発表と授業への関わりを、80:20の割合で評価する。発表に関しては、1回～4回目を各15、最終課題を20とする。授業への関わりについては、他の発表に対するコメントや、私からの質問に対する答えの適切さを基準に判断する。また、5回発表することが、単位認定の条件である。

●受講生へのコメント

1. 発表を中心とする演習形式のため、受講者数は12名程度とし、多くとも15名までとする。
2. 受講生には、粘り強さと創意工夫する能力が求められる。
3. やむを得ず欠席する場合は、適宜、発表を交代してもらい、5回の発表を確保すること。

●教材

必要に応じて、授業中に資料を配付する。

「初年次セミナー」

(前期 木・2) 大学教育研究センター 大久保 敦

●科目の主題と目標

身近な自然(キャンパス内の植物)を対象としたフィールドワークを通して、①大学で学ぶための方法を身につけること、②映像と音声を用いて効果的に自分の意志を伝える方法(ビデオ番組作成)を身につけること、および③円滑にチームワーク(小グループの作業中心)を行えるようになることを目標とします。

●科目の主題と目標

- ①オリエンテーション
- ②身近(キャンパス近辺)な自然に親しむ
- ③調査地域の分担、調査方法の基礎
- ④プレ・プレゼンテーション
- ⑤プレ・プレゼンテーション
- ⑥効果的なプレゼンテーション法(第4、5回のプレ・プレゼンテーションをもとに)
- ⑦観察法
- ⑧調査
- ⑨調査
- ⑩調査
- ⑪調査
- ⑫プレゼンテーション準備

⑬リハーサル

⑭最終プレゼンテーション

●評価方法

平常点(授業参加度(20%)、小レポート・中間発表(30%)及びレポート・発表(50%))を総合的に評価します。()の数字はおおよその評価の割合を示します。

●受講生へのコメント

受講生は15名までとします。植物に興味があり、積極的に授業に参加しようとする人を期待しています(受身の授業を期待している人には不向き)。

●教材

教科書は使用しません。その都度参考図書などを紹介します。

「初年次セミナー」

(前期 木・2) 大学教育研究センター 矢野 裕俊

●科目の主題と目標

大学で学ぶうえでは、もちろん高等学校までの学習との連続性の点からも考えるべきですが、これまでの高等学校での学びとは違った学習を目指すことが求められます。高等学校までは、与えられた問題について答えを出すことが主でしたが、大学では、自ら問題を発見し、それについて自ら考え、調べ、答えを出す、という学び方を身につけ、さらに学んだことを共有しあうことが大事になります。それは大学卒業後にも求められる力です。

それを身につけるために、この科目では自分のこれまでの学習経験を振り返ること、大学とくに市大がもつ学習資源について知ること、また、自分でテーマを見つけてそれを調査研究の計画として具体化すること、それを実行して結果をレポートにまとめること、自分が学んだことを他の人たちに伝えること、他の人との対話やディスカッションにより学ぶこと、といったことをひととおり経験します。

このセミナーでは、そうしたことを経験することにより、みなさんが大学でこれから積極的に学んでいくために、また良いスタートを切るのに大切なことを学びます。

●授業内容・授業計画

以下の諸点を授業の内容とします。

- 1) 自分がこれまでどのように学んできたかを振り返り、今の自分に備わっている能力、これから身につけたい能力を明確にする
- 2) 市大にある学習資源のありかとその活用する方法を知る
- 3) 学習資源を実際に使って調べてみる
- 4) 学習・研究活動の計画を自ら立てる
- 5) 計画を実行に移す
- 6) レポートの書き方を学ぶ
- 7) 学んだ成果をレポートにまとめる
- 8) 学ぶプロセスでの協働や相互学習を大事にする
- 9) 学んだ成果を発表し、他の人と共有する(3回)
- 10) 他の人の発表を評価する
- 11) 自分がセミナーを通して何を身につけたのかを

振り返る

●評価方法

授業への参加、発表、レポートを総合して評価します。評価で重視する観点、自ら問題を見つける (20)、資料や文献を調べる (20)、レポートを書く (35)、発表により伝え合う・学び合う (25)、の4つです。()内は評価のウェイトです。

●受講生へのコメント

お互いに学びあうという関係を重視するので、履修者

数は15名までとします。短期間の授業であり、随時発表や討論を行うので、欠席しないようにしてください。

●教材

北尾謙治ほか『広げる知の世界—大学でのまなびのレッスン—』ひつじ書房、2005年
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2002年

3. 基礎教育科目

線形代数 I

2 単位

Linear Algebra I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 数	前・木・4	市野 篤史 (理)	T I 電建 1~22	前・木・1	大仁田義裕 (理)
S I 物 T I (情 1-32)	前・木・1	市野 篤史 (理)	T I 建 23~ (都)	前・木・1	河田 成人 (理)
S I (化生) H I (環)	前・木・1	藤井 準二 (理)	T I (情 33~) 機	前・木・1	加戸 次郎 (理)
S I (地) T I (化)	前・木・1	増井 健一 (非常勤)			

科目の目標

行列と行列式に関する基礎的概念と計算力の習得。

授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質……行列式の基礎事項と計算練習。
3. 行列式の展開公式。
4. 正則行列の性質……行列の演算における除去の可能性について論じ、余因子行列を用いた逆行列の求め方を解説する。
5. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式 (Cramer の公式) の解説。
6. 同次連立一次方程式の理論……非自明解を持つ条件の考察。
7. ベクトルの幾何学……空間のベクトルに関する基本事項、空間内の直線、あるいは平面のベクトル表

示も解説。

8. ベクトル積……ベクトル解析の基礎として、ベクトル積の定義とその特徴付けを解説する。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

クラスごとに授業内容あるいは、その重点の置き方が多少変わることがある。

高等学校の数学Cの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの線形代数 I の授業を必ず受講すること。

教科書等

津島行男『線形代数・ベクトル解析』(学術図書)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

線形代数 II

2 単位

Linear Algebra II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 数	後・木・4	古澤 昌秋 (理)	T I 電建 1~22	後・木・1	古澤 昌秋 (理)
S I 物 T I (情 1-32)	後・木・1	金信 泰造 (理)	T I 建 23~ (都)	後・木・1	河田 成人 (理)
S I (化地) H I (環) T I (化)	後・木・1	増井 健一 (非常勤)	T I (情 33~) 機	後・木・1	加戸 次郎 (理)

科目の目標

数ベクトル空間を基盤にして、線形代数の基本的手法を解説する。

授業内容

1. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立およびそれらの判定条件に関する解説。
2. 数ベクトル空間の基底……次元に関する基本事項の解説。
3. 行列の階数……基本変形による階数の計算と関連事項の解説。
4. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法、特に、同次連立方程式の基本解の理論

の解説。

5. 基底変換とその行列……基底変換の一般論、及び空間における直交座標系の取り替えに関する具体例の計算。
6. 線形写像……線形写像の基礎概念と直交変換を素材にした、その図形面での応用。
7. 固有値問題……行列の固有値と固有ベクトルに関する基本事項、その応用としての行列の対角化(特に対称行列の場合)、線形差分方程式の解法。

評価方法

定期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

クラスごとに授業内容の重点の置き方が多少変わることがある。

線形代数Ⅰの知識を前提とする。

数学科の学生は、専門科目の代数学Ⅰ、Ⅱとの接続の

関係で、SⅠ数のクラスの線形代数Ⅱの授業を必ず受講すること。

教科書等

線形代数Ⅰと同じものを使う。

解析Ⅰ 2単位

Analysis I

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SⅠ数	前・火・2	高橋 太 (理)	TⅠ電建1~22	前・火・2	森内 博正 (非常勤)
SⅠ物TⅠ(情1-32)	前・火・2	小松 孝 (特任)	TⅠ建23~(都)	前・火・2	河内 明夫 (理)
SⅠ(化生)HⅠ(環)	前・火・2	谷崎 俊之 (理)	TⅠ(情33~)機	前・火・2	兼田 正治 (理)
SⅠ(地)TⅠ(化)	前・火・2	住岡 武 (特任)			

科目の目標

ニュートンやライプニッツによって基礎が造られて以来、自然科学を記述する言葉として発展してきた微分積分学は、現代科学技術においてもその土台となっている。それは力学と共に近代解析学へと進展し、理論的發展が現在も続いている。

この科目では、解析学の序章ともいえるべき極限概念や1変数関数の微積分法について、その知識や応用能力の習得を目指す。

その項目は高校での微分積分と重複する部分が多いが、総合性や理論水準からみて、その内容は高校でのものとは大きく異なるであろう。

本科目は理工系学生にとって必須である解析学への入門部分であるから、その理解度が後に続く多くの理系科目の習得に大きく影響すると考えられる。

授業内容

関数や写像の概念から始まり、初等関数の性質、平均値の定理、テイラーの定理、初等超越関数のべき級数展開、関数の極限値計算、リーマン積分、微積分法の基本定理、有理関数の不定積分、三角関数や無理関数の不定積分、広義積分、面積や曲線の長さの計算への応用の

項目について解説し演習も行う。

そして最後に、これらの極限計算や微積分法の基礎である、実数の完備性や連続関数の諸性質について解説し、解析Ⅱへの準備を整える。

評価方法

基本的には学期末試験の成績と授業の中で行われる演習によって評価する。

それだけでは評価が困難な場合には、レポートや授業出席回数を評価の参考に加えることもある。

コメント

高等学校の数学Ⅲ、数学Cの知識を前提とする。解析Ⅰと解析Ⅱの内容は、以前通年で授業が行われていたものであり、これらは解析Ⅲ、Ⅳの前提にもなっているので、合わせて履修することが望ましい。

数学科の学生は、専門科目の解析学Ⅰ、Ⅱとの接続の関係で、SⅠ数のクラスの解析Ⅰの授業を必ず受講すること。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析 II 2単位

Analysis II

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I 数	後・火・2	西尾 昌治 (理)	T I 電建 1~22	後・火・2	森内 博正 (非常勤)
S I 物 T I (情 1-32)	後・火・2	小松 孝 (特任)	T I 建 23~ (都)	後・火・2	藤井 準二 (理)
S I (化生) H I (環)	後・火・2	谷崎 俊之 (理)	T I (情 33~) 機	後・火・2	金信 泰造 (理)
S I (地) T I (化)	後・火・2	住岡 武 (特任)			

科目の目標

様々な物理量はベクトル場、すなわち時空の位置によって変化するベクトルで表される。

物理現象を記述する言葉として誕生した微分積分学は、もともとベクトル場という多変数の写像を対象としていた。多変数関数の微分とは、変数の微小変位に対する関数値の増分の線形近似のことであり、多変数関数の微積分に関する定理の多くは、線形代数学における定理と深く関係している。

微積分の考え方は1変数の場合で尽くされているとはいえ、自然科学への応用のためには、ベクトル場の微積分が必要となる。本科目では、線形代数学との対応に注意しながら、多変数関数の微積分やベクトル解析の中の積分定理について解説を行う。

理工系の学生は、本科目の中で、大学における解析学独特の内容に接することになる。

授業内容

多変数の連続写像、多変数関数の微分、合成関数の微分に関する連鎖律、ヤコビ行列、微分演算子とラプラスアン、テイラーの定理と極値問題、陰関数・逆関数定理、ラグランジュ乗数法、可測性と可積分性、累次積分、多

重積分の変数変換公式、広義積分とガンマ関数、線積分と面積分、ガウス・グリーン・ストークスの定理、ポテンシャルと微分形式が授業予定の項目である。ただし、授業の効率の点から、いくつかの項目については直観的説明に留め、詳細については学生の自習に委ねることもある。

評価方法

学期末試験の成績と演習による評価が基本であるが、授業担当者によっては、小テストを実施したり、レポート提出を課したり、授業出席回数を記録したりして評価の参考にすることもある。

コメント

予備知識としては解析 I や線形代数学の基本的内容を想定している。

数学科の学生は、専門科目の解析学 I、II との接続の関係で、S I 数のクラスの解析 II の授業を必ず受講すること。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学(上)』(学術図書)

担当者によって使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析 III 2単位

Analysis III

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S II 物 (化生地) T II (都)	前・火・1	市野 篤史 (理)	T II (機化)	前・火・1	佐官 謙一 (理)
T II (電情建) H II (環)	前・火・1	伊達山 正人 (理)			

科目の目標

未知関数の微分や偏微分を含む関係式を微分方程式という。その方程式を解いて未知関数を求めるという微分方程式論は、理工学の多くの分野において、現象解析のために不可欠な手段を提供している。

微分方程式の理論の出発点は常微分方程式論である。その中でも基本となるものは、線形方程式に関するものであるが、計算機の普及に伴って、非線形方程式の定性理論が重視されるようになった。

本科目では、線形方程式を中心とする常微分方程式の解法について議論を展開すると共に、非線形方程式の解の多様な挙動について解説し、理工系学生が、微分方程式に関して基本的知識を持ち、その初等解法を習得することを目標とする。

授業内容

2階階次線形微分方程式、基本解と定数変化法、定数係数線形微分方程式と演算子、行列の指数関数、Laplace変換による解法、常微分方程式の基本定理、Hamilton

系と勾配系、不動点の安定性、解の極限軌道—以上が授業予定の項目である。授業の進度によっては、非線形微分方程式に関する詳しい解説は省略することもある。

評価方法

学期末試験の成績によるが、1回の試験での評価の不安定さを軽減するため、授業担当者によっては、小テストを行ったり、演習問題のレポート提出を求めたり、授業出席回数を記録したりすることもある。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）及び線形代数学の基本的内容を想定している。

教科書等

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

解析Ⅳ 2単位

Analysis IV

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ物（化地） TⅡ（機） TⅣ（都）	後・火・1	加藤 信（理）	TⅡ（建物情化） HⅡ（環）TⅣ（都）	後・火・1	小森 洋平（理）

科目の目標

複素数が登場したのは高次方程式の解法研究の過程においてである。

変数の範囲を複素数にまで拡張した関数の微積分を論じるようになったのは、数学における必然的發展である。19世紀にCauchy, Riemannらによって基礎が造られた複素関数論は近代数学における中心課題となった。

複素関数は、2変数の実関数の組合せで表現できるが、複素関数論で取り扱うのはこのような広い意味の複素関数ではなく、正則関数と呼ばれる、複素変数に関して微分可能な関数である。

それは複素変数のべき級数に展開可能な関数であり、そのような関数は物理的にも重要な意味を持っている。純粋数学的な発足の経緯にもかかわらず複素関数論は理工学において、理論面からも応用面からも大変有用であることが明らかとなった。

線形常微分方程式の解の挙動の複雑さの理由も、複素数の指数関数を考えることにより理解出来るであろう。この科目では、理工系の学生が、専門基礎として複素関数論の基本的内容を習得し、今や解析学の古典となった複素関数論の理論的美しさを理解することを目標とす

る。

授業内容

複素平面と複素数の指数関数、正則関数、等角性と1次関数、整級数、Cauchyの積分定理、留数の定積分計算、Cauchyの積分公式とTaylor展開、最大値原理とLiouvilleの定理、Laurent展開—が予定の授業項目である。Riemann面、解析接続、調和関数、等は複素関数論の重要項目であるが、授業時間数の制約のため割愛する。

評価方法

学期末試験の成績による評価を基本とするが、授業担当者によっては、先行試験、レポート、授業出席回数、等を加えて総合的に評価することもある。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析Ⅰ、Ⅱ）の基本的内容を想定している。

教科書等

今吉洋一『複素関数概説』（サイエンス社）

釜江哲朗／小松孝共著『解析学（下）』（学術図書）

担当者によって、使用する教科書が変わることがあるので、購入の際には注意すること。

応用数学 A 2 単位

Applied Mathematics A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (物化) T II 機	前・月・1	吉田 雅通 (理)	S II (生地) T II (化建) T III (都)	前・月・1	竹内 敦司 (理)
T II (電情) H II (環)	前・火・1	小松 孝 (特任)			

科目の目標

本科目のテーマは確率・統計である。

統計学の目的は、我々がその性質を知りたいものの集まりがあるが、その全てのものを調べることが不可能なとき、その集まりから一部を標本として取り出し、この標本から全体の性質を推測する方法を考えることである。一部のものから全体について客観的な判断をするために、統計学が用いられる。理工系の学生にとって、基本的な統計学の応用能力を持つことは必須であろう。

統計学は確率の考え方に基礎を置いているので、確率の理解なくして統計的手法の有効な利用は不可能である。無限の事象があるとき、それらの事象の確率は測度という概念を用いて定義される。

標本は確率測度の定義された空間上の関数として捉えられる。このような数学的定式化は、標本平均や標本分散等の、色々な統計量の確率分布を理解するのに不可欠であろう。

本科目では、確率論の基礎と統計学の基本的内容を解

説し、理工系学生が、有効な統計的推測能力を身につけることを目標とする。

授業内容

確率の定義、確率変数と期待値、典型的な確率分布、独立確率変数、大数の法則と中心極限定理、正規母集団と統計量、推定、仮説検定（適合度、独立性、分散分析）、回帰分析－以上が授業予定の項目である。

理論的内容についての解説は、統計学の応用に最低限必要な程度に留める。

評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

コメント

予備知識としては、微積分学（解析 I、II）および線形代数学の基本的事柄を想定している。

教科書等

上記の授業内容に近い形式でまとめられている本を、各授業担当者が選んで使用する。

応用数学 B 2 単位

Applied Mathematics B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (物) T II (機電)	後・月・1	小松 孝 (特任)	S II (化生地) T II (化建) T III (基) T II (都情) H II (環)	後・月・1	伊達山 正人 (理)

科目の目標

本科目のテーマは Fourier 解析と偏微分方程式である。

関数を Fourier 級数や Fourier 積分に展開することの意義は、その関数によって表現される物理量を、三角関数が表す基本的な量に分解することによって、もとの物理量の性質を調べることが可能になることにある。

Fourier 解析は偏微分方程式論と強い関わりがある。古典的応用数学は、偏微分方程式の境界値問題と、それを処理するに必要な特殊関数の研究を中心としていた。本科目では、物理学や工学においてしばしば登場する基礎方程式である、熱伝導方程式、波動方程式、Laplace

方程式の、初期値・境界値問題について解説する。

初期値問題の解は Fourier 変換によって見出すことができる。変数分離法は解の具体的な表現を求める有力な方法であり、固有関数展開が行われる。その際、Fourier 級数や特殊関数による展開が用いられる。

授業内容

複素形式の、Fourier 級数、Fourier 正弦、余弦展開、Fourier 変換、Delta 関数、物理学における基礎方程式、矩形領域での初期値・境界値問題、Helmholtz 方程式と Bessel 関数・Legendre 関数、円筒領域での初期値・境界値問題、Green の積分公式と Laplace 方程式－以上が授業予定の項目である。

評価方法

学期末試験の成績、レポート、授業出席回数、等によって総合的に評価する。

コメント

予備知識としては、解析Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び線形代数学の

基本的事柄を想定している。

教科書等

上記の授業内容を含む記述がされている本を参考書として用いる方針である。

応用数学C

2単位

Applied Mathematics C

クラス	期・曜・時	担当者
SⅡ（物化生地） TⅡ（情機電化建） TⅢ（都）HⅡ（環）	後・金・4	藤井 準二（理）

科目の目標

コンピュータの、個人レベルでの利用が容易になり、実験系・理論系を問わず理科系全般に、さらに幅広い分野で、利用されるようになってきた。また、各方面で利用できるソフトウェアの充実によって、プログラムを自分で組むことなしに、それまで困難だった多くの計算を要する思考実験や、データの統計的な取り扱いも可能になってきた。

しかし、一方踏み込んだ使用を考えると、用意された機能だけでは、役に立たなくなってくる。誤差の累積などにより、計算結果に疑問が生じたとき、あるいは誤差の範囲を厳密に知る必要があるとき、また計算にあまりに多くの時間を要すると思われるときには、その計算がどのような計算手順（アルゴリズム）でなされているかを知る必要がでてくる。そして、必要によっては、自分でプログラムを組まなければならない。その際に、問題解決のためのアルゴリズムの基本的な知識は不可欠である。

この授業では、問題解決のための基本的なアルゴリズムを学ぶ。そのことによって、使用するプログラム言語

によらずに存在する不動小数点演算の誤差の問題、問題解決のための計算量の問題等、アルゴリズム固有のことから正確に認識できる知識と判断力を養うことが、本講の目的である。

授業内容

コンピュータ関連の入門コースの多くは、プログラム言語の修得と簡単なプログラミングとなっている。本講義では、応用数学A（確率・統計）、応用数学B（偏微分方程式）に現われる数学的事実からトピックスを選び、コンピュータでの数値計算の数学的側面を講義する。したがって、上記2つの講義単位取得者が望ましく、あくまで数学である事に留意されたい。

もちろん、線形代数、微積分学の知識は前提とされている。

トピックスは正規方程式、モンテカルロ法、偏微分方程式の差分近似法などである。

評価方法

定期試験の成績で決定する。

教科書等

特に指定しない。

基礎数学A

2単位

Fundamental Mathematics A

〈第1部〉

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
CEIa (CI 001~060) (EI 001~060)	前・月・4	小松 孝 (特任)	(HⅠ) 全	前・火・4	辻井 健修 (非常勤)
CEIb (CI 061~120) (EI 061~120)	前・月・4	住岡 武 (特任)			
CEIc (CI 121~180) (EI 121~180)	前・月・4	金信 泰造 (理)			
CEId (CI 181~ 終) (EI 181~ 終)	前・月・4	河内 明夫 (理)			

〈第2部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CE	前・金・1	兼田 正浩(理)

科目の目標

関数の微分法を中心にして、数学的手法の基礎理論を展開する。

授業内容

1. 初等関数の定義とその性質……三角関数、指数関数、対数関数などの代表的な初等関数の定義とその性質を解説。
2. 極限の概念。
3. 微分の基礎理論……積の微分、合成関数の微分公式。
4. 初等関数の微分……有理関数、三角関数、指数関数、対数関数などの微分法。
5. テーラー展開……関数の多項式による近似の理論。
6. 数値計算の基礎……近似計算の手法と誤差の考察。
7. 積分法の基礎

8. 2変数関数に関する基礎概念……2変数関数の極限と連続性の解説。
9. 偏導関数……2変数関数における偏微分の定義と関連事項の解説。
10. 全微分……2変数関数の全微分の定義とその図形的意味などの解説。
11. 簡単な微分方程式の解法。
12. 極値問題(条件付き極値問題、ラグランジュの未定係数法)

評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

経済学部・商学部においては、基礎数学Aにおける授業内容の1から7の項目を講義する。

教科書等

線形代数と微積分を主テーマとした教科書を使用する。

基礎数学B

2単位

Fundamental Mathematics B

〈第1部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CEIa (CI 001~060) (EI 001~060)	後・月・4	加戸 次郎(理)	H I (全)	後・火・4	辻井 健修(非常勤)
CEIb (CI 061~120) (EI 061~120)	後・月・4	住岡 武(特任)			
CEIc (CI 121~180) (EI 121~180)	後・月・4	金信 泰造(理)			
CEId (CI 181~終) (EI 181~終)	後・月・4	加藤 信(理)			

〈第2部〉

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
CE	後・金・1	吉田 雅通(理)

科目の目標

線形数学を素材とした数学的手法の基礎理論を展開する。

授業内容

1. 行列の演算……一般の行列の間の演算に関する基本事項。
2. 行列式の定義とその基本的性質。
3. 正則行列の性質……行列の演算における除法の可能性についての解説。
4. 連立一次方程式の解法……未知数の個数と関係式

の個数が同じであるような連立一次方程式の一般解の公式(Cramerの公式)

5. 数ベクトル空間……ベクトルの線形従属、独立、および、それらの判定条件に関する解説。
6. 数ベクトル空間の基底……次元に関連する基本事項の解説。
7. 行列の階数……行列の基本変形による階数の計算。
8. 一般の連立方程式……掃き出し法による連立方程式の解法。

評価方法

定期試験・レポート・小テスト、出席率などを総合的に考える。

コメント

経済学部・商学部においては、基礎数学Aにおける授

業内容の8から12の項目を講義する。

また必要に応じて基礎数学Bにおける授業内容の1から4の項目についても解説する。

教科書等

基礎数学Aと同じ教科書を使う予定。

統計学A 2単位

Statistics A

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・木・3	福井 充 (医)

科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では統計的考察を行なう上で必要な基礎的な概念と、推定・検定の概念の習得を目的とする。また、応用として1母集団の比率についての検定・推定も学ぶ。

授業内容

統計学の基礎として記述統計、確率分布と応用としての推定法についての講義を行なう。具体的には

1. 記述統計：度数分布表・ヒストグラム・散布図、平均・分散・標準偏差・相関係数
2. 確率分布：確率変数・確率分布の概念、代表的な確率分布（正規分布・二項分布・ポアソン分布）
3. 推定の考え方：点推定、区間推定
4. 検定の考え方：有意水準と検出力、片側検定と両

側検定、棄却域、P値

5. 1母集団の母比率の検定・推定

演習は講義時間内に適時行なう。

評価方法

定期試験を行なう。レポートも加味する。

コメント

解析学（微積分）・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。

関数電卓を用意すること（詳細は授業時に指示）

教科書等

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」（朝倉書店）

注）この教科書は統計学B、3・4回生での推計学でも使用する。

統計学B 2単位

Statistics B

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・木・3	福井 充 (医)

科目の目標

実験あるいは調査によって得られたデータの統計的考察は、医学に限らずあらゆる分野において要求されている。本講義では実際の問題に対する統計的手法を習得することを目標とする。

授業内容

各種統計的手法の適用についての講義を行なう。具体的には

1. 1つの正規母集団の母平均・母分散についての検定・推定
2. 2つの正規母集団の母平均・母分散の比較
3. 2つの非正規母集団についてのノンパラメトリック検定
4. 母比率の比較、分割表の検定

演習は講義時間内に適時行なう。

評価方法

定期試験を行なう。必要に応じてレポートも加味する。

コメント

解析学（微積分）・線形代数学および集合論の概念・記号等に関する知識は既知のものとするので、必要に応じて各自で補うこと。また、統計学Aでの講義内容を前提とする。

関数電卓を用意すること（詳細は授業時に指示）

教科書等

丹後俊郎著「新版 医学への統計学」（朝倉書店）

注）この教科書は統計学A、3・4回生での推計学でも使用する。

基礎物理学 I

4 単位

Basic Physics I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 物 (数地)	前・月 1・金 4	糸山 浩 (理)	T I 機	前・月 1・金 4	牲川 章 (非常勤)
S I (化生) T I 電	前・月 1・金 4	中川道夫 (非常勤)	T I 建 (情)	前・月 1・金 4	河合 俊治 (特任)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象として、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、演習により理解を深めると共に応用力をつける。

授業内容

1. 運動：空間と時間、速度
2. 運動の法則：慣性、運動法則、作用・反作用の法則、運動量と力積
3. 運動とエネルギー：1次元の運動、1次元の運動とエネルギー、2次元の運動、仕事と運動エネルギー、力のポテンシャルとエネルギーの保存
4. 惑星の運動と中心力：ケプラーの法則、クーロン

力による散乱

5. 角運動量：角運動量と力のモーメント
6. 質点系の力学：運動量保存の法則、2体問題、運動エネルギー、角運動量
7. 剛体の簡単な運動：剛体の運動方程式、固定軸をもつ剛体の運動、剛体の慣性モーメント
8. 相対運動：回転しない座標系、重心系と実験室系、座標変換、回転座標系

評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

教科書等

戸田盛和著『力学』(岩波書店) を用いる。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学 II

4 単位

Basic Physics II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 物 (数化生地)	後・月 1・金 4	浜端 広充 (理)
T I (機)	後・月 1・金 4	河合俊治 (特任)
T I 電情	後・月 1・金 4	飯田 武 (非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象とする電磁気学を学習する。講義とともに演習を行い、より深い理解と応用力をつけることを目標とする。

授業内容

1. 静電場
 - ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
 - ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
 - ・コンデンサー、・誘電率
2. 定常電流
 - ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則
3. 電流と磁場
 - ・磁場、・磁場に関するガウスの法則、
 - ・アンペールの法則、・ビオ・サバールの法則、

ローレンツ力、・磁気双極子、・透磁率、

変位電流

4. 電磁誘導と準定常電流

- ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、
- ・過渡現象

5. 電磁気学の基本法則

- ・マクスウェルの方程式、・電磁波

評価方法

通常授業で行う演習、レポート課題、定期試験により評価する。

教科書等

教科書として砂川重信著『電磁気学[改訂版]初めて学ぶ人のために』(培風館)を用いる。副読本として砂川重信著『物理テキストシリーズ 4 電磁気学』(岩波書店)を使用する。また、演習書や参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅰ－A 2単位

Basic Physics I-A

クラス	期・曜・時	担当者
S I 物 T I 電	後・水・1	石原 秀樹 (理)

科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学Ⅰの Advanced Course として設けられた力学の講義である。ここでは基礎物理学Ⅰと同様、マクロな身近に起こる現象を対象にしている。授業では例題をなるべく多くとり入れて、理解し易いよう解説する。

授業内容

1. 振動：単振動、減衰振動、強制振動、連成振動
2. 波動：波動方程式、重ね合わせ、反射、透過と定常波、波の運ぶエネルギー、有限個の自由度をもつ

た媒質

3. 弾性体：弾性体、応力、歪み、弾性エネルギー、塑性変形

評価方法

主として、レポートや期末試験などによって評価する。

コメント

基礎物理学Ⅰの履修がされていることが前提である。主として授業内容は1. と2. について行う。

教科書等

長岡洋介著『振動と波』（裳華房）を用いる。

基礎物理学Ⅱ－A 2単位

Basic Physics II-A

クラス	期・曜・時	担当者
S II 物 T II (電)	前・水・3	石原 秀樹 (理)

科目の目標

理数系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は、基礎物理学の範囲内で、基礎物理学Ⅱの Advanced Course として設けられた電磁気学の講義で、マクスウェル方程式の微分形を使いこなせるようになることを目標とする。そのために必要なベクトル解析をも学習する。また、理解を深めると共に応用力をつけるために演習を行う。

授業内容

1. ベクトル解析の基礎
 - ・ベクトル場、・ベクトルの発散・回転、・線積分、
 - ・面積分、・体積積分、・ガウスの定理、
 - ・ストークスの定理
2. マクスウェル方程式の微分形
 - ・マクスウェル方程式の微分形、
 - ・電磁場のエネルギーと運動量、・電磁ポテンシャル

3. 電磁波と放射

- ・自由空間における電磁場、・電磁場の放射

4. ローレンツ変換

- ・物理法則の不変性、・電磁気学とローレンツ変換、・4元ベクトル

評価方法

期末試験、レポートなど。

コメント

基礎物理学Ⅱの履修を前提として講義を行う。

教科書等

教科書として砂川重信著『物理テキストシリーズ4 電磁気学』（岩波書店）、を使用する。また、副読本として砂川重信著『理論電磁気学』（紀伊国屋書店）を使用し、戸田盛和著『理工系の数学入門コース3 ベクトル解析』（岩波書店）を参考書とする。他の参考書や演習書は適宜紹介する。

基礎物理学Ⅰ－E 2単位

Basic Physics I-E

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生) S低(地) H低(食環)	前・月・1	櫻木 弘之(理)
T I (化)	前・月・1	山本 和弘(理)
T I (都)	前・月・1	神田 展行(理)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目は「力学」を講義する。最も身近に起こる力学現象を対象に、基本方程式からその発展形への拡張を講義し、例題により理解を深めると共に応用力をつける。

授業内容

1. 力のつりあい：変位とベクトル、力のベクトル、力のつりあい、いろいろな力
2. 速度と加速度：直線上の運動、2次元、3次元の運動、円運動の速度と加速度
3. 運動の法則：慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則
4. いろいろな運動：落体の運動、単振動、等速円運動、抵抗力をうけた物体の運動

5. 力学的エネルギー：仕事、運動エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーの保存
6. 運動量と角運動量：運動量と力積、2物体の運動、角運動量
7. 慣性の力：慣性系と慣性の力、回転系における運動
8. 剛体のつりあいと回転

評価方法

授業で行う演習、レポート課題、定期試験などを総合して評価する。

コメント

高等学校で物理を履修した学生を対象とする。

教科書等

長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学Ⅱ－E 2単位

Basic Physics II-E

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生) S低(地) H低(食環)	後・月・1	西川 裕規(理)
T I (化建) T IV (都)	後・月・1	牲川 章(非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、自然現象や広く応用面で重要な電気・磁気現象を対象にする電磁気学を学習する。

授業内容

1. 電荷と静電場
 - ・クーロンの法則、・電場、・ガウスの法則、
 - ・静電ポテンシャル、・電気双極子、
 - ・コンデンサー
2. 定常電流と静磁場
 - ・オームの法則、・抵抗、・キルヒホッフの法則、

- ・磁場、・ローレンツ力、・ビオ・サバールの法則、
 - ・磁気双極子、・アンペールの法則、
3. 電磁誘導
 - ・ファラデーの法則、・自己および相互誘導、
 4. 電磁気学の基本法則
 - ・変位電流、・マクスウェルの方程式、・電磁波

評価方法

レポート課題、定期試験により評価する。

教科書等

教科書として長岡洋介著『物理の基礎』（東京教学社）を用いる。また、適宜参考図書を紹介する。

基礎物理学Ⅲ

2 単位

Basic Physics Ⅲ

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SⅡ物（数化生地） TⅡ電	前・水・1	鈴木 正人（理）
TⅡ（機情）	前・水・1	畑 徹（理）
TⅡ（建化都）	前・水・1	飯田 武（非常勤）

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、日常生活で体感される熱現象を基に築かれた現象論としての熱力学を学習する。熱力学は物理学のみならず工学の分野においても実用的な面から非常に有用である。

授業内容

- 熱現象と熱力学
 - 熱平衡と温度、状態量、理想気体の状態方程式、ファンデルワールの状態方程式
- 熱力学第1法則
 - 準静的過程、熱力学第1法則、内部エネルギー、熱容量と比熱、等温過程、断熱過程、カルノーサイクル
- 熱力学の第2法則
 - 可逆と不可逆過程、熱力学の第2法則、熱機関の効率、熱力学温度、クラジウスの不等

式

- エントロピー
 - エントロピー、エントロピー増大の法則、不可逆性と確率論的意味、微視的状态
- 熱力学関数
 - エンタルピー、自由エネルギー、熱平衡
- 気体分子運動論
 - エネルギー等分配の法則、速度の分布則

評価方法

主として期末試験により評価する。

教科書等

教科書として國友正和著『基礎熱力学』（共立出版）を使用する。また、副読本として R.A.Serway 著、松村訳『科学者と技術者のための物理学 I I 熱力学』（学術図書出版社）を使用する。演習書を指定する場合がある。また、参考図書を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅳ

2 単位

Basic Physics IV

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SⅡ物（数化生地） TⅡ（機） TⅣ（建）	後・水・1	河合 俊治（特任）

科目の目標

理科系の学生に必要とされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、現代物理学の根幹をなし、物質、生命、化学、工学、宇宙など自然科学のあらゆる分野において、ミクロな自然現象を理解するための基礎となっている量子力学の基本的事項を学ぶ。特に、量子力学特有の新しい概念や考え方をしっかり理解すると共に、簡単な数式・例題を通してその本質の理解を深め、より専門的な科目を学習するための基礎を身につけることを目的とする。

授業内容

- 古典物理学の限界：光の粒子性、電子の波動性、粒子性と波動性の二重性、ド・ブロイの関係式
- シュレディンガー方程式：古典的波動方程式、自由粒子のシュレディンガー方程式と平面波、物理量

と演算子、時間に依存するシュレディンガー方程式、波動関数と確率解釈、確率の保存則、波束とフーリエ変換、ディラックのデルタ関数

- 定常状態のシュレディンガー方程式：演算子の固有値と固有関数、時間に依存しないシュレディンガー方程式、束縛状態と非束縛状態
- 1次元問題1（束縛状態）：変数分離と1次元のシュレディンガー方程式、井戸型ポテンシャル、調和振動子ポテンシャル
- 1次元問題2（反射と透過）：1次元の自由運動、階段型ポテンシャルによる反射と透過、ポテンシャル障壁の透過（トンネル効果）
- 3次元問題：球対称ポテンシャル中での粒子の運動、球座標によるシュレディンガー方程式、球面調和関数と軌道角運動量、動径方向のシュレディン

ガー方程式

評価方法

小テスト、レポート、定期試験などによる総合評価。

コメント

基礎物理学 I および解析学の基礎が理解されているこ

とを前提に講義をすすめる。特に振動・波動の学習を推奨する。

教科書等

原康夫著『量子力学』(岩波基礎物理学シリーズ⑤、岩波書店)。また、参考図書・演習書等を適宜紹介する。

基礎物理学Ⅳ－E 2単位

Basic Physics IV-E

クラス	期・曜・時	担当者
S II (数化生地) T II (化情) T IV (建)	後・水・1	飯田 武 (非常勤)

科目の目標

理科系の学生に必要なとされる物理学の基礎知識を系統的に提供する。本科目では、特に現代物理学が解明したミクロの世界における重要な物理現象や、そこから基礎法則を導出した量子論の概略と、その物質系への応用例を概説する。さらに研究の最前線のトピックスのいくつかを紹介する。授業は下記の項目の中から適宜選択しておこなう。

授業内容

1. 光の粒子性：熱放射とエネルギー量子、光電効果、コンプトン効果
2. 電子の波動性：ド・ブロイ波、アインシュタイン-ド・ブロイの関係式
3. 粒子性と波動性の二重性
4. 量子力学入門：シュレーディンガー方程式、波動

関数の解釈、エネルギー固有状態、多粒子系（フェルミ系統とボーズ系統）

5. 物質の構造：原子、分子、固体の成り立ちと電子状態

6. 物理学最前線：量子現象の幾つかのトピックス

評価方法

期末試験、レポートなど。

コメント

基礎物理学 I および II が履修されていることを前提に講義を進める。高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理 I、II の履修者のため、適宜補足的説明を行う。

講義は基本的にはプリントに沿って行う。

教科書等

参考書：長岡洋介著『基礎物理学シリーズ 現代物理学』(東京数学社)

物理学 I 2単位

Introduction to Physics I

クラス	期・曜・時	担当者
M I 医	前・木・1	牲川 章 (非常勤)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理 II を履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学 I では、主に、力学と波動の分野を中心に学ぶ。

授業内容

1. 物理学とは
 - ・物理学の学び方、・物理量の表し方
2. 運動の記述
 - ・速度、・加速度、・等速円運動
3. 運動の法則と力の法則
 - ・運動の第 1, 2, 3 法則
4. 力と運動
 - ・運動方程式とその解
5. 振動
 - ・単振動、・減衰振動、・強制振動
6. 仕事とエネルギー
 - ・仕事、・エネルギー、・保存力、・エネルギー保存則
7. 回転運動

- ・角運動量, ・回転運動の法則
- 剛体の力学
 - ・剛体の運動方程式, 慣性モーメント
 - 見かけの力
 - ・加速度系からみた運動
 - 波動と光

物理学Ⅱ 2単位

Introduction to Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	後・木・1	高橋 保 (非常勤)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げているが、将来にわたってそれらを理解し発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理学Ⅱを履修しなかった学生も含めた医学科の学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然現象はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本的なところの理解が得られることを目指す。物理学Ⅱでは、主に、電磁気学と現代物理学の分野を中心に学ぶ。

授業内容

- 真空中の静電場
 - ・電荷, ・クーロンの法則, ・電場のガウスの法則
- 導体・誘電体と静電場
 - ・導体, ・誘電体, ・キャパシター

物理学A 2単位

Physics A

クラス	期・曜・時	担当者
MI医	前・火・3	木村 政継 (医)

科目の目標

物理学的な「自然観」或いは「世界観」は自然科学の分野だけでなく、広い領域に採り入れられているが、医学部においては総合化の視点に立ってとらえなければならない。物理学Ⅰ(理学部担当)において力学の基礎を学び、それと並列に行う物理学Aは熱力学を中心に学ぶことになる。熱力学は、直感的概念からスタートしながら量子力学によって初めて理解される内容まで含んでいて、一般に分かりにくいとされているが、生化学反応や種々の物理現象の理解の基礎となる分野であることに留意しつつ、分かりやすい講義を心がける。

授業内容

評価方法

定期試験、レポート、平常点など。

教科書等

教科書として、原 康夫著『(第3版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

3. 電流と回路

- ・オームの法則, ・キルヒホッフの法則, ・CR回路

4. 電流と磁場

- ・電流のつくる磁場, ・ローレンツ力,
- ・ビオサバールの法則, ・磁場のガウスの法則
- ・アンペールの法則

5. 電磁誘導

- ・電磁誘導の法則, ・自己誘導, ・相互誘導

6. マクスウェル方程式と電磁波

7. 現代物理学の概要

- ・相対性理論, ・ミクロの世界と量子論,
- ・原子核と素粒子

評価方法

中間試験と期末試験の結果を総合して評価する。

教科書等

教科書として、原 康夫著『(第3版) 物理学基礎』(学術図書出版社)を用いる。

1. 数学的補足：微分方程式に慣れる
2. ファンデルワールスの状態方程式
3. 熱学
4. 熱力学第一法則
5. 熱機関の効率
6. エントロピー
7. 熱力学第二法則
8. 分子運動論
9. 等重率の原理とカノニカル分布
10. エンタルピーと反応熱
11. 自由エネルギー
12. 相平衡
13. 化学平衡
14. 質量作用の法則と生化学反応
15. 電気化学的応用

評価方法

試験の成績に、平常の演習及び出席点を加味して評価する。

コメント

高等学校で微・積分学をある程度学んでいることを前

提とするが、熱力学を学ぶうえで十分とは言えないので、補足する。
教科書等

教科書として、医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用し、適宜、プリント教材で補う。

物理学 B 2 単位

Physics B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	後・火・4	木村 政継 (医)

科目の目標

原子と原子核の物理は、医学的診断や癌治療に広く利用されている放射線をはじめとして、医学的重要性が高い。医学系物理の締めくくりとして、近代物理学的な視点から医学的応用も含めて幅広く解説する。

授業内容

1. 特殊相対性理論 (1) 2. 特殊相対性理論 (2)
3. 熱放射と光子 4. 原子の構造 5. 量子力学の成立 6. 磁場の中の電子 7. ESR と NMR 8. 磁気共鳴イメージング 9. 原子核と加速器 10. X線の発生 11. X線の物理 12. 放射線の物理 13. 放射線の管理 (1) 14. 放射線の管理 (2)

評価方法

試験の成績に、演習と出席状況を多少加味して評価する。

コメント

この分野は医療や医学的研究の基礎としてきわめて重要である。

教科書等

プリント教材をメインとしつつ、教科書として医歯系の物理学（赤野松太郎他著、東京教学社）を使用する。

参考書：アイソトープ手帳（日本アイソトープ協会編、丸善）。

入門物理学 I 2 単位

Introduction to Physics I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I (数化生) S 低(地) T I (化)	前・月・1	浜端 広充 (理)
H 低(食環) MI 看	前・月・1	石川 修六 (理)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

授業内容

最も身近にある物理現象を記述する力学を中心に講義を行う。始めに物理学の学び方をのべ、項目として、

- 1) 速度と加速度
速度、加速度、等速直線運動、等加速度運動
- 2) 運動の法則（ニュートンの運動の法則）
座標系、ベクトル、運動の法則、力、放物運動

3) 周期運動

周期運動、単振動、単振り子、等速円運動

4) 力と運動、エネルギー

力と仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存則、運動量、運動量保存則

5) 剛体の運動

剛体、慣性モーメント、重心の運動、回転運動

6) 熱と温度

熱、温度、状態方程式、プランクの法則、熱力学の法則

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、各項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象

とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学 I-Eを履修すること。

教科書等

原 康夫著『基礎からの物理学』（学術図書出版社）

入門物理学Ⅱ 2単位

Introduction to Physics II

クラス	期・曜・時	担当者
S I (数化生) S低(地) T I (化)	後・月・1	杉崎 満 (理)
H低 (食環)	後・月・1	鈴木 正人 (理)

科目の目標

近年種々の自然科学は目ざましい発展を遂げ、社会の広い分野で応用され人々の生活に役だったり関わったりしている。自然科学を理解し将来に亘って発展させるには、それらの基礎となっている物理学を学ぶ必要がある。本科目では、高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、物理学の基礎知識を分かりやすく系統的に提供する。そのために、自然環境はどのように物理の考え方や概念で理解されるか、次いでそれらが数式により定量化、精密化される過程を分かりやすく説明して、物理学の基本の理解が得られることを目指す。

授業内容

電氣的・磁氣的現象の基礎となる、電磁気学を中心に学び、現代物理学と呼ばれているミクロな世界の物理、相対性理論、原子核・素粒子論などの新しい物理学の展開の概略についても講義する。項目として、

- 1) 電荷と電気力
電荷と電気力、電荷の保存則、静電誘導、クーロンの法則
- 2) 電場
電場、ガウスの法則
- 3) 電位
位置エネルギー、電位と電位差
- 4) 誘電体とキャパシタ

キャパシタ、電気容量、電場のエネルギー、誘電体と電場

- 5) 電流とオームの法則
電流、起電力、オームの法則
- 6) 電流と磁場
磁場、アンペールの法則、磁気力
- 7) 電磁誘導
電磁誘導、誘導起電力、磁場のエネルギー
- 8) 新しい物理学の展開
光・電子の二重性、不確定原理、相対性理論、原子核

などの内容で講義を行う。

この授業では、講義を聞くだけでなく、各項目毎に演習を行いながら、理解を深める。

評価方法

レポート、小テスト、試験、質問などを総合的に評価する。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した学生は、基礎物理学 I-Eを履修すること。

教科書等

原康夫著『基礎からの物理学』（学術図書出版社）

入門物理学実験 2単位

Introductory Physics Experiments

クラス	期・曜・時	担当者
S低 (数化生地) H I 食 (環)	後・金・3~4	小原 顕 (理) 荻尾 彰一 (理) 川上 三郎 (特任)

科目の目標

高等学校で物理を履修しなかった理系学生を対象に、

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習

得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

入門物理学実験は、高校で物理学を履修してこなかった場合でも理解できるように、解説・講義を交えて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスをする。実験は2

回1テーマ、原則として2名1組で行う。各テーマとも、1週目に実験の説明・諸注意の後、測定を行い、2週目に解析・実験結果に関して討論し、レポートを作成する。テーマは次の予定である。

「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大きさを測定する。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。

「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧-電流特性を測定し、その整流作用を観測する。「電気素量」：電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」：GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは2週目終了時に提出する。最終週は実験・

レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目は高等学校で物理を履修しなかった学生を対象とする。高等学校で物理を履修した、必修以外の学生は、基礎物理学実験Ⅰを履修すること。本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱおよび物理学実験S Bを受講することができる。また、本科目を履修した者は、基礎物理学実験Ⅰおよび物理学実験S Aを履修することはできない。必要な場合は基礎物理学実験Ⅱもしくは物理学実験S Bを履修すること。

教科書等

本学理学部物理学科実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』（東京教学社）

基礎物理学実験Ⅰ 3単位

Basic Physics Experiments I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 物 T I 電(都)	前・火・3～5	鐘本 勝一(理) 杉崎 満(理) 川上 三郎(特任)
T I 情(機)	前・木・3～5	小原 颯(理) 山本 和弘(理) 川上 三郎(特任)
S 低(数化生地) T I(建化) H I(環)	後・火・3～5	山本 和弘(理) 川上 三郎(特任)

科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

基礎物理学実験Ⅰは高校で物理学を履修した学生を対象とする。1回目は履修に当たってのガイダンスと、実験全体に共通の事柄について講義を行う。2回目以降は、前半・後半各6テーマとして、1回1テーマ、原則として2名1組で実験を行い、レポートを作成する。

前半テーマ

「剛体の等加速度運動」：斜面を転がる剛体の運動を調べ、剛体の慣性モーメントを求める。「重力加速度」：ボルダの振り子を用い、振り子の周期から重力加速度の大

きさを測定する。「気柱の共鳴・プリズム分光」：スピーカーの音に共鳴する気柱の長さから波長を求め、空気中の音速を測定する。また、プリズム分光器を用いて未知光源の発光スペクトルを測定し、光源の元素を推定する。「熱の仕事当量」：電流による発熱と水温上昇の関係から熱の仕事当量を求める。「ニュートンリング」：ニュートンリングを用いた光の干渉縞の観察から、光の干渉・屈折等について学ぶ。「ダイオードによる整流」：ダイオードの電圧-電流特性を測定し、その整流作用を観測する。後半テーマ

「ヤング率・剛性率」：力による金属の伸びや曲がりからヤング率を測定する。また、ねじれ振り子の周期から針金の剛性率を求める。「音波の振動数と波形」：電子楽器の音の波形をオシロスコープで観察し、振動数と音階、および音波の波形と音色の関係を調べる。「固体の線膨

張]: 金属棒の熱による膨張を観測し、線膨張率を測定する。「トランジスターの特性」: トランジスターの静特性と動特性を測定し、動作原理・増幅作用を理解する。「電気素量」: 電場中での油滴の運動を観察して電荷の不連続性を確かめ、電気素量を求める。「 γ 線の吸収」: GM計数管を用い、物質による γ 線吸収の様子を定量的に調べる。

レポートは当日時間内、あるいは1週間以内に提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。

実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目を修得したものは基礎物理学実験Ⅱあるいは物理学実験S Bを受講することができる。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理Ⅰ、Ⅱの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』(東京教学社)

基礎物理学実験Ⅱ

3単位

Basic Physics Experiments II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ電(機情) SⅡ(化)	前・月・3~5	清矢 良浩(理) 小松 晃雄(特任)
SⅡ物(数生地)	後・月・3~5	杉崎 満(理) 中野 英一(理) 小松 晃雄(特任)

科目の目標

1. 基礎的な物理現象とその法則性について、実験を通して理解を深める。2. 基本的な測定機器の取り扱い、測定誤差・測定精度についての理解を含む実験技術を習得する。3. 実験に対する自主性と積極性を養う。

授業内容

基礎物理学実験Ⅱは、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰを修得した学生を対象に、より高いレベルのテーマを、より高度な測定機器を用いて行う。1回目は履修に当たってのガイダンスを行う。2回目以降は、次のテーマの中から、原則として2名1組で実験を行う。

「万有引力定数」: 大球と小球の間に働く力をねじれ秤を用いて測定し、万有引力定数を求める。「光の速度」: パルス化したレーザー光を用い、空気中の光速を直接測定する。「光の回折」: レーザーの平行単色光を用い、1次元および2次元格子による光の回折現象を調べる。

「過渡現象と交流回路」: 抵抗・コンデンサー・コイルを含む回路を用いて過渡現象を観測し、交流についての理解を深める。「差動増幅器」: OPアンプを用いて簡単な差動増幅器を実際に作り、その動作を調べる。「電磁波」: 波長約3cmのマイクロ波を用い、電磁波の反射や干渉などの基本現象を学ぶ。「磁化曲線」: 強磁性体の磁化曲線を測定し、磁性の基礎を学ぶ。「電子の比電荷」: 電磁場中での荷電粒子の運動を観察し、電子の比電荷を測定する。「レーザー」: 固体レーザーの発振の様子や第

二高調波発生の観測を通して、非線形光学の基礎を学ぶ。

「真空」: 低圧気体の熱伝導の圧力依存性を調べる。「熱放射」: 黒体から放射される電磁波のエネルギーおよび強度の波長依存性を測定し、温度との関係を調べる。「原子スペクトル」: 水素原子の輝線スペクトルを観測する。「 γ 線スペクトル」: シンチレーション検出器と波高分析器を用い、 γ 線のエネルギースペクトルを測定する。

各実験終了後、レポートを次回までに提出する。最終週は実験・レポート等の総括的な指導を行う。また、欠席者に対しては、補充実験を追加して行う。

評価方法

実験レポート、実験中の態度など総合的に評価する。実験科目は出席して実験することを前提とし、レポートを提出しそれが受理された時点で初めて評価が行われる。

コメント

本科目を履修するためには、入門物理学実験又は基礎物理学実験Ⅰ(それに相当したもの)を修得していなければならない。また、本科目を履修した者は、原則として、物理学実験S Bの履修を認めない。

高等学校で改訂学習指導要領に沿った物理Ⅰ、Ⅱの履修者のため、適宜補足的説明を行う。

教科書等

本学理学部物理学実験教育ワーキング・グループ『物理学実験 第3版』(東京教学社)

基礎物理化学 A 2 単位

Basic Physical Chemistry A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI 化	前・水・1	宮原 郁子 (理)、 塩見 大輔 (理)	MI 医	前・水・1	神谷 信夫 (理)
TI (機電) HI (食環) TII (都)	前・水・1	佐藤 和信 (理)	SI (数物生地) TI (情建) TIII (電)	後・木・3	麻田 俊雄 (非常勤)

科目の目標

我々の身の回りは、さまざまな物質で溢れている。物質の構造、機能、反応を扱う化学が現代社会の中で果たしている重要性は非常に大きい。本科目では、量子の法則に基づく原子、分子の構造と化学結合の基礎を理解することを目標として、ミクロな視点から物質を理解するために必要な化学の基本概念を学ぶ。

授業内容

第1～4回 原子の構造と量子論の基礎

第5～7回 二原子分子の化学結合－共有結合とイオン結合

第8、9回 三原子分子と結合角－分子を曲げる力の謎

第10～12回 分子軌道法と混成－多原子分子の構造

第13～14回 分子間に働く力

評価方法

試験の成績 (80 点) に演習レポート (20 点) を加味して評価する。

教科書等

適宜、資料プリントを配布する。

参考書：P. W. アトキンス著「物理化学 (上)」(東京化学同人) (SI 化)

基礎物理化学 B 2 単位

Basic Physical Chemistry B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI 化 (数物生地)	後・水・2	豊田 和男 (理)	TI (建・都・電) HI (食・環) TIII (電)	後・水・2	田中 礼二 (非常勤)

科目の目標

自然は「物質の拡散」と「エネルギーの拡散」を伴いながら、「自ずから然り」の言葉通り自発的に変化して現在の姿となっている。いかなる拡散過程もそっくりには後戻りできない「不可逆過程」である。自然を支配している不可逆の法則を表したのが熱力学第2法則であり、エントロピー増大則である。エントロピー概念を正しく理解して、循環過程が成立する条件を学ぶ。また、自由エネルギー概念を導入して、定められた環境の中に置かれた系が自発的に変化して平衡状態に達する法則を学ぶ。

授業内容

高校で物理を履修していない学生にも理解できるように、熱、仕事、温度、状態量、可逆過程と不可逆過程、エントロピー、自由エネルギーなど、熱力学における基

本的な概念を分かり易く解説しながら、論理的な思考力を養う。

1. 系と環境 2. 熱力学第1法則 (内部エネルギー、熱、仕事) 3. 熱平衡と温度 4. 状態の記述 (熱力学的平衡、状態量、可逆過程と不可逆過程) 5. 蒸気機関の改良とカルノー・サイクル 6. 熱力学第2法則 7. エントロピー概念と熱力学温度の確立 8. 不可逆過程とエントロピー 9. 循環過程の成立条件 10. 閉じた系の熱力学 (エンタルピー、熱容量、自由エネルギー)

評価方法

宿題、小テスト、試験、欠席率等により総合的に評価する。

教科書等

初回の講義で指示する。

基礎有機化学 2単位

Fundamental Organic Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
T I (機建電都) T III(電)	前・水・2	古市 公彬 (非常勤)

科目の目標

我々の身の回りには、天然および人工の有機化合物が溢れている。近年、これらの化合物について基本的性質を知りその働きを理解することは、化学を専門としない理系の学生にとっても必要となってきた。ここでは化学を専門としない理系の学生を対象に、有機化学の基本概念の習得を目標として有機化合物における官能基とその性質・反応性について系統的に解説を行い、有機化合物についての理解を深める。

授業内容

1. 結合と構造異性、2. アルカンとシクロアルカン、アルカンとアルケン、3. 芳香族化合物、4. 立体異性、5. 有機ハロゲン化合物、6. アルコール、フェノール、とチオール、7. エーテルとエポキド、8. アルデヒドとケトン、9. カルボン酸とその誘導体、10. アミンとそれに関連した窒素化合物などの各論を系統的に講義す

る。

評価方法

試験の成績、授業中のテストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

コメント

有機化学の最初の時間で学ぶ1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また参考書の演習問題を解くことによって知識を自分のものとするができる。

教科書等

参考書として H.ハート/D.E.クレーン/D.J.ハート共著・秋葉欣也/奥 彬共訳「ハート基礎有機化学」(培風館)

基礎有機化学 I 2単位

Basic Organic Chemistry I

クラス	期・曜・時	担当者
S I 化 (数物生地)	前・月・2	岡田 恵次 (理)

科目の目標

我々の体は主として有機化合物で成り立っている。また、身の回りにも、天然および人工の有機化合物が溢れている。これらの有機化合物はどのような性質をもっているのだろうか。また、これらはどのように作られるのだろうか。そのような疑問を解くためには、有機化合物の結合や反応性等の基礎的事項を修得することが必須である。本科目および基礎有機化学 II では、有機化学の基礎概念の修得を目標として、有機化合物の結合、構造、官能基の性質や反応性について、系統的に解説を行い、有機化合物についての理解を深める。

授業内容

1. 結合と構造異性 2. アルカンとシクロアルカン 3. アルケンとアルキン 4. 芳香族化合物 5. 立体異性 6. 有機ハロゲン化合物 7. アルコールとフェ

ノール

などの各論を統計的に講義する。

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

コメント

有機化学の最初の章で学ぶ1) 形式電荷を理解し構造式を正しく書くこと、2) 反応式における矢印の意味を理解すること、3) 紙と鉛筆を用いてそれらを書けるようにすることは、その後の章の内容を理解する上で極めて大切である。また、演習問題を解くことによって知識を自分のものとするができる。

教科書等

H.ハート/L.E.クレーン/D.J.ハート共著・秋葉欣哉・奥彬共訳 「ハート基礎有機化学」(培風館)

基礎有機化学Ⅱ

2単位

Basic Organic Chemistry II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SI化 (数物生地)	後・月・2	小 崎 正敏 (理) 飯 尾 英夫 (理)

科目の目標

基礎有機化学Ⅰに継続する科目であり、Ⅰ、Ⅱを連続して受講することにより、有機化学全体の基礎概念を修得出来る。種々の官能基を持つ化合物の構造、性質、反応について系統的に学び、有機化学の理解を深める。

授業内容

1. エーテルとエポキシド 2. アルデヒドとケトン
3. カルボン酸とその誘導体 4. アミン 5. 複素環化合物 6. 生体関連化合物

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習

コメント

基礎有機化学Ⅰを受講しておくこと。授業終了後演習問題を解いて、よく復習すること。

教科書等

H. ハート著・秋葉欣也・奥彬共訳 [ハート基礎有機化学] (培風館)

基礎無機化学

2単位

Basic Inorganic Chemistry

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
SII化	前・水・2	亀尾 肇 (特任)	MI医	後・水・1	市村 彰男 (特任)
SII (数物生地) TII (機電建都情) TIII (電)	前・水・2	福本 晃造 (非常勤)			

科目の目標

無機化学は、多彩な分子や化合物、錯体の合成、構造、性質を系統的に理解することを目的とする化学の一分野である。基礎無機化学では、化学系・非化学系・医学系の3コースについて、それぞれがより高度な化学および関連領域を理解するために必要な基本的な考え方を習得する。

授業内容

SII化クラス：

無機化学の基礎を理解するため、原子構造と分子構造、分子の形と対称性、固体の構造、配位化合物 (金属錯体) などを中心に講義する。原子を取り扱うための考え方を分子や固体にどのように応用できるかを、電子構造や幾何学的な形と関連させながら理解し、さまざまな化学的な性質や反応性を説明できることを示す。分子化合物、錯体の構造や物性を、電子のレベルから解き明かし、化学的な現象と理論的な取り扱いとを関連付けながら解説する。

MI医クラス：

無機化学の基本を理解するために、まず周期表と各元素の関係について概観する。次に原子の電子構造と性質、そして分子の構造を決める要因と結合について解説する。また、酸および塩基の概念、酸化と還元について理解を深める。生体内で様々な代謝過程、呼吸、シグナル伝達などに重要な役割を担う金属錯体についても学ぶ。

コメント：適宜中間テストを行い理解度をチェックしながら進める。

SII (数物生地) TII (機電建都情) TIII (電) クラス：

無機化学の基礎をまず原子や電子の構造および元素の性質と周期性から理解する。次に無機分子の結合、構造、反応性の特徴ならびに身近に存在する典型元素 (非金属元素) や遷移金属を含む化合物の性質や反応を系統的に講義する。また、酸、塩基の概念や酸化と還元についても学ぶ。さらに遷移金属錯体や無機材料、生体材料などに焦点をあてた今日のトピックスも取り上げながら、電子や原子のレベルから無機化合物の特徴を系統的に理解できることを解説する。

評価方法

出席状況、レポート、試験などの成績を総合的に評価する。

教科書

(SII化) シュライバー著「無機化学 (上)」(東京化学同人)

(MI医) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

参考書

(SII (数物生地) TII (機電建都情) TIII (電)) 三吉克彦著「はじめて学ぶ大学の無機化学」(化学同人)

基礎分析化学

2 単位

Basic Analytical Chemistry

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II 化 (数物生地)	前・金・3	市村 彰男 (特任)
T II (電建都)		
H II (食環)		

科目の目標

分析化学は環境、生体、材料などに存在するあらゆる天然や人工の物質の化学的組成を定性的および定量的に識別するための方法を確立することを目的とする化学の一分野である。現在の化学分析および機器分析法の多くは、選択性を有しているため、定量分析が定性分析にもなりうる。従って分析化学反応を定量的に取り扱う方法を学び取る。

授業内容

溶液内反応に基づく分析法の基礎理論と平衡計算：酸・塩基平衡、錯形成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡を含む、溶液内平衡を理解する。そしてこれら平衡の問題を解くために厳密な取り扱いを習得した後、近似法、図的法、数値法、コンピュータ法などの各種の解法を学ぶ。また、それぞれの平衡反応を用いる滴定（中和滴定、キ

レート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定）を定量的に取り扱う。

評価方法

定期試験、中間試験、レポートなど

コメント

指数、対数、平方根等が計算可能な関数電卓を使用できることが望ましい。

教科書等

教科書：姫野貞之、市村彰男著『溶液内イオン平衡に基づく分析化学』第2版（化学同人）

参考書：土屋正彦、他監訳『クリスチャン分析化学 I 基礎』（丸善）

H. Freiser, "Concepts and Calculation in Analytical Chemistry" (CRC)

基礎有機化学M

2 単位

Fundamental Organic Chemistry M

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
M 1 医	後・火・3	古市 公彬 (非常勤)

科目の目標

生体成分である糖、タンパク質、核酸、遺伝子、脂肪、その他低分子の有機化合物が複雑に絡み合い調和され、生命現象を営んでいる。従って、医学においては、最も基本単位である糖、アミノ酸や脂質などの生体機能分子の生体化学を学ぶことは大変重要である。また、医薬品や内分泌物質などの生体に作用する物質も低分子有機化合物である。これらの構造と性質を学ぶことにより、より生命現象を深く理解することができる。

授業内容

1. 有機化合物の基本概念：原子構造、分子構造、命名法、立体化学、反応機構（4コマ） 2. アルコール、フェノール、エーテルおよびそれらの硫黄類似体（1コマ） 3. アルデヒドおよびケトン（1コマ） 4. カル

ボン酸とその誘導体（1コマ） 5. 有機窒素化合物（1コマ） 6. 糖質（1コマ） 7. アミノ酸、ペプチド、およびタンパク質（2コマ） 8. 芳香族化合物、核酸およびヌクレオチド補酵素（2コマ） 9. 脂質（1コマ）

評価方法

試験の成績、授業中の小テストや演習レポート、出席点等を総合的に評価する。

教科書等

教科書：P.W. グランドウオーター G.A. テイラー著、安藤喬志 木村隆英 中澤 知男 共訳「バイオサイエンス基礎有機化学」（化学同人）、その他必要に応じ資料を配布する。

入門化学 2単位

Introduction to Chemistry

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI看 SI (数物生地)	前・月・2	工位 武治 (特任)

科目の主題と目標

化学を専門としない理系学生を対象とした科目である。高校時代に化学を学んでいない学生が高校レベルの化学の知識を越え、かつ現代化学が理解できるように講義する。高校程度の基礎からはじめ、元素の周期表なども短期間で「全部」記憶できる効果的な方法（オリジナル版）などを提供すると同時に、現代化学の体系の基礎を習得することを目指す。最終的には、医薬品、化学添加物をはじめ、日常に溢れる化学物質を理解できるようになるだけでなく、物質社会の根底にある化学の法則とはどのようなものか、また物質の構造はどのようにして決められるか、化学が日常生活で果している役割などを学ぶことを通じて、化学の面白さ・学問的な深さを知り、化学を「得意な科目」にする。

評価方法

レポートと定期試験。

受講生へのコメント

化学に関するどんな疑問・質問にも答えます。

教 材

教科書の指定はない。教材は担当者が提供する。

授業内容・授業計画

- ①原子・分子・微視的粒子の世界の法則
 - ②化学に強くなる「化学の基礎」
 - ③元素の周期表を全部丸ごと憶える
(オリジナル版完全記憶方法の提供)
 - ④原子核の基礎化学
 - ⑤化学結合と分子を理解のための初歩的量子化学
 - ⑥紙とエンピツで分子の中の電子軌道をつくる
 - ⑦金属イオンを含む化合物・配位化合物の化学
 - ⑧現代の有機化学の基礎と日常生活
 - ⑨光学異性体の不思議と化学
 - ⑩タンパク質とDNAの分子科学・分子進化
 - ⑪化学反応とエネルギー・熱・温度・光
 - ⑫化学のために初歩的熱力学
- 各課題を1-2週間で消化する。

基礎化学実験 I 3単位

Basic Chemistry Experiments I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
TI化 (建)	前・火・3~5	神谷 信夫 (理)・品田 哲郎 (理)・西岡 孝訓 (理) 他
TII (情) HI食 (環)	前・木・3~5	同上
S低 (数物生地) TI (都電)	後・火・3~5	同上
SI化 TII (機材)	後・木・3~5	同上

科目の目標

身近の物質変化を基にした基礎的実験を通して、現代科学および技術にとって必須の化学的知識を理解する。実験に際しては注意深く観察し、種々の現象を理論的に考える。また実験結果を整理して、自然の摂理を理解する能力を養う。

授業内容

1~6. 陽イオンの定性分析実験：(1)銀、銅、スズ族イオン混合試料の分離分析と各イオンの確認 (2)沈殿反応、炎色反応を利用した未知試料の分析等

7. 原子スペクトル分析実験：原子固有のスペクトル線の吸収および発光を利用した分光分析法による微量金属の定性および定量分析

8~11. 有機化合物の合成実験：(1)有機実験基本操作法 (2)純物質の単離・精製実験 “アスピリン錠剤からア

セチルサリチル酸の抽出” (3)機能性物質の合成実験 “メチルオレンジの合成” (4)酢酸イソアミルの合成

12~14. 物理化学実験：(1)「時計反応」と名付けられた反応を利用して、反応する物質の濃度や温度が反応速度に及ぼす効果を調べる (2)酸化還元反応を利用した滴定により溶液中の溶質濃度を決定する (3)実験結果のまとめ方、レポート作成上の注意等に関する講義

評価方法

毎回出欠の確認をとり、実験後は口頭試問やレポートの提出を義務づけている。

コメント

各実験のはじめに指導教員から実験内容の説明や注意事項が与えられるので定刻までに必ず入室しなければならない。実験の内容は予習しておき、操作の意味を十分理解して実験にのぞむべきである。分からないことは、

積極的に担当者に質問し、あいまいな理解のままにしておかないこと。

教科書等

『改訂版 基礎化学実験』(大阪市立大学理学研究科・基礎教育実験棟化学実験室編、2010、ふくろう出版)

基礎化学実験Ⅱ

3単位

Basic Chemistry Experiments II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(化)	前・月・3～5	鈴木 修一(理)・板崎 真澄(理)・佐藤 和信(理) 他
SⅡ化	後・月・3～5	鈴木 修一(理)・板崎 真澄(理)・佐藤 和信(理) 他

科目の目標

自然科学は実験によって明らかとなった事を積み重ねて組み立てられている。特に化学は実験が重要な役割を果たしている。講義を聴いただけでは分かりにくいことも、自ら実験することによって鮮明に理解することができる。科学的方法に従って自然と対話しながら、自分にとって多くの新しいことを発見する。また、実際のプロセスを通じて実験を推し進める方法を学ぶ。

授業内容

TⅡ(化)クラス:

第1週「ガイダンス」実験内容の説明と安全指導。第2～4週:遷移金属錯体の合成とその性質・機器を用いた陰イオンの分離や定性分析。第5～9週:芳香族化合物の合成とスペクトル解析・量子化学計算。第10～11週:微粒子のブラウン運動の観察・拡散定数およびアボガドロ定数の決定。第12～14週:DNA融解温度の測定と電気泳動・高速液体クロマトグラフィー等によるDNAの機器分析。

SⅡ化クラス:

第1週「ガイダンス」実験内容の説明と安全指導。第2～6週「有機化学」:次の1～5課題を実施する。1.有機化学実験法 2.アジピン酸の合成 3.安息香酸メチルの合成 4.ジベンザルアセトンの合成 5.口

頭試問。これらの合成実験を通して得られた化合物のスペクトル測定を行い、分子構造を推定する。第7～8週「無機化学」1.赤外吸収スペクトルおよびイオンクロマトグラフィーを活用した陰イオンの定性分析 2.遷移金属錯体の合成と配位子置換反応。第9～14週「物理化学」以下のテーマの中からいくつかの実験を実施する。初回にレポートの作成、国際単位系、測定誤差と有効数字、天秤の扱いについて解説する。1.凝固点降下 2.界面活性剤水溶液の表面張力とミセル形成 3.分子の振動回転 4.分子力学法による炭化水素化合物の構造とエネルギー 5.分子発光-電子の励起状態の描像 6.核磁気共鳴 7.分子の対称性と量子力学的縮重

評価方法

レポート、口頭試問および実験に対する姿勢等を総合的に評価する。

コメント

基礎化学実験Ⅰを履修した学生に対して提供される基礎科目である。また、基礎教育科目の「基礎有機化学Ⅰ、Ⅱ」、「基礎無機化学」、「基礎物理化学A、B」を履修していることが望ましい。

教科書等

『改訂版 基礎化学実験』(大阪市立大学理学研究科・基礎教育実験棟化学実験室編、2010、ふくろう出版)

化学実験

2単位

Laboratory Exercise in Chemistry

クラス	期・曜・時	担当者
HⅡ食	後・木・3～4	古澤 直人(生) 市川 直樹(生)・金 東浩(生)

科目の目標

基礎化学実験Ⅰを履修した食品栄養科学科2年次の学生が、実験を通してさらに化学的知識・技術を深めるとともに、3年次からの学生実験の基礎を習得することを目的とする。

授業内容

1)精密機器-HPLCの実際 5週 分析化学分野で

汎用されているHPLCの原理とその有用性を知ることが目的に、HPLCを用いて食品中に残留する数種抗菌性物質の定量を行う。なお、分析対象はスルファモノメトキシシナラビにスルファジメトキシシナとし、試料の前処理は固相抽出(SPE)法により行う。

2)分光光度計によるブロムフェノールブルーのpKa

決定 5週 ブロムフェノールブルー (BPB) は水素イオン濃度 (pH) の変化と伴い、変色する酸塩基指示薬である。

本実験では、種々な pH の BPB 溶液の吸光度を測定し、BPB の解離平衡方程式を用いて BPB の酸解離定数 (pKa) を求めることにより、pH 滴定法および吸光度測定による酸解離定数の測定法を学ぶ。

3) 生化学 5週 タンパク質、アミノ酸の定性分析、SDS-PAGE によるタンパク質の分離、コウシ胸腺

からの DNA の抽出、DNA とタンパク質の紫外部吸収曲線の比較などを行う。

評価方法

各課題レポート 25 点×4 で評価する。

コメント

補講に相当する追加実験は提供しない。

教科書等

実験指導書を配布する。

生物学概論 A 2 単位

General Biology A

クラス	期・曜・時	担当者	クラス	期・曜・時	担当者
S I (全) T I (建電) T II (機) T III (都)	前・水・1	名波 哲 (理) 幸田 正典 (理)	T I (化) H I (食環)	後・金・2	伊東 明 (理) 高木 正興 (理)

科目の目標

生物界は階層構造をなす。ミクロの階層を扱い、生物の物質的側面に迫る分子生物学は、現代生物学の一方の極であるが、それのみでは生物の本質を全体的に理解することはできない。本科目では、生物の個体以上の階層 (レベル) を対象とし、生物がどのような相互作用を営み、それがどのように進化してきたのかを学ぶ。

授業内容

授業の前半 (名波・伊東) では、身の回りの環境問題と関連してしばしば耳にする、生態系のしくみ (構造) と働き (機能) について考える。生態 (エコ) 系 (システム) とは、地域に住むすべての生物と地域の物理的環境をひとまとめにして、物質の循環やエネルギーの流れを主要な変数として、生物集団の機能を解析するためのシステムである。このシステムは水域にも陸域にも存在するが、授業では、主に陸域の生態系を取り上げる。

授業の後半 (幸田・高木) では、行動生態学の視点から、様々な動物の行動や形質とその意味について考える。また、生物進化の実態としての生命の歴史と進化の理論を学ぶ。

評価方法

試験の成績に、平常の小テストやレポートの成績を加味して評価する。

コメント

資料を多数用意し配布する予定である。また、スライドを使用し、動物行動についてはビデオも見せる。

教科書等

参考書 (前半) : 四手井綱英、吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』(人文書院)、岩坪五郎編『森林生態学』(文永堂)

(後半) : クレブス・デービス著『行動生態学』(蒼樹書房)、ドーキンス著『利己的な遺伝子』(紀伊国屋書店)

生物学概論 B 2 単位

General Biology B

クラス	期・曜・時	担当者
S I (全) T I (電建) H I (食環)	後・水・2	藤田 憲一 (理) 飯野 盛利 (理) 濱口 祐 (特任)

科目の目標

生物は、外部環境から隔てられた体内で、生体分子による複雑な物質代謝・エネルギー代謝を行っている。また、環境の情報を捉え、それに様々な形で反応し、適応している。このような生命を維持するしくみについて理解する。

授業内容

まず、外部環境と内部環境を区切っている生体膜の役割について概説する。ついで、生体内で活躍する基本的な低分子、炭水化物や脂質、アミノ酸などの生体分子の構造とその生体内における役割について紹介し、それら

分子が相互変換する代謝とその調節について触れる。さらに、動物と植物における環境応答反応、およびそれらの反応における生体膜の役割について解説する。

1. 生体膜の役割
2. 生体分子
3. エネルギー獲得系の代謝
4. 生体膜の内外での物質輸送
5. 膜蛋白質の構造と機能
6. 動物における環境シグナルの受容と応答

7. 植物における環境シグナルの受容と応答
8. 動物の環境シグナル応答における生体膜の役割
9. 植物の環境シグナル応答における生体膜の役割

評価方法

試験を中心として、レポートや質問状況等を加味する。

コメント

高校生物・高校化学の基礎知識の習得が望ましい。

教科書等

参考書：生化学の入門書。

生物学概論 C

2 単位

General Biology C

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (全)	後・水・2	寺北 明久 (理)
T II (建都電) T IV (都)		後藤 慎介 (理)

科目の目標

代謝生物学・調節生物学：生物はいろいろな代謝系を有し、外界から取り入れた養分を用いて、エネルギーや生体構成物質を生成している。また、一方では貯蔵物質として蓄えたり不要となったものを分解再利用したり排出したりしている。本講義では、代謝とそれを調節する機構について学習する。

授業内容

生体構成上の高分子物質（生体高分子）、特に核酸とタンパク質の生合成とその調節のメカニズムについて概説する（寺北担当）。続いて、さまざまな動物を例に食物を摂取してエネルギーを獲得するしくみとその調節機構について解説を加える（後藤担当）。

- 1) DNA の生合成
- 2、3) RNA の生合成
- 4、5) タンパク質の生合成
- 6) タンパク質の品質管理

- 7) 遺伝子発現の調整
- 8～11) 摂食・消化・栄養
- 12～14) エネルギー代謝

評価方法

試験、レポート

コメント

高校程度の生物と化学を習得していることが望ましい。

教科書等

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

寺北担当分：ブルース・アルバーツ他著 Essential 細胞生物学 原書第 2 版(南江堂)

後藤担当分：クヌート・シュミット=ニールセン著『動物生理学[原書第 5 版]環境への適応』（東京大学出版会）

生物学概論 D

2 単位

General Biology D

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S II (全)	前・水・2	中村 太郎 (理) 小宮 透 (理)
T II (機化電建情)		
T IV (建都)		
T III (電)		
H II (食)		

科目の目標

DNA を扱う研究の爆発的な発展により、遺伝子が生命の営みにどのように関わっているかが明らかになりつつある。細胞レベル、個体レベル、そして集団レベルま

で、さまざまな生命現象を明らかにするために、DNA 解析が用いられている。また、遺伝子組み換え植物や遺伝子治療に代表されるように、遺伝子研究は私たちの生活とも密接なつながりを持つ。本講義では、遺伝子の構

造と機能をやさしく解説したあと、細胞レベルから個体レベルにいたる遺伝子の機能解析の手法について解説を行い、さらに生命が進化の過程で獲得した細胞間コミュニケーションの手段としてのシグナル伝達と細胞接着について解説を行い、先端的分子生物学研究のための基礎を学ぶことを目標とする。遺伝子の働きの理解を通して、統一的な生命感の確立を目指す。

授業内容

1. 遺伝子とは何か (I) : その発見の歴史
2. 遺伝子とは何か (II) : タンパク質の設計図としてのDNA
3. 遺伝子とは何か (III) : DNAの分子構造
4. 遺伝子とは何か (IV) : スプライシング
5. 遺伝子とは何か (IV) : DNA複製
6. タンパク質をいづれくらい作るかを定めるメカニズム

7. 遺伝子工学
8. 遺伝子機能解析の手法 (I)
9. 遺伝子機能解析の手法 (II)
10. 遺伝子機能解析の手法 (III)
11. 細胞間コミュニケーション概略
12. シグナル伝達 (I)
13. 細胞接着 (I)
14. 細胞接着 (II)
15. 期末試験

1 から 7 は中村が、8 から 14 は小宮が担当する。

評価方法

試験

参考書

(教科書は用いない。) 参考書としてアルバート他「細胞の分子生物学」第4版 ニュートンプレスを薦める。

生物学概論 I 2 単位

An Introduction to Biology I

クラス	期・曜・時	担当者
M I 医	前・水・2	志賀 向子 (理) 武山 智博 (特任)

科目の目標

動物たちは、地球上のさまざまな環境に適応して生きている。本講義では、環境に対する適応のしくみに注意を払いながら、動物の生理的調節機構について学習する。

授業内容

- 1) 動物の生理的調節機構において、主要な役割を果たしている神経系と内分泌系について概説する。
 1. 制御と統合、2. ホルモン制御、3. 情報と感覚 (講義回数 7 回)
- 2) 動物の生理的調節機構の例として、温度適応機構と体液の恒常性を維持するしくみを概説する。4. 温度効果、5. 体温調節、6. 水と浸透調節 (講義回数 7 回)

動物の生活の多様性に配慮し、ヒトをはじめとする脊椎動物はもとより、無脊椎動物も含むさまざまな実例を提示する。

評価方法

定期試験で評価する。

コメント

高校学校で生物、化学、物理を履修したことを前提とする。

教科書等

教科書：クヌート・シュミット＝ニールセン「動物生理学－環境への適応」(東京大学出版会) 6～8章、11～13章、

生物学概論 II 2 単位

An Introduction to Biology II

クラス	期・曜・時	担当者
M I 医	後・水・2	宮田 真人 (理) 水野 寿朗 (理)

科目の目標

一見多様に見える生命現象も、必要な情報は全て遺伝子として細胞中に保持されている。遺伝情報の機能を理解するためには、ミクロからマクロに至る多様な生命現

象についての素養が求められる。本講義では、(I)遺伝子がどのように維持され発現するかを、細胞と生体高分子の構造に対する考察と共に解説する。また、(II)多細胞動物の発生過程に注目し、組織・器官・形態を構築する仕組

みについて、さまざまな視点から概観する。以上を通じ、ヒトのからだと様々な疾病を理解するための生物学的なバックグラウンドを養う。

授業内容

- (I) 1. 細胞、2. タンパク質、3. セントラルドグマ、4. 転写、5. 翻訳、6. DNA複製
 (II) 1. 動物形態学の歴史、2. 動物の組織と器官、3. 体軸と胚葉、4. 後口動物群、5. 前口動物群、6. 個体発生と系統発生

評価方法

講義中の小テストおよび定期試験の総合点により評価する。再試は行わない。

コメント

積極的な受講姿勢を期待する。

教科書等

参考書：アルバート他「細胞の分子生物学」（教育社）、ストライヤー「生化学」（東京化学同人）、越田豊「教養の生物学：ヒトを中心とした比較生物学」（培風館）、岡まりな「動物の系統と個体発生」（東京大学出版会）

生物学概論Ⅲ 2単位

An Introduction to Biology Ⅲ

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
M I 看	前・火・4	福永 昭廣 (医)

科目の目標

近年の生物科学研究の発展はめざましく、その研究成果をもとに医療分野や農業分野における遺伝子治療・クローン動物・ES細胞などの新しい技術の開発が行われており、看護・医療に携わる者にも、生命現象に関する幅広い知識が求められるようになってきた。本講義では、生物の基本単位である細胞の構造と機能について解説し、生命現象に関する理解を深める。

授業内容

1. 生体を構成する物質 (3回)
 2. 原核細胞と真核細胞 (1回)
 3. 真核細胞の構造 (2回)
 4. 生体膜と物質の出入り (1回)

5. 細胞内輸送と細胞内消化 (2回)
 6. 細胞骨格 (2回)
 7. 体細胞分裂 (1回)
 8. 減数分裂と配偶子形成 (2回)

評価方法

試験により評価する。

教科書等

講義に必要な教材資料は配布する。
 参考書：室伏きみ子、小林哲幸共著「やさしい細胞の科学」（オーム社）、佐々木史江他著「人の生命科学」（医歯薬出版）、アルバート他「細胞の分子生物学」（Newton Press）

生物学A 2単位

Biology A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
M I 医	前・木・4	原田 正史 (医)

科目の目標

ヒトは生物の一員であり、医学はヒトの生物学を基礎とする。近年の生物学の発展はめざましく、細胞の構造やその機能はいうにおよばず、遺伝情報の伝達機構についても分子レベルで理解できるようになってきた。生物学Aでは、生命の基本単位である細胞を中心に、生物学の基礎を学ぶ。

授業内容

1. 細胞の概念 2. 遺伝子の構造 3. 細胞膜の構造と機能 4. リボソームの構造と機能 5. 小胞体・ゴルジ体の構造と機能 6. 細胞骨格の構造と機能 7. ミトコンドリアの構造と機能 8. リソソームの構造と機能 9. 体細胞分裂の過程 10. 減数分裂の過程と多様性 11. 細胞周期 12. 染色体の概説と分裂時の挙動

13. 性の決定と伴性遺伝 14. 染色体異常

評価方法

試験の成績で評価する。

教科書等

講義に必要な教材は配布する。
 参考書：アルバート他『細胞の分子生物学』（Newton Press）、ストラッチャンおよびリード『ヒトの分子生物学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、Cambell 他『Biology; Concept & Connrctions』（Person Education）、和田勝著『細胞学・細胞生物学』（羊土社）、田村および山本著『分子生物学イラストレイティド』（羊土社）、中村著『分子細胞生物学』（丸善）、『生命科学』（羊土社）、竹島編『医歯薬系学生のための基礎生命科学』（廣川書店）

生物学 B 2 単位

Biology B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
M I 医	後・木・4	福永 昭廣 (医)

科目の目標

脊椎動物における諸器官の構造と機能の変化を系統的に学び、ヒトとヒト以外の脊椎動物との類似性について考え、医学を志す学生が今後集中的に学ぶことになるヒトについての理解を深めることを目的とする。

授業内容

1. 脊椎動物の系譜 (2 回)
2. 脊索動物の特徴 (3 回)
3. 脊椎動物の特徴 (1 回)
4. 脊椎動物の構造と機能 (8 回)

1 と 2 では、脊椎動物に最も近いと考えられている動物群 (尾索類と頭索類) について学び、脊椎動物との類似性を考える。3 では脊椎動物の特徴について他の動物群の構造と比較しながら学ぶ。授業の中心は 4 脊椎動物の構造と機能であり、循環器系 (2 回)、泌尿生殖器系 (2

回)、消化器系 (2 回)、脳神経系 (2 回) について、脊椎動物各綱の構造と機能の変化を学び、人体の構造と機能との関連について考察する。

評価方法

試験の成績により評価する。

コメント

本講義と生物学実験 M で行う脊椎動物の解剖実習により、脊椎動物諸器官の構造変化を系統的に理解してほしい。

教科書等

講義に必要な教材資料は配布する。

参考書: A. S. Romer and T. S. Parson 著 平光訳「脊椎動物のからだ」(法政大学出版局)、M. Fingerman 著 青戸訳「比較動物学」(培風館)、B. M. Carlson 著 白井敏夫監訳「パッテン発生学」(西村書店)

生物学実験 A 2 単位

Biological Laboratory A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S 低 (化) *	前・木・3~4	水野 寿朗 (理) 他	S I 生 (地) **	前・金・3~4	水野 寿朗 (理) 他
T II (化建都)			S 低 (数物)		
T III (都)			S II 生 (化地)		

科目の目標

本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、生化学、分子生物学、生理学、形態学、分類学、生態学までの広範な分野の実習を行う。

授業内容

1. ガイダンス。
2. 体内時計の解析。
3. 植物の成長過程での細胞伸長の観察と浸透圧の測定。
4. 植物からの核酸 (DNA・RNA) の抽出と同定。
5. 細胞分裂と染色体の観察。
6. 動物の胚発生の観察 (2 回)。
7. 植物体を形づくる諸器官の形態観察と花の色素の分析。
8. 植物種の系統類縁関係についての考察。
9. 酵素活性の測定 (他物質の共存下での酵素の働きと、同じ基質に作用する複数の酵素の作用)、および反応生成物の比較検討などの生化学的解析など (2 回)。
10. 種子の形態の観察と散布距離の測定 (2 回)。
11. 花粉の形態と花粉管発芽の観察。

評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

コメント

受講人数を制限する場合がある (必修を除く)。履修希望者は必ず初回のガイダンスに参加すること。

本科目を履修した者は、生物学実験 SA を履修することはできない。必要な場合は生物学実験 SB を履修すること。

教科書等

各実習ごとに、実験方法等のプリントを配布する。実習材料等の都合により、順序を変更することがある。

注:

* 理学部化学科の 2010 年度入学生は木曜日に履修すること。

** 理学部生物学科・地球学科の 2010 年度入学生は 1 年次に履修すること。

生物学実験 B

2 単位

Biological Laboratory B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者	ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
TI 化* HI 食	後・木・3~4	水野 寿朗(理) 他	TI 化* SI 生(地)** S 低(数物化) S II 生(地)	後・金・3~4	水野 寿朗(理) 他

科目の目標

本実習では、以下の実習テーマを通じ、生物学研究の方法を広く体験し、生物学の実験方法を理解・修得することを目的としている。生命の持つ多様な側面を把握するため、生化学、分子生物学、生理学、形態学、分類学、生態学までの広範な分野の実習を行う。

授業内容

1. ガイダンス。 2. 昆虫の形態観察と同定、標本作製。 3. 動物の形態の観察、スケッチ、および生態学的研究における実験計画法など(2回)。 4. PCR(遺伝子増幅)、プラスミド精製、制限酵素処理、電気泳動の手法を用いた遺伝子操作(3回)。 5. 細菌からカビ・酵母にいたる種々の微生物の形態観察、細菌のグラム染色による分類および、酵母のアルコール発酵能の測定(2回)。 6. ゴウリムシを用いた細胞器の形態観察とその機能の解析。 7. 昆虫を用いた行動観察による学習能力の解析。 8. 生体高分子の in vitro, in silico 検出(3回)。

評価方法

レポートおよび出席状況により評価する。

コメント

受講人数を制限する場合がある(必修を除く)。履修希望者は必ず初回のガイダンスに参加すること。

本科目を履修した者は、生物学実験 SB を履修することはできない。必要な場合は生物学実験 SA を履修すること。

教科書等

各実習ごとに、実験方法等のプリントを配布する。実習材料等の都合により、順序を変更することがある。

注：

* 工学部化学バイオ工学科の人数配分は掲示等で案内する。

** 理学部生物学科・地球学科の 2010 年度入学生は 1 年次に履修すること。

生物学実験 M

1 単位

Biological Laboratory M

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
MI 医	後・金・3~5	原田 正史(医) 福永 昭廣(医)

科目の目標

医学を志す学生にとって、動物の基本構造についての知識は、将来、人体の構造と機能を学ぶために必要なものである。ここでは、下等脊椎動物である軟骨魚類、高等脊椎動物である哺乳類、その間に位置する両生類の解剖を行い、脊椎動物の諸器官の構造変化を系統的に理解することを目的とする。

授業内容

第 1 週：ウニの発生観察 第 2 週：サメの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察) 第 3 週：カエルの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察) 第 4 週：ラットの解剖(消化器・泌尿器・循環器の観察) 第 5 週：サメ・カエルの脳解剖 第 6 週：ラットの脳解剖 第 7 週：試験
第 1 週はウニの受精卵からブルテウス期までの顕微鏡

観察を行い、動物の初期発生を学ぶと共に、顕微鏡の使用方法についても習熟する。第 2 週から 7 週では脊椎動物の構造を系統的に理解するため、軟骨魚類・両生類・哺乳類の解剖実習を行い、消化器系・泌尿器系・脳神経系などの諸器官の構造を観察する。また、解剖用メス、ハサミなどの使用方法についても習熟する。

評価方法

出席率とレポートの内容により評価する。

コメント

先に講義を行い、引き続き実習に移るので、1 時半までに講義室に集合のこと。

教科書等

実験書は配布する。

一般地球学 A - I 2 単位

General Geosciences A- I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 地 S 低 (数物化生) H 低 (環)	前・水・2	升本 眞二 (理) 江崎 洋一 (理)

科目の目標

地球とはどういうものか、現在の地球はどのような状態にあるのか、また、どのような過程を経て現在のようになったかの理解を目標とする。とくに、地球の過去を解明するための基本として必要な年代測定法とそれらに基づく地球・生物の変遷史、および地球上で起こる様々な地学現象を理解するためのプレートテクトニクスなどを重点的に学ぶ。

授業内容

1. 地球を解明するための視点 (時間と空間のスケール)
2. 岩石・地層等の年代 (放射年代と化石; 3 回)
3. 地球・生物の歴史と環境変遷 (2 回)
4. 地球の形と地図 (2 回)
5. 地球表層部の形態 (陸地と海洋の形)
6. 地球の物理学的特性 (重力・磁力・熱)
7. プレートテクトニクス (生成から消滅、運動学; 3 回)

8. 岩石の種類とその成因

9. 地震と活断層

(教材に基づいた講義を主として、演習等を毎回行う。)

評価方法

地球の形や地球の過去の歴史とそれらを解明するための手法、プレートテクトニクスの考え方などの理解度を演習・小テスト・レポートによる平常点 (40%) と期末試験の成績 (60%) で評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無は問わない。なお、理学部地球学科の必修科目である。

教科書等

教科書は使用しない。講義に関係する教材を適宜配布する。

参考書: A. ホームズ著『一般地質学 I・II・III』(東京大学出版会)。上田誠也著『新しい地球観』(岩波新書) など。

一般地球学 A - II 2 単位

General Geosciences A- II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 地 S 低 (数物化生) H 低 (環)	後・水・2	篠田 圭司 (理)

科目の目標

地球は様々な物質から構成され、温度・圧力の変化にとまぬ状態変化を起こす。また、地球誕生以来、時間の経過に伴って地球は様々な変遷を経てきた。地球物質の多様性と時間的経過の観点から地球を理解するために、地球を構成する物質の特徴と年代の決定法、それに伴う地球の活動を概説する。

授業内容

1. 地球の重力と運動、固体地球の構造 (2 回): 万有引力と地球の運動。地震波による地球内部構造の推定法。地球内部構成物質の特徴と推定法。
2. 岩石と鉱物 (2 回): 化学組成による岩石・鉱物の分類、鉱物の同定法など。
3. 地球の歴史 (3 回): 放射性同位体を用いた絶対年代決定法。安定同位体と環境の推定。
4. 水惑星としての地球 (4 回): 水の化学的特徴と環境に及ぼす影響。海洋と大気の形成、地球の平均気温と温室効果。大気と海洋の運動。

5. 地球の活動 (3 回): 火成作用、変成作用など、地殻における物質の変遷。地球物質の温度圧力による状態変化の基本的な考え方。

評価方法

主として期末試験により評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の地学の未履修者には、地学の基礎的事項の自習を期待する。高校の理科の基礎的な知識を前提とする。毎回授業内容に関して理解を深めるために、基本的な計算問題を課すので、計算機を持参すること。

地球学科の必修科目である。

参考書、等

図説地球科学 (岩波書店)

基礎地球科学 (西村祐二郎他、朝倉書店)

地球学入門 (酒井治孝、東海大学出版)

他の参考書等は授業中に適宜指示する。

授業内容に関連した印刷物を配布する。

一般地球学 B - I 2 単位

General Geosciences B- I

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S 低 (数物) T I (機建電) T II (都) T III (電) H 低 (環)	前・水・2	井上 淳 (特任)

科目の目標

地球システムと地球の歴史、地球科学の発展過程を学習した上で、地球システムと私達の生活や周辺環境との関係を理解する。前半では地球の地圏と気圏について、後半では地球の歴史特に人類の時代である第四紀に焦点をあて講義を行う。

授業内容

1. 自然科学と地球科学：自然科学の考え方と地球科学の目的
2. 地球について (2 回)：地球の形・大きさ・質量・密度
3. 岩石の種類と成因：火成岩・堆積岩・変成岩
4. 大陸移動説とプレートテクトニクス (2 回)：ヴェゲナーの着想とプレートテクトニクスへの発展
5. 大気と気候 (2 回)：大気循環・気候分布について

6. 地球の歴史と地質年代 (2 回)：地球環境の変遷と生物進化
7. 第四紀の自然環境史 (2 回)：氷期と間氷期、気候変動に伴う自然環境変遷
8. 人類の進化 (2 回)：人類の発生と進化、日本列島の人類史
9. まとめ

評価方法

主に試験成績で評価するが、授業内でのレポート・小テストの提出率・内容も加味する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わない。

教科書等

指定しない。

一般地球学 B - II 2 単位

General Geosciences B- II

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S 低 (数物) T I (機建電都) T III (電) H 低 (環)	後・水・2	隅田 祥光 (特任)

科目の目標

地球科学に関するいくつかの基本的なトピックを学ぶことによって、我々の住む地球とそこで起こっている地学現象を理解することを目標とする。

授業内容

1. 地球進化のダイナミクス (4 回)：地球の内部構造、プレートテクトニクス、火山と噴火。
2. 岩石の構成と形成 (4 回)：造岩鉱物の種類、火成作用、変成作用、変形作用。
3. 地殻の形成と進化 (4 回)：日本列島の成り立ち、大陸地殻の形成と進化、海洋底地殻の形成。

4. 最新の地球科学 (2 回)：南極の地学、放射年代決定法など。

評価方法

中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、レポート・出席 (20%) で評価する。

コメント

高等学校での地学の履修の有無を問わないが、高等学校の物理、化学、数学の基礎を理解しておくこと。

教科書等

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

建設地学

2 単位

Geology for Engineers

ク ラ ス			期・曜・時	担 当 者
T II (建都)	T IV (建)	H II (環)	後・月・3	前島 涉 他

科目の目標

固体地球に関わる諸現象の理解は、建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって不可欠な素養である。本科目は、地球に直接携わる技術者となる学生を対象とし、地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、人為的環境変化、自然災害と防止に関する基礎的知識を習得する。

授業内容

1. 地球の形と内部構造：地球の大きさ、地球の成層構造、プレート運動
2. 岩石を構成する鉱物：鉱物の定義と観察、X線回折による同定法
3. 造岩鉱物に関する光学理論
4. 岩石の構成鉱物と分類：岩石の成因、分類、命名法
5. 地層を読む：地層に記録された過去の地球環境と環境変遷
6. 地球の歴史：地球の成り立ちと生き立ち、地球史の研究手法
7. 日本列島の地史：付加体の形成過程、日本列島の誕生
8. 第四紀堆積盆地の成り立ち
9. 第四紀の自然環境変遷：第四紀の堆積物・地層から自然環境を解読する研究方法
10. GIS とリモートセンシング：地球の情報を処理するための GIS の基礎概念と応用、リモートセンシ

グによる地球科学解析

11. 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、水質獲得、水資源問題
12. 脆弱な日本の国土と災害、地震の発生と地盤災害・津波災害との関係
13. 地震の発生と地震動の予測：強震動の予測手法と最近の地震被害状況についての概観
14. 都市の地盤構造と地盤災害：地盤沈下・地震時の地盤挙動、平野の地層構成との関係

評価方法

地球に関する基礎概念（地球を構成する物質、地球の進化、地球情報の処理、環境変化、自然災害と防止）に対する理解の程度を定期試験の成績（50%）と小テスト・レポートの成績（50%）で評価する。

コメント

高等学校における「地学」を履修していないことを前提に授業を行う。「建設地学実習」と連動した講義を行うので、原則として同時に受講すること。時間割等の都合で、「建設地学」のみを受講したい場合は担当者に相談すること。

教科書等

授業で用いる参考図表は、その都度配布する。

参考書：藤田和夫他著『改稿 新地学』（学術図書出版）、アーサー・ホームズ著上田誠也他訳『一般地質学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』（東京大学出版）、Skinner and Porter "The Dynamic Earth"(Wiley)

建設地学実習

1 単位

Geology, Laboratory Exercises for Engineers

ク ラ ス			期・曜・時	担 当 者
T II (建・都)	T IV (建)	H II (環)	後・月・4	前島 涉 他

科目の目標

現在の建設、環境、防災などの工学分野の技術者にとって、地球に対する基礎知識が不可欠である。具体的な実験および実習を通じて、地球物質の特性、地球の進化および地球環境についての認識を深める。

授業内容

下記の項目について、実習・実験を行う。

1. 歩測による距離の測定：複歩の数え方、歩幅の算定、歩数による距離の算定、歩測の精度
2. 鉱物の観察と同定。粉末 X 線回折による鉱物同定
3. 造岩鉱物の光学的性質観察：光の屈折と物質の屈

折率

4. 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類、肉眼・顕微鏡による観察法
5. 水流による砂床形：水路実験による砂床形の観察
6. 古生物から知る地球の歴史：地球史における生物変遷と化石観察法
7. 化石の摘出・観察・解析
8. 地質図の書き方と読み方：地層の走向傾斜の測り方、地質図の作図法の基礎
9. 堆積物の分類と粒度組成：堆積物の分類、粒度分析
10. GIS とリモートセンシング：GIS による地球情報

の処理・可視化およびリモートセンシングによる植生指標の抽出

11. 都市の水環境：大和川の水質汚染
12. 地震と活断層：空中写真による活断層の地形判読
13. 断層模型を用いたアスペリティの理解、地震動波形と音響波形、バネ・質点模型を用いた地盤増幅の理解、強震による地盤被害
14. 都市の地盤特性と地震動被害：データベースで見る大阪の地盤特性

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

高等学校における「地学」を履修していないことを前提に授業を行う。「建設地学」と連動した実習・実験を行うので、原則として同時に受講すること。時間割等の都合で、「建設地学実習」のみを受講したい場合は担当者に相談すること。

教科書等

テキストを配布する。

地球学実験 A

2 単位

Geosciences, Laboratory Exercises A

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 地 S 低 (数物化生) T II (機)	前・木・3~4	奥平 敬元・他

科目の目標

地球の大部分は我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、多くの場合、これをある程度の確かさで知ることができる。この解析のためには、広範な知識や、やや特殊な技術が必要となる。これらの基本的な事項について、具体的な実験および演習を通して幅広く習熟する。

授業内容

- 第 1・2 回 地質図の描き方と読み方
- 第 3・4 回 岩石の構成鉱物と内部構造：岩石の分類および命名法
- 第 5・6 回 岩石の構成鉱物と内部構造：肉眼・顕微鏡による観察
- 第 7・8 回 堆積岩の構成と分類：碎屑粒子の観察、粒度特性
- 第 9・10 回 堆積岩の構成と分類：礫の形状・水流による砂床形

第 11・12 回 地震波による地球内部の構造解析：地震波の計測方法、走時曲線と速度構造解析・地球内部の速度分布と物性分布

第 13・14 回 パソコンによるデータ処理：測定値の基本処理

第 15 回 レポート

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学」を受講しておくか、同時に受講することが望ましい。実験テーマの順番を入れ替えることがある。

教科書等

テキストを配布する。

地球学実験 B

2 単位

Geosciences, Laboratory Exercises B

ク ラ ス	期・曜・時	担 当 者
S I 地 S 低 (数物化生) T II (建都) T III (都)	後・木・3~4	益田 晴恵・他

科目の目標

地球の大部分は我々が直接見たり触れたりすることができない。しかし、多くの場合、これをある程度の確かさで知ることができる。この解析のためには、広範な知識や、やや特殊な技術が必要となる。これらの基本的な事項について、具体的な実験および演習を通して幅広く習熟する。

授業内容

- 1 パソコンによるデジタル地形図の作成と 3 次元可視化
- 2 地球表層部の構造解析：地形図・空中写真による地形判読と災害
- 3 地層形成と平野地盤の特性：平野地盤の物理的特性・平野地盤情報のコンピュータによるデータ処理

- 4 鉱物の同定法：鉱物によるX線の回折（回折格子によるレーザーの回折）、粉末X線回折による鉱物の同定
- 5 地球史における生物変遷と化石記録
- 6 化石の摘出・観察・解析
- 7 地球表層の水：河川水・地下水の化学組成、鉱物と水の反応

以上の実験テーマを14回に割り振って実施する。

第15回 レポート

評価方法

各回のテーマの理解度について、提出されたレポートで評価する。

コメント

受講するにあたって、高等学校の地学の履修の有無を問わないが、「一般地球学」を受講しておくか、同時に受講する方が望ましい。順番を入れ替えることがある。

教科書等

テキストを配布する。

図形科学 I

2単位

Graphic Science I

クラス	期・曜・時	担当者
T II (情) H I 環	前・月・2	鈴木 広隆 (工)
T I 建 (電)	前・金・3	鈴木 広隆 (工)
T I (都)	前・金・4	鈴木 広隆 (工)

全学基礎教育課目図形科学 I・IIは、設計製図の基礎としてではなく、図を介してコミュニケーションを円滑に行う能力を養成するデザイン言語教育として開講されている。

科目の目標

図形科学 I では、デザイン言語教育の一環として、図法幾何学における投影法、及び図形解析を学ぶ。投影法は、3次元の図形・空間情報を2次元に変換する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形解析は、様々な図形・空間情報の状態を定量的に評価する理論・技術を学ぶことを目的としている。図形解析の実践的な理解のため、地理情報システム (GIS) を用いた演習形式の授業も取り入れている。

授業内容

- 第1週 ガイダンス（講義の目的、計画、用意するもの）
- 第2週 投影法の分類、平行投影、正投影（第三角法）
- 第3週 直軸測投影法（等測投影）、斜軸測投影法
- 第4週 中心投影、透視投影1（直接法1）
- 第5週 透視投影2（直接法2）
- 第6週 中間試験
- 第7週 透視投影3（消点法1）
- 第8週 透視投影4（消点法2）

第9週 透視投影5（距離点法1）

第10週 透視投影6（距離点法2）

第11週 透視投影7（簡易消点法）

第12週 図形の分析評価1（地理情報システムイントロダクション）

第13週 図形の分析評価1（形の複雑さを測る）

第14週 図形の分析評価1（点の分布及び線分のネットワークの特性を測る）

評価方法

中間試験の結果(10%)及び学期末試験の結果(90%)により評価を行う。なお、出席は、評価の上で点数としては考慮しないが、出席が3/5に満たない場合は単位を認めない。

コメント

授業の中で作図の演習を行うため、直定規（透明30cm以上）・三角定規（斜辺25cm以上）・コンパス（足の開きをコマでコントロールするタイプ）などの作図用具が必要となる。詳細は、初回の授業のガイダンスの際に指示を行う。

教科書等

鈴木広隆「図形科学 I」（大阪市立大学生協で販売）を使用。演習課題については適宜配布する。

図形科学Ⅱ

2単位

Graphic Science II

クラス	期・曜・時	担当者
TⅡ(情) HⅠ環	後・月・2	鈴木 広隆 (工)
TⅠ建(電)	後・金・3	鈴木 広隆 (工)
TⅠ(都)	後・金・5	鈴木 広隆 (工)

科目の目標

図形科学Ⅱでは、図を介してコミュニケーションを行う能力を養成するデザイン言語教育の一環として、コンピューターグラフィクス(CG)に関する講義・演習を行う。図形科学Ⅰでの作図は、線画によるものが中心であったが、図形科学Ⅱでは、光や色による効果なども学び、その上で自分で新たな図形を生み出すデザイン力を身に付けることを目標としている。

授業内容

- 第1週 Introduction
- 第2週 POV-Rayの基礎
- 第3週 オブジェクトの記述方法
- 第4週 移動、拡大・縮小、回転
- 第5週 繰り返し、条件分岐
- 第6週 集合演算
- 第7週 中間試験
- 第8週 テクスチャー、多角柱、回転体
- 第9週 光の取り扱い(光源、反射、透過)
- 第10週 その他知っておくと良いこと
- 第11週 CGアニメーションの作り方1
- 第12週 CGアニメーションの作り方2
- 第13週 CGアニメーションの作り方3、幾何学グラフィクスについて

第14週 GUI型モデラーを用いた図形デザイン

評価方法

2つの小課題の提出作品(20%)、最終課題の提出作品(44%)、中間試験の結果(10%)及び学期末試験の結果(26%)により評価を行う。なお、課題の提出と学期末試験は必須であるので、どれか1つでも不足がある場合には単位を認めない。

コメント

手書きによる図の描き方、投影法の知識などが必要となるので、図形科学Ⅰを事前に履修しておくことが望ましいが、必須条件ではない。

授業中に演習の時間を確保するが、作品を完成させるためには授業時間を超える取り組みが必要となる。このため、履修学生自身が所有するコンピューターか学術情報センターの端末を利用することとなる。

教科書等

鈴木広隆、倉田和夫、佐藤尚著、CG-ARTS協会出版「POV-Rayによる3次元CG制作—モデリングからアニメーションまで—」を使用。

過去の提出作品や履修学生へのメッセージは、次のURLのホームページに掲載されている。

<http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/zukeikagaku/>

4. 外国語科目

(1) 第 1 部

- 外国語科目のクラス分け
- 外国語の科目の履修について
- シラバス

英 語
ドイツ語
フランス語
中国語
ロシア語
朝鮮語
日本語

○外国語のクラス分け

英語のクラス分け表

*別途掲示によること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部 of 学籍番号下 3 桁を表す。

学部	科目 クラス	ドイツ語				フランス語				
		基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (12 科目)	基礎 1・2 基礎 3、4	応用 1 A 応用 2 A	応用 1 B 応用 2 B	特修 (10 科目)	
商学部		1 クラス		1 クラス		1 クラス		1 クラス		
経済学部	a	001~110			1 クラス	1 クラス			1 クラス	
	b	111~ 終								
法学部	a	001~095	001~095			1 クラス	1 クラス			
	b	096~ 終	096~ 終							
文学部	a	001~080	001~080			1 クラス	1 クラス			
	b	081~ 終	081~ 終							
理学部	a	数学・生物	※下記参照			1 クラス	1 クラス	※下記参照		
	b	物理・地球								
	c	化学・理科選択								
工学部	a	機械工学科		1 クラス		1 クラス		{工学部T、 生活科学部H (T、H)クラス}		
	b	電子・物理工学科 建築学科 (001~017)								
	c	情報工学科 建築学科 (018~ 終)								
	d	化学バイオ 工 学 科								
	e	都市学科								
医学部	a	001~040			1 クラス					
	b	041~ 終								
生活科学部		1 クラス		1 クラス			{工学部T、 生活科学部H (T、H)クラス}			

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

新修外国語クラス分け表 *クラス内の数字は、各所属学部学籍番号下3桁を表す。

学部	科目 クラス	中国語			ロシア語			朝鮮語							
		基礎1・2 基礎3、4	応用1A 応用2A	応用1B 応用2B	特修 (10科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)	基礎1・2 基礎3、4	応用1A、2A 応用1B、2B	特修 (4科目)				
商学部	a	001~075	/	001~075	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	3クラス	{商学部C、 工学部T (C,T)クラス}	1クラス	1クラス			
	b	076~150		076~150											
	c	151~終		151~終											
経済学部	a	001~085	/	/											
	b	086~170													
	c	171~終													
法学部	a	001~095	001~095	/					1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	{法学部J、 文学部L (J,L)クラス}	1クラス	1クラス
	b	096~終	096~終												
文学部	a	001~085	001~085	/					1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	※下記参照	1クラス	1クラス
	b	086~終	086~終												
理学部		※下記参照			1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	※下記参照	1クラス	1クラス				
工学部	a	機械工学科 電子物理工学科	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	(経済学部E、 医学部M、 生活科学部H (E,M,H)クラス)	1クラス	1クラス				
	b	情報工学科 化学バイオ工学科													
	c	建築学科 都市学科													
医学部	a	医学部 居住環境	/	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス					
生活科学部	b	食品栄養 人間福祉													

※ このクラスの科目を履修しようとする理学部学生は、当該科目の授業担当者に履修についての相談をすること。

○ 外国語科目の履修について

(1) 提供科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語の6か国語を提供している。なお、外国人留学生を対象に日本語も提供している。

(2) 科目の構成及び履修方法

ア. 英語

① [平成19年度以降入学学生の場合]

学部別提供英語として、1年次は「College English (CE) I・II・III・IV」が、2年次には「College English (CE) V・VI」が提供されている。クラス指定制とする。

[平成18年度入学学生の場合]

「英語1A・1B」「英語2A・2B」「上級英語A・B」用に再履修科目が提供されている。

[平成17年度以前入学学生の場合]

「英語1A・1B」「英語2A・2B」「英語3A・3B」「英語4A・4B」用に再履修科目が提供されている。

② 全学向け提供の科目

Advanced College English (ACE)

☆受講希望者は「ACEの履修方法について」(p172～p173)を参照すること。

イ. 新修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

[平成18年度以降入学学生の場合]

新修外国語では、コア科目である「基礎1・2」「基礎3」「基礎4」の他に、Aパターンの学部向けに「応用1A」「応用2A」が、Bパターンの学部向けに「応用1B」「応用2B」が提供されている。また、全学向けに「特修」が提供されている。

前期に「基礎1・2」「応用1A」および「応用1B」が、後期に「基礎3」「基礎4」「応用2A」および「応用2B」が提供される。「特修」は、前期ならびに後期に提供される。

[平成17年度以前入学学生の場合]

平成18年度以降入学学生向けの科目をもって読み替える。詳しくは、学部事務室に問い合わせること。

ウ. 日本語(外国人留学生向け)

日本語は「1A、1B」「2A、2B」「3A、3B」「4A、4B」「5A、5B」(Aは前期、Bは後期)が提供されている。なお、「新修外国語履修の仕方について」(P.175、176)を参照すること。

(3) 単位

新修外国語の「特修」および、ペア科目の「基礎1・2」は各セメスターで2単位である。他は、各セメスターで1単位である。

★ 出席日数が実授業日数の3/4に満たない場合は、単位を与えないことがある。

○ シ ラ バ ス

英 語 English

(平成 19 年度以降入学者用)

カリキュラム概要

日本の中学校・高等学校における英語教育は、単に技能の習熟にとどまらず、全人教育を目指すものである。本学では、これをさらに発展させ、生きたことばとしての英語の習得を目的とする。生きたことばとは、自分の考えを表現し、相手の意図を理解するために自然に使われることばを指す。そこには、コミュニケーションの道具としてだけでなく、思考の手段としてのことばも含まれる。本学において、生きたことばとしての英語の習得を達成するために、母語獲得の場合と同様に、必要以上に文法を意識することなく、ごく普通に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。

この考えに基づき、一昨年、英語カリキュラムが大幅に変更された。1年生、2年生ともに 25 名程の少人数・習熟度別クラス編制で、必修科目の College English(CE)が、1年生で 4 時間、2年生で 2 時間の合計 6 時間提供される。本カリキュラムに基づき、先述の英語運用能力の習得を目指す。

1年生の授業は、英語が母語の教員が主に担当し、学生のレベルに合わせた英語教育を行う。前・後期ともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、リスニングとスピーキング中心のクラスと、リーディングとライティング中心のクラスをそれぞれ 1 時間ずつ、合計週 2 時間の授業を行う。前期の授業では、中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルにあった話題を扱い、4 技能の基礎力の育成と強化を目指す。後期の授業では、前期と同レベルで、大学生の知的好奇心を満たす話題を扱いながら、授業で扱う英語の量を前期と比較して 1.5 倍に増やし、それに比例して英語の理解と表現に費やす時間を増やすことにより、4 技能の基礎力の定着を図るとともに応用力を養成する。

2年生の授業では、1年生で培った英語運用能力の強化、即ち、基礎力のアップと応用力の習得を目的とする。前期の目標は、CE I～IVを踏まえ、4 技能をバランスよく引き上げることにある。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。後期の授業目標は、所属学部の専門性を考慮し、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることにある。具体的には、専門に近い内容を扱い、リーディングとライティングに重点を置いた授業を行う。これにより、専門科目で使用される英語に対処できる応用力の習得を目指す。さらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、理解力を磨くことを目的とした自由選択科目の Advanced College English(ACE)を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目				選択科目
		月曜	水曜	
1年	前期	CE I	CE II	ACE
	後期	CE III	CE IV	
2年	前期	CE V		
	後期	CE VI		

※教科書については別途掲示する。

履修科目内容

< 1年 >

(1) College English I (CE I)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリスニング・スピーキングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現しようとする力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60:40 とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リスニングからスピーキングへ段階的に移行する。
- (2) リスニングとスピーキングの双方向で言語運用を行う。
- (3) スピーキングを通してリスニングを強化する。

クラス	曜・時限	担 当 者	クラス	曜・時限	担 当 者
CL I a	月・1	(Sievert)	TN I a	月・3	(Campbell)
CL I b	月・1	(Thorson)	TN I b	月・3	[笠巻]
CL I c	月・1	Richards	TN I c	月・3	(Sievert)
CL I d	月・1	(Quinn)	TN I d	月・3	(Thorson)
CL I e	月・1	井狩	TN I e	月・3	(Quinn)
CL I f	月・1	(Fenstermaker)	TN I f	月・3	(Fenstermaker)
CL I g	月・1	(Feldman)	TN I g	月・3	(Feldman)
CL I h	月・1	山本	TN I h	月・3	(Stepanczuk)
CL I i	月・1	(Stepanczuk)	TN I i	月・3	(Nuspliger)
CL I j	月・1	(Nuspliger)	TN I j	月・3	(McAvoy)
CL I k	月・1	(Walhelm)	TN I k	月・3	(Chen)
CL I l	月・1	(Chen)	TN I l	月・3	[野田]
CL I m	月・1	[笠巻]	TN I m	月・3	(Jacobs)
CL I n	月・1	(Campbell)	SMH I a	月・3	(Fenstermaker)
CL I o	月・1	[Leigh]	SMH I b	月・4	(Feldman)
EJ I a	月・2	(Stepanczuk)	SMH I c	月・4	(Stepanczuk)
EJ I b	月・2	(Nuspliger)	SMH I d	月・4	[野田]
EJ I c	月・2	(Walhelm)	SMH I e	月・4	(Nuspliger)
EJ I d	月・2	(Chen)	SMH I f	月・4	(McAvoy)
EJ I e	月・2	(Jacobs)	SMH I g	月・4	(Walhelm)
EJ I f	月・2	(Campbell)	SMH I h	月・4	(Chen)
EJ I g	月・2	[笠巻]	SMH I i	月・4	(Jacobs)
EJ I h	月・2	[Leigh]	SMH I j	月・4	(Campbell)
EJ I i	月・2	(Sievert)	SMH I k	月・4	[Leigh]
EJ I j	月・2	(Thorson)	SMH I l	月・4	(Sievert)
EJ I k	月・2	Richards	SMH I m	月・4	(Thorson)
EJ I l	月・2	(Quinn)	SMH I n	月・4	(Quinn)

EJ I m	月・2	(Fenstermaker)	SMH I o	月・4	[笠巻]
EJ I n	月・2	(Feldman)			
EJ I o	月・2	山本			

(2) College English II (CE II)

目標：中学・高校で習得した基本的な英語のリーディング・ライティングの運用能力を、さらに伸ばすことを目指す。
授業では大学生の知的レベルに合った話題を扱い、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英文で表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30 とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。

- (1) リーディングからライティングへ段階的に移行する。
- (2) リーディングとライティングの双方向で言語運用を行う。
- (3) ライティングを通してリーディングを強化する。

クラス	曜・時限	担 当 者	クラス	曜・時限	担 当 者
EJ I a	水・1	(Quinn)	SMH I a	水・3	(Campbell)
EJ I b	水・1	(Micklas)	SMH I b	水・3	[Leigh]
EJ I c	水・1	(Fenstermaker)	SMH I c	水・3	(Sievert)
EJ I d	水・1	(Feldman)	SMH I d	水・3	(Thorson)
EJ I e	水・1	(仁科)	SMH I e	水・3	(Quinn)
EJ I f	水・1	(Lau)	SMH I f	水・3	(Micklas)
EJ I g	水・1	(Nuspliger)	SMH I g	水・3	(Fenstermaker)
EJ I h	水・1	(多賀)	SMH I h	水・3	(Feldman)
EJ I i	水・1	(McWhinney)	SMH I i	水・3	山本
EJ I j	水・1	高島	SMH I j	水・3	(藤川)
EJ I k	水・1	(Campbell)	SMH I k	水・3	(Lau)
EJ I l	水・1	山崎	SMH I l	水・3	(Nuspliger)
EJ I m	水・1	(Sievert)	SMH I m	水・3	(McWhinney)
EJ I n	水・1	(Thorson)	SMH I n	水・3	(Jacobs)
EJ I o	水・1	[Leigh]	SMH I o	水・3	(仁科)
CL I a	水・2	(多賀)	TN I a	水・4	(仁科)
CL I b	水・2	(McWhinney)	TN I b	水・4	(Lau)
CL I c	水・2	(Jacobs)	TN I c	水・4	(Nuspliger)
CL I d	水・2	(Campbell)	TN I d	水・4	(McWhinney)
CL I e	水・2	(Thorson)	TN I e	水・4	(Jacobs)
CL I f	水・2	Richards	TN I f	水・4	(Campbell)
CL I g	水・2	(Quinn)	TN I g	水・4	(Sievert)
CL I h	水・2	(Micklas)	TN I h	水・4	(Thorson)
CL I i	水・2	(Fenstermaker)	TN I i	水・4	(Quinn)
CL I j	水・2	(Feldman)	TN I j	水・4	(Micklas)
CL I k	水・2	(仁科)	TN I k	水・4	(Fenstermaker)

CL I l	水・2	(Lau)	TN I l	水・4	(Feldman)
CL I m	水・2	(Nuspliger)	TN I m	水・4	山本
CL I n	水・2	(藤川)			
CL I o	水・2	山本			

(3) College English III (CE III)

目標：前期の授業を発展させ、リスニング・スピーキングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解する力、並びに、自分の考えを英語で適切に表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、60:40 とする。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した活動を行う。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にスピーキングに移行する。
- (2) リスニングとスピーキングを強化しながら、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) スピーキング力を向上させることにより、リスニング力をさらに強化する。

クラス	曜・時限	担 当 者	クラス	曜・時限	担 当 者
CL I a	月・1	(Thorson)	TN I a	月・3	(Feldman)
CL I b	月・1	[Leigh]	TN I b	月・3	(McAvoy)
CL I c	月・1	(Sievert)	TN I c	月・3	(Thorson)
CL I d	月・1	[野田]	TN I d	月・3	[野田]
CL I e	月・1	(Stepanczuk)	TN I e	月・3	(Sievert)
CL I f	月・1	(Quinn)	TN I f	月・3	(Stepanczuk)
CL I g	月・1	(Nuspliger)	TN I g	月・3	(Quinn)
CL I h	月・1	(Fenstermaker)	TN I h	月・3	(Nuspliger)
CL I i	月・1	(Walhelm)	TN I i	月・3	(Fenstermaker)
CL I j	月・1	[笠巻]	TN I j	月・3	(Chen)
CL I k	月・1	Richards	TN I k	月・3	(Campbell)
CL I l	月・1	(Chen)	TN I l	月・3	(Jacobs)
CL I m	月・1	(Campbell)	TN I m	月・3	[笠巻]
CL I n	月・1	(Feldman)	SMH I a	月・4	(Stepanczuk)
CL I o	月・1	井狩	SMH I b	月・4	(Quinn)
EJ I a	月・2	(Nuspliger)	SMH I c	月・4	(Nuspliger)
EJ I b	月・2	(Fenstermaker)	SMH I d	月・4	(Fenstermaker)
EJ I c	月・2	(Walhelm)	SMH I e	月・4	(Walhelm)
EJ I d	月・2	[笠巻]	SMH I f	月・4	[笠巻]
EJ I e	月・2	Richards	SMH I g	月・4	(Chen)
EJ I f	月・2	(Chen)	SMH I h	月・4	(Campbell)
EJ I g	月・2	(Campbell)	SMH I i	月・4	(Jacobs)
EJ I h	月・2	(Jacobs)	SMH I j	月・4	(Feldman)
EJ I i	月・2	(Feldman)	SMH I k	月・4	(McAvoy)

EJ I j	月・2	(Thorson)	SMH I l	月・4	(Thorson)
EJ I k	月・2	[Leigh]	SMH I m	月・4	[野田]
EJ I l	月・2	(Sievert)	SMH I n	月・4	(Sievert)
EJ I m	月・2	(Stepanczuk)	SMH I o	月・4	[Leigh]
EJ I n	月・2	(Quinn)			
EJ I o	月・2	山本			

(4) College English IV (CE IV)

目標：前期の授業を発展させ、リーディング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で書かれた文章を正確に理解する力、並びに、自分の考えを英文で適切に表現する力を養う。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の指導者の評価と共通テストの結果を合算する。指導者の評価と共通テストの比率は、70:30 とする。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量(文字)を1.5倍ほどに増やす。前期と比べ、扱う言語データ量(音声)を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 最初はリスニングに重点を置きながら、段階的にライティングに移行する。
- (2) リーディングとライティングを強化しつつ、双方向で運用能力の向上を目指す。
- (3) ライティング力を向上させることにより、リーディング力をさらに強化する。

クラス	曜・時限	担 当 者	クラス	曜・時限	担 当 者
EJ I a	水・1	(Sievert)	SMH I a	水・3	(Micklas)
EJ I b	水・1	(Lau)	SMH I b	水・3	[Leigh]
EJ I c	水・1	山崎	SMH I c	水・3	(Sievert)
EJ I d	水・1	(Quinn)	SMH I d	水・3	(Lau)
EJ I e	水・1	(Nuspliger)	SMH I e	水・3	(Quinn)
EJ I f	水・1	(Fenstermaker)	SMH I f	水・3	(Nuspliger)
EJ I g	水・1	(仁科)	SMH I g	水・3	(Fenstermaker)
EJ I h	水・1	山本	SMH I h	水・3	(仁科)
EJ I i	水・1	(McWhinney)	SMH I i	水・3	(藤川)
EJ I j	水・1	(Campbell)	SMH I j	水・3	(McWhinney)
EJ I k	水・1	(Feldman)	SMH I k	水・3	(Campbell)
EJ I l	水・1	(多賀)	SMH I l	水・3	(Jacobs)
EJ I m	水・1	(Thorson)	SMH I m	水・3	(Feldman)
EJ I n	水・1	(Micklas)	SMH I n	水・3	(Thorson)
EJ I o	水・1	[Leigh]	SMH I o	水・3	高島
CL I a	水・2	(McWhinney)	TN I a	水・4	(仁科)
CL I b	水・2	(Campbell)	TN I b	水・4	(McWhinney)
CL I c	水・2	(Jacobs)	TN I c	水・4	(Campbell)
CL I d	水・2	(Feldman)	TN I d	水・4	(Jacobs)
CL I e	水・2	(多賀)	TN I e	水・4	(Feldman)
CL I f	水・2	(Thorson)	TN I f	水・4	(Thorson)

CL I g	水・2	(Micklas)	TN I g	水・4	(Micklas)
CL I h	水・2	Richards	TN I h	水・4	(Sievert)
CL I i	水・2	山本	TN I i	水・4	(Lau)
CL I j	水・2	(Lau)	TN I j	水・4	(Quinn)
CL I k	水・2	(Quinn)	TN I k	水・4	(Nuspliger)
CL I l	水・2	(Nuspliger)	TN I l	水・4	山本
CL I m	水・2	(Fenstermaker)	TN I m	水・4	(Fenstermaker)
CL I n	水・2	(仁科)			
CL I o	水・2	(藤川)			

再履修クラス (CE I・II・III・IV)

目標：平成19年度以降の入学で再度履修者を対象とし、CE I・II・III・IVの再習熟をはかる。

履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。

CE I・II(後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	山本	全「再」	水・5	井狩

CE III・IV(前期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	[野田]	全「再」	水・5	井狩

<2年>

(5) College English V (CE V)

目標：1年生で培った英語運用能力の基礎力アップを目指す。CE I～IVを踏まえ、4技能をバランスよく引き上げることを目標とする。授業で触れる英語量を、理解と表現の両面で、1年後期よりもさらに増やし、多聴・多読の実践と表現力の拡大を通して、基本的な英語運用能力のレベルアップを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等の担当教員の評価と共通テストの結果を合算する。担当教員の評価と共通テストの比率は、70:30とする。

段階別到達度：4技能に関して、インプットとアウトプットのバランスを考慮し、以下の段階を踏まえた授業を行う。

- (1) リスニングとリーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リスニングとリーディングに、それぞれスピーキングとライティングの要素を取り入れた授業を行う。
- (3) スピーキングとライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
C II a	火・1	(山澤)	H II c	木・1	(要)
C II b	火・1	(高)	H II d	木・1	(高橋)
C II c	火・1	(倉恒)	H II e	木・1	(川端)
C II d	火・1	(筒井)	S II a	木・2	(要)
C II e	火・1	[野田]	S II b	木・2	(藤井)
C II f	火・1	荒木	S II c	木・2	(高橋)
C II g	火・1	杉井	S II d	木・2	(山口)

CIIh	火・1	古賀	SIIe	木・2	瀬戸
JIIa	火・2	(倉恒)	SII f	木・2	杉井
JIIb	火・2	(山澤)	SII g	木・2	野末
JIIc	火・2	(高)	EII a	木・3	(中村)
JII d	火・2	(須賀)	EII b	木・3	(坂田)
JII e	火・2	(筒井)	EII c	木・3	(丹羽)
JII f	火・2	(伊原)	EII d	木・3	瀬戸
TII a	火・3	荒木	EII e	木・3	山崎
TII b	火・3	衣笠	EII f	木・3	野末
TII c	火・3	関	EII g	木・3	岩田
TII d	火・3	田中孝	EII h	木・3	高島
TII e	火・3	田中一	MII a	木・3	(川越)
TII f	火・3	岩田	MII b	木・3	(長嶺)
TII g	火・3	古賀	MII c	木・3	廣田
TII h	火・3	(名和)	LII a	木・4	(坂田)
TII i	火・3	(平出)	LII b	木・4	(丹羽)
TII j	火・3	(須賀)	LII c	木・4	(中村)
TII k	火・3	(伊原)	LII d	木・4	野末
HII a	木・1	(藤井)	LII e	木・4	田中一
HII b	木・1	(山口)	LII f	木・4	岩田

(6) College English VI (CE VI)

目標：1年生の時に学んだCE I～IV、及び、CE Vで培った基本的な英語運用能力の上に、応用力を習得することを目的とする。所属学部の専門性を考慮し、専門に近い内容を扱うリーディングとライティングに重点を置いた授業を行うことにより、専門分野の英語に対応できる応用力を身につけることを目指す。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：段階に応じ、インプットとアウトプット、双方向を考慮した授業を行う。

- (1) リーディングを中心とした授業を行う。
- (2) リーディングの中にライティングを取り入れた授業を行う。
- (3) ライティングに重点を置いた授業を行う。

クラス	曜・時限	担 当 者	クラス	曜・時限	担 当 者
CIIa	火・1	田中一	HIIb	木・1	(高橋)
CIIb	火・1	杉井	HIIc	木・1	(要)
CIIc	火・1	古賀	HII d	木・1	(山口)
CII d	火・1	(高)	HII e	木・1	(藤井)
CII e	火・1	[野田]	SII a	木・2	(山口)
CII f	火・1	(山澤)	SII b	木・2	荒木
CII g	火・1	(倉恒)	SII c	木・2	(川端)
CII h	火・1	(筒井)	SII d	木・2	(藤井)
JII a	火・2	(須賀)	SII e	木・2	(高橋)
JII b	火・2	(伊原)	SII f	木・2	(要)

JIIc	火・2	[野田]	SIIg	木・2	廣田
JII d	火・2	(山澤)	EIIa	木・3	瀬戸
JIIe	火・2	(倉恒)	EIIb	木・3	野末
JII f	火・2	(高)	EIIc	木・3	廣田
TIIa	火・3	(伊原)	EII d	木・3	高島
TII b	火・3	(須賀)	EII e	木・3	(長嶺)
TII c	火・3	(平出)	EII f	木・3	(丹羽)
TII d	火・3	(名和)	EII g	木・3	(中村)
TII e	火・3	荒木	EII h	木・3	(坂田)
TII f	火・3	関	LIIa	木・4	瀬戸
TII g	火・3	杉井	LII b	木・4	高島
TII h	火・3	田中孝	LII c	木・4	(坂田)
TII i	火・3	田中一	LII d	木・4	(中村)
TII j	火・3	岩田	LII e	木・4	(丹羽)
TII k	火・3	古賀	LII f	木・4	(長嶺)
HIIa	木・1	野末			

CEVI (前期)

クラス	曜・時限	担 当 者	クラス	曜・時限	担 当 者
MIIa	木・4	廣田	MIIc	木・4	(長嶺)
MIIb	木・4	(川越)			

再度履修者向けクラス(英語1A・B、2A・B、3A・B、4A・B、上級A・B、CEV、CEVI)

目標：再度履修者を対象とし、英語1A・B、2A・B、3A・B、4A・B、上級英語A・B、CEV、CEVIの再習熟をはかる。
履修条件：受講を希望する者は、どの科目とも、必ず、各学期の最初の授業に出席して担当者に申込みこと。ただし、1クラスの受講者の上限を40名、それを越えた場合は抽選とする。各クラスとも複数の時間帯で提供されているので、空きがある方のクラスにまわること。それでも選にもれて、やむを得ない場合には、同一学部・学年の同一クラスへ出向き、担当者の許可を得ること。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点・レポート等で評価

[今年度開講科目]

英語1AB/2AB（後期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	金・2	(荒木)

英語3AB/4AB（前期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	水・5	古賀	全「再」	金・1	(荒木)

英語3AB/4AB（後期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	火・4	(平出)

上級英語AB（前期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	金・2	(荒木)

上級英語AB（後期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	衣笠	全「再」	金・1	(荒木)

CE V（前期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	衣笠

CE V（後期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	関	全「再」	水・5	山崎
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	水・5	衣笠

CE VI（前期）

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
全「再」	月・5	関	全「再」	水・5	山崎
全「再」	火・4	(名和)	全「再」	水・5	田中孝

CE VI（後期）

クラス	曜・時限	担当者
全「再」	水・5	田中孝

Advanced College English (ACE)

Advanced College English は高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English(ACE)の履修方法について

(1) ACE の履修制限について

前期に ACE 科目の受講を希望する者は、以下のとおり申し込むこと。

新 1 回生・・・ 4 月 2 日（金）入学関係書類提出日に各所属学部受付会場（1 号館教室予定）において申し込むこと。

2 回生以上・・・ 3 月 29 日（月）～3 月 31 日（水）9 時から 17 時に学生支援課 2 階事務室にて申し込むこと。希望者多数の場合は抽選を行う。受講確定者名を 4 月 6（火）16 時に掲示で発表する。

前期の授業は、受講者確定後から行う。

後期の受講については、7 月中旬に掲示するので見ておくこと。

(2) クラス規模について

各科目とも 25 名程度を上限とする。

「ACE：TOEFL80」（前期・後期）（全学提供 1 単位）

目標：本講座では、米国及びカナダの主要大学入学の基準である 80 点(従来の CBT の 213 点に相当)を取得することを目標とした訓練を行う。ドリル等の演習形式の授業を通して、読解能力・聴解能力の向上、並びに、語彙・文法に関する知識の増強を目指す。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE：TOEIC650」（前期・後期）（全学提供 1 単位）

目標：企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE：Critical Writing」（前期・後期）（全学提供 1 単位）

目標：ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合し、最終的に、問題提起や問題解決の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE：Media English」（前期・後期）（全学提供 1 単位）

目標：現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的とする。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE：Literature」（前期）（全学提供 1 単位）

目標：英米の文学作品を教材に取り上げ、英語の表現の理解だけにとどまらず、その作品をとりまくさまざまな要因（時代背景、作家自身のこと）を考慮に入れながら、その作品を読み解く力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE：Presentation」（後期）（全学提供 1 単位）

目標：様々な専門分野に必要な、英語による口頭発表能力の向上を図るため、色々な題材を用いてプレゼンテーションの訓練を行う。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Discussion」(前期)(全学提供 1単位)

目標：筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Intensive Reading」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：表現・内容ともにややレベルの高い評論やエッセイを素材にして、

英文を正確綿密に、かつ批判的に読む力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Films」(後期)(全学提供 1単位)

目標：必ずしも英語そのものの理解だけでなく、作品の背景や、登場人物あるいは作者の思いなども含め、映画を教材にして、総合的な英語力の養成を目指す。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

前期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	(川端)
TOEIC 650	全	木・1	[笠巻]
Critical Writing	全	水・3	Richards
Discussion	全	木・4	(Chen)
Intensive Reading	全	火・2	[野田]
Media English	全	木・3	田中一
Literature	全	火・4	(平出)

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEFL 80	全	木・2	[笠巻]
TOEIC 650	全	木・1	(川端)
Critical Writing	全	木・4	(Chen)
Presentation	全	水・2	[Leigh]
Intensive Reading	全	火・2	(筒井)
Films	全	水・3	(多賀)
Media English	全	木・3	岩田

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、日本語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語(英語以外の外国語)を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場合もない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげていくことを諸君に期待する。

第 1 部

新修外国語履修の仕方について

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

新修外国語の履修には、学部により、「基礎」をコアとした次の A、B 二つのパターンがある。
提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

(どのパターンをとるかは、各学部で異なるので、所属学部の履修規程に基づくこと)

A.

1 年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2		応用 1 A Applied 1 A
1 年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4	応用 2 A Applied 2 A
2 年次以降	特修 1 Specialized 1 特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・		

B.

1 年次前期	基礎 1・2 Basic 1・2		2 年 次 以 降
1 年次後期	基礎 3 Basic 3	基礎 4 Basic 4	
2 年次前期	応用 1 B Applied 1 B	特修 1 Specialized 1	
2 年次後期	応用 2 B Applied 2 B	特修 2 Specialized 2 特修 3 Specialized 3 ・ ・ ・	

三重線で囲まれた部分は必修科目

二重線で囲まれた部分は学部によって必修科目

単線で囲まれた部分は自由選択科目

日本語教育編成表（留学生対象）

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
1 A	1 B	3 A	3 B
2 A	2 B	4 A	4 B
		5 A	5 B

§ 1. 標準的履修の場合

I. ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語

1. 1年次前期で、Aパターンの学部の学生は「基礎1・2」(2単位)および「応用1A」(1単位)を、Bパターンの学部の学生は「基礎1・2」を履修すること。なお、「基礎1・2」はペア科目になっているので、月曜日と水曜日に提供されている両方とも履修しなければならない、どちらか片方だけを履修することはできない。したがって、単位の認定も両方合わせて行われ、合格すれば2単位、不合格の場合は0単位となる。
2. 1年次後期で、Aパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」および「応用2A」(各1単位)を、Bパターンの学部の学生は「基礎3」「基礎4」を履修すること。
なお、新修外国語では、グレード制を採用しており、「基礎1・2」の単位を修得していないと、Aパターンの場合は「基礎3」「基礎4」ならびに「応用2A」を、Bパターンの場合は「基礎3」「基礎4」を履修することができないので、十分注意すること。
3. Bパターンの学部の学生は、2年次前期で「応用1B」(1単位)を、2年次後期で「応用2B」(1単位)を履修すること。
なお、「基礎3」「基礎4」の受講後でなければ「応用1B」「応用2B」を履修することができないので、十分注意すること。
4. さらに学びたいという意欲のある2年次以上の学生のために、「特修」(2単位)が提供されている。各学生は、複数提供される科目を複数回、選択することができる。
なお、「基礎3」「基礎4」のいずれかの単位を修得していないと「特修」を履修することができないので、注意すること。

備考

高校での既習者ならびに帰国生徒の履修に関しては、所属学部事務室に願い出、当該外国語カリキュラム担当者に相談すること。

II. 日本語

「日本語」は留学生を対象とする新修外国語である。

A: 新修外国語として、「日本語」だけを履修する場合

1. 1年次前期で1A、2Aの2科目、1年次後期で1B、2Bの2科目をそれぞれセットで登録・履修することが望ましい。
2年次も同じで、前期に3A、4Aを、後期に3B、4Bをセットで登録・履修することが望ましい。
2. さらに、非漢字文化圏の留学生のために、2年次前期で「5A」が、後期で「5B」が提供されている。
3. 学部によっては、必修の単位数が異なる。
8単位の場合は、「1A、1B、2A、2B、3A、3B、4A、4B」
6単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」+「3A~4Bから2科目」
4単位の場合は、「1A、1B、2A、2B」

B: 「日本語」と「他の新修外国語」を同時に履修する場合

1. まず、日本語「1A、1B、2A、2B」を優先的に登録すること。
2. 学部指定の新修外国語のクラスと重なる場合には、他学部指定の新修外国語クラスに登録すること。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1・2」、「基礎3」、「基礎4」、「応用1A」、「応用2A」の不合格者は、2年次で、不合格であった科目を再度履修すること。2年次提供の「応用1B」、「応用2B」の不合格者は、3年次で、不合格であった科目を再度履修すること。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読みに近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりがない。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接接触することでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

「ドイツ語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 2単位)

目標：連続した、もしくは密接に連携した週2回の授業を行う。ドイツ語のアルファベットと発音の基礎から始めて、単一文、単純時称などの基本的なしくみを把握する。AV機器なども用いて、ドイツ語を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」ためのバランスの取れた基礎能力を身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音

第4週～第8週：ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「基礎1・2」での学習をふまえて、複合文、複合時称、接続法など、より複雑なドイツ語の構文を学習し、ドイツ語の基礎的な知識をひとつおりに身につけることをめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎3」での学習と並行して、比較的複雑なドイツ語文を「話し」、「聞き」、「読み」、「書く」練習を行い、基礎的なドイツ語能力の定着をはかる。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週:<基礎1・2>の既習事項の確認

第2週~第5週:ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充

第6週~第10週:ドイツ語の基礎的な実践能力の強化

第11週~第14週:ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法:平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1A」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:AV機器なども用いて実践的な練習を行い、基礎的なドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週:イントロダクション(ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週~第3週:ドイツ語の文字と発音一補強

第4週~第9週:ドイツ語の応用能力の初歩的養成

第10週~第14週:ドイツ語の応用能力の発展的養成

評価方法:平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用2A」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:AV機器なども用いて実践的な練習を行い、やや高度なドイツ語の応用能力を養成する。多様なシチュエーションに対応できるドイツ語の理解能力と表現能力の習得をめざす。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週:<応用1A>の既習事項の確認

第2週~第5週:ドイツ語の応用能力の拡充

第6週~第10週:ドイツ語の応用能力の強化

第11週~第14週:ドイツ語の応用能力の仕上げ

評価方法:平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用1B」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:1年次で習得した基礎に立って、テキスト精読や実践的練習を通してドイツ語の応用能力を養成する。また、ドイツ語の文化的背景にも触れ、ドイツ語の多面的な理解をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週:既習事項の確認

第2週~第3週:ドイツ語の応用能力への導入

第6週~第10週:ドイツ語の応用能力の初歩的養成

第11週~第14週:ドイツ語の応用能力の発展的養成

評価方法:平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語応用 2 B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：テキスト精読や実践的練習を通して、やや高度なドイツ語の応用能力を養成し、ドイツ語の理解能力と表現能力の向上をめざす。

なお、平成17年度以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：<応用1B>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の応用能力の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の応用能力の強化

第11週～第14週：ドイツ語の応用能力の仕上げ

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語特修」(前・後期)(全学提供 各2単位)

目標：「ドイツ語基礎3」「ドイツ語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生で、さらにドイツ語を学ぶ意欲のある者を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、適切なクラス規模での授業によって、より高度なドイツ語能力の習得をめざす。

評価方法：平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

各クラスの授業内容は以下のとおり。

「ドイツ語特修1 a / 1 b」(前期)「ドイツ語特修2」(後期)(ドイツ語会話)

ネイティブ教員の担当により、ドイツ語のヒアリングおよび会話能力の養成を目的とする。ドイツ語の日常的な会話表現を実践的な練習により習得する。

「ドイツ語特修3 a / 3 b」(前期)「ドイツ語特修4」(後期)(映像で学ぶドイツ語)

ドイツの映画・ドラマ・アニメなどを教材に使用して、聞き取りなどの練習を行う一方、そこに使われているドイツ語の表現を学ぶことによって、ドイツ語の実践的な能力を養成する。

「ドイツ語特修5」(前期)「ドイツ語特修6」(後期)(独検対策)

ドイツ語技能検定(独検)受験希望者を対象に、過去の出題問題をふまえて、合格をめざした練習を行う。独検においてはバランスの取れたドイツ語能力が求められるが、これで十分対応できる総合的な能力を身につけるよう授業を行う。

「ドイツ語特修7」(前期)「ドイツ語特修8」(後期)(ドイツ語を読むⅠ)

新聞・雑誌記事・ホームページなど、リアルタイムのドイツ語テキストを読む練習を通して、現在の生きたドイツ語の読解力を身につけるとともに、現在のドイツ語圏の社会・文化について認識を深める。

「ドイツ語特修9」(前期)「ドイツ語特修10」(後期)(ドイツ語を読むⅡ)

ドイツの小説・童話・エッセイなど、文学的・文化的なテキストを原語で精読し、ドイツ語の読解力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文学・文化について理解を深める。

基礎 1・2 (前期)

C I (月・2) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・1) 長谷川 健一 (非常勤)

- ・テキスト：①尾川浩・江代修・金関猛『CD付き ドイツ文法 15 課』(三修社)
②新倉真矢子他『Genau! コミュニケーションのドイツ語』(第三書房)

E I a (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

- ・テキスト：①川合節子・林良子・四ツ谷亮子『はじめてのドイツ---使えるドイツ語表現 三訂版』(三修社)
②成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 改訂版』(郁文堂)

E I b (月・1) 竹内 一高 (非常勤)、(水・2) 國光 圭子 (非常勤)

- ・テキスト：①在間進『新生ドイツ語文法 V5』(朝日出版社)
②小野寿美子/中川明博/西巻丈児『クロイツンク KREUZUNG』(朝日出版社)

J I a (月・1) 齊藤 公輔 (非常勤)、(水・2) 田原 憲和 (非常勤)

- ・テキスト：①藤由順子・橋本由紀子・平山茂樹『Eine Katze in „Wunder-Deutschland“』(朝日出版社)
②プリント配布

J I b (月・1) 田原 憲和 (非常勤)、(水・2) 田島 昭洋 (非常勤)

- ・テキスト：①プリント配布 ②藤由順子 他『ヴンダー！ヴンダー！』

L I a (月・2) 竹内 一高 (非常勤)、(水・1) クラウス・ブレックス (文)

- ・テキスト：①ノートテイクと教材プリント配布による。
また、水曜・金曜担当の先生が使用されるテキスト教材を参考にすることもある。
②『Schritte 1 international (Kursbuch+Arbeitsbuch)』(Max Hueber)

L I b (月・2) クラウス・ブレックス (文)、(水・1) 高井 絹子 (非常勤)

- ・テキスト：①『Schritte 1 international (Kursbuch+Arbeitsbuch)』(Max Hueber)
②成田節『ドイツ語文法の基礎』(同学社)

S I a (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・4) 長谷川 健一 (非常勤)

- ・テキスト：①新妻孝一・中出正郎『レッツ・トライ---12 課プラス 2』(同学社)
②藤由順子他『ヴンダー！ヴンダー！』(朝日出版社)

S I b (月・3) 竹内 一高 (非常勤)、(水・4) 高井 絹子 (非常勤)

- ・テキスト：①ノートテイクと教材プリント配布による。
また、水曜担当の先生が使用されるテキスト教材を参考にすることもある
②藤由順子他『ヴンダー！ヴンダー！』(朝日出版社)

S I c (月・3) 齊藤 公輔 (非常勤)、(水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

- ・テキスト：①菅谷泰行 他『Einführung in die deutsche Kulturgeschichte』(白水社)
②成田節『ドイツ語文法の基礎』(同学社)

T I a (月・4) 竹内 一高 (非常勤)、(水・3) 高井 絹子 (非常勤)

- ・テキスト：①ノートテイクと教材プリント配布による。
また、水曜担当の先生が使用されるテキスト教材を参考にすることもある。
②成田節『ドイツ語文法の基礎』(同学社)

T I b (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)、(水・3) 國光 圭子 (非常勤)

- ・テキスト：①小島一良・瀬戸武彦『基礎ドイツ文法 第2版』(白水社)
②佐藤和弘 他『新ドイツに行ってみませんか Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt』(郁文堂)

T I c (月・4) 齊藤 公輔 (非常勤)、(水・3) 田原 憲和 (非常勤)

- ・テキスト：①藤由順子・橋本由紀子・平山茂樹 『Eine Katze in „Wunder-Deutschland“』(朝日出版社)
- ②プリント配布

T I d (月・4) 三上 雅子 (文)、(水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

- ・テキスト：①在間進 『新生ドイツ語文法V 5』(朝日出版社)
- ②在間進 他『ヴェーラとヴェルナー・新改訂版 ードイツ、学生の日常生活』(朝日出版社)

T I e (月・4) 田島 昭洋 (非常勤)、(水・3) 寺井 俊正 (文)

- ・テキスト：①関根裕子 『ようこそヴィーンへ』(白水社)、
- ②竹中康雄・土井ギーゼラ 『開け、ゴマ ー 初級ドイツ語 13 課』(郁文堂)

M I a (月・3) 田島 昭洋 (非常勤)、(水・4) 寺井 俊正 (文)

- ・テキスト：①関根裕子 『ようこそヴィーンへ』(白水社)
- ②竹中康雄・土井ギーゼラ 『開け、ゴマ ー 初級ドイツ語 13 課』(郁文堂)

M I b (月・3) 三上 雅子 (文)、(水・4) 中村 恵 (非常勤)

- ・テキスト：①成田節：『ドイツ語文法の基礎』(同学社)
- ②牧野アンゲリカ・宇野 道義：『モーツァルトとドイツ語を』(第三書房)

H I (月・3) 高井 絹子 (非常勤)、(水・4) 海老根 剛 (文)

- ・テキスト：①近藤・小林・新倉・松尾 『Dialog ドイツ語へのキックオフ Ver.5』(郁文堂)
- ②三室次雄 『ドイチュ・プラクティッシュ 〈グリーン〉』(三修社)

応用 1 A (前期)

J I a (金・3) 大森 智子 (非常勤)

- ・テキスト：齊藤佑史・荒木詳二 『おもしろドイツ! --- 異文化への招待』(郁文堂)

J I b (金・3) 江川 英明 (非常勤)

- ・テキスト：小塩節 『現代独作文法 改訂版』(郁文堂)

L I a (金・4) 田原 憲和 (非常勤)

- ・テキスト：矢羽々崇 『Schritte international 日本語で学ぶドイツ語文法』(Hueber)

L I b (金・4) 田島 昭洋 (非常勤)

- ・テキスト：小塩節 『希望のドイツ語 [新訂版]』(朝日出版)

応用 1 B (前期)

C II (火・2) 中村 恵 (非常勤)

- ・テキスト：大谷弘道 『ドイツ人を知る 9 章+1』(三修社)

T II (木・1) 大森 智子 (非常勤)

- ・テキスト：井出万秀・Claudia Hamann 『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版社)

H II (木・2) 大森 智子 (非常勤)

- ・テキスト：井出万秀・Claudia Hamann 『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版社)

特修 1 a (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・2) クラウス・ブレックス(文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

- ・テキスト：プリント使用

特修 1 b (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・4) クラウス・ブレックス(文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

- ・テキスト：プリント使用

特修 3 a (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・3) 中村 恵(非常勤)

授業内容：ヴィム・ベンダース監督の『ベルリン・天使の詩』を、脚本を読みつつ、聞取りに留意し、表現も学びながら鑑賞する。同時にドイツ史における“壁”の様々な意味合いについても考えてみたい。

- ・テキスト：池田信雄『ベルリン・天使の詩』(同学社)。

特修 3 b (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(金・3) 田島 昭洋(非常勤)

授業内容：モーツァルト『後宮からの誘拐』の台本を読み、映像を見る。トルコを舞台に異国情緒的な趣を醸し出す本作品であるが、ドイツ歌劇史上初の「芸術オペラ」として重要である。また、時の音楽事情や関連映像を紹介する。

- ・テキスト：プリントを配布する

特修 5 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(木・2) 神竹 道士(文)

授業内容：本講義は、ドイツ語技能検定試験(独検)を受験する(予定の)学生を対象とする。前期では、主にドイツ語の初級文法を習得した学生が受講するのが望ましい。過去数年間の問題を用いて、実践的な演習形式で授業を行う。

- ・テキスト：プリントを配布する。

特修 7 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(金・4) 江川 英明(非常勤)

授業内容：昨年ドイツで起こった様々な事件や出来事に関する新聞雑誌記事を読む。具体的にはフィギュアスケート、サッカーリーグ、考古学上の発見、古文書館倒壊のニュースを報じた記事を扱う。

- ・テキスト：Andrea Raab・石井寿子『時事ドイツ語<'09年トピックス>』(朝日出版社)

特修 9 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(木・3) 田島 昭洋(非常勤)

授業内容：文学と音楽の有機的統一体としての「リート」、とりわけシューベルトのリートをいくつか取り上げる。詩をていねいに読み、次にリートを聴き、詩的・音楽的效果を検討するとともに、それが成立した時代背景にも迫る。

- ・テキスト：プリント配布

基礎 3 (後期)

CI (月・2) 神野 ゆみこ (非常勤)

- ・テキスト：尾川浩・江代修・金関猛『CD付き ドイツ文法 15 課』(三修社)

EIa (月・1) 神野 ゆみこ (非常勤)

- ・テキスト：川合節子・林良子・四ツ谷亮子『はじめてのドイツ---使えるドイツ語表現 三訂版』(三修社)

EIb (月・1) 竹内 一高 (非常勤)

- ・テキスト：在間進『新生ドイツ語文法 V5』(朝日出版社)

JIa (月・1) 齊藤 公輔 (非常勤)

- ・テキスト：藤由順子・橋本由紀子・平山茂樹『Eine Katze in „Wunder-Deutschland“』(朝日出版社)

JIb (月・1) 田原 憲和 (非常勤)

- ・テキスト：福田幸夫『基礎ドイツ語作文 (改訂版)』(白水社)

LIa (月・2) 竹内 一高 (非常勤)

- ・テキスト：ノートテイクと教材プリント配布による。
また、水曜・金曜担当の先生が使用されるテキスト教材を参考にすることもある。

LIb (月・2) クラウス・ブレックス (文)

- ・テキスト：『Schritte 1 international (Kursbuch+Arbeitsbuch)』(Max Hueber)

SIa (月・3) 神野 ゆみこ (非常勤)

- ・テキスト：新妻孝一・中出正郎『レッツ・トライ---12 課プラス 2』(同学社)

SIb (月・3) 竹内 一高 (非常勤)

- ・テキスト：ノートテイクと教材プリント配布による。
また、水曜担当の先生が使用されるテキスト教材を参考にすることもある。

SIc (月・3) 齊藤 公輔 (非常勤)

- ・テキスト：菅谷泰行 他『Einführung in die deutsche Kulturgeschichte』(白水社)

TIa (月・4) 竹内 一高 (非常勤)

- ・テキスト：ノートテイクと教材プリント配布による。
また、水曜担当の先生が使用されるテキスト教材を参考にすることもある。

TIb (月・4) 神野 ゆみこ (非常勤)

- ・テキスト：小島一良・瀬戸武彦『基礎ドイツ文法 第 2 版』(白水社)

TIc (月・4) 齊藤 公輔 (非常勤)

- ・テキスト：藤由順子・橋本由紀子・平山茂樹『Eine Katze in „Wunder-Deutschland“』(朝日出版社)

TI d (月・4) 三上 雅子 (文)

- ・テキスト：在間 進『新生ドイツ語文法 V 5』(朝日出版社)

TIe (月・4) 田島 昭洋 (非常勤)

- ・テキスト：関根 裕子『ようこそヴィーンへ』(白水社)

MIa (月・3) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：関根 裕子『ようこそヴィーンへ』（白水社）

MIb (月・3) 三上 雅子 (文)

・テキスト：成田節『ドイツ語文法の基礎』（同学社）

HI (月・3) 高井 絹子 (非常勤)

・テキスト：近藤 他『Dialog ドイツ語へのキックオフ Ver.5』（郁文堂）

基礎 4 (後期)

CI (水・1) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト：新倉真矢子 他『Genau! コミュニケーションのドイツ語』（第三書房）

EIa (水・2) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：成田節『練習で覚えるドイツ語初級文法 [改訂版]』（郁文堂）

EIb (水・2) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：小野寿美子/中川明博/西巻丈児『クロイツンク KREUZUNG』（朝日出版社）

JIa (水・2) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：福田幸夫『基礎ドイツ語作文 (改訂版)』（白水社）

JIb (水・2) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト：藤由順子 他『ウンダー！ウンダー！』（朝日出版）

LIa (水・1) クラウス・ブレックス (文)

・テキスト：『Schritte 1 international (Kursbuch +Arbeitsbuch)』（Max Hueber）

LIb (水・1) 高井 絹子 (非常勤)

・テキスト：成田節『ドイツ語文法の基礎』（同学社）

SIa (水・4) 長谷川 健一 (非常勤)

・テキスト：藤由順子 他『ウンダー！ウンダー！』（朝日出版）

SIb (水・4) 高井 絹子 (非常勤)

・テキスト：藤由順子 他『ウンダー！ウンダー！』（朝日出版）

SIc (水・4) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：成田節『ドイツ語文法の基礎』（同学社）

TIa (水・3) 高井 絹子 (非常勤)

・テキスト：成田節『ドイツ語文法の基礎』（同学社）

TIb (水・3) 國光 圭子 (非常勤)

・テキスト：佐藤和弘 他『新ドイツに行ってみませんか Deutsch, mein Schlüssel zur neuen Welt』（郁文堂）

TIc (水・3) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：福田幸夫『基礎ドイツ語作文 (改訂版)』（白水社）

TI d (水・3) 田中 秀穂 (非常勤)

・テキスト：在間進、Randolf Jessl『ヴェーラとヴェルナー・新改訂版 ドイツ、学生の日常生活』（朝日出版社）

T I e (水・3) 寺井 俊正 (文)

・テキスト：竹中康雄・土井ギーゼラ『開け、ゴマ ― 初級ドイツ語13課』(郁文堂)

M I a (水・4) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：竹中康雄・土井ギーゼラ『開け、ゴマ ― 初級ドイツ語13課』(郁文堂)

M I b (水・4) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：牧野アンゲリカ・宇野道義『モーツァルトとドイツ語を』(第三書房)

H I (水・4) 海老根 剛 (文)

・テキスト：三室次雄：『ドイツ・プラクティッシュ〈グリーン〉』(三修社)

応用 2 A (後期)

J I a (金・3) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：齊藤佑史、荒木詳二『おもしろドイツ! --- 異文化への招待』(郁文堂)

J I b (金・3) 江川 英明 (非常勤)

・テキスト：小塩節『現代独作文法 改訂版』(郁文堂)

L I a (金・4) 田原 憲和 (非常勤)

・テキスト：矢羽々崇『Schritte international 日本語で学ぶドイツ語文法』(Hueber)

L I b (金・4) 田島 昭洋 (非常勤)

・テキスト：小塩節『希望のドイツ語 [新訂版]』(朝日出版社)

応用 2 B (後期)

C II (火・2) 中村 恵 (非常勤)

・テキスト：大谷弘道『ドイツ人を知る9章+1』(三修社)

T II (木・1) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：井出万秀・Claudia Hamann『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版社)

H II (木・2) 大森 智子 (非常勤)

・テキスト：井出万秀・Claudia Hamann『専門コースへのドイツ語文法』(朝日出版社)

特修 2 (後期)

全II~IV (木・2) クラウス・ブレックス (文)

授業内容：授業内容は受講生の希望とドイツ語の力の水準を考慮して決めるが、ドイツ語を読み、聞き、書く練習もあわせて会話練習を行う。授業はほぼドイツ語のみで行う。

・テキスト：プリント使用

特修 4 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(金・3) 田島 昭洋(非常勤)

授業内容：ウェーバー『魔弾の射手』の台本を読み、映像を見る。ドイツ語圏を舞台にしたドイツ語による初の歌劇であり、「ドイツ国民オペラ」として名高い。森や魔物の存在がロマン派的であり、斬新な音楽技法が現代的である。

- ・テキスト：プリントを配布する

特修 6 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・4) 神竹 道士(文)

授業内容：本講義は、ドイツ語技能検定試験(独検)を受験する(予定の)学生を対象とする。後期では、主に中級ドイツ語程度の語学力を有する学生が受講するのが望ましい。過去数年間の問題を用いて、実践的な演習形式で授業を行う。

- ・テキスト：プリント配布

特修 8 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(金・4) 江川 英明(非常勤)

授業内容：昨年ドイツで起こった様々な事件や出来事に関する新聞雑誌記事を読む。具体的には未成年者の飲酒問題、新型インフルエンザ、日本とドイツの議会選挙の結果を報じたニュースを扱う。

- ・テキスト：Andrea Raab・石井寿子『時事ドイツ語<'09年トピックス>』(朝日出版)

特修 10 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・3) 中村 恵(非常勤)

授業内容：『グリム童話』から、「蛙の王さま」、「灰かぶり」、「六羽の白鳥」、「野ばら姫」、「雪白姫」、「夏の庭と冬の庭の話」等を丁寧に読む。同時に文化的背景、グリム兄弟のことも触れる。

- ・テキスト：プリント配布

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は56ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

「フランス語基礎1・2」（前期）（学部別提供 クラス指定 2単位）

目標：「基礎1・2」では、フランス語初学者を対象として、発音のしくみ、文の構造、フランス語圏の文化について学ぶ。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、簡単な構造の文章の読み書きや、初歩的な会話を聞き話すことを目標とする。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）
- 第2週～第3週：フランス語の文字と発音
- 第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成
- 第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎4」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCDやDVD（クラスによってはコンピュータ）などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第1週：<基礎1・2>の既習事項の確認
- 第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充
- 第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化
- 第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「フランス語基礎1・2」を履修した者を対象として、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、流暢な発音、動詞の時称・叙法、関係節等について学ぶとともに、フランス語圏文化についての学習も継続する。授業ではCD

や DVD (クラスによってはコンピュータ) などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、日常的な文章の読み書きや、簡単な会話を聞き話すことを目標とする

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級 2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第 1 週：<基礎 1・2>の既習事項の確認
- 第 2 週～第 5 週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充
- 第 6 週～第 10 週：フランス語の基礎的な実践能力の強化
- 第 11 週～第 14 週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点 (出席をふくむ) 等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用 1 A」(前期) (学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標：「フランス語基礎 1・2」履修中の者を対象として、「基礎 1・2」と連携しながら、さらに深い発音のしくみ、文の構造について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では CD や DVD などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎 1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門 3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第 1 週：イントロダクション (フランス語・フランス語文化への導入)
- 第 2 週～第 3 週：フランス語の文字と発音一補強
- 第 4 週～第 9 週：フランス語の応用能力の初歩的養成
- 第 10 週～第 14 週：フランス語の応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点 (出席をふくむ) 等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用 2 A」(後期) (学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標：「フランス語応用 1 A」履修者を対象として、「基礎 3」「基礎 4」と連携しながら、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では CD や DVD などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級 3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第 1 週：<応用 1 A>の既習事項の確認
- 第 2 週～第 5 週：フランス語の応用能力の拡充
- 第 6 週～第 10 週：フランス語の応用能力の強化
- 第 11 週～第 14 週：フランス語の応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点 (出席をふくむ) 等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用 1 B」(前期) (学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標：「フランス語基礎 3」「フランス語基礎 4」を受講した者を対象として、さらに深い発音の仕組み、文の構造を学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業では CD や DVD などを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話訓練などをおこなうことで、「基礎 1・2」で学習した内容を自由に活用できることをめざす。

なお、平成 17 年 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門 3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

- 第 1 週：既習事項の確認
- 第 2 週～第 3 週：フランス語の応用能力への導入

第6週～第10週：フランス語の応用能力の初歩的養成

第11週～第14週：フランス語の応用能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語応用2B」(後期) (学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「フランス語基礎3」「フランス語基礎4」を受講した者を対象として、さらに深い文法事項や表現について学ぶとともに、フランス語圏の文化についても学習する。授業ではCDやDVDなどを用いて聴覚・視覚情報を提示するとともに、会話・訳読などをおこなうことで、簡単なコミュニケーションや長文読解ができるようになることをめざす。

なお、平成17年(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：<応用1B>の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の応用能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の応用能力の強化

第11週～第14週：フランス語の応用能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語特修1～10」(前期・後期) (全学提供 2単位)

目標：「基礎」や「応用」を習得後、さらに学びたいという意欲ある学生のために提供される「特修」では、クラスごとに日常会話や検定試験準備など、それぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、映画、料理、インターネット、新聞、雑誌、マンガ、仏検準備などを通じて、フランス語の会話力、読解力を発展させることを目的とする。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点(出席を含む)等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

基礎1・2 (前期)

CI (月・2) 久後 貴行 (非常勤)、(水・1) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：大津俊克、瀧川広子、藤井宏尚『はじめてのパリ - 新・改訂版』(朝日出版社)

EI (月・1) 藤本 智成 (非常勤)、(水・2) 津川 廣行 (文)

・テキスト：小笠原洋子『ピエールとユゴー』(白水社)

JI (月・1) 久後 貴行 (非常勤)、(水・2) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト：佐藤久美子、佐藤領時『アベセデ フランセ (改訂版)』(白水社)

LI (月・2) 白田 由樹 (文)、(水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト：中野茂、鈴木隆芳『フランスの12ヶ月』(駿河台出版社)

SI (月・3) 中條 健志 (非常勤)、(水・4) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：Sylvain Sauvegrain 他『アン・グラメール ―フランス文法でGO!―』(駿河台出版社)

MI (月・3) 安田 晋也 (非常勤)、(水・4) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：斉藤昌三『〈新版〉ル・フランセ』(白水社)

HI (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)、(水・4) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：藤田裕二他『新・東京一パリ、初飛行』新訂版 (駿河台出版社)

TI (月・4) 安田 晋也 (非常勤)、(水・3) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト：小笠原洋子『ピエールとユゴー (白水社)』

応用 1 A (前期)

J I (金・3) エマヌエル・アンティエ (特任)

・テキスト：Guy Capelle, Robert Menand『Le Nouveau Taxi! 1』(Hachette)

L I (金・4) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：中野茂他『フランスの12ヶ月』(駿河台出版社)

応用 1 B (前期)

C II (火・2) 岩本 篤子 (非常勤)

・テキスト：村松マリ=エマニュエル『パタシュ2』(朝日出版社)

TH II (木・2) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：石野好一他『どこにいるの?』(朝日出版社)

特修 1 (前期)

全 (火・3) 岩本 篤子 (非常勤)

授業内容：【フランス歌の世界】新旧のフランスの歌 (主にフレンチポップスと童謡) を聞きながら、フランス文化への理解を深める。また、動詞等の文法や発音の復習を、歌詞を通しておこなう。

・テキスト：プリント配布

特修 3 (前期)

全 (火・4) 福島 祥行 (文)

授業内容：【フランス若者文化の世界】日本漫画の仏語訳 (『ハチクロ』『君に届け』『オトメン』『茄子』『天使禁猟区』『DMC』etc.) を中心に、ギャル雑誌の広告や記事にふれることで、現代フランスの会話をまなぶとともに、発話練習をおこなう。

・テキスト：プリント配布

特修 5 (前期)

全 (木・3) 津川 廣行 (文)

授業内容：【フランス語検定試験の世界】一回生レベルのフランス語の復習もかねながら、仏検(正式名：実用フランス語技能検定試験)4級受験のための準備をおこないます。

・テキスト：富田正二『ニヴォー・カトルー教室で学ぶ仏検4級一』(駿河台出版社)

特修 7 (前期)

全 (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

授業内容：【現代フランスの世界】インターネットを活用しながら、フランスのテレビ・ラジオ・新聞を通してフランスの「今」の一端をのぞいてみます。メディアを通してであれ、現代のフランス社会をわずかでも知ることで、日本のあり方をあらためて捉え返すよい機会ともなるでしょう。

・テキスト：プリントなどを随時配布。中型の仏和辞典は必ず用意して下さい。

特修 9 (前期)

全(金・4) エマヌエル・アンティエ (特任)

授業内容:【フランス会話の世界・日常生活篇】趣味や週末の過ごし方など日常生活をテーマにして自分について話せるようになるための表現力を身につけることを目的とします。簡単な文章を書いたり、話したりする練習を主にします。

・テキスト: Guy Capelle, Robert Menand 『Le Nouveau Taxi! 1』(Hachette)

基礎 3 (後期)

CI (月・2) 中條 健志 (非常勤)

・テキスト: 中條健志 編『フランス語のこころ』(プリント)

EI (月・1) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト: 小笠原洋子『ピエールとユゴー』(白水社)

JI (月・1) 久後 貴行 (非常勤)

・テキスト: 佐藤久美子、佐藤領時『アベセデ フランセ (改訂版)』(白水社)

LI (月・2) 白田 由樹 (文)

・テキスト: 中野茂、鈴木隆芳『フランスの12ヶ月』(駿河台出版社)

SI (月・3) 中條 健志 (非常勤)

・テキスト: 中條健志 編『フランス語の科学』(プリント)

TI (月・4) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト: 小笠原洋子『ピエールとユゴー』(白水社)

MI (月・3) 安田 晋也 (非常勤)

・テキスト: 齊藤昌三『ル・フランセ』(白水社)

HI (月・3) 酒井 美貴 (非常勤)

・テキスト: 藤田裕二他『新・東京——パリ、初飛行』新訂版 (駿河台出版社)

基礎 4 (後期)

CI (水・1) 鈴木田 研二 (非常勤)

・テキスト: 大津俊克他『はじめてのパリ —新・改訂版—』(朝日出版社)

EI (水・2) 津川 廣行 (文)

・テキスト: 津川廣行 編『フランス語玉手箱』(プリント)

JI (水・2) 藤本 智成 (非常勤)

・テキスト: 黒田恵梨子 他『ヌーヴォー・ユピー!』(朝日出版社)

LI (水・1) 福島 祥行 (文)

・テキスト: 中野茂他『フランスの12カ月』(駿河台出版社)

SI (水・4) 秋吉 孝浩 (非常勤)

・テキスト: Sylvain Sauvegrain 他『アン・グラメール —フランス文法でGO!—』(駿河台出版社)

TI (水・3) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：ミシェル・サガス他『時事フランス語－2010年度版』

MI (水・4) 馬場 加通子 (非常勤)

・テキスト：ミシェル・サガス他『時事フランス語－2010年度版』

HI (水・4) 小田中 章浩 (文)

・テキスト：藤田裕二他『新・東京－パリ、初飛行 (新訂版)』(駿河台出版社)

応用 2 A (後期)

JI (金・3) 藤澤 秀平 (非常勤)

・テキスト：斎藤広信『シチュアッション 2』(早美出版社)

LI (金・4) エマヌエル・アンティエ (特任)

・テキスト：Guy Capelle, Robert Menand『Le Nouveau Taxi! 1 (Leçons 8~14)』(Hachette)

応用 2 B (後期)

CII (火・2) 岩本 篤子 (非常勤)

・テキスト：村松マリ＝エマニュエル『パタシュ 2』(朝日出版社)

THII (木・2) 小林 裕史 (非常勤)

・テキスト：石野好一他『どこにいるの?』(朝日出版社)

特修 2 (後期)

全II～IV (火・3) 白田 由樹 (文)

授業内容：【フランス演劇の世界】フランス演劇の有名な作品をいくつか紹介し、実際に原文テキストの抜粋を講読するとともに、視聴覚教材も適宜用いながら、口頭表現（発音やイントネーション）の訓練として、朗読や演技の実践を行う。

・テキスト：アレクサンドラ・オグラ＝クレメール 他 『演劇から学ぶフランス語』(青山社)

特修 4 (後期)

全II～IV (火・4) 小田中 章浩 (文)

授業内容：【フランス映画の世界】『太陽がいっぱい』や『海辺のポーリーヌ』といった名作映画を観て、文法、語彙、発音の面から、そこで用いられている日常的なフランス語を学習する。

・テキスト：プリント配布

特修 6 (後期)

全II～IV (木・3) 小林 裕二 (非常勤)

授業内容：【フランス文化史の世界】フランス文化史を通覧する。

各時代の興味深い出来事を取り上げ、同時代の美術・音楽にふれながら、それにかかわるフランス語の文章ないし発言に目を通すことで、フランス語・文化・歴史について学ぶ。

・テキスト：プリント配布

特修 8 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・3) エマヌエル・アンティエ (特任)

授業内容:【フランス会話の世界・文化篇】フランス人の生活スタイル、仕事、バカンスなどのフランス文化をテーマに会話の練習をします。適宜、文法説明や、聞き取り、簡単な文章の理解などを含めた総合的な授業内容です。

・テキスト: Guy Capelle, Robert Menand 『Le Nouveau Taxi! 1 (Leçons 25～34) 』 (Hachette)

特修 10 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・4) 藤田 あゆみ (非常勤)

授業内容:【フランス食の世界】食はフランス文化の重要な一部を担い、現在フランス料理は世界文化遺産に認定されています。この授業では視聴覚教材も取り入れながら、ワインなども含むさまざまな食についてのテキストや料理のレシピなどを読みこなしていくことで、語学力を高めフランス文化についての知識を深めることを目的としています。

・テキスト: プリント配布

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

「中国語基礎1・2」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: 中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎1・2」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用1A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。なお下の授業計画は、週に三回授業を行う法・文クラスの場合を例に挙げている。商・経・工・生科・医などのクラスは、週二回の授業であるから、その三分の二程度の進度となる。

また、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

発音や簡体字に慣れ、基礎的な文法事項を修得して、簡単な会話が行えることを目標とする。

第1週: イントロダクション(中国語・中国文化の特徴に関する概説)

第2週~第4週: 声調、母音、子音など、中国語の発音の基礎を身につける。

第5週~第9週: 動詞構文、形容詞構文などの文法事項を中心に学習し、中国語の初歩的な運用能力を身につける。

第10週~第14週: 前置詞構文や疑問詞疑問文などの文法事項を中心に学習し、中国語の運用能力を高める。

評価方法: 平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標: 様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用2A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。なお下の授業計画は、週に三回授業を行う法・文クラスの場合を例に挙げている。商・経・工・生科・医などのクラスは、週二回の授業であるから、その三分の二程度の進度となる。

また、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週: 前期の復習

第2週~第4週: 完了や進行、経験など、中国語のアスペクト助詞について学び、表現の幅を広げる。

第5週~第9週: 可能の助動詞や、動詞に結果・方向・可能的の意味合いを付加する補語について学び、より“中国語らしい”表現を身につける。

第10週~第14週: 比較や使役の表現や受身文、また疑問詞の不定詞的用法など、学習範囲をひろげ、中国語運用能力の拡充を図る。

評価方法: 平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」、「中国語基礎4」は連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。ただし、法・文のクラスでは「応用2A」ともリレー式によって授業を進めるので注意すること。なお下の授業計画は、週に三回授業を行う法・文クラスの場合を例に挙げている。商・経・工・生科・医などのクラスは、週二回の授業であるから、その三分の二程度の進度となる。

また、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：前期の復習

第2週～第4週：完了や進行、経験など、中国語のアスペクト助詞について学び、表現の幅を広げる。

第5週～第9週： possibleの助動詞や、動詞に結果・方向・possibleの意味合いを付加する補語について学び、より“中国語らしい”表現を身につける。

第10週～第14週：比較や使役の表現や受身文、また疑問詞の不定詞的用法など、学習範囲をひろげ、中国語運用能力の拡充を図る。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語応用1A」(前期)(学部別提供 クラス指 1単位)

目標：「中国語基礎1・2」と連動させリレー式に授業を進める。ネイティブスピーカーの教員が担当し、早い段階から応用練習に取りくむ。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることにも留意する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎クラス〉と連動して授業を行う。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語応用2A」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標：「中国語基礎3」「中国語基礎4」と連動させてリレー式に授業を進める。ネイティブスピーカーの教員が担当し、応用練習にも積極的に取り組む。基本語彙による言い替え練習が重視されるのはもちろんだが、場面にふさわしい語彙や表現を随時提供し、表現の幅を広げることにも留意する。後半には、ピンインのついていない短篇の読解にも取り組む予定。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎クラス〉と連動して授業を行う。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語応用1B」(前期)(学部別提供 クラス指定 各1単位)

目標：前年度後期の「基礎3・4」に続いて中国語を学ぶ学生のために提供する。様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れるさまざまな構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週～第2週：一年次の復習を行う。

第3週～第8週：動詞に結果・方向・possibleの意味合いを付加する補語について学び、中国語らしい表現を身につける。

第9週～第14週：比較や使役、受け身などの表現を学び、中国語運用能力を高める。

評価方法：平常点40%、試験60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「中国語応用 2 B」(後期)(学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標：プリントを使って様々な文章を読みながら、補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れるさまざまな構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。

なお、平成 17 (2005) 年以前に入学した学生は、この科目をもって「中国語初級 3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第 1 週：前期の復習を行う。

第 2 週～第 8 週：疑問詞の不定的用法など、高度な表現方法を学び、中国語運用能力を拡充する。

第 9 週～第 14 週：プリントを用いて、これまで学んだ表現や構文を体系的に把握し、中国語運用能力をより強化する。

評価方法：平常点 40%、試験 60%を目安とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。また試験は、中間試験か期末試験の一方の点数、あるいは両方の平均点とする。

「特修 1」(前期)(全学提供 2 単位)

「特修 2」(後期)(全学提供 2 単位)

目標：1 回生の基礎 1～4 で身につけた正確な発音を基に、自由に会話ができることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらう。「聞く」力を高める目的で、中国語で授業を行う。また口頭作文、言い換え、暗誦などを通して「話す」力も高め、会話でよく用いられる表現を習得し、自然な抑揚・リズムで話せることを目指す。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修 3」(前期)(全学提供 2 単位)

「特修 4」(後期)(全学提供 2 単位)

目標：中国語の検定試験に合格する能力を身につけることを目標とする。現在行われている中国語の検定には、主に国内で実施される中国語検定と中国政府主催の HSK (漢語水平考試) とがあるが、今年度は中国語検定 3 級の取得を目指して訓練する。授業は、リスニング、文法、読解から形成されるが、特にリスニングの比重を大きくする。暗誦や長文読解 (ピンインが付いていない文章の多読、速読) などにも一定時間を割り、バランスの取れた語学力の向上を目指す。月に一度は模擬試験の形式により、定着度を測る。また問題の解答・解説に終始するのではなく、日本人学習者のウィークポイントに絞って、その克服に努める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修 5」(前期)(全学提供 2 単位)

「特修 6」(後期)(全学提供 2 単位)

目標：中国語を読む力、聴く力を鍛え、中国語の基礎的文献を理解する力を養成すると同時に、そのテキスト内容を通して、急速な成長を遂げる現在の中国を多面的に理解することを目的とする。テキストは、最近の新聞、雑誌、書籍などから、ふさわしい話題性、問題性に富むものを選び、また必要に応じて書き下ろした。この授業で、中国語を身につけながら、すでにあるステレオタイプな「中国」像ではなく、歴史的、文化的背景に基づいた新しい「中国」像を、自らの手で作り上げてもらいたい。この授業は、テキストの購読を中心とし、文の構造の分析や解釈に重点を置くほか、適宜リスニングも取り入れる。また、テキストの内容に関わる報告やレポートの提出も求める。

評価方法：成績は、出席を前提とし、その上で平常点 (報告・レポートなど)、学期末試験を総合して判定する。

「特修 7」(前期)(全学提供 2 単位)

「特修 8」(後期)(全学提供 2 単位)

目標：視聴覚教材を用いて、聞き取りと会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、生の中国語に多く触れてもらうようにする。

評価方法：出席を前提とし、平常点、学期末試験を総合して判定する。

「特修 9」(前期)(全学提供 2 単位)

「特修 10」(後期)(全学提供 2 単位)

目標：一回生で習った事柄を中心に、日常的な会話の能力を高めることを目標とする。中国人教員が担当し、できるだけ中国語を多く使って授業を行う。自然な中国語に近づけるよう訓練する。

評価方法：出席を前提とし、その上で平常点、学期末試験を総合して判定する。

基礎 1・2 (前期)

CIa (月・2) 梁 淑珉 (非常勤)、(水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

CIb (月・2) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

CIc (月・2) 福田 知可志 (非常勤)、(水・1) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

EIa (月・1) 秋岡 英行 (非常勤)、(水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

EIb (月・1) 福田 知可志 (非常勤)、(水・2) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

EIc (月・1) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・2) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

JIa (月・1) 山口 久和 (文)、(水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

JIb (月・1) 梁 淑珉 (非常勤)、(水・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

LIa (月・2) 大岩本 幸次 (文)、(水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

LIb (月・2) 韓 艶玲 (非常勤)、(水・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

MIHIa (月・3) 山口 久和 (文)、(水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

HIb (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

TIa (月・4) 方 紅 (非常勤)、(水・3) 史 彤春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

TIb (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)、(水・3) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

TIc (月・4) 岩本 真理 (文)、(水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上 (白帝社)

応用 1 A (前期)

J Ia (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

J Ib (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

L Ia (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

L Ib (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

応用 1 B (前期)

C IIa (火・2) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C IIb (火・2) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

C IIc (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

T II (木・1) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

H II (木・2) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

特修 1 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

講義内容：基礎 1～4 で身につけた正確な発音を基礎に、自由な会話ができるようになることを目標とする。中国語教員が担当し、生の中国語に多く触れ、会話に慣れるよう指導する。聞く力、話す力の向上を目指す。

・テキスト：塚本慶一・劉穎：『2年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

特修 3 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・3) 岩本 真理 (文)

講義内容：場面別に構成されたテキストを用いて、「聴・説・看・写」の四技能をバランス良く伸ばす。同時に中国語検定準 4 級・4 級のリスニング問題、文法問題に取り組み、更なる向上を目指す。

・テキスト：高芳・山本範子ほか：『中級中国語へのアクセス―場面別で「読む・書く・聴く・話す」』(三修社)

特修 5 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ (水・3) 井出 克子 (非常勤)

講義内容：中国語を読む力を鍛え、基本的文献を理解する力の養成を目指す。かつ教材を通じて、急速な経済成長を遂げ、大きく変化する中国社会を多角的に理解することも目標とする。授業では読解を中心とするが、聞く力をつけ

るための練習にも時間を割く。

・テキスト：松浦恒雄 池平紀子 王標 鈴木康予『チャイナ・アップデート』（白帝社）

特修 7 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ（木・3）張 新民（文）

講義内容：視聴覚教材を用いて聞き取り練習、会話練習を中心に授業を進め、「聞く」「話す」力を高めることを目標とする。

・テキスト：プリント配布

特修 9 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ（金・3）范 紫江（非常勤）

講義内容：実践的な会話力を養うことを目標とする。聞く力、話す力を高めるため、授業はできるだけ中国語によって行う。会話でよく用いられる表現を習得し、自然なリズムで話すことを目指す。

・テキスト：陳浩、梁月軍：『中国語会話ステップアップ』（郁文堂）

基礎 3 (後期)

C I a（月・2）梁 淑珉（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

C I b（月・2）秋岡 英行（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

C I c（月・2）福田 知可志（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

E I a（月・1）秋岡 英行（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

E I b（月・1）福田 知可志（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

E I c（月・1）韓 艶玲（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

J I a（月・1）山口 久和（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

J I b（月・1）梁 淑珉（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

L I a（月・2）大岩本 幸次（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

L I b（月・2）韓 艶玲（非常勤）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

MIH1a (月・3) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

HIb (月・3) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

TIa (月・4) 方 紅 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

TIb (月・4) 長谷川 慎 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

TIc (月・4) 岩本 真理 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

基礎 4 (後期)

CIa (水・1) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

CIb (水・1) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

CIc (水・1) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

EIa (水・2) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

EIb (水・2) 史 形春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

EIc (水・2) 北野 元美 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

JIa (水・2) 池平 紀子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

JIb (水・2) 齋藤 茂 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

LIa (水・1) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

LIb (水・1) 松浦 恒雄 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』下 (白帝社)

MIH1a (水・4) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高惠敏：『一步一步学漢語』上・下 (白帝社)

H I b (水・4) 井出 克子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

T I a (水・3) 史 形春 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

T I b (水・3) 大岩本 幸次 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

T I c (水・3) 大野 陽介 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

応用 2 A (後期)

J I a (金・3) 王 標 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

J I b (金・3) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

L I a (金・4) 范 紫江 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

L I b (金・4) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

応用 2 B (後期)

C II a (火・2) 馮 艶 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

C II b (火・2) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

C II c (火・2) 張 新民 (文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

T II (木・1) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

H II (木・2) 山口 博子 (非常勤)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』下（白帝社）

特修 2 (後期)

全II～IV (月・3) 韓 艶玲 (非常勤)

講義内容：基礎1～4で身につけた正確な発音を基礎に、自由な会話ができるようになることを目標とする。中国語教員が担当し、生の中国語に多く触れ、会話に慣れるよう指導する。聞く力、話す力の向上を目指す。

・テキスト：塚本慶一・劉穎：『2年生のコミュニケーション中国語』（白帝社）

特修 4 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (火・3) 岩本 真理 (文)

講義内容：場面別に構成されたテキストを用いて、「聴・説・看・写」の四技能をバランス良く伸ばす。同時に中国語検定4級・3級のリスニング問題、文法問題に取り組み、更なる向上を目指す。

・テキスト：高芳・山本範子ほか：『中級中国語へのアクセス—場面別で「読む・書く・聴く・話す」』(三修社)

特修 6 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (水・3) 井出 克子 (非常勤)

講義内容：中国語を読む力を鍛え、基本的文献を理解する力の養成を目指す。かつ教材を通じて、急速な経済成長を遂げ、大きく変化する中国社会を多角的に理解することも目標とする。授業では読解を中心とするが、聞く力をつけるための練習にも時間を割く。

・テキスト：松浦恒雄 池平紀子 王標 鈴木康代『チャイナ・アップデート』(白帝社)

特修 8 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (木・3) 張 新民 (文)

講義内容：視聴覚教材を用いて聞き取り練習、会話練習を中心に授業を進め、「聞く」、「話す」力を高めることを目標とする。

・テキスト：プリント配布

特修 10 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ (金・3) 范 紫江 (非常勤)

講義内容：実践的な会話力を養うことを目標とする。聞く力、話す力を高めるため、授業はできるだけ中国語によって行う。会話でよく用いられる表現を習得し、自然なリズムで話すことを目指す。

・テキスト：陳浩、梁月軍『中国語会話ステップアップ』(郁文堂)

ロシア語 Russian

学習の意義

国内の経済格差は解消されていないが、ロシアの経済は好調である。かつての《暗い、寒い、貧しい》というロシアのイメージは完全に払拭された感がある。国章の双頭の鷲のように、今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。村上春樹など日本の作家が読まれ、三島由紀夫の研究者ボリス・アクーニン（悪人からとったペンネーム）の推理小説が爆発の人気を呼んだのもかなり以前の話だ。長寿国日本の食生活への関心は高く、「すし屋」(?)の看板がやたらと目に付く。ペテルブルグ（大阪市の姉妹都市）に正式に日本語学校が開かれたのは1736年、日本でロシア語を教えるようになったのは1873年（明治6年）。この130年以上の開きは今も両国の関心度の差になってはいないだろうか。ロシアの魅力は何か、と問われたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ムソルグスキイ、ラフマーニノフなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつ。世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。ロシア民謡の一節を口ずさみながら。（雪の白樺並木、夕日が映える、走れトロイカ朗らかに、鈴の音高く）

目標と評価方法

「ロシア語基礎1・2」（前期）（2クラス提供 2単位）

目標：担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

なお、平成17年（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」（後期）（各2クラス提供 各1単位）

目標：ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1・2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

〈基礎4〉

第1週：〈基礎1・2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語応用1A」(前期) (全学提供「文学部必修」1単位)

目標：ロシア語をより確実に学習するためのクラスで、ネイティブの教員が担当する。発音が主として中心になるが、学習に参加する学生との「ふれあい」を大切に授業を行う。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション(ロシア語・ロシア文化への導入)

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音の補強

第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

評価方法：平常点を加味して、定期試験を行う。

「ロシア語応用2A」(後期) (全学提供「文学部必修」1単位)

目標：ロシア語の日常用いる平易な表現を使って、役に立つ会話を実践する。生きたロシア語の表現を学ぶクラスで、ネイティブの教員が担当する。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級3」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：〈応用1A〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化

第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：平常点を加味して定期試験を行う。

「ロシア語応用1B」(前期)「ロシア語応用2B」(後期) (全学提供 各1単位)

目標：1年次に修得した事項をより確かなものにするため、役に立つ会話を中心に、会話と読解の基礎を構築する。ネイティブの教員が担当する。

授業内容・授業計画：

〈応用1B〉

第1週：既習事項の確認

第2週～第3週：ロシア語応用能力の導入

第4週～第9週：ロシア語応用能力の初歩的養成

第10週～第14週：ロシア語応用能力の発展的養成

〈応用2B〉

第1週：〈応用1B〉既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語応用能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語応用能力の強化

第11週～第14週：ロシア語応用能力の仕上げ

評価方法：出席状況など平常点、および定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」(前期)「ロシア語特修2」(後期) (全学提供 各2単位)

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲のある学生を対象に、様々な映像を活用してロシアの文化(音楽、演劇、映画など)を学びながらロシア語の知識を習得し、ロシア語の運用能力の向上を目指す。

評価方法：平常点を加味し定期試験で行う。

「ロシア語特修3」（前期）「ロシア語特修4」（後期）（全学提供 1単位）

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得した学生を対象に、基本的文法事項の復習をしつつ、会話と読解の力の向上を目指す。ネイティブの教員が担当し、ロシアの風俗・習慣やロシア人の暮らし振りなどを紹介しつつ、高度のコミュニケーション能力を身につけてもらう。

評価方法：平常点を加味して、定期試験で判断する。

基礎 1・2 （前期）

商・経・法・文・理 I（月・3）キリーロワ・エレナ（非常勤）

授業内容：ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシア文化を紹介する。

- ・成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。
- ・テキスト：中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』改訂版（白水社）

工・医・生科 I（月・2）浅岡 宣彦（特任）

授業内容：平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進め、同時にロシア語の骨組みを理解してもらう。ロシアの歌、映画などを紹介しつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらう。

成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。

- ・テキスト：黒田龍之介『ロシア語文法への旅』（大学書林）他に適宜プリントを配布する。

工・医・生科 I（水・1）キリーロワ・エレナ（非常勤）

授業内容：ロシア語の発話能力を身につけてもらう。ロシア語独特の発音の練習、基本的な表現と語彙の習得に加え、ロシアの文化や歴史、風俗習慣の情報も取り入れる。

成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。

- ・テキスト：中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』改訂版（白水社）

商・経・法・文・理 I（水・4）浅岡 宣彦（特任）

授業内容：平易な教科書を用いて、ロシア語に親しみながら学習を進める。同時に、ロシア語の骨組みを理解してもらう。ロシアの歌、映画などを紹介しつつ、ロシアおよびロシア文化への理解を深めてもらう。

成績評価の方法：「基礎1・2」で総合的に行う。

- ・テキスト：黒田龍之介『ロシア語文法への旅』（大学書林）他に適宜プリントを配布する。

応用 1 A （前期）

全 I（金・4）ズマグロワ・アイヌーラ（非常勤）

授業内容：文字と発音に慣れ、簡単な表現を習得する事を目標とする。アルファベット・発音、基本的語彙の習得、人称代名詞、動詞の現在形、過去形、格変化、前置格・前置詞、対格、命令形、生格、所有代名詞、形容詞の性と数、を取り扱う。

成績評価の方法 定期試験の成績

- ・テキスト：『ロシア語習字ノート』、プリント配布

応用 1 B （前期）

全 II（月・4）キリーロワ・エレナ（非常勤）

授業内容：ロシア語の日常用いる平易な表現を使って、役に立つ会話を実践する。ロシアの歴史と文化を紹介し、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

成績評価の方法：平常点を加味して、定期試験の成績

- ・テキスト：プリント配布

特修 1 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(水・3) 浅岡 宣彦(特任)

授業内容: 復習を兼ねながら、基礎で触れていない文法事項(副動詞・形動詞など)を取り上げ、読解の力の養成を目指す。視聴覚教材を用いてロシアの文化を紹介する。

成績評価の方法: 平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト: 適宜、プリントを配布する。

特修 3 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(金・3) ズマグロワ・アイヌーラ(非常勤)

授業内容: 教科書『ロシア語教程Ⅰ』の第12課まで復習しつつ学ぶことを目標とする。関係代名詞の用法、無人称文(副詞と述語)、数詞(40-2000)、動詞の体(その3)、出発と到着の表現、形容詞、人称代名詞、所有代名詞の前置格、形容詞、所有代名詞、指示代名詞の与格、動詞の体(その4)、体調の表現、西暦年代、を取り扱う。

成績評価の方法: 平常点を加味して、定期試験の成績

・テキスト: 『ロシア語教程Ⅰ』(東京ロシア語学院)

基礎 3 (後期)

工・医・生科Ⅰ(月・2) 浅岡 宣彦(特任)

授業内容: 前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

成績評価の方法: 平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト: 黒田龍之介『ロシア語文法への旅』(大学書林)他に適宜プリント配布。

商・経・法・文・理Ⅰ(月・3) キリーロワ・エレナ(非常勤)

授業内容: ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。

成績評価の方法: 平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト: 中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』改訂版(白水社)

基礎 4 (後期)

工・医・生科Ⅰ(水・1) キリーロワ・エレナ(非常勤)

授業内容: 会話力と読解力を中心としたロシア語運用能力の向上を計り、ロシア文化への理解を深めてもらう。

成績評価の方法: 平常点、定期試験の成績で総合的に行う。

・テキスト: 中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』改訂版(白水社)、その他適宜プリントを配布。

商・経・法・文・理Ⅰ(水・4) 浅岡 宣彦(特任)

授業内容: 前期の教科書を継続し、基本的な文法事項の習得と読みの習熟を計る。ビデオ教材を用いてロシアの魅力を多方面から紹介する。

成績評価の方法: 平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

・テキスト: 黒田龍之介『ロシア語文法への旅』(大学書林)、適宜プリントを配布する。

応用 2 A (後期)

全Ⅰ(金・4) ズマグロワ・アイヌーラ(非常勤)

授業内容: 「聞く・話す・読む・書く」の基本的力を養う。運動の動詞、与格、動詞の未来形、数字と名詞の結び付き、造格、完了体・不完了体、指示代名詞の性と数、動詞・副詞、活動体・不活動体(対格)、総合練習、を取り扱う。

成績評価の方法: 平常点を加味して、定期試験の成績

・テキスト: プリントを配布

応用 2 B (後期)

全Ⅱ(月・4) キリーロワ・エレナ (非常勤)

授業内容：ロシアの風俗・習慣やロシア人の暮らし振りなどを紹介しつつ、高度なコミュニケーション能力を身につけてもらう。

成績評価の方法：平常点を加味して、定期試験の成績

- ・テキスト：プリントを配布

特修 2 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(水・3) 浅岡 宣彦 (特任)

授業内容：テーマに沿った映画を鑑賞しつつ、原作の一部を詳しく講読する。並行して、ロシアの歴史と文化を紹介し、ロシアへの関心と理解を深めてもらう。

成績評価の方法：平常点、定期試験を併せて総合的に行う。

- ・テキスト：適宜プリントを配布する。

特修 4 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(金・3) ズマグロワ・アイヌーラ (非常勤)

授業内容：『ロシア語教程Ⅰ』の残りを仕上げ、コミュニケーティブ・アプローチによる運用能力の向上を目指す。数量の表現、複数生格、数詞(3000-5000000)、動詞の体(その5)、活動体対格(複数)、複数与格、造格、前置格、形容詞短語尾、形容詞・比較級、副動詞、形動詞、を取り扱う。

成績評価の方法：平常点を加味して、定期試験の成績

- ・テキスト：教科書 『ロシア語教程Ⅰ』(東京ロシア語学院)

朝鮮語 Korean

学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

目標と評価方法

「朝鮮語基礎 1・2」(前期) (学部別提供 クラス指定 2 単位)

目標：ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形（連体形・連用形・過去形など）や、日常生活でよく用いられる主な語法（仮定法や比喩表現など）と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成 17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門 1・2」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

<授業計画>

第 1 回 ハングルの歴史と構造

文字の成り立ちの理解。

第 2～4 回 文字と発音（基礎母音・基礎子音・激音・濃音・合成母音など）

ハングル文字の正確な発音と書き方の習得。

第 5～8 回 単語の読み方、基礎的な構文（体言の肯定・否定・場所の表現・助詞）

文章における発音の規則、名詞を中心とした表現の習得。

第 9～12 回 用言の肯定・否定、存在詞を用いた表現

動詞・形容詞を用いた構文と語法の習得。

第 13～15 回 進行形・敬語表現・数詞（固有数詞、漢数詞）など

基礎的な会話表現と数量表現の習得。

「朝鮮語基礎 3」(後期) (学部別提供 クラス指定 1 単位)

目標：「朝鮮語基礎 1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎 4」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法（可能表現や婉曲語法など）や活用（不規則活用など）や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成 17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級 1」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

<授業計画>

第 1～4 回 連体形・命令表現

活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。

第 5～8 回 連用形・略待表現・過去形表現

母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。

- 第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など
さまざまな表現、および不規則活用の習得。
- 第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形
語法の仕上げと論説文体の習得。

「朝鮮語基礎4」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「朝鮮語基礎1・2」を履修した人を対象に、同時に開講される「基礎3」との連携のもと、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

評価方法:定期試験と小テスト(中間テスト、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

<授業計画>

- 第1～4回 連体形・命令表現
活用の中心となる連体形と丁寧な命令形の習得。
- 第5～8回 連用形・略待表現・過去形表現
母音調和の法則の理解と会話的表現の習得。
- 第9～12回 不可能・変則活用・希望表現など
さまざまな表現、および不規則活用の習得。
- 第13～15回 目的・意図表現・ぞんざい終止形
語法の仕上げと論説文体の習得。

「朝鮮語応用1A」(前期)(全学提供 1単位)

目標:「朝鮮語基礎1・2」を履修中の人を対象に、「基礎1・2」と連携しながら、ハングル文字の発音からはじめ、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざすのは基礎クラスと同じですが、それに加えて、ビデオ教材なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解の十分なまでにはまだ至りません。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

評価方法:定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2A」(後期)(全学提供 1単位)

目標:「朝鮮語応用1A」を履修した人を対象に、「基礎3」「基礎4」と連携しながら、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力を養成するとともに、ビデオ教材を活用し、ニュースや映画などの生き生きした言葉に触れ、朝鮮語の感覚に慣れるようつとめます。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解し、辞書を片手に新聞を読解することも十分に可能になります。

なお、平成17(2005)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級3」に読み替えることができます。

評価方法:定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用1B」(前期)(全学提供 各1単位)

目標:「朝鮮語基礎1・2」の履修を終えた人を対象に、「基礎1・2」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、新たに

日常生活でよく用いられる語法や語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などが独力でできる、いわゆる独り立ちできる語学力が目的です。また、ビデオ教材（ニュース・映画など）なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、やや高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語応用2B」（後期）（全学提供 1単位）

目標：「朝鮮語応用1B」の履修を終えた人を対象に、「応用1B」で学んだ事柄の復習と、それらに加え、より高度な語法や語彙を習得し、日常会話や読解に使える実践的な語学力の養成をめざします。辞書を活用し、作文や読解などのスピードアップが独力が目的です。また、ビデオ教材（ニュース・映画など）なども多用し、文化的な理解にも重点を置きます。

本講座をマスターすれば、比較的高度な会話や構文を理解できるようになります。

なお、平成17（2005）年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門3」に読み替えることができます。

評価方法：定期試験と小テスト（中間試験、ドリルなど）、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「朝鮮語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのためにネイティブの教師が少人数クラスで集中的な授業を行い、正確な発音と作文力や読解力・語彙力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。また、受講生の要望に応じ、検定試験対策も試みます。

評価方法：定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

「朝鮮語特修3」（前期）（全学提供 2単位）

「朝鮮語特修4」（後期）（全学提供 2単位）

目標：教科書の中にある言葉ではなく、映画に登場する会話や新聞・雑誌などの文章をテキストとしながら、実際に使われている「生きた言葉」に触れることを目的とします。

語学的な理解のみならず、現代韓国の社会や伝統文化など、感性においてもより深いアプローチができることをめざします。

評価方法：定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な質疑応答が重視されます。

基礎1・2（前期）

CTI（月・2）野崎充彦（文）、（水・3）金宝英（特任）

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

EMHI（月・3）野崎充彦（文）、（水・4）金宝英（特任）

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

JLI（月・4）野崎充彦（文）、（水・4）高秀賢（特任）

授業内容：ハングル文字の発音と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を

学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。
定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

応用 1 A （前期）

全 I（木・3）高 秀賢（特任）

授業内容：基礎 1・2 と並行して朝鮮語の文字発音や基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』（白帝社）

応用 1 B （前期）

全 II（木・4）高 秀賢（特任）

授業内容：基礎クラスで学び残した語法をマスターして確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的シチュエーションに適した会話を通じ、短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：プリント配布

特修 1 （前期）

全 II～IV（水・3）高 秀賢（特任）

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：プリント配布

特修 3 （前期）

全 II～IV（火・3）野崎充彦（文）

授業内容：検定試験に目標を定め（韓国語能力試験 3 級程度）、より実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるように、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。そのためには何よりも多くの練習が欠かせません。受講者は何よりも明確な目的意識を持つことが必要でしょう。

・テキスト：プリント配布

基礎 3 （後期）

CTI（月・2）野崎充彦（文）

授業内容：基礎 1・2 で学んだ事柄を復習しながらさらに学習を進め、規則活用や不規則活用、および日常生活でよく用いられる語法（可能・不可能表現や婉曲語法など）を習得していきます。また、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題などにより評価します。

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

EMHI（月・3）野崎充彦（文）

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』（国書刊行会）

JL I (月・4) 野崎充彦 (文)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な文法と主な語法の活用と会話を中心に学習します。特に、辞書の使い方などを熟知させ、自習能力を極めます。また、教材に出るいろいろな場面についての紹介をしつつ、文化的な理解にも重点をおきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

基礎 4 (後期)

CT I (水・3) 金 宝英 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します

・テキスト：金・喜多『パランセ韓国語』(朝日出版社)

EMH I (水・4) 金 宝英 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：金・喜多『パランセ韓国語』(朝日出版社)

JL I (水・4) 高 秀賢 (特任)

授業内容：前期で学んだことをもとに、さらに重要な語法や活用を学習します。ここでは不規則活用や、様々な慣用的な表現など、日常会話や読解に必須の語法が出てきます。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント配布

応用 2 A (後期)

全 I (木・3) 高 秀賢 (特任)

授業内容：基礎 3・4 と並行して朝鮮語の基礎文法、主な語法などを習得していきますが、特に、ビデオ教材などを多用し、自然な会話や文化的な理解にも重点をおきます。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：生越直樹・曹喜徹『ことばの架け橋』(白帝社)

応用 2 B (後期)

全 II (木・4) 高 秀賢 (特任)

授業内容：基礎クラスで習得した事柄を復習しながら、確実に使いこなせるようにトレーニングし、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。具体的には日常会話でよく用いられる語法を中心に短い作文や簡単な読解を練習します。定期試験・小テスト・課題により評価します。

・テキスト：プリント配布

特修 2 (後期)

全 II～IV (水・3) 高 秀賢 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることを目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント配布

特修 4 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・3)野崎充彦(文)

授業内容：検定試験に目標を定め(韓国語能力試験 3 級程度)、より実践的な内容に重点を置きながら、基礎クラスで習得した事柄を確実に使いこなせるように、さらにグレードアップした表現力の要請をめざします。そのためには何よりも多くの練習が欠かせません。受講者は何よりも明確な目的意識を持つことが必要でしょう。

・テキスト：プリント

日本語 Japanese

学習の意義

留学生にとって日本語の習得がいかに大切なものであるかは、いうまでもない。ただ、日本語の習得といっても、その内容はさまざまである。日常生活に必要な会話から、手紙や役所の届け出の書類を書くこと、テレビなどのメディアによる日本語の言葉を通しての娯楽など。しかし、ここでは大学生活にとって必要な日本語の習得である。大学生活をより豊かにするために学習・研究活動のための十分な日本語能力を身につけることが肝要である。学習活動に必要な日本語能力とは講義を聞き、理解する、ノートを取る、自分の疑問点を日本語で表現する能力などである。研究活動に必要な能力とは、専門書を読んで、要約し、ゼミなどで発表する、あるいはレポートをまとめたり、論文を書く能力である。「日本語1～4」ではそのような能力の養成につとめる。なお、それぞれ内容や目的が異なるので、留学生は順次全てを履修することが望まれる。なお、「日本語5」は短期留学や交換留学生を対象とした科目である。

目標と評価方法

「日本語1 A・1 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。具体的には①高度な論説文の読解力をつける。②むずかしい言葉・漢字を習得する。③内容を要約する力をつける。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語2 A・2 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語を口頭で、あるいは文章で表現する能力をつける。①論文などを要約・説明・発表する。②レポートの執筆や論述試験に対応できるような作文力を身につける。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語3 A・3 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、さまざまな文献を読みこなす力を養う。①高度な論説文を読み、論点を整理する。②多彩な文献の速読能力を養う。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語4 A・4 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での研究活動に必要な日本語能力を身につける。とくに、日本語で議論する能力を養う。①いくつかの文献を読み、論点を整理して発表する。②ゼミなどにおいて、文献の内容や自分の研究についてわかりやすく口頭発表できるようになることを目指す。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

「日本語5 A・5 B」(前期・後期)(全学提供 各1単位)

目標：大学での学習活動に要する日本語能力を身につける。短期留学や交換留学の学生、とくに非漢字文化圏の学習者に対応した学習内容とする。履修に関しては担当者の許可を必要とする。

評価方法：出席、発表、小テストなどにより総合的に評価する。

1 A (前期)

全(月・3) 高坂 史朗(文)

授業内容：その日の新聞を読む。政治・経済・社会・文化・生活などさまざまな新聞記事を速読する。それによって日本の現在を知る。

- ・テキスト：授業時にプリント配布。

1 B (後期)

全(月・3) 高坂 史朗(文)

授業内容：日本語に関する文章を読む。それによって、日本の特色を知る。速読形式で行う。

- ・テキスト：授業時に指示する。

2 A (前期)

全I(火・3) 坂本 美加(非常勤)

授業内容：簡単な作文を通じて、レポート・論文といった論理的な文章を書くために必要な基礎的事項について学ぶ。

- ・テキスト：二通信子他 改訂版『留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク) 他

2 B (後期)

全I(火・3) 坂本 美加(非常勤)

授業内容：時事問題などを取り上げながら、レポート・論文を書くための作文トレーニングを行う。

- ・テキスト：授業時に指示する。

3 A (前期)

全II(月・2) 高坂 史朗(文)

授業内容：日本の文学作品を読む。川端康成「伊豆の踊り子」・三島由紀夫「潮騒」など前もって読み、章ごとに発表・鑑賞する。

- ・テキスト：授業時に指示する。

3 B (後期)

全II(月・2) 高坂 史朗(文)

授業内容：司馬遼太郎・ドナルドキーン「日本人と日本文化」(中公新書)を読み、日本の歴史と文化を考察する。

- ・テキスト：授業時に指示する。

4 A (前期)

全II(火・4) 坂本 美加(非常勤)

授業内容：口頭発表技術を高める活動を中心に行う。各自が設定したテーマで発表を行い、クラスで討論する。

- ・テキスト：授業時に指示する。

4 B (後期)

全II(火・4) 坂本 美加(非常勤)

授業内容：口頭発表技術を高める活動を中心に行う。より実践的な形での発表練習をする。

- ・テキスト：授業時に指示する。

5 A (前期)

全Ⅱ(水・4)高坂 史朗(文)

授業内容：大阪・京都・奈良・神戸の歴史と文化を学ぶ。この授業は非漢字圏の交換留学生を対象とする授業である。

- ・テキスト：授業時に指示する。

5 B (後期)

全Ⅱ(水・4)高坂 史朗(文)

授業内容：この授業は非漢字圏の交換留学生を対象とする授業である。内容はその日の新聞を読み、日本の現在を知る。

熟読し、漢字を覚えることを主眼とする。

- ・テキスト：授業時に指示する。

(2) 第 2 部

英 語

ド イ ツ 語

フ ラ ン ス 語

中 国 語

ロ シ ア 語

朝 鮮 語

英語 English

(平成20年度入学者用)

カリキュラム概要

本年度、本学の二部の英語カリキュラムが改編される。きめ細かな指導を行うため、1年、2年共に、従来のクラスサイズより少人数のクラス編制とする。また、必修科目として College English (CE) が1年で4時間、2年で2時間の合計6時間提供される。このことにより、市大生に求められる英語運用能力の習得を目指す。

1年は、前・後期の授業を通して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランスよく伸ばすことを目標としている。CE IとCE IIIは、リスニング・リーディング中心、CE IIとCE IVは、スピーキング・ライティング中心のクラスである。前期の目標は、中学・高校で習得した基本的な英語の運用能力に基づきながら、大学生の知的レベルに合った話題を扱い、4技能の基礎的能力を育成・強化することにある。後期は前期の授業を発展させ、大学生の知的好奇心を満足させる話題を扱いながら、4技能の応用力を培うことにより、英語で大意を把握し、同時に表現する能力の開発を目指す。

2年では、1年に培った英語力に基づき、応用力・実践力を身につけることを目的とする。1年に習得した英語運用能力をさらに発展させ、専門教育につながる高度なレベルのリーディング・ライティング能力の習得に重点を置いた授業を行う。CE Vでは、1年次のCE I～IVの成果を踏まえ、多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CE VIは、専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。

また、意欲的な学生を対象に、プレゼンテーションのような高度な英語運用能力の習得を目指した自由選択科目の Advanced College English (ACE) を開講する。

英語カリキュラム編制表

必修科目				選択科目
1年	前期	CE I	CE II	ACE
	後期	CE III	CE IV	
2年	前期	CE V		
	後期	CE VI		

※教科書については別途掲示する。

履修科目内容

(1) College English I (CE I)

目標：中学・高校で習得した英語のリスニング・リーディングに関する基本的運用能力をさらに伸ばすことを目指す。

授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語を聞いて理解する際に必要な基礎的な聴解力、並びに、英語を読んで理解する際に求められる基礎的な読解力を習得することを目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：半期授業の前半と後半でリスニングとリーディングの比重を変える。

- (1) 前半はリスニングよりもリーディングに重点を置き、基本的な読解力を養成する。
 (2) 後半はリーディングよりもリスニングに重点を置き、基本的な聴解力を養成する。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L	月・2	関	C/E	火・1	衣笠

(2) College English II (CE II)

目標：中学・高校で習得した英語のスピーキング・ライティングに関する基本的運用能力をさらに伸ばすことを目指す。
 授業では大学生の知的レベルにあった話題を扱い、英語の音声と文字で自分の考えを表現する際に必要な基本的発信能力の習得を目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：半期授業の前半と後半でスピーキングとライティングの比重を変える。

- (1) 前半はスピーキングよりもライティングに重点を置き、基本的表現力を養成する。
 (2) 後半はライティングよりもスピーキングに重点を置き、基本的表現力を養成する。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L	水・1	田中孝	C/E	木・2	井狩

(3) College English III (CE III)

目標：前期の授業を発展させ、リスニング・リーディングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的な好奇心を満足させるような話題を扱い、英語を聞いて正確に理解するための聴解力、並びに、英語の文章を読みの確に理解するための読解力の養成を目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量（音声）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 前半は、前期培った基本的な読解力を基に、さらなる向上を目指す。
 (2) 後半は、前期培った基本的な聴解力を基に、さらなる向上を目指す。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L	月・2	山本	C/E	火・1	荒木

第2部外国語

(4) College English IV (CE IV)

目標：前期の授業を発展させ、スピーキング・ライティングの運用能力をさらに伸ばすことを目指す。授業では、大学生の知的好奇心を満足させるような話題を扱い、英語で文章を正確に書く能力、並びに、自分の考えを英語で適切に話す能力を養うことを目的とする。

評価方法：定期試験、小テスト、レポート、平常点等を総合的に評価する。

段階別到達度：前期と比べ、扱う言語データ量（文字）を1.5倍ほどに増やす。

- (1) 前半は、前期培った基本的な書く能力を基に、さらなる表現力の向上を目指す。
- (2) 後半は、前期培った基本的な話す能力を基に、さらなる表現力の向上を目指す。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
J/L	水・1	瀬戸	C/E	木・2	杉井

(5) College English V (CE V)

多読とパラグラフ・ライティングを取り入れた授業を行う。CEVは、CE I～IVの総仕上げの意味を持つ。長文を読み、長文を書く能力を身につけることを目標とする。

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
LII	月・1	山本	C/EIIb	木・1	田中一
C/EIIa	木・1	(Chen)	C/EIIc	木・1	岩田

(6) College English VI (CE VI)

専門に近い英文の読解力、並びに、表現力の養成を目標とする。単に英文が読める、書けるということではなく、専門的な内容について、読み書きできる基本的な能力を育成することを目標とする。

CE VI (後期)

クラス	曜・時限	担当者	クラス	曜・時限	担当者
LII	月・1	Richards	C/EIIb	木・1	(Chen)
C/EIIa	木・1	高島	C/EIIc	木・1	野木

< 2部 >

Advanced College English (ACE)

Advanced College English は College English (CE) で培った英語運用能力よりもさらに高度な英語運用能力を望む学生を対象に、自己表現力、批評力、文章構成力、理解力などを磨くことを目的とした自由選択科目である。提供内容は科目ごとに異なるので、各自の目的に応じて適切な科目を選択することが大切である。

Advanced College English (ACE) の履修方法について

ACE の履修については、各学部の要覧等で確認すること。

(1) 履修の受付について

ACE 科目の受講を希望する者は、第2部事務室で「指定用紙」を受け取り、記入して、前期については4月6日(火)午後9時15分までに第2部事務室内のボックスに入れること。「指定用紙」を提出していない者の履修は認めない。

希望者多数の場合は抽選を行う。受講確定者は、前期については4月7日(水)午後3時に、第2部事務室前に掲示する。

ただし、上回生優先とする。

(2) 9年度以前入学者の単位読み替えについて

ACE は、9年度以前開講の特修英語の単位として読み替える。

(3) クラス規模について

各科目とも25名程度を上限とする。

「ACE : TOEIC650」(前期・後期)(全学提供 1単位)

目標：企業で海外出張の対象となる基準点突破を目標とした様々な訓練を行う。データやグラフの読み取りはもちろん、リスニング、語彙の強化および文法・構文の知識の整理も行う。ドリルを数多くこなすことによって慣れを養う。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Critical Writing」(後期)(全学提供 1単位)

目標：ある問題やトピックを主体的に設定し、その問題、あるいはトピックに関する資料を検索、収集、分析、統合し、最終的に、問題提起や問題解決策の提示、新たな説の展開等という形で自らの考えを表現する力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Media English」(前期)(全学提供 1単位)

目標：現代のような情報化社会においては、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアから日々英語で配信される多量の情報を効率的に収集し、分析・活用するための能力が必要になってくる。本講座では、特に、ジャーナリスティックな英語の読解力、聴解力の強化を目的としている。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

「ACE : Discussion」(後期)(全学提供 1単位)

目標：筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める基本的なコミュニケーション能力を養成する。

評価方法：出席回数の要件を満たした学生を対象に試験・平常点で評価

第2部外国語

前期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
TOEIC 650	全	水・2	古賀
Media English	全	水・1	(Jones)

後期

科目名	クラス	曜・時限	担当者
Critical Writing	全	木・1	山崎
Discussion	全	水・1	(Jones)

新 修 外 国 語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語)

新入生諸君のほとんどは、中学、高校を通じて英語を学んで来たことと思う。そのため、外国語といえば英語と考えがちだが、もちろん外国語は英語だけではない。世界には実にさまざまな言語が存在し、それぞれの言語は、それぞれ固有の文化を生み出してきた。世界的な交流がますます活発になるにつれ、世界の諸地域の言語と文化を理解することは、いよいよ重要度を増しつつある。英語だけでは十分な国際交流、国際理解は達成できないのである。大学ではこのような観点から、広く世界への視野を開くために、さまざまな外国語の授業を開講している。

新修外国語(英語以外の外国語)を学ぶことは、新しい言語を読み、書き、聞き、話す実際的能力を身につけることを意味するが、同時に、英語とは異なった外国語の仕組みを学ぶことにより、言語そのものに対する新たな認識を得ることをも意味する。すなわち、英語に加えて新たな外国語を学ぶことで、日本語や英語を新たな視点から眺め、諸言語に共通の要素や、あるいはそれぞれの独自性を理解し、また諸言語の差異が何に由来するかということについても学ぶであろう。また、それぞれの言語には、地球上のその言語を話す地域の人々のものの見方、考え方が現れているので、各言語を学ぶことによって、その地域の人々の真の姿を理解する道も開けてくるのである。言語のこのような学習を通じて、学問に必要な知性も、自然に錬磨されていくことになるだろう。諸君は大学生となったのだから、二つ以上の外国語を修得し、言語に対するもっと能動的で自由な姿勢を養っていくべきであろう。そのことが、外国語コンプレックスから抜け出させ、ひいては英語学習にも好結果をもたらすことになるだろう。

外国語の学習は、若いときほど容易に身につくものである。将来諸君が外国に行き、あるいは外国人と接触し、あるいは外国語のテキストを読む必要にせまられてから、当該の言語を学ばなかったことを悔やんでも遅いのである。語学は、かりに目先の実用の場合もない場合も、基礎を修得しておけば、必要なときに自力での学習が可能である。大学で新修外国語を学び、知的財産を蓄え、幅の広い豊かな人間として、自らをつくりあげてを諸君に期待する。

新修外国語履修の仕方について

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語教育編成表

提供科目と提供年次の関係を図示すると、以下のようになる。

1年次前期	基礎1 Basic 1	基礎2 Basic 2
1年次後期	基礎3 Basic 3	基礎4 Basic 4
2年次以降	特修1 Specialized 1 特修2 Specialized 2	

(詳細は各学部で異なるので、所属学部の履修規定を参照すること)

§ 1. 標準的履修の場合

1. まず、1年次前期で、「基礎1」(1単位)、「基礎2」(1単位)を履修すること。
2. 原則として、「基礎1」「基礎2」を受講したのち、1年次後期で、「基礎3」「基礎4」を受講すること。
3. さらに学習したい者は、2年次以降で「特修1」(2単位)、「特修2」(2単位)を履修することができる。「特修1」「特修2」は毎年開講されるが、これは重複履修してよい。なお、「基礎」を受講したうえで不合格だった者も、「特修」を履修することができる。

§ 2. 再度履修の場合

1年次提供の「基礎1」、「基礎2」、「基礎3」、「基礎4」の不合格者は、2年次で、不合格であったのと同じ番号の「基礎」を再度履修すること。

※平成16年度以前入学学生は、17年度以降入学学生向けの科目をもって読み替える。

詳しくは、学部事務室に問い合わせること。

ドイツ語 German

学習の意義

ドイツ語は、今日、一億人以上の人々によって話され、ドイツはもとより、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインで公用語となっている。ドイツ語は、英語と同じ系統に属する言語であり、とりわけすでに英語を学んだ諸君には習得が容易である。発音はほぼローマ字読み近く、簡単な原則になじめば、短期間で正確に発音できるようになる。文の構造も英語以上に理論的であり、明快である。このような言語を学ぶことは、それ自体が新鮮な体験であると同時に、すでに学んだ英語や、ひいては日本語に対しても新たな視点をもたらす、その理解をいっそう深めてくれることであろう。

すでに東西ドイツが統一され、ヨーロッパ全体が一つに統合されつつある現在、ドイツ語は、政治・経済をはじめとするあらゆる分野で、ますます重要な役割を果たすことが予想される。従って、諸君が将来社会で幅広く活動する際に、身につけたドイツ語の能力はさまざまな局面で有効性を発揮するであろう。またドイツはこれまで、自然科学や社会科学の分野で多くの卓越した成果を生み、哲学・文学・音楽・映画など、豊かな文化を实らせてきた。相対性理論のアインシュタインやロケット工学のフォン・ブラウン、あるいは精神分析学のフロイト、ユングなど、例をあげてゆけばきりがない。ドイツ語を学ぶことは、現在も盛んなこれらの学術・文化の实相に直接触れることでもあり、これから諸君が専門課程でさまざまな分野の学問を学ぶ上で大きな刺激となることであろう。

外国語の学習は、世界に向けて新しい窓を開くことである。諸君が、ドイツ語の学習を通して、より広い視野と国際性を身につけることを願ってやまない。

目標と評価方法

「ドイツ語基礎1」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎1」では、ドイツ語を初めて学ぶ人のために、発音の基礎から始めて、ドイツ語のしくみ、単純な文の構造などを体系的に学び、ドイツ語の輪郭を知ることがめざす。ドイツ語の単文を理解し、それによる表現ができるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週:イントロダクション(ドイツ語・ドイツ語文化への導入)

第2週~第3週:ドイツ語の文字と発音

第4週~第8週:ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週~第14週:ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法:平常点(出席状況や授業中の発表など)と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎2」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:「基礎2」では、「基礎1」と平行して、ドイツ語を初めて学ぶ人のために、AV機器なども併用しながら、発音の基礎から始めて、背景となる文化をも学びながら、ドイツ語の総合的な基礎能力を身につけることをめざす。ドイツ語の輪郭と広がりを知るとともに、ドイツ語による初歩的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語入門2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画:

第1週：イントロダクション（ドイツ語・ドイツ語文化への導入）

第2週～第3週：ドイツ語の文字と発音

第4週～第8週：ドイツ語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：ドイツ語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「基礎3」では「基礎1」で学んだ内容をもとに、やや高度なドイツ語のしくみ、複合文の構造などを体系的に学び、ドイツ語の基礎をひとつと知り知ることをめざす。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：<基礎1>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：「基礎4」では、「基礎3」と平行しつつ、「基礎2」で学んだ内容をもとに、AV機器なども併用しながら、やや高度なドイツ語を、背景の文化も含めて総合的に理解するとともに、基本的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ドイツ語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：<基礎2>の既習事項の確認

第2週～第5週：ドイツ語の基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ドイツ語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：ドイツ語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

「ドイツ語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「ドイツ語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：基礎段階を履修した学生を対象に、クラスごとに特定のテーマを設定し、少人数授業によって、充実したドイツ語能力を身につけることをめざす。

評価方法：平常点（出席状況や授業中の発表など）と期末試験による総合評価を基本とする。さらに小テストや課題などを加える場合もある。詳細は各担当者が初回授業で説明する。

基礎 1 (前期)

全(火・2)海老根 剛(文)

- ・テキスト：Shuko Sato 他『Szenen 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

基礎 2 (前期)

全(木・1)寺井 俊正(文)

- ・テキスト：竹中康雄・土井ギーゼラ『開け、ゴマ — 初級ドイツ語13課』(郁文堂)

特修 1 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・1)神竹 道士(文)

授業内容：ドイツ語の初学者が最も苦勞することの一つに、ドイツ語の語順があげられます。特に、複合文における定動詞の位置について熟知することが、中級ドイツ語へステップアップするための前提条件となります。本講義では、主文と副文の定動詞の位置に特化して、ドイツ語の語順を徹底的にマスターすることを目標とします。

- ・テキスト：神竹道士『中級へのステップアップ—副文中心』(白水社)

基礎 3 (後期)

全(火・2)神竹 道士(文)

- ・テキスト：Shuko Sato 他『Szenen 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社)

基礎 4 (後期)

全(木・1)寺井 俊正(文)

- ・テキスト：竹中康雄・土井ギーゼラ『開け、ゴマ — 初級ドイツ語13課』(郁文堂)

特修 2 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・1)神竹 道士(文)

授業内容：ドイツ語の初学者が最も苦勞することの一つに、ドイツ語の語順があげられます。特に、複合文における定動詞の位置について熟知することが、中級ドイツ語へステップアップするための前提条件となります。本講義では、主文と副文の定動詞の位置に特化して、ドイツ語の語順を徹底的にマスターすることを目標とします。後期は、前期の継続として同一テキストを用いて授業を行います。

- ・テキスト：神竹道士『中級へのステップアップ—副文中心』(白水社)

フランス語 French

学習の意義

郵便、料理、オリンピック、ファッション、欧州会議、美術……。これらの分野では、伝統的にフランス語が重要なコトバであり続けてきました。もちろん、映画、文学、音楽といったジャンルでも大きな役割を果たしてきましたし、その使用範囲（フランス語圏会議参加は56ヶ国・地域）、使用人口（第1言語+第2言語使用者2億6千万人）、使用機関（国連作業語、欧州議会公用語）を加味した有用度において、英語につぐ国際語の地位を占めています。「ノルマンディー侵攻」によって250年間イングランドのことばがフランス語だったせいで、英語語彙の30%はフランス語から流入したものですし、文法にも影響を残しました。

また最近のフランスにおける「ニッポン」には、アニメや漫画、自動車、精密機器のほかに、伝統文化、ファッション、さらには文学までも進出しているのですが、フランス語を学ぶみなさんは、新たな日本文化紹介者になる可能性も持つことになるわけです。

目標と評価方法

「フランス語基礎1」（前期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎1」では、フランス語を初めて学ぶ人のために、CD や Video, DVD などを用いながら、フランス語の発音のしくみ、文の構造、背景となる文化などをトータルに示すことによって、フランス語という言語の輪郭を知るとともに、単文を理解・発信できるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎2」（前期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎2」では、「基礎1」とともに、フランス語を初めて学ぶ人むけに、CD や Video, DVD 機器などを用いながら、フランス語の基本的な文法要素、音韻要素、背景となる文化などをトータルに示すことによって、フランス語という言語の輪郭を知るとともに、初歩的なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス語入門2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：イントロダクション（フランス語・フランス語文化への導入）

第2週～第3週：フランス語の文字と発音

第4週～第8週：フランス語の基礎的な総合能力の初歩的養成

第9週～第14週：フランス語の基礎的な総合能力の発展的養成

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎3」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎3」では、「基礎1」によって学んだ内容を基とし、さらに進んだ言語のしくみを教授することによって、まとまった文章を理解・発信できるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス初級1」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：＜基礎1＞の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：フランス語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：フランス語の基礎的な文法知識の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定制 1単位）

目標：「基礎4」では、「基礎2」によって学んだ内容を基として、フランス語の時称システムや叙法などの進んだ文法事項や発音訓練を、コミュニケーションを深めた教授法により、平易なコミュニケーションがおこなえるようにする。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「フランス初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

第1週：＜基礎2＞の既習事項の確認

第2週～第5週：フランス語の基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：フランス語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：フランス語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

「フランス語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「フランス語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：「基礎」や「応用」を修得したのち、もっと学びたいという、意欲ある学生のために提供される「特修」では、年度ごと、クラスごとにそれぞれ特色ある内容が提供される。具体的には、口頭表現、長文読解、仏検準備などであり、いずれのクラスもテーマに特化した授業がおこなわれる。

評価方法：定期試験のほか、中間試験、ミニテスト、平常点（出席をふくむ）等により評価するが、授業ごとの詳細については、各担当者に確認すること。

基礎1（前期）

全（火・2）藤田 あゆみ（非常勤）

・テキスト：清岡智比古 『おいしいフランス語』（白水社）

基礎 2 (前期)

全(木・1) 白田 由樹(文)

- ・テキスト：小笠原洋子『ピエールとユゴー』(白水社)

特修 1 (前期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・1) 藤田 あゆみ(非常勤)

授業内容：【フランス食の世界】食はフランス文化の重要な一部を担い、現在フランス料理は世界文化遺産に認定されています。この授業では視聴覚教材も取り入れながら、ワインなども含むさまざまな食についてのテキストや料理のレシピなどを読みこなしていくことで、語学力を高めフランス文化についての知識を深めることを目的としています。

- ・テキスト：プリント配布

基礎 3 (後期)

全(火・2) 福島 祥行(文)

- ・テキスト：清岡智比古『おいしいフランス語』(白水社)

基礎 4 (後期)

全(木・1) 津川 廣行(文)

- ・テキスト：小笠原洋子『ピエールとユゴー』(白水社)

特修 2 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・1) 小田中 章浩(文)

授業内容：【フランス映画の世界】『太陽がいっぱい』や『海辺のポーリーヌ』といった名作映画を観て、文法、語彙、発音の面から、そこで用いられている日常的なフランス語を学習する。

- ・テキスト：プリント配布

中国語 Chinese

学習の意義

中国は全欧州の面積に匹敵する国土に、十三億を超える人口を擁している。近年、急速な経済発展をとげており、アジアの隣人として、我々の生活とも密接な関係を持つ存在となっている。中国との関係は今後ますます深まってくだろう。より良い関係を築いていくためには、お互いを知ることが不可欠だが、それにはまず言葉—中国語を学ぶことが第一歩となる。

大学で新たな外国語を学ぶことは、言葉を通してその国の文化、社会のあり方を理解し、国際的視野を広げることにつながっている。中国語を学ぶことによって、長い歴史と様々な文化を持つ中国を理解する糸口として欲しい。

目標と評価方法

「中国語基礎1」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。

ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎2」と連動して授業を進めるので注意すること。

授業内容・授業計画:

第1週:イントロダクション(中国語の特徴や背景となる中国社会・文化について簡単に説明する。)

第2週~第4週:発音の基礎練習

第5週~第14週:教科書に従って学習を進める。概ね1課を2回の授業で学習する。

評価方法:平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎2」(前期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:中国語のローマ字表記のシステムであるピンインに基づいて、正確な発音を身につけることが最大の目標である。

ことに、日本語にはない特徴である「声調」やそり舌音などについては繰り返し訓練を行う。その上で、基本的な文型に習熟し、挨拶や自己紹介など、現実の場面に対応できる表現力を養っていく。「中国語基礎1」と連動して授業を進めるので注意すること。

授業内容・授業計画:

<基礎1>と同様に授業を進める。

評価方法:平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎3」(後期)(学部別提供 クラス指定 1単位)

目標:様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎4」と連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画:

第1週:前期の復習

第2部外国語

第2週～第14週：教科書に従って学習を進める。概ね1課を2回の授業で学習する。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語基礎4」（後期）（学部別提供 クラス指定 1単位）

目標：様々な補語や助動詞、兼語文、連動文など、単文内に現れる様々な構文を体系的に把握し、基本語彙の習得とあわせて、より多くの場面に対応できる能力を養成する。「中国語基礎3」と連続した授業として同一の教科書を使用して進めていく。

授業内容・授業計画：

<基礎3>と同様に授業を進める。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

「中国語特修1」（前期）（全学提供 2単位）

「中国語特修2」（後期）（全学提供 2単位）

目標：特に意欲のある学生のために開設する科目である。「基礎1～4」での既習事項を基礎として、より複雑な構文や、多様な文体にふれ、理解を深めていく。また、ナチュラルスピードで語られる録音教材や、最近の映画なども教材として使用する予定で、より高度なコミュニケーションに適応しうる能力を養成する。また、中国社会における様々な側面、文化的背景に習熟することも目指している。

評価方法：平常点30%程度、定期試験70%程度とする。平常点は、宿題の提出、暗誦課題、発音のチェック、小テスト、授業中の発表などによる。

基礎1（前期）

全（火・2）大岩本 幸次（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上（白帝社）

基礎2（前期）

全（木・1）松浦 恒雄（文）

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上（白帝社）

特修1（前期）

全Ⅱ～Ⅳ（火・1）岩本 真理（文）

授業内容：中国語検定準4級・4級のリスニング問題、文法問題に取り組み、既習事項を確実に身につける。また、中国人へのインタビュー教材により、ナチュラルスピードの中国語に触れ、シャドウイング練習に発展させる。

・テキスト：プリント配布

基礎3 (後期)

全(火・2) 山口 久和(文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

基礎4 (後期)

全(木・1) 齋藤 茂(文)

・テキスト：清原文代・井出克子・韓艶玲・高恵敏：『一步一步学漢語』上・下（白帝社）

特修2 (後期)

全Ⅱ～Ⅳ(火・1) 張 新民(文)

授業内容：視聴覚教材を用いて、「聞く」「話す」力を高めることを目標とする。聞き取り練習、口頭作文、朗読練習を中心に授業を進める。

・テキスト：プリント配布

ロシア語 Russian

学習の意義

国内の経済格差は解消されていないが、ロシアの経済は好調である。かつての《暗い、寒い、貧しい》というロシアのイメージは完全に払拭された感がある。国章の双頭の鷲のように、今ロシアはヨーロッパだけでなく、アジア、特に極東アジアに目を向けている。村上春樹など日本の作家が読まれ、三島由紀夫の研究者ボリス・アクーニン（悪人からとったペンネーム）の推理小説が爆発の人気を呼んだのもかなり以前の話だ。長寿国日本の食生活への関心は高く、「すし屋」(?)の看板がやたらと目に付く。ペテルブルグ（大阪市の姉妹都市）に正式に日本語学校が開かれたのは1736年、日本でロシア語を教えるようになったのは1873年（明治6年）。この130年以上の開きは今も両国の関心度の差になってはいないだろうか。ロシアの魅力は何か、と問われたら、昔は、文学（ツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイ、チェーホフ、ゴーリキイなど）という答えが多かった。延々と続くロシアの白樺の林、幻想的な白夜の夕暮れ、チャイコフスキイ、ムソルグスキイ、ラフマーニノフなどの音楽、世界最高峰のロシア・バレエ、伝統的なロシア演劇、ロシア語で接すると心から打ち解けてくる素朴な人々など、ロシアの魅力は尽きない。ロシア語は国連の公用語のひとつ。世界一広い国土を有する隣国の言葉です。ロシア語を学んで、新しい世界への扉を開きましょう。ロシア民謡の一節を口ずさみながら。（雪の白樺並木、夕日が映える、走れトロイカ朗らかに、鈴の音高く）

目標と評価方法

「ロシア語基礎1」(前期) (全学提供 1単位)

「ロシア語基礎2」(前期) (全学提供 1単位)

目標：担当者は異なるが、それぞれ創意をこらした教材を用いて、週2回の授業を行う。ロシア語の文字と音に慣れ親しみ、簡単な文章が発音記号なしで読めるようにする。適宜、視聴覚教材を利用し、ロシアの文化（歌、映画など）を紹介する。この「基礎1・2」だけでは不十分なので、少なくとも「基礎3」「基礎4」まで継続することが望ましい。

授業内容・授業計画：

<基礎1>

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な文法知識と初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の発展的養成

<基礎2>

第1週：イントロダクション（ロシア語・ロシア文化への導入）

第2週～第3週：ロシア語の文字と発音

第4週～第8週：ロシア語の基礎的な実践能力の初歩的養成

第9週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の発展的養成

評価方法：出席状態など平常点、定期試験で総合的に行う。

なお、平成16（2004）年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語入門1・2」に読み替えることができる。

「ロシア語基礎3」(後期)(全学提供 1単位)

「ロシア語基礎4」(後期)(全学提供 1単位)

目標：ビデオなど視聴覚教材を活用して、やさしい日常の表現と基本的な文法事項を学習する。文化など多方面にわたるロシア事情も随時紹介していく。「基礎3」「基礎4」は、原則として「基礎1」「基礎2」と同じ担当者が授業を行う。やさしい日常の表現と、また辞書をひきこなすために最低限必要な文法事項の習得を目標におく。さらに「読む」力の養成にも重点をおき、文化の背景を理解してもらうための視聴覚教材も援用する。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「ロシア語初級1」「ロシア語初級2」に読み替えることができる。

授業内容・授業計画：

〈基礎3〉

第1週：〈基礎1〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な文法知識の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な文法知識の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な文法知識の仕上げ

〈基礎4〉

第1週：〈基礎2〉の既習事項の確認

第2週～第5週：ロシア語基礎的な実践能力の拡充

第6週～第10週：ロシア語の基礎的な実践能力の強化

第11週～第14週：ロシア語の基礎的な実践能力の仕上げ

評価方法：出席状態など平常点を加味し、定期試験で総合的に行う。

「ロシア語特修1」(前期)(全学提供 2単位)

「ロシア語特修2」(後期)(全学提供 2単位)

目標：「ロシア語基礎3」「ロシア語基礎4」のいずれかの単位を修得し、さらに学びたいという意欲ある学生を対象に会話力と読解力を中心としたロシア語運用能力の向上を計り、ロシア文化への理解を深めてもらう。

基礎1 (前期)

全I(火・2)木寺 律子(非常勤)

講義内容：キリル文字の読み方から始めて、基礎的な文法を学習する。特に、ロシア語の音読に力を注ぎ、ロシア語の基本的表現と語彙の習得を目指す。ロシアの歌や映画にも触れて、ロシアの習慣や生活の様子を取り上げ、ロシアを身近に感じてもらう。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書：中島 由美ほか『ロシア語へのパスポート』改訂版(白水社)

基礎2 (前期)

全I(木・2)角 伸明(非常勤)

講義内容：文字の読み方から始めて、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、歌を覚えたり、ビデオ教材を用いてロシア文化(アニメ、映画、歴史的建築等)の紹介も行う。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書：黒田龍之介『ロシア文法への旅』（大学書林）

特修1（前期）

全Ⅱ～Ⅳ（火・1）木寺 律子（非常勤）

講義内容：ロシア語での簡単な会話の練習を行い、平易なテキストを読むことで文法事項の復習をしながら読解力をつける。同時にロシア文化への理解を深めてもらう。

成績評価の方法：平常点（出席、授業への積極的な参加、小テスト）と定期試験で総合的に行う。

教科書：プリントを配布。

基礎3（後期）

全Ⅰ（火・2）木寺 律子（非常勤）

講義内容：前期の授業を継続し、基礎文法を学習する。習得した文法事項を活用して簡単な会話ができるように応用の機会を設け、また読解力の向上を目指す。ビデオ教材などを活用して、ロシア文化に親しんでもらう。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書：中島由美ほか『ロシア語へのパスポート』改訂版（白水社）

基礎4（後期）

全Ⅰ（木・2）角 伸明（非常勤）

講義内容：前期の教科書を継続し、基礎文法をゆっくり、楽しく学習していく。また、カードを使って日常に使用する語彙やフレーズを覚えていく。歌も唄い、ロシア文化の紹介も積極的に行う。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書：黒田龍之介『ロシア文法への旅』（大学書林）

特修2（後期）

全Ⅱ～Ⅳ（火・1）木寺 律子（非常勤）

授業内容：前期の授業を継続する。映画やアニメなどの映像資料の鑑賞を通じてロシア語を聞き取る力を伸ばし、文学作品などのより高度なテキストの読解を行う。

成績評価の方法：平常点、定期試験で総合的に行う。

教科書：プリント配布

朝鮮語 Korean

学習の意義

朝鮮語は構造や語彙の成り立ちにおいてもっとも日本語に近い言語後です。また、文化的にもともに漢文化の強い影響のもとに発展してきました。今日、政治・経済をはじめ、様々な分野の結びつきは高まる一方であり、年間三百万以上の人々が日韓を往来していることはよく知られています。このような時代において、朝鮮語の実用性とニーズは著しく高まりました。正しい相互理解は言葉から始まります。ひとり立ちできる語学力をめざしましょう。

目標と評価方法

「朝鮮語基礎1」(前期)(全学提供 1単位)

目標: ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎2」(前期)(全学提供 1単位)

目標: 「基礎1」とともに、ハングル文字の発音からはじめて、朝鮮語の基礎的な構造と活用形(連体形・連用形・過去形など)や、日常生活でよく用いられる主な語法(仮定法や比喩表現など)と語彙を習得し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、簡単な会話や構文を理解できるようにはなりますが、作文や読解までにはまだ至りません。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語入門1・2」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎3」(後期)(全学提供 1単位)

目標: 「朝鮮語基礎1」を履修した人を対象に、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解することも可能になります。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級1」に読み替えることができます。

評価方法: 定期試験と小テスト(中間試験、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語基礎4」(後期)(全学提供 1単位)

目標:「朝鮮語基礎2」を履修した人を対象に、前期で学んだ知識に加え、日常生活で頻出する主な語法(可能表現や婉曲語法など)や活用(不規則活用など)や語彙を習得し、日常会話や論説文の読解に必要な語学力の養成をめざします。

本講座をマスターすれば、比較的簡単な会話を理解することも可能になります。

なお、平成16(2004)年以前に入学した学生は、この科目をもって「朝鮮語初級2」に読み替えることができます。

評価方法:定期試験と小テスト(中間テスト、ドリルなど)、課題によって評価します。

なお、授業時の質疑応答も大きな評価要素となります。

「朝鮮語特修1」(前期)(全学提供 2単位)

「朝鮮語特修2」(後期)(全学提供 2単位)

目標:語学学習は語法や語彙を学んだだけでは不十分で、それらを活用し、自分の伝えたいことが伝わる形で発信したり、また相手のメッセージを正確に受信するトレーニングが何よりも大切です。そのために正確な発音と作文力を養成しながら、自然な表現の獲得を目指します。

評価方法:定期試験のほか、何よりも課題や授業時の積極的な発表が重視されます。

基礎1 (前期)

全I(火・1)野崎充彦(文)

授業内容:ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト:高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

基礎2 (前期)

全I(水・2)金宝英(特任)

授業内容:ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト:金喜多『パラセ韓国語初級』(朝日出版社)

基礎3 (後期)

全I(火・1)野崎充彦(文)

授業内容:ハングル文字と朝鮮語の基礎的な構造と語尾活用、また日常生活でよく用いられる主な語法と語彙を学習し、日常会話や読解に必要な語学力の養成をめざします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト:高秀賢『ミニマム韓国語』(国書刊行会)

基礎4 (後期)

全I (水・2) 金 宝英 (特任)

授業内容：前期に引き続き、朝鮮語の基本的な活用やよく用いられる語法の習熟を通じ、簡単な会話や読解・作文力を養うことを目的とします。定期テスト、小テスト、課題などにより評価します。

・テキスト：金・喜多『パラッセ韓国語初級』（朝日出版社）

特修1 (前期)

全II～IV (水・1) 金 宝英 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることが目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント使用

特修2 (後期)

全II～IV (水・1) 金 宝英 (特任)

授業内容：少人数クラスをネイティブ教員が集中的に指導することで、高い学習効果をあげることが目的としたクラスです。自分の伝えたいことを作文や会話で表現したり、また、相手のメッセージを正確に受け取る、より実践的なトレーニングを行います。受講生の希望があれば検定試験も視野に入れて授業します。定期テスト、小テスト、課題により評価します。

・テキスト：プリント使用

5. 健康・スポーツ科学科目

- 健康・スポーツ科学科目の履修について
- 実習授業時の集合場所
- シラバス

健康・スポーツ科学

Health, Exercise and Sport Sciences; HESS

学習の意義

近年の著しい物質文明の発達、我々の健康にも大きな影を落とし、かつて成人病と呼ばれた疾患が若年者にも多く見られるようになって、「生活習慣病」なる言葉すら生まれるに至った。機械化や車の普及による「運動不足」や食糧事情の好転による「肥満」が、生活習慣病の大きな原因であることは周知のことであり、その結果、健康や体力への関心は年々高まり、生涯を通しての身体運動の重要性が指摘されている。肉体的な成熟期を迎えた大学生の今、新しい時代に即した健康とスポーツの情報や科学的な身体運動の理論と実践法を学びかつ体験することによって、それらを頭と体の両方で習得することは、将来健康で豊かな文化生活を送るために必要不可欠なものである。上記の理念に基づき、当科目では、1) 健康・スポーツ科学論 2) 健康・スポーツ科学実習 を通して、疾病の予防、健康・体力の維持・増進に関する知識と実践法を習得し、生涯を通して、スポーツや身体運動に親しむ習慣を獲得することを目的としている。

○ 健康・スポーツ科学科目の履修について

- (1) 健康・スポーツ科学科目の履修については、原則として所属学部の指定に従って履修することが望ましい。
- (2) 健康・スポーツ科学科目の単位は、1・2年次の間に修得することが望ましい。
- (3) 健康・スポーツ科学論（以下「講義」という）の開講計画の説明は、第1週時の講義授業時に行う。
- (4) 健康・スポーツ科学実習（以下「実習」という）は、原則として自由に選択することができるが、各実習とも定員があるため、各人の希望する実習を履修できない場合がある。
- (5) 実習の内容の説明および人員編成は、第1週時の実習ガイダンスにて行う。
- (6) 実習は、半期に2単位を修得することはできない。
- (7) 同じ実習は、原則として履修することができない。
- (8) 実習1は初心者（ビギナー）向けの内容であり、実習2は経験者（アドバンス）向けの内容である。
- (9) 実習を履修しようとする者は、本学が実施する健康診断を受けなければならない。
- (10) 健康上の事由により、実習の履修が困難と認められる者については、前後期水曜日の5時限に「健康管理実習」を、開講している。
- (11) 健康上の理由により、学期途中で実施を履修できなくなった者は、担当教員の指示をうけなければならない。特に、1ヶ月以上にわたる場合は、医師の診断書を提出し、担当教員の指示をうけなければならない。
- (12) 特別な事由により、学期途中で履修した実習を変更する場合（健康管理実習への変更等）は、新・旧担当教員の承認を得た上、実習変更届を所属学部の事務室に提出しなければならない。
- (13) 実習は、全開講数の3/4以上の出席がなければ、単位を修得することができない場合がある。
- (14) 履修する担当教員へ提出する「実習選択カード」は、都市健康・スポーツ研究センターが提供したカードでなければならない。
- (15) その他詳細については、第1週時に行う実習ガイダンスにおいて説明するので、必ず出席しなければならない。その日時・場所については、別途掲示する。

注意事項

- 1) 健康・スポーツ科学実習では、必ず運動靴および運動着（水泳は水着）に更衣すること。
- 2) 体育館、卓球場における実習は、すべて上履き専用の運動靴を使用すること。
- 3) テニス実習を履修する者は、必ずテニスシューズを使用すること。
- 4) 実習中における各自の貴重品の取り扱いについては、盗難予防のため、担当教員の指示に従うこと。
- 5) 前期実習の場合は、実習によっては実習期間中に短期間の水泳を実施することがある。ただし何らかの事由により、水泳を受けることが不可能な者は、5月末日までに担当教員に届け出ること。
- 6) 健康・スポーツ科学科目についての連絡事項（教室変更、休講等）は、第一体育館横の「都市健康・スポーツ研究センター掲示板」に掲示するので、見落とさないよう注意すること。

[健康・スポーツ科学講義]

Health, Exercise and Sport Science throughout Life

健康運動科学 2単位

Exercise Science for Health

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	宮側 敏明

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側 敏明

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・2	宮側 敏明

科目の主題と目標

健康を「健康度」として捉えることは、病気との共存を考慮に入れた新しい健康観と言える。すなわち、主観的な個人の生き方を肯定し、自分のやりたいことが自分の許容範囲でできれば、健康であるといえよう。本講義においては、運動・栄養・休養の健康維持・増進に果たす効用と役割について、科学的根拠に基づき、やさしく解説しながら、QOL：クオリティ・オブ・ライフ（：生活の質）を重視した新しい健康観を教授する。

授業内容・授業計画

【授業内容】 ストレス社会における現代人にとっての健康問題を身近な問題を取り上げながら解説する。また、生活習慣病の予防や運動処方について解説する。健康は貯金できることを理解させ、青年期における健康づくりについて解説する。

【授業計画】 1. ヒトの進化、適応能、寿命、2. 健康のとらえ方と生活習慣病（メタボリックシンドローム）、3. 肥満の成因とその予防、4. 運動処方、5. 運動と体温調節、6. 筋肉の種類と筋収縮メカニズムおよび筋トレーニング、7. 骨粗鬆症の発症要因とその予防

評価方法

試験、コミュニケーションカード内容、出席状況。

コメント

授業は、普段不思議に思っていることや誤解していることを図解を多く取り入れ、楽しく解説する。

教材

1. 朝山正己 他編：「イラスト運動生理学」（東京教学社）
2. 配布資料

健康運動科学 2単位

Exercise Science for Health

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・3	岡崎 和伸

科目の主題と目標

‘健康’とは何か？を考え、我々の暮らす現代社会における健康問題の背景・原因を理解し、生涯に渡って自身の健康を維持・増進するために必要な科学的知識を習得し、充実した社会生活を営むための下地を養う科目である。特に、実生活で経験する、年齢、生活環境、食生活などによって起こる‘からだ’の変化、運動に対する‘からだ’の反応、さらに、運動トレーニングに対する‘からだ’の適応変化を科学的に理解することを目標とする。講義内容に沿った簡単な調査、測定、実験などを実施し、理解を深めながら展開する。

授業内容・授業計画

1. 健康とは？、2. 現代社会と健康問題、3. 年齢と健康問題、4～5. メタボリックシンドロームと生活

習慣病、6～7. 運動に対する身体の反応、8～9. 運動トレーニングに対する身体の変化、10～11. 環境と健康、12～13. 食生活・栄養と健康、14. まとめ

評価方法

期末試験の成績、レポート内容、課題提出および出席状況から評価する。

受講生へのコメント

自身の健康や‘からだ’に関する講義であり、誰でも興味を持って受講できます。毎回、簡単な課題や調査、計測などを行います。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて参考資料を配付する。

体力トレーニング科学 2単位

Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	河端 隆志

授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためには、直立二足歩行動物であるヒトの動作における解剖学的構造と運動時の生理学的機能を「知る」ことが重要である。そして、こうした知識を基にスポーツ動作を「観る」ことは、少なからず、スポーツを楽しむレベルの向上へと導くものである。本講義では、スポーツパフォーマンスの改善を目標とするトレーニングの有効性について、基本的なスポーツ動作を「二軸動作」という新たな視点から解析するとともに、環境や運動ストレスに対する生理学的な適応能の仕組みを解説し、運動に対する制限因子(Limiting Factor)についての知識を習得し、実践力を養うことを目標とするものである。

スポーツ実践科学 2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	荻田 亮

科目の主題と目標

我々人間にとって、スポーツは豊かな生活を営むために行う身体活動であり、生きがいであり、文化であるといえる。近年、慢性運動不足が社会問題になってからスポーツ活動は単に楽しみとして実施するだけでなく、体力の保持・向上と健康の維持・増進の手段として実施されるようになった。我々の身体は動かさないと生理機能が退化し人間本来の身体特性や生活意欲が薄れていくが、過度に使いすぎると身体の諸機能に障害を引き起こす結果となってしまふ。生涯にわたって豊かな生活を営むためには、身体の諸機能についての理解や、目的に応じた効果的な運動についての理解を深めることが必要である。

この講義では運動に対する身体適応や、目的に応じた効果的な運動方法、さらには生活の中でのスポーツ実践方法を習得させることを目標とし、生涯を通じて豊かな生活を営むためのスポーツ知識について教授する。

授業内容・授業計画

1. スポーツの概念

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・4	河端 隆志

講義の構成：

1. 直立二足歩行の解剖学的特徴、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 一流スポーツ選手は二軸動作Ⅰ、4. 一流スポーツ選手は二軸動作Ⅱ、5. 二軸動作を生み出すトレーニングⅠ、6. 二軸動作を生み出すトレーニングⅡ、7. 直立二足歩行の生理学的特徴、8. 運動と筋肉、9. 運動と循環、10. 運動と体温調節、11. 運動適応と環境適応、12. 一流選手の生理学的特徴、13. トレーニングの生理学的効果；骨格筋系トレーニング、14. トレーニングの生理学的効果；循環系トレーニング

評価方法

定期試験と小テストの結果から評価する

教材

必要に応じて参考資料を配布する

2. スポーツの意義
3. スポーツと健康
4. スポーツと体力
5. スポーツと身体の仕組み
6. スポーツと身体の適応
7. 発育発達とスポーツ
8. 加齢・老化とスポーツ
9. スポーツ障害と予防
10. 環境の変化と身体の適応
11. 健康と運動処方
12. スポーツ特性とトレーニング
13. ダイエットとスポーツ
14. スポーツと生活

評価方法

試験、小テスト、レポート、出席状況から総合的に評価する。

教材

OHP やビデオを使用する。必要に応じて、資料の配布等を行う。

スポーツ実践科学 2単位

Kinematic and Practical Science for Sports

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・4	渡辺 一志

科目の主題と目標

現代社会におけるスポーツは、目的が多様化し、実践する人の目的に応じたパフォーマンスの向上や運動の成果を実感するための科学的な理論と実践の方法を理解することが重要である。この講義では、生涯を通じてスポーツを楽しむ、より健康で活動的な生活を創造するための最新のスポーツ科学について教授する。

授業内容・授業計画

- ・現代社会とスポーツ（1）
現代社会におけるスポーツの本質と役割
スポーツ科学について
- ・スポーツと健康・体力について（2）
健康と体力のとらえ方
身体組成、肥満
- ・スポーツと体力（4～5）
筋の構造と特徴
骨格筋の形態や機能に及ぼす影響
エネルギー代謝

- ・スポーツとコンディショニング（6～7）
ストレッチ、ウォームアップ、クールダウン、アイシング
熱中症とスポーツにおける水分補給
- ・スポーツとトレーニング（8～13）
トレーニングの原理・原則
体力要素（筋力、スピード、パワー、筋持久力、全身持久力、調整力、柔軟性）とそのトレーニング法
運動と生活習慣病
- ・運動と骨（14）
- ・スポーツと栄養（15）

評価方法

試験、レポート、小テスト、出席状況により評価する。

受講生へのコメント

講義を通じて、身近な疑問や課題を解決して下さい。

教材

必要に応じて資料の配付や文献の紹介を行う。

[健康・スポーツ科学実習] Practise Courses

〈実験実習〉 Experimental Education for HESS

健康運動科学実験実習 1 1単位

Experimental Education for HESS(Exercise Science for Health 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・4	宮側 敏明

科目の主題と目標

自然科学の諸概念は、実験や観察に基づいて得られたものである。実験実習を通じて、はじめて教科書や講義の内容がよく理解できるといっても過言ではない。本実験実習では人体を対象として、運動中の生理現象を詳細に記録や観察をし、また、それらのデータについての深い分析や疑義を深めることによって、実習の生理学的意義を考察する。さらに、なかには複雑な機械を用いた実習もあるので、実験装置の原理や取り扱いについての留意点を理解できるようにする。そして、実習成果の発表をおこない、さらに、それらの内容に関するレポートを完成させる。

授業内容・授業計画

【授業内容】 実習課題に取り組む前に、課題内容の説明をそのつど詳しくおこない、目的と実習内容を十分理解させる。実習にあたっては、グループ毎に取り組み、グループ内でのデータ検討を十分にさせる。実習課題別にグループによる自由課題についても実施させる。授業の最終日には、実習成果発表会を設定し、グループ毎にプレゼンテーションを行い、個人レポート作成の一助とする。

【授業計画】 1. 研究と実験の意義についての解説とレポートのまとめ方、2. ヒトの姿勢変化に伴う心拍数、血圧の測定、3. 身体計測と体脂肪および筋肉量測定、4. 自転車エルゴメータ運動時のエネルギー代謝、心拍数、血圧測定、5. トレッドミル歩行運動時のエネルギー

代謝、心拍数、血圧測定、6. 実習グループ別の実習結果プレゼンテーションと質疑応答

評価方法

実習レポート、出席状況、履修態度などによって、総合的に評価する。

受講生へのコメント

自分の体型やからだのメカニズムを客観的に知（識）ることができる楽しい実習である。

教材

測定項目に関する参考資料を配布する。

健康運動科学実験実習 1 1単位

Experimental Education for HESS(Exercise Science for Health 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	EJ I (全文)	木・1	岡崎 和伸

科目の主題と目標

本実習は、健康や‘からだ’の組成、機能、および、能力を科学的に測定・評価することを通して、生涯に渡って自身の健康を維持・増進するために必要な科学的知識を習得するとともに、自己を客観的に捉える目を養う科目である。自身を実験対象として、実生活や運動中に起こる身体の生理反応を測定・解析し、そのデータをもとに身体の生理反応のメカニズムおよび意義を理解することを目標とする。数題の実習テーマを設け、そのテーマごとに目的および内容の詳説、実験準備、実施、データ解析を行い、ショートレポートを作成する。最終的に、グループごとに自由課題に取り組み、グループディスカッションおよび研究成果の発表を実施する。また、それに関する個人レポートを作成する。

授業内容・授業計画

1～2. 身体組成の計測・評価、3. 生活・運動習慣

の計測・評価、4. 動脈の硬さの測定、5～6. 生活活動と循環応答（心拍数・血圧）、7～8. 生活活動と呼吸応答、9～10. 運動時の呼吸循環応答（心拍数・血圧・エネルギー代謝）、11～13. グループ自由課題の計画・実施、14. データディスカッションと研究成果発表

評価方法

研究発表およびレポート内容、課題提出および出席状況から評価する。

受講生へのコメント

本実習は、講義「健康運動科学」の内容を踏まえて展開するため、「健康運動科学」を受講した学生が望ましい。本実習を通して、講義内容がさらに深く理解できます。主体的に取り組める学生の受講を期待します。

教材

必要に応じて参考資料を配付する。

体力トレーニング科学実験実習 1 1単位

Experimental Education for HESS

(Physiological Factors for Human Performance and Training Prescription 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	ST I (全理)	木・2	河端 隆志

授業内容

本実習は、講義「体力トレーニング科学論」と対を成すものである。ここでは、スポーツパフォーマンスの改善を目標とするトレーニングの有効性について、基本的なスポーツ動作を「二軸動作」という新たな視点での解析や、環境・運動ストレスに対する生理学的な適応能の仕組みを実験的に体験し、運動に対する制限因子（Limiting Factor）についての知識を習得し、実践力を養うことを目標とするものである。

実習の構成：1. 直立二足歩行の解剖学的特徴、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 一流スポーツ選手は二軸動作、4. 二軸動作を生み出すトレーニングⅠ、5. 二軸

動作を生み出すトレーニングⅡ、6. 二軸動作を生み出すトレーニングⅢ、7. 直立二足歩行の生理学的特徴、8. 高温環境と脱水、9. 運動と水分摂取Ⅰ、10. 運動と水分摂取Ⅱ、11. 運動適応と環境適応、12. トレーニングの生理学的効果：骨格筋系トレーニング、13. トレーニングの生理学的効果：循環系トレーニング、14. 実験成果の発表

評価方法

実験結果のまとめ方と発表、出席状況より評価する。

教材

必要に応じて参考資料を配付する。

スポーツ実践科学実験実習 1

1 単位

Experimental Education for HESS
(Kinematic and Practical Science for Sports 1)

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	STI (全理)	木・2	渡辺 一志

科目の主題と目標

運動の発現や運動に伴う身体諸機能の応答、さらにはスポーツスキルを実験によって客観的に捉え評価することによって、運動やスポーツの仕組みを科学的に理解することを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・ガイダンス (1)
- ・運動・スポーツと体力 (形態) (2～3)
形態と身体組成測定の意味と方法および測定原理
- ・運動・スポーツと体力 (スピード・パワー) (4～6)
スポーツと反応時間 (姿勢と反応時間)
スポーツとパワー (筋パワー、自転車駆動および垂直跳におけるパワー)
- ・運動・スポーツと呼吸循環応答 (7～11)

運動中の心拍数と血圧の変化と調節
運動時の酸素摂取量

- ・運動・スポーツと筋の活動 (12～14)
筋の活動と筋電図
生体信号処理の方法と解析
- ・班別発表・総括 (15)

評価方法

レポート、出席状況により評価する。

受講生へのコメント

積極的に参加し、運動・スポーツに関する科学的理解を楽しく深めましょう。

教材

必要に応じて資料の配付や文献の紹介を行う。

〈スポーツ実習〉

Practise - Field Work for HESS

バスケットボール 1

1 単位

Basketball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	荻田 亮
	全	火・4	荻田 亮
	全	水・2	荻田 亮
	STI (全理)	木・2	荻田 亮

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	EJI (全文)	木・1	荻田 亮
	STI (全理)	木・2	荻田 亮

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	荻田 亮

科目の主題と目標

バスケットボールは、楽しさや爽やかな気持ちをもたらすと同時に、相当な運動量と判断力や調整力といった運動能力が必要とされるスポーツである。個人技術の習得には、走・跳・投など多種多様な動きが必要とされるため、オールラウンドな身体づくりが期待出来る。

この実習では、安全に、楽しくスポーツを実践するための基礎的知識を深めながら、バスケットボールの技術を習得すると同時に、スポーツを実践する総合的な行為能力を育成する。さらに、バスケットボールを通して、

健康で豊かに生活するために必要な運動についての知識と技能、ならびに態度を養うことを目標とする。

授業内容・授業計画

1. 競技特性と安全性
2. ウォーミングアップとストレッチ
3. 基本姿勢と身体調整
4. 身体の仕組みと動きの分析
5. シュート技術の分析と実践
6. パス技術の分析と実践
7. ドリブル技術の分析と実践

8. 個人技術の応用（1 on 1）
9. 個人的対峙の理解と実践
10. 集団の理解と実践（2 on 1）
11. 状況の認識と判断
12. 集団的対峙の理解と実践
13. ゲーム運営と審判法
14. ゲームの実践

評価方法

バスケットボールの基礎的技術、スポーツ実践に対する基礎的知識について実技試験・レポートを実施し評価する。

教材

特になし。

バスケットボール 2 1単位

Basketball 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJI (全文)	木・1	荻田 亮

科目の主題と目標

バスケットボールは、協同や連携、集団的な安全行動のための規則、技術的な協調、責任の分担などに対する理解が培われる集団スポーツである。また、組織的な戦術・戦略を通して独創性や自制心、自己表現についての知識が高められる競技種目である。

この実習では、バスケットボールという集団スポーツを通して、あらゆるスポーツに対する観方、楽しみ方、そして自主的に活動へ参加する姿勢と態度を育成する。さらに、生活文化としてスポーツを理解し、生涯にわたりスポーツを実践するための知識を高めることを目標とする。

授業内容・授業計画

1. 集団的な安全行動と規則
2. 集団プレーの原理と原則
3. 集団プレーの分類
4. 集団的対峙の理解と実践

5. 動きの連携と協同
6. 個人の役割と責任分担
7. 空間の認識と先取り
8. 動きの認識と先取り
9. 集団技術の基礎（2 on 1、2 on 2）
10. 集団技術の応用と実践（3 on 2、3 on 3）
11. ゲームの運営と審判法
12. 戦術行動の基礎と応用
13. 技術の指導法
14. ゲームの実践

評価方法

バスケットボールの個人・集団技術、集団スポーツに対する基礎的知識について実技試験・レポートを実施し評価する。

教材

特になし。

バレーボール 1 1単位

Volleyball 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	中嶋 紀子
	全	火・4	中嶋 紀子

科目の主題と目標

日常生活に役立つ正しい身体活動をバレーボール競技の実践を通して習得する。

授業内容

- ①バレーボール競技中や準備段階に起きる傷害例とその予防について説明。
- ②スポーツの基本は「動き」と考える。その正しい、効果的な方法を実践する。
- ③基本技術の習得

やさしい技術から難しい技術へ。結合練習から複合練習へ。

10週間で実施。

- ④コート3面で6チーム編成（各チーム8名、計48名以内）による総当たりリーグ戦5週で終了。

評価方法

出席率及び自己やチームが15回の実習でどのような取り組み方や、技術、体力その他について努力したか、その結果向上したかどうかにより評価する。

バレーボール 2 1 単位

Volleyball 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI(全文)	火・3	中嶋 紀子
	全	火・4	中嶋 紀子

科目の主題と目標

基礎的な技術にゲーム展開に必要な種々な技術を習得する。

またバレーボールのフォーメーションを理解しポジションの固定、更にはコンビバレーを取り入れたゲームの展開を図る。

授業内容・授業計画

1. 基礎技術の確認

パス (オーバー・アンダーパス)
レシーブ(スパイクレシーブ・サーブレシーブ)
スパイク (オープン・平行・クイック)
ブロック

2. 連携練習

パス・トス・スパイク

パス・トス・スパイク・ブロックカバー

レシーブ・トス・スパイク

レシーブ・トス・スパイク・ブロックカバー

3. 総合技術の練習

フォーメーションプレー

サーブレシーブフォーメーション

アタックフォーメーション

ブロックカバーフォーメーション

攻防の実践的練習 (チャンスボール・サーブレシーブから乱打練習)

4. ゲーム展開

評価方法

出席状況、積極性、協調性、などを総合的に評価する。

サッカー 1 1 単位

Association Football (Soccer) 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI(全文)	火・3	河端 隆志
	全	火・4	河端 隆志

授業内容

スポーツの楽しみ方は、まず「経験」をすることである。良い経験とするためにはスポーツを「知る」こと、そして「観る」能力を養うことが大切である。本実習では、「サッカー」という世界的にポピュラーなスポーツを通して、「二軸動作」からみたスポーツ動作の基礎を体験するとともに、集団でのコミュニケーション、キャプテンシーおよび協調性の重要性についての能力を養うことを目的とする。また、チームを編成し、毎回試合形式のゲームを行い、チームの問題点を定義し、チーム内で改善していくものとする(M-T-M method; match-training-match)。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでコーディネートしていく。

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. システム、10. ゲーム分析、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する。

教科書

必要に応じて参考資料を配布する。

サッカー 1 1 単位

Association Football (Soccer) 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJI (全文)	木・1	鈴木崇士(非常勤)
	STI (全理)	木・2	鈴木崇士(非常勤)

科目の主題と目標

サッカーは世界中で愛されているスポーツであり、最も競技人口が多い。国内のみならず海外の試合が、連日メディアを通じて触れることができる。これらをより楽しむためには、まず「経験」し、サッカーをより良く「知る」ことが大切である。そして「観る」能力を養うことが大切である。また、サッカーにはスポーツの要素のみならず、様々な要素が含まれている。

本実習では、ボールを足で「とめる」「蹴る」「運ぶ」といった基本的動作から、フィールドでの動き方を習得すると同時に、ゲームを通じて、集団でのコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性についての能力を養うことを目的とする。実際にチームを編成し、試合形式のゲームを行い、チームでゲーム内容について協議し、改善していくものとする。総合ゲームでは、キャプテンを中心にウォーミングアップからゲームまでコーディネートしていく。

授業内容・授業計画

オリエンテーション、競技特性について。

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	EJI (全文)	火・3	葛和修治(非常勤)
	全	火・4	葛和修治(非常勤)
	EJI (全文)	木・1	鈴木崇士(非常勤)
	STI (全理)	木・2	鈴木崇士(非常勤)

ウォーミングアップとストレッチ

キック動作

ボールコントロール

シュート技術

ミニゲーム

ルール、審判法

システム、戦術

応用テクニック

ゲーム分析

総合ゲーム

総合ゲーム

総合ゲーム

総合ゲーム

評価方法

積極性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力、出席状況などを総合的に評価する。

教科書

必要に応じて参考資料の配布や文献の紹介をおこなう。

アーチェリー 1 1 単位

Archery 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	渡辺 一志
	全	火・4	渡辺 一志
	EJI (全文)	木・1	渡辺 一志
	STI (全理)	木・2	渡辺 一志

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・2	渡辺 一志

科目の主題と目標

アーチェリーというスポーツ文化に接し理解を深め、その基本的技術を習得すること。また、生涯スポーツの観点から、スポーツ実践におけるコンディショニング、種々のトレーニング方法について理解することを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・アーチェリーの歴史と競技の概要 (1)
- ・弓具とその取り扱いについて (2~4)
- ・基本技術の習得とシューティング (2~14)
- ・フォームの形成・素引き (2~3)
- ・近射 (4~5)
- ・射距離の延長とサイトの調節 (5~8)
- ・スコアリングと個々の技術向上 (9~14)

- ・コンディショニングおよびトレーニング（2～9）
- ・知識の復習と総括（15）

評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断する。
受講生へのコメント

アーチェリー 2 1単位

Archery 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI（全文）	火・3	渡辺 一志

科目の主題と目標

基礎的な技術をふまえて、アーチェリーの競技についての理解、技術の習得、弓具の使用などを発展させた実習である。より高い技術と競技全般に渡る知識の習得と併せてスポーツ技術を分析する科学的な方法を理解することを目標とする。

授業内容・授業計画

- ・アーチェリー競技の概要とルール（1）
- ・フォームとシューティング技術の発展（2～8）
- ・視覚情報（ビデオなど）の活用
- ・画像分析によるフォームの解析
- ・重心動揺や筋活動などの理解
- ・弓具の発展と取り扱いについて
- ・シューティング距離の延長と競技の体験（9～14）

積極的に参加し、アーチェリーの楽しさ、奥深さを体験するとともに、生涯スポーツへの意識を高めて下さい。

教材

必要に応じて資料の配付、ビデオの視聴を行う。

- ・30メートル（80cm的）のシューティング
- ・18メートル（インドア40cm的）のシューティング
- ・アーカスロン
- ・コンパウンドアーチェリー
- ・復習と総括（15）

評価方法

知識、技術の習得状況、出席状況など総合的に判断する。

受講生へのコメント

アーチェリー1の受講者または経験者が対象です。
より深くアーチェリーの醍醐味を味わって下さい。

教材

必要に応じて資料の配付、実験を行う。

ソフトボール 1 1単位

Softoboll

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	EJ I（全文）	木・1	宮側 敏明

科目の主題と目標

ソフトボールは、アメリカのシカゴで1887年に生まれ、日本には、1921年に初めて紹介されたスポーツである。ソフトボールは、野球に比べてボールが大きく、重く、バットは細く軽いので、比較的狭い場所でも、年齢、性別に関係なく、誰でも気軽にできる特徴を持ち、多くの人々を熱中させている。本実習では、ファースト・ピッチを中心に、ピッチング、バッティング、フィールディング、ベースランニングなどの基本をしっかりと獲得させると共に、ルールの説明をおこない、ゲームの楽しみ方を教授する。

授業内容・授業計画

【授業内容】安全に授業を進めるために、ウォームアップの仕方とキャッチング技能の向上から導入する。次いで、その他の基本的技能を科学的根拠に基づき説明しながら十分に理解させ、習得させる。基本的技能を習得し

たのち、ゲームに必要な応用プレイについて習得させる。最終的に、ゲームを中心として展開する。

- 【授業計画】 1. ウォームアップとウォームダウン、2. ソフトボール施設および用具とルールの説明、3. キャッチボール、4. ゴロの補球、5. スローイング、6. ピッチングとキャッチャー補給、7. バッティング、6. 各ポジションの守備、7. ゲーム

評価方法

出席状況、履修態度、技能修得度などからの総合評価
技能、履修態度、出席状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

基本的な技能獲得ことから進めるので、初心者はもちろん経験者も楽しく受講できる。

教材

配布資料

ソフトボール 1 1単位

Sohutoboll

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	岡崎 和伸

授業内容

ソフトボール(野球型スポーツ)未経験者や初心者が、ソフトボールに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてソフトボールを楽しむことが出来る下地を養う科目である。各種ミニゲームを楽しみながら、ボールを投げる、捕る、打つ、というソフトボールの基礎的な個人技能・技術の習得を目標とする。さらに、ソフトボールの戦術やルールだけでなく、マナーやチームプレーなどを理解し、仲間とのコミュニケーションを深めながら、競技性よりもゲーム性やスポーツの楽しみ方を学ぶことを目標とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】 毎回、各種ミニゲームを行いながら、ソフトボールの基礎技術・技能(投球、捕球、打球)を段階的に習得していく。中期からは各ポジションの守備特性、ピッチングなどのソフトボール特有の技術・技能の習得に取り組む。終盤はスローピッチルールでのゲームを実施しながらソフトボールの楽しさ、戦術、ルール、マナー、審判法、チームプレーなどを学習する。最終的には、チームを編成し、実際のルールに従ったゲームを楽しみながら理解を深める。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチ、ティーボールゲーム、2. キャッチボール(ボールの握り方、クラブの使い方、送球と捕球)、ティーボールゲーム、3. ゴロ捕球、バッティング(バットの握り方、構え方、打ち方)、ティーバッティング、4. フライ捕球、トスバッティング、5. 各ポジションの体験、ポジション別の守備特性、フリーバッティング、6. ピッチング(ウインドミル投法)①、7. ピッチング(ウインドミル投法)②、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ゲーム(スローピッチ)、ルール、審判法、10. ゲーム(スローピッチ)、戦術、11~14. ゲームの実践

評価方法

出席状況、授業への取り組み、技能修得度などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

受講に際して、ソフトボール(野球型スポーツ)の経験の有無、ボールを投げたり打ったりする能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

テニス 1 1単位

Tennis 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	宮側 敏明
	全	火・4	宮側 敏明

科目の主題と目標

テニスは、幅が広くしかも奥行きが深いスポーツである。また、どのような人でもそれぞれに楽しさを味わうことができ、上手になるにつれて、そのつど新しさに満ちた世界が開けてくるスポーツでもある。テニスの基本とは、「なぜそうしなければならないか?」という「考え方」が重要であり、また、それぞれのプレーの身体的、精神的特徴について理解することも重要である。本実習は、テニスの基本的な構えや技術の習得、そしてルールの説明をおこない、ゲーム展開を通してテニスの楽しさを教授する。

授業内容・授業計画

【授業内容】 初めてテニスを体験する人のために、初歩から段階的に進めていく。授業中はなるべくラケットやボールに触れる時間を多くとり入れ、ラケットが自分の体の一部とを感じるようにする。基礎的技能をマスター

したのち、ルールに従い、ゲームを楽しむ。

【授業計画】 1. ルールおよびラケットグリップの説明とボール遊び、2. ミニゲーム、3. テニスの構え、フットワーク、ラケットスイングの説明、4. フォアハンドストロークとバックハンドストロークの基本、5. グランドストローク、ボレーとスマッシュの基本、6. サービスとレシーブの基本、7. ラリー、ゲームの基本、8. ダブルスゲーム

評価方法

技能、履修態度、出席状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

初心者を対象としているので、はじめてラケットを握る人でも安心して履修できる。雨天時には、ビデオ観賞など。

教材

資料配布。

テニス 1 1単位

Tennis 1

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
前	EJI (全文)	木・1	松原 慶子 (非常勤)
	STI (全理)	木・2	松原 慶子 (非常勤)
	全	木・3	松原 慶子 (非常勤)
	全	木・4	松原 慶子 (非常勤)

科目の主題と目標

テニスの基礎技術およびルールや審判法の習得を主な目的とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】 テニスは、老若男女を問わず、生涯スポーツとしても人気のある種目である。本授業では、初心者を対象にテニスの基礎技術の習得、そしてルールや審判法の理解を深めテニスの特性を理解する。雨天時については、教室でテニスの運動特性やルール、審判法についての講義、または体育館を使用し行う。

【授業計画】

1. オリエンテーション 授業計画の説明、テニスの基礎知識
2. ラケットティング、グリップ、グラウンドストローク (フォアハンド)
3. グラウンドストローク (フォアハンド・バックハンド)

4. フォームのチェック、ラリー練習、サーブの導入
5. サービスとリターン、ラリー練習
6. ネットプレー (ボレー)
7. テニスのゲーム (ダブルス、シングルス) 戦術論 (講義)
8. ダブルスのゲーム
9. ネットプレー (オーバーヘッドスマッシュ)、ロブ
10. シングルのゲーム
11. トータル練習 (各技術の再確認)
- 12~14. トーナメントまたはリーグ戦

評価方法

技能、履修態度、出席状況から総合的に評価する。

受講生へのコメント

テニスシューズを用意すること。

教 材

必要に応じ資料配布。

テニス 2 1単位

Tennis 2

〈第1部〉

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	EJI (全文)	木・1	松原 慶子 (非常勤)
	STI (全理)	木・2	松原 慶子 (非常勤)

科目の主題と目標

テニスのゲームにおいて、個人の能力が遺憾無く発揮され駆け引きを楽しむことができるか。技術面、体力面、メンタル面の向上を図る。

授業内容・授業計画

【授業内容】 本授業では、テニス経験者 (テニス1で、基本的技術を習得済みの者も含む) および熟練者を対象とし、より実践的な内容を展開する。基本技術 (5つのストローク) の安定性を高め、そしてより高度な技術の習得とゲームに関連させた実践的な練習を取り入れゲームレベルの向上を図る。雨天時は、テニスの科学や戦術についての講義、または体育館を使用し行う。

【授業計画】

1. テニスの特性、各技術の確認

期	ク ラ ス	曜日・時限	担 当 者
後	全	木・3	松原 慶子 (非常勤)
	全	木・4	松原 慶子 (非常勤)

2. テニスのコーディネーション (トレーニング)、ミニラリー、ラリー練習
3. ボディコントロールとボールコントロール、球種
4. サービスとリターン
5. ネットプレー
6. 応用技術
7. 総合練習、タイブレーク方式
8. テニスの科学 (バイオメカニクスの観点や用具について) 講義
9. 各自の技術の評価と矯正
10. ダブルス (フォーメーション)
11. 戦術について (トップアスリートの映像から学ぶ) 講義
12. シングルのゲーム
- 13~14. トーナメントまたはリーグ戦

評価方法

技能、履修態度、出席状況から総合的に評価する。
受講生へのコメント

テニスシューズを用意すること。

教材

必要に応じ資料配布する。

フットサル 1 1単位

Futsal 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	河端 隆志
	全	火・4	河端 隆志

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・2	河端 隆志

科目の主題と目標

フットサルは、近年日本においても盛んに行われている室内で行うサッカーである。特徴としては、少ない人数で、弾みの少ないボールを用いて行う。本実習では、運動動作について「二軸動作」という新たな視点から着目し、フットサルを通して、有効な身体動作についての知識を習得するとともに実践する能力を養うこと、さらには集団競技である利点を活かし、集団における個々のコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性を身に付けることを目的とする。

授業内容・授業計画

実習の構成：1. ウォーミングアップ；ブラジル体操

と二軸動作、2. 二軸動作と中心軸動作、3. 走り方と二軸動作、4. キックと二軸動作Ⅰ、5. キックと二軸動作Ⅱ、6. ヘディングと二軸動作、7. 方向転換と二軸動作、8. シュートとは、9. ボールテクニック、10. ボールテクニック、11. 総合ゲーム、12. 総合ゲーム、13. 総合ゲーム、14. 総合ゲーム

評価方法

自主性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力および出席状況の結果から評価する。

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

フットサル 1 1単位

Futsal 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	CLI (全文)	火・3	葛和修治 (非常勤)
	全	火・4	葛和修治 (非常勤)
	全	木・3	鈴木崇士 (非常勤)
	全	木・4	鈴木崇士 (非常勤)

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	木・3	鈴木崇士 (非常勤)
	全	木・4	鈴木崇士 (非常勤)

科目の主題と目標

フットサルは、サッカーの4分の1ぐらいの大きさのコートで、5対5でプレーするサッカーに似たスポーツです。また、経験・年齢・性別を問わない競技性も人気であり手軽なスポーツとして受け入れられています。

本実習では、フットサルに必要な動作やテクニックの習得を中心に、フットサルの楽しさに触れ、生涯スポーツとしてのフットサルを実践する上で必要な知識と技術を身に付けることを目的とする。また、チームスポーツを通じて、集団における個々のコミュニケーション力、キャプテンシーおよび協調性を身に付けることを目的と

する。

授業内容・授業計画

オリエンテーション、競技特性について。

ウォーミングアップとストレッチ

キック動作

ボールコントロール

シュート技術

基本テクニック

ルール、審判法

システム、戦術

応用テクニック

ゲーム分析
総合ゲーム
総合ゲーム
総合ゲーム
総合ゲーム

評価方法

積極性、協調性、キャプテンシー、コミュニケーション力、出席状況などを総合的に評価する。

教材

必要に応じて参考資料の配布や文献の紹介をおこなう。

ジョギング・マラソン 1 1 単位

Jogging Marathon 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・4	岡崎 和伸
	EJ1 (全文)	木・1	岡崎 和伸

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	CLI (全文)	火・3	岡崎 和伸
	ST1 (全理)	木・2	岡崎 和伸

科目の主題と目標

ジョギング未経験者や初心者が、ジョギングに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてジョギングやマラソンを楽しむことが出来る下地を養う科目である。“ゆっくり走る”ジョギングの楽しさ、爽快感を体験し、自分にあったジョギングフォームやペース感覚を身につけること、マラソン出走と完走を目指した科学的なトレーニング方法を体験することを目標とする。また、身体運動やスポーツによる健康増進効果についても学習し、生涯にわたって身体運動やスポーツに積極的に取り組み、健康的な生活を送る習慣を養成することを目標とする

授業内容・授業計画

【授業内容】 ウォーキングから“ゆっくり走る”ジョギング、マラソンレースペースでのジョギングに段階的に移行する。ジョギングのペース、距離、時間は各自の走る能力に合わせて無理なく増加していく。ウォーキング、ジョギングをもとにしたリクリエーションなども実施し、仲間とのコミュニケーションを深める。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダ

ウン、ストレッチング、2. ウォーキングフォーム、ジョギング体験、3. 簡易持久力評価テスト、各自の目標設定、4. ジョギングフォーム、各種ドリル、5. “ゆっくり走る”ジョギング①、6. “ゆっくり走る”ジョギング②、7. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. マラソンレースペースでのジョギング(ペース走)、10. ファルトレイクラン、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義(雨天時)、12. ジョギングマップ作成、13. ロングスローディスタンス(LSD)、14. 簡易持久力評価テスト、自己評価

評価方法

出席状況、授業への取り組み、課題提出状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

受講に際して、ジョギングやマラソンの経験の有無、走る能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考図書を紹介する。

ジョギング・マラソン 2 1 単位

Jogging Marathon 2

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	火・4	岡崎 和伸

科目の主題と目標

ジョギングやマラソン経験者が、ハーフマラソン・マラソン完走や記録達成を目指したトレーニングを実践する科目である。各自の目標を設定し、目標達成のための練習・レース計画の立案方法、練習日誌の作成方法、科学的なトレーニング方法、ペース配分などの戦略、さらに、パフォーマンス向上のためのスポーツ科学的な知識を習得することを目標とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】 ジョギングのペース、距離、時間は各自の走る能力に合わせて段階的に増加していく。授業初期に実施する各種測定結果などに基づき、各自の目標や練習・レース計画を立案する。授業で実施するトレーニングに加えて、日々の練習状況を練習日誌に記録し、毎回それを提出する。練習日誌は、担当者のコメントと共に次回の授業時に返却する。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチング、“ゆっくり走る”ジョギング、2. 持久力評価テスト、各自の目標設定、練習・レース計画の立案、3. ピッチとストライドの計測、速く走るためのフォーム、各種ドリル、4. 無酸素性作業閾値（AT）の計測、マラソンペースの設定、5. ペース感覚、心拍計を使用したジョギング、6. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）①、7. ファルトレイクラン、8. 補強運動、ウエイトトレーニング、9. ロングスローディスタンス（LSD）①、10. マラソンレースペースでのジョギング（ペース走）②、11. マラソン完走のためのスポーツ科学講義（雨天時）、12. インターバル走、13.

ロングスローディスタンス（LSD）②、14. 持久力評価テスト、自己評価

評価方法

出席状況、授業への取り組み、課題提出状況などから総合的に評価する。

受講生へのコメント

ジョギング・マラソンⅠの受講者、あるいは、ジョギングやマラソンの経験者を対象とするが、走る能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

バドミントン 1 1単位

Badminton 1

〈第2部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	木・2	岡崎 和伸

科目の主題と目標

バドミントン未経験者や初心者が、バドミントンに慣れ親しみ、生涯スポーツとしてバドミントンを楽しむことが出来る下地を養う科目である。各種ミニゲームを楽しみながら、バドミンの基礎的な技術・戦術を習得し、シングルス・ダブルスのゲームを楽しむことが出来ることを目標とする。また、ゲームを数多く体験しながら、バドミンのルール、マナー、審判・ゲーム進行法を理解し、豊かな交流を図るとともに、スポーツの楽しさ、楽しみ方を学ぶことを目標とする。

授業内容・授業計画

【授業内容】 初期は、各種ミニゲームやストロークの練習を行いながら、バドミントンを楽しむための基礎的な個人技術を段階的に習得していく。中期からは、習得した個人技術を用いてシングルのゲームを数多く体験し、バドミントン特有の戦術の習得に取り組む。また、ダブルスの技術・戦術の習得に取り組む、コンビネーションを生かしたゲームが出来るようにする。終盤にはシングルス、ダブルスのリーグ戦を実施しながら、バドミンの楽しさ、ルール、マナー、審判・ゲーム進行法などを学習し、他者とのコミュニケーションやゲームマネ

ジメント・運営が出来る能力を養う。

【授業計画】 1. ウォーミングアップとクーリングダウン、ラケット・シャトルになれる、基本姿勢とグリップ、2. 基本ストローク（オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンド）、フットワーク、3～4. ストローク（クリア、ロブ）、ミニゲーム、5. ストローク（サービス、サービスレシーブ）、シングルスゲーム、6～7. ストローク（ドロップ、カット、プッシュ、ヘアピン）、シングルスゲーム、8～9. ストローク（ドライブ、スマッシュ、レシーブ）、シングルスゲーム、10～11. ルール、審判・ゲーム進行法、シングルスゲーム（リーグ戦）、12. ダブルスの技術・戦術、コンビネーションプレイ、13～14. ダブルスゲーム（リーグ戦）

評価方法

出席状況、授業への取り組み、技術・戦術の修得度などから総合的に評価する。

コメント

受講に際して、バドミンの経験の有無や能力の優劣は問わない。

教材

必要に応じて参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

空手道 1 1 単位

Karate-do 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	火・4	橋本秀樹 木下 勇

科目の主題と目標

本科目は空手をスポーツとしてのみでなく武道に原点を求め、武道としての、そして、護身術としての空手を、初めて空手に接する人を前提に行う。現代において、拳や蹴りを用いた争いがあるとはならない。本空手道は、争いを未然に防ぎ、これを回避するために、真摯な姿勢で武道に取り組むことにより、文武両道の粋を極める事を目的とする。そのために、初心から、空手の基本である突き、蹴り、そして防御を修練し、古武道である空手道の珠玉である、型を鍛錬する。流波として、糸東流空手道を学ぶ事により、この中に含まれている武道の心を学ぶことで日常生活のプラスとする。

授業内容・授業計画

1. 礼に始まり礼に終わること。
2. 基本の突き、基本の受け。
3. 受けと突きの連続技。

4. 移動しての突きが空手の基本であること。
5. 移動しての突きと受け。
6. 基本の蹴り、蹴りの受け。
7. 基本の型、連続的な身のこなしと型の演武という発想。
8. 鍛錬としての型、三戦の構え。
9. 基本の型1
10. 基本の型1を用いた約束一本組み手。
11. 基本の型2。
12. 基本の型2を用いた約束一本組み手。
13. 基本の型3。
14. 基本の型3を用いた約束一本組み手。
15. 型と実践の解説。

評価方法

基本の型を中心に型の理解、武道としての空手道を実技により問う。

健康管理 1 1 単位

Health Improvement Exercise for The Handicapped 1

〈第1部〉

期	クラス	曜日・時限	担当者
前	全	水・5	藤原 晃(非常勤)

科目の主題と目標

本実習は、身体的、体力的な理由により健常人と同様の運動が難しいもののために開設されたものであり、各自の体力や症状を把握し、軽スポーツや身体の調整法を痛して現在の状態を維持、向上させることを主旨とする。

ハンディキャップを抱えるものでもスポーツを楽しむ権利は平等にあり、本実習において自分に合った運動を発見し、健康に取っての運動の意義を学習する。

期	クラス	曜日・時限	担当者
後	全	水・5	藤原 晃(非常勤)

授業内容・授業計画

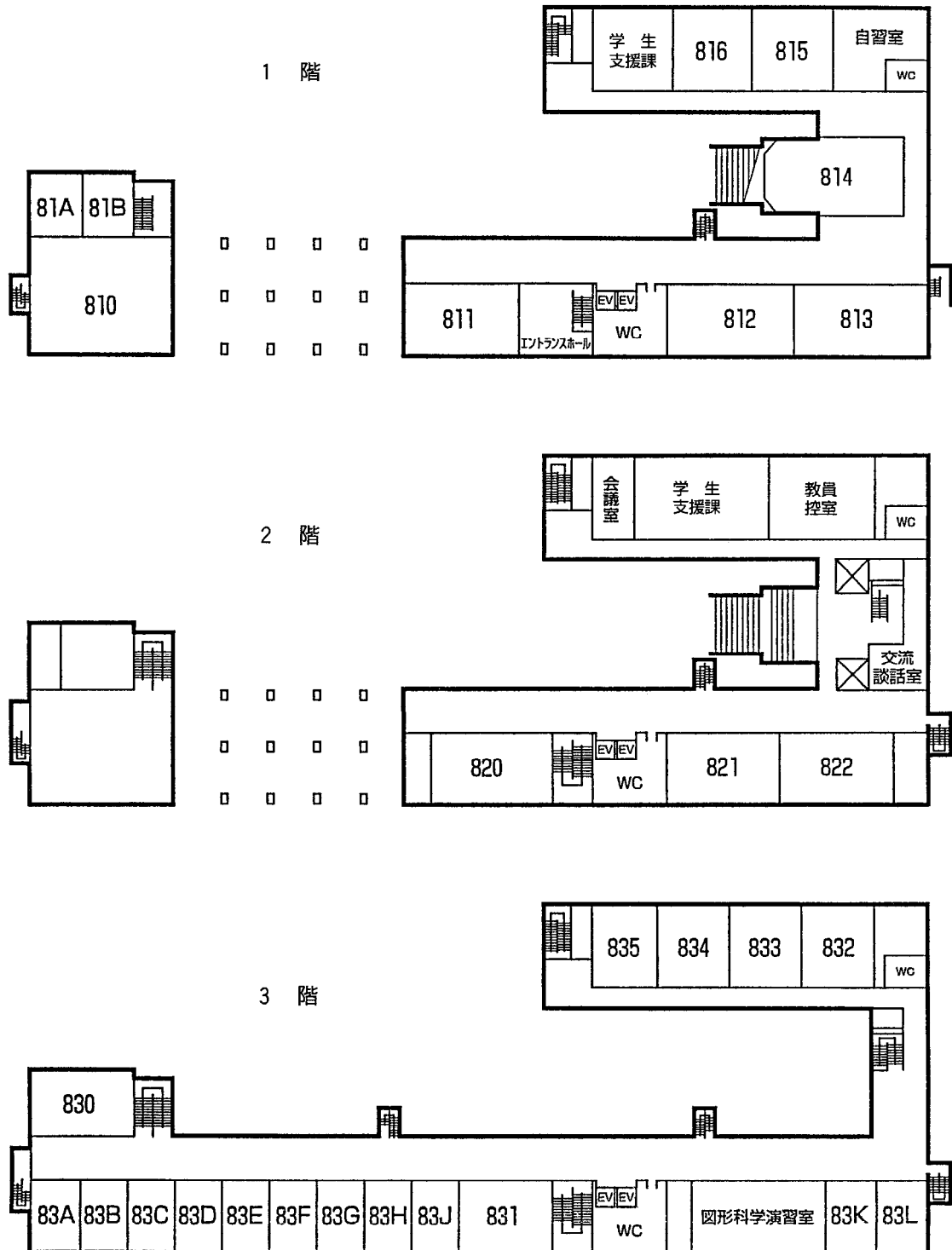
- ①②体力測定
- ③④自力整体
- ⑤⑥パートナーマッサージ
- ⑦⑧呼吸法
- ⑨⑩ストレッチング
- ⑪⑫⑬⑭軽スポーツ

評価方法

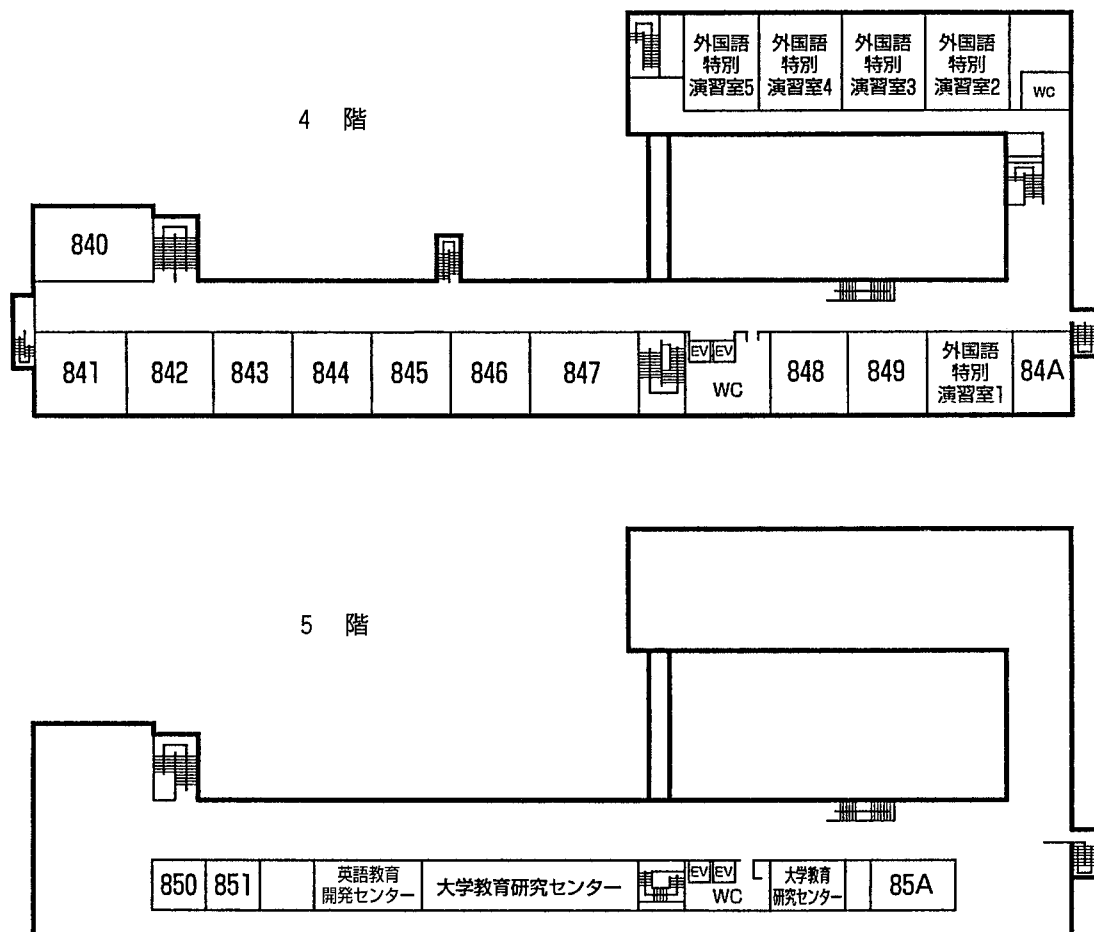
出席点・授業中の平常

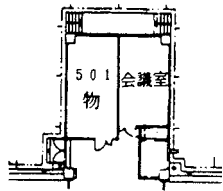
IV 教室等施設配置図

全学共通教育棟

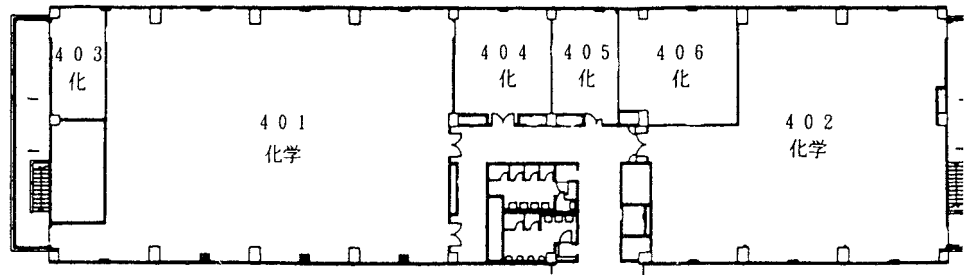


各教室見取図





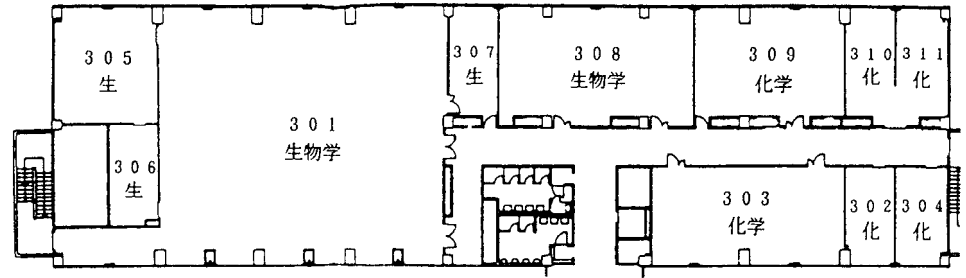
5階



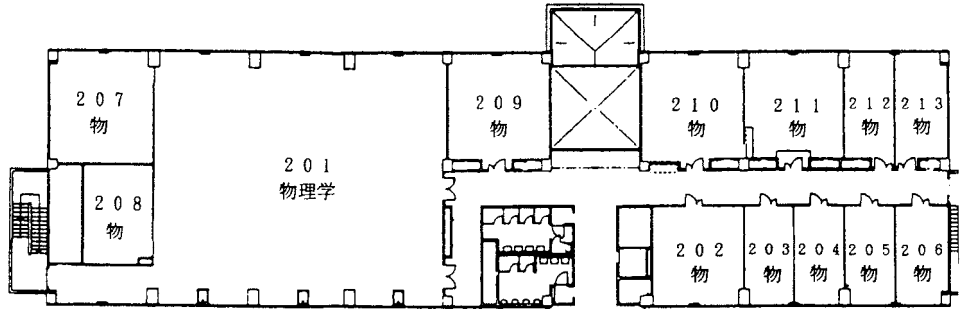
4階

基礎教育実験棟

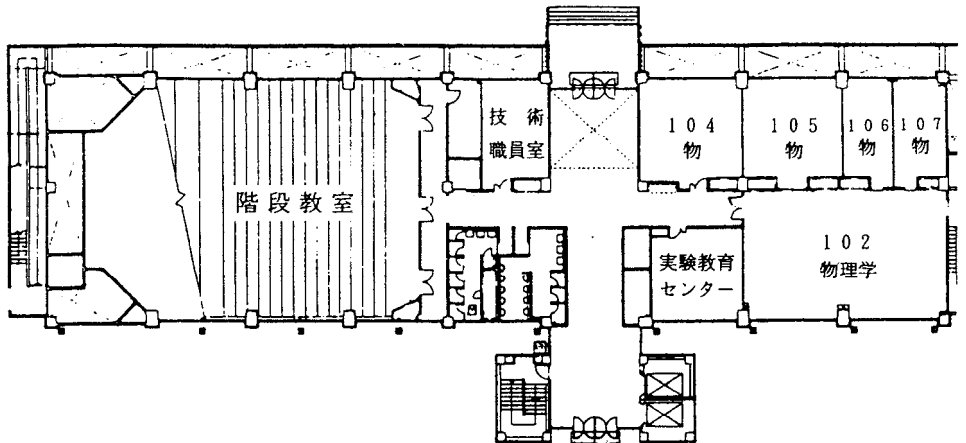
3階



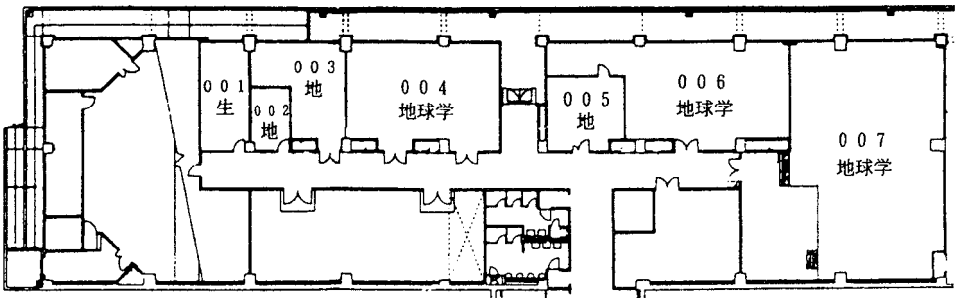
2階



1階

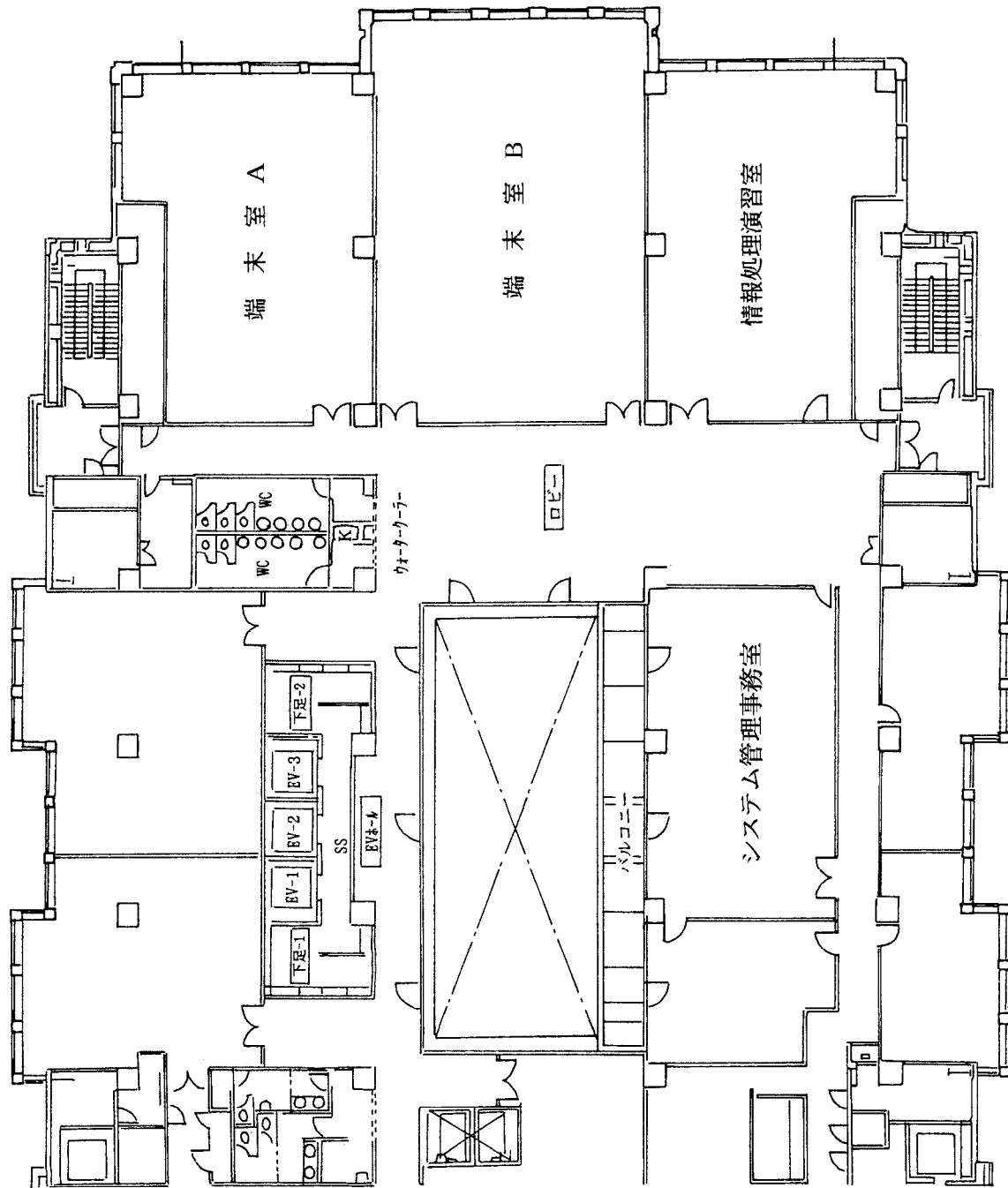


地下1階



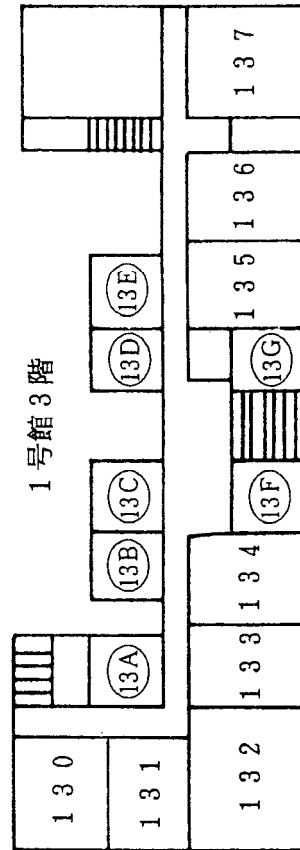
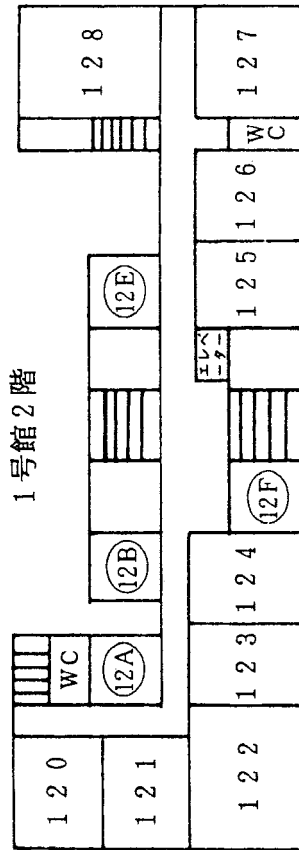
(1階以外はエレベーター及び階段部分を省略した。
男子、女子、身障者用の便所は地階から4階の各階にある。)

学術情報総合センター 9F

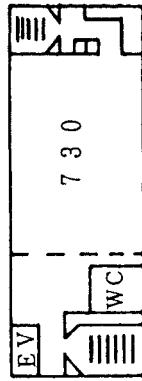


(西側省略)

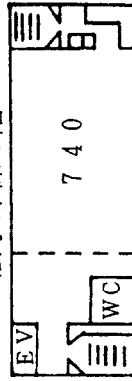
本館地区各教室見取図



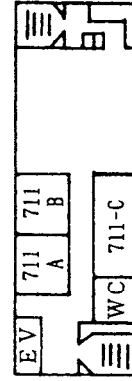
法学部棟3階



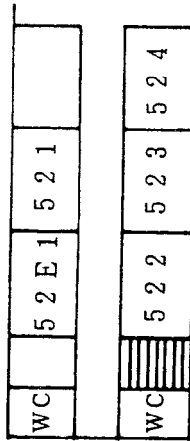
法学部棟4階



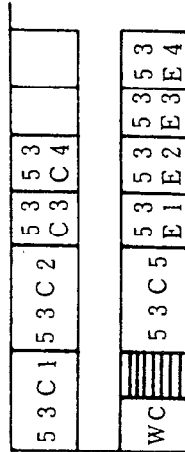
法学部棟11階



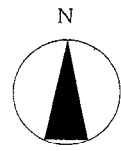
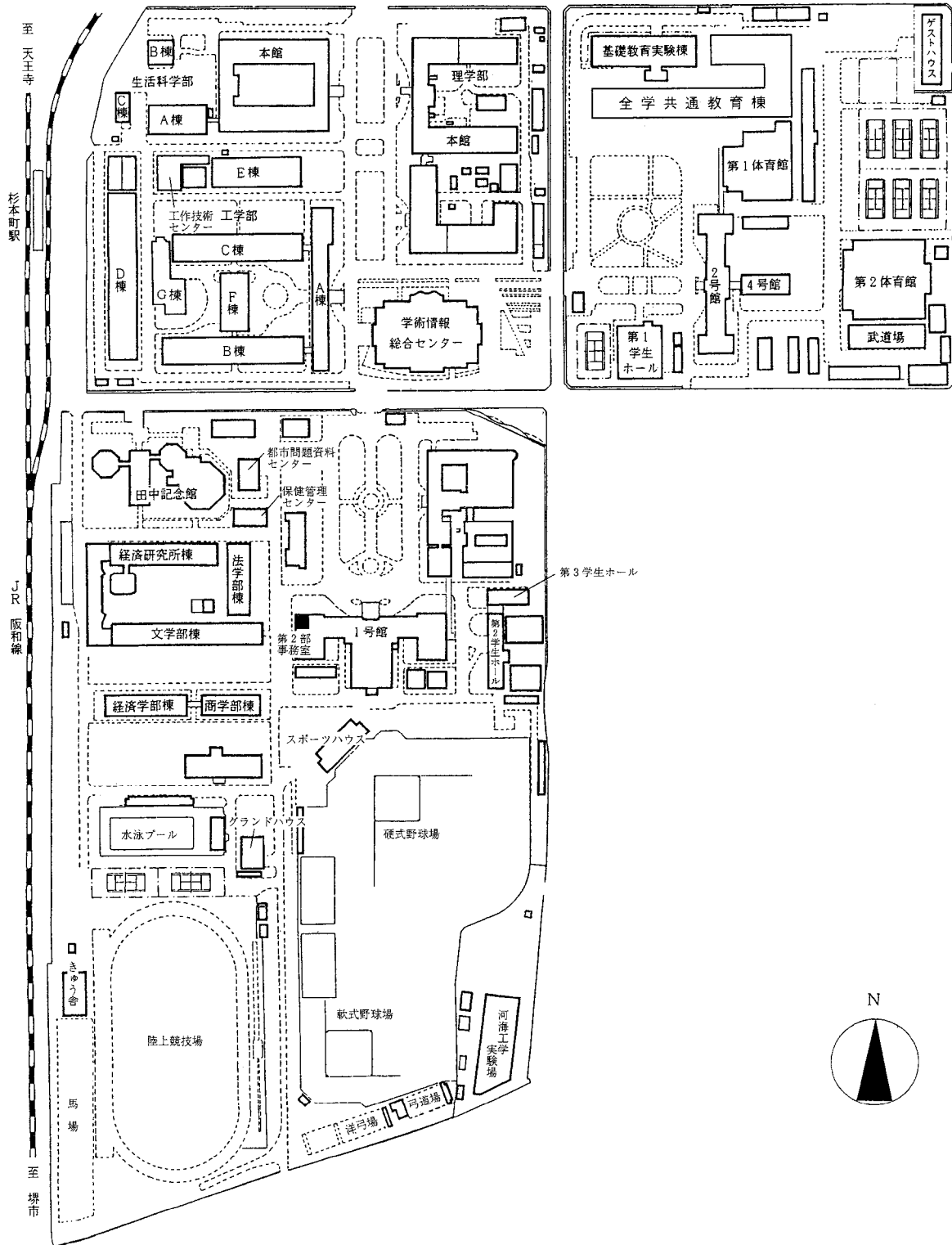
経済研究所棟2階



経済研究所棟3階



杉本学舎配置図



V 学 则

大阪市立大学学則

第1章 総則

(目的)

第1条 大阪市立大学（以下「大学」という。）は、学術研究の中心として深く専門の学芸を研究し、かつ、学校教育法（昭和22年法律第26号）の規定に従い高い学問的教養を授けるとともに、人格の向上を図ることを目的とする。

(学部等)

第2条 大学の学部（医学部を除く。）、学科、入学定員、第3年次編入学定員（第11条第1項及び第2項の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	第1部（夜間授業の課程以外の課程をいう。以下同じ。）			第2部（夜間授業の課程をいう。以下同じ。）	
		入学定員	第3年次 編入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
商学部	商学科	名 220	名	名 880	名	名 105
経済学部	経済学科	220		880		150
法学部	法学科	165	5	670		90
文学部	哲学歴史学科	32	3	134		
	人間行動学科	56	3	230		
	言語文化学科	67	4	276		
	人文学科					90
	計	155	10	640		90
理学部	数学科	24		96		
	物理学科	33		132		
	化学科	42	3	174		
	生物学科	29	3	122		
	地球学科	16	3	70		
	計	144	9	594		
工学部	機械工学科	56		224		
	電子・物理工学科	42		168		
	情報工学科	42		168		
	化学バイオ工学科	56		224		
	建築学科	34		136		
	都市学科	50		200		
	計	280		1,120		
生活科学部	食品栄養科学科	35		140		
	居住環境学科	43		172		
	人間福祉学科	45		180		
	計	123		492		
合計		1,307	24	5,276		435

2 医学部の学科、入学定員、第2年次編入学定員（第11条第3項の規定による編入学の定員をいう。）、第3年次編入学定員（同条第4項の規定による編入学の定員をいう。）及び収容定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	第2年次 編入学定員	第3年次 編入学定員	収容定員
医学科	名 92	名	名	名 552
看護学科	40	10	20	230
合計	132	10	20	782

- 3 学部に別表に掲げる講座又は学科目を置く。
- 4 大学に教育推進本部、研究推進本部及び地域貢献推進本部を置く。
- 5 大学に学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター及び都市研究プラザを置く。
- 6 理学部に附属植物園を、医学部に附属病院及び附属刀根山結核研究所を置く。
- 7 この規則に定めるもののほか、教育推進本部、研究推進本部及び地域貢献推進本部並びに学術情報総合センター、文化交流センター、都市健康・スポーツ研究センター、人権問題研究センター、大学教育研究センター、都市研究プラザ、理学部附属植物園、医学部附属病院及び医学部附属刀根山結核研究所については、別に定める。

(大学院)

第3条 大学に大学院を置く。

- 2 大学院については、別に定める。

(学年)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第5条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
 - (3) 春季休業 3月20日から4月6日まで
 - (4) 夏季休業 8月5日から9月15日まで
 - (5) 冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで
 - (6) その他学長が必要と認めた日
- 2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項第3号から第5号までの休業日を取りやめ、又は変更することができる。

第2章 学生

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科の修業年限は、6年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の修業年限については、教授会の議を経て学部長が定める。
- 3 第1項の規定にかかわらず、第23条の2の規定に基づき長期にわたる教育課程の履修を認められた者(以下「長期履修学生」という。)の修業年限については、当該履修を許可された年限とする。

(在学年限)

第8条 在学年限は、8年とする。ただし、医学部医学科の在学年限は、11年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者の在学年限については、教授会の議を経て学部長が定める。

第2節 入学、転学部、転学科、留学、退学、休学及び除籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、この限りでない。

(入学)

第10条 大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者でなければならない。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
 - (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験又は同規則による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による資格検定に合格した者
 - (7) 大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 大学において教育を受ける目的をもって入国する外国人が入学を願い出たときは、前項の規定による入学試験に代えて教授会において選考の上、学長が入学を許可することができる。
- 3 第1項各号のいずれかに該当し、かつ、大学において別に定める入学資格を有する者が入学を願い出たときは、同項の規定による入学試験に代えて教授会において選考の上、学長が入学を許可することができる。

第11条 次の各号のいずれかに該当する者で、文学部第1部、法学部第1部又は理学部物質科学科、化学科、生物学科若しくは地球学科の第3年次への編入学(第6号に該当する者にあつては、文学部第1部又は法学部第1部への編入学に限る。)を志願するものについては、教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の議を経て学部長が定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの
 - (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
 - (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
 - (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
 - (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
 - (6) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条第1項の表の上欄に掲げる従前の規定による学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者(同条第2項又は第3項の規定により、これらの学校の課程を修了し、又はこれらの学校を卒業した者とみなされる者を含む。)で学部長が定めるもの
- 2 前項に定めるもののほか、理学部地球学科の第3年次への編入学を志願する社会人(前項第1号から第5号までに掲げる者又は学校教育法第124条の規定による専修学校(以下「専修学校」という。)の専門課程(学校教育法施行規則第186条第1項に規定する基準を満たすものに限る。)を修了した者(同法第90条第1項に規定する者に限る。)のうち、理学部長が別に定める要件を満たすものをいう。)については、教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。
- 3 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者で、医学部看護学科の第2年次への編入学を志願するものについては、医学部教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。
- 4 保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)第21条第1号の学校(学校教育法第1条の大学であるものに限る。)を卒業した者又は同号の学校(専修学校であるものに限る。)若しくは保健師助産師看護師法第21条第2号の看護師養成所(専修学校であるものに限る。)の専門課程(学校教育法施行規則第186条第1項に規定する基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で、医学部看護学科の第3年次への編入学を志願するものについては、医学部教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

第12条 前条に定めるもののほか、次の各号のいずれかに該当する者で、編入学を志願するものについては、欠員のある場合に限り、教授会において選考の上学長が入学を許可することができる。

- (1) 大学又は修業年限4年以上の他の大学に2年以上在学した者で、教授会の議を経て学部長が定める単位を修得しているもの若しくはこれと同等以上の学力があると学部長が認めるもの

- (2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
 - (3) 大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者
 - (4) 学校教育法第104条第3項の規定により学士の学位を授与された者
 - (5) 外国において、第3号に相当する学校教育における課程を修了した者
 - (6) その他大学又は修業年限4年以上の他の大学を卒業した者と同等以上の学力があると学部長が認める者
- 2 学長は、第15条第1項の規定により退学し、又は第17条第2項第1号の規定により除籍された者が再入学を願い出たときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。ただし、再入学の願い出は、退学又は除籍の日から3年以内に限る。

(転学部及び転学科)

第13条 本学の他学部に転学部を志願する者があるときは関係学部の教授会の協議を経て、学長がこれを許可することがある。

- 2 転学科を志願する者があるときは、教授会の議を経て、学長がこれを許可することがある。
- 3 本条に定めるもののほか転学部及び転学科について必要な事項は、教授会の議を経て学部長が定める。

(留学)

第14条 外国の大学(外国の短期大学を含む。以下同じ。)に留学することを願い出た者については、教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の議を経て、その大学と協議のうえ、学長がこれを許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由により外国の大学と事前に協議を行うことが困難な場合には、これを欠くことができる。
- 3 留学の期間は、在学年数に算入する。

(退学及び休学)

第15条 病気その他やむを得ない事情のため退学しようとする者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が退学を許可することができる。

- 2 病気その他やむを得ない事情のため原則として2月以上にわたって学修することができない者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が休学を許可することができる。
- 3 前項の規定による休学の願い出は、学年ごとに行わなければならない。
- 4 病気のため療養を必要とすると認められる者については、学部長の申請により、学長が休学を命ずることができる。ただし、事前に、時宜によっては事後に、教授会の議を経なければならない。
- 5 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
- 6 休学期間は、在学年数に算入しない。

(復学)

第16条 休学期間中にその事由が消滅した者については、本人の願い出により、教授会の議を経て学長が復学を許可することがある。

(除籍)

第17条 第8条に定める在学年限内に成業することのできない者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- 2 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍することがある。
 - (1) 授業料を納付しない者
 - (2) 病気その他の事由により成業の見込みのない者
 - (3) 教授会の議を経て学部長が定める期間内に所定の単位を修得しない者
 - (4) 第15条第5項に定める休学期間を満了してなお就学できない者

第3節 教育課程

(教育課程の編成方針)

第18条 教育課程は、大学、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を次条第1項及び第2項に定める区分に従って開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成にあたっては、学部及び学科等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び

総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目及び単位数)

第19条 大学において開設する授業科目は、全学共通科目、専門教育科目及び教職に関する科目とする。

- 2 全学共通科目は、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目及び健康・スポーツ科学科目に区分する。
- 3 前2項に定めるもののほか、各授業科目及びその単位数については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

(履修方法)

第20条 学生（医学部医学科の学生を除く。）は、全学共通科目及び専門教育科目を合計して124単位以上を修得しなければならない。

- 2 医学部医学科の学生は、医学部医学科履修規程で定める単位数以上の全学共通科目を修得するとともに、同規程で定めるところにより、専門教育科目を履修して試験に合格しなければならない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学部長は、教育上必要があると認めるときは、教授会の議を経て同項の単位数を増加することができる。
- 4 前3項の規定にかかわらず、第11条又は第12条の規定に基づき入学した者に係る履修方法については、教授会の議を経て学部長が定める。

(国内の他の大学等の授業科目の履修)

第21条 学生が国内の他の大学（国内の短期大学を含む。以下同じ。）の授業科目を履修することが教育上有益と認められるときは、当該学部教授会の議を経て、その大学との協議のうえ、学長がこれを承認することができる。

- 2 第14条及び前項の規定により修得した授業科目及び単位数については、30単位を超えない範囲で、これを大学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第22条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生の行う学修で文部科学大臣が定めるものを、大学における授業科目の履修とみなすことができる。

- 2 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の議を経て、単位を与えることができる。
- 3 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第2項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(既修得単位等の認定)

第23条 学部長は、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、既修得単位（大学の第1年次に入学した者が当該入学前に大学、国内の他の大学又は外国の大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）をいう。）を、当該入学後大学において修得したものとみなすことができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。

- 2 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、大学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 学部長は、前項の規定により大学における授業科目の履修とみなす学修に対し、教授会の議を経て、単位を与えることができる。ただし、修業年限を短縮することはできない。
- 4 第1項又は前項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、合わせて30単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第23条の2 学長は、別に定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第7条第1項に規定する修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

(その他)

第24条 本節に定めるもののほか、履修方法、単位の計算方法及び学習の評価方法については、全学共通科目履修規程及び各学部履修規程で定める。

第4節 卒業の認定

(卒業の認定及び学位の授与)

第25条 大学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し、所定の卒業資格を得た者に対し、学部長は教授会の議を経て卒業を認定する。

2 学長は、前項の規定により卒業を認定された者に対し、次の区分に従って学士の学位を授与する。

商学部 学士(商学)

経済学部 学士(経済学)

法学部 学士(法学)

文学部 学士(文学)

理学部 学士(理学)

工学部 学士(工学)

医学部

医学科 学士(医学)

看護学科 学士(看護学)

生活科学部 学士(生活科学)

第5節 教員免許

(教員免許)

第26条 教員の免許状授与の所要資格を取得することのできる学部・学科は、次のとおりとする。

学部	学科	免許教科	免許状の種類
商学部	商学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民 商業	
経済学部	経済学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民 商業	
法学部	法学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
文学部	哲学歴史学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史	高等学校教諭1種免許状
		公民	
	人間行動学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
	言語文化学科	国語 中国語 英語 ドイツ語 フランス語	中学校教諭1種免許状
			高等学校教諭1種免許状

	人文学科	社会	中学校教諭1種免許状
		地理歴史 公民	高等学校教諭1種免許状
		国語	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
理学部	数学科	数学	高等学校教諭1種免許状
	物理学科	理科	
	化学科		
	生物学科		
	地球学科		
工学部	機械工学科	工業	高等学校教諭1種免許状
	電子・物理工学科		
	情報工学科		
	化学バイオ工学科		
	建築学科		
	都市学科		
生活科学部	食品栄養科学科	家庭	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
			栄養教諭1種免許状
	居住環境学科	家庭	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許状
	人間福祉学科	福祉	高等学校教諭1種免許状

2 前項に定めるもののほか、教員の免許状授与に係る基礎資格及び単位の修得方法等については、学長が別に定めるところによる。

第6節 賞罰

(表彰)

第27条 品性学力ともに優秀な者、又は篤行のあった者はこれを表彰する。

(懲戒)

第28条 学則その他の規定又は命令に違反した者、大学の秩序を乱した者その他学生の本分にもとると認められる者は、懲戒委員会の議決を経て学長が懲戒する。

2 懲戒委員会の組織は、教育研究評議会で定める。

3 懲戒処分は、訓告、停学及び退学の3種とする。

第3章 科目等履修生及び研修生

(科目等履修生)

第29条 特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、教授会、都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において選考の上、学長が科目等履修生として入学を許可することができる。

(特別履修学生)

第30条 学長は、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、その大学の学生が、大学の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により大学の授業科目の履修を認められた学生を特別履修学生と称する。

3 第1項の規定にかかわらず、やむを得ない事情により外国の大学と事前に協議を行うことが困難なときは、これを欠くことができる。

(研修生)

第31条 公の機関又は団体等から、その所属の職員につき、学修題目を定めて研修を願い出たときは、教授会又は都市健康・スポーツ研究センター教員会議において選考の上、学長が入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学を許可された者を研修生とする。

(その他)

第32条 本章に定めるもののほか、科目等履修生及び研修生について必要な事項は学長が別に定める。

第4章 授業料その他の納付金

(納付金)

第33条 納付金の額は、次表のとおりとする。

区 分		入 学 検 定 料	入 学 料		授 業 料
			本市住民及びその子	その他の者	
学 生	第1部	17,000円	222,000円	342,000円	1年 535,800円
	第2部				1年 267,900円
科目等履修生		9,800円	22,200円	34,200円	1単位 14,800円
研修生		9,800円	66,600円	102,600円	1月 29,700円

2 前項の規定にかかわらず、第10条第3項、第11条又は第12条第1項の規定により入学を願い出た者に係る入学検定料の額については、第1部にあっては30,000円、第2部にあっては18,000円とする。

3 第1項の規定にかかわらず、長期履修学生の授業料の額については、別に定める。

(既納付金の還付)

第34条 既納の納付金は、還付しない。ただし、次の各号の1に該当する場合においては、この限りでない。

- (1) 学生に係る入学試験において、出願書類等による選抜を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜を行う場合
- (2) 前号のほか公立大学法人大阪市立大学（以下「法人」という。）理事長が必要と認めた場合

(減免及び分納)

第35条 休学者に対しては授業料を免除する。ただし、休学した日の前日又は復学した日の属する学期の授業料を納めなければならない。

2 学年の途中で卒業する者、退学する者及び除籍された者は、その日の属する学期の授業料を納めなければならない。

第36条 特別の事情があると認めるときは、授業料の減免若しくは分納又は入学検定料若しくは入学料の減免を許可することがある。

第37条 特別履修学生に対しては、入学検定料及び入学料を免除する。

2 特別履修学生に対しては、国内の他の大学又は外国の大学との協議に基づき、授業料を免除することがある。

(その他)

第38条 本章に定めるもののほか、授業料等の納期その他納付金については別に定めるところによる。

第5章 職員組織

(職員)

第39条 大学に次の職員を置く。

- (1) 学長、副学長、教育推進本部長、研究推進本部長、地域貢献推進本部長、学部長、副学部長、研究所長、学術情報総合センター所長、病院長、学生担当部長、教務担当部長
- (2) 教授、准教授、講師、助教
- (3) 事務職員、技術職員
- (4) その他必要な職員

(事務組織)

第40条 大学の事務を処理するため、大学に大学運営本部を、医学部に医学部・附属病院運営本部を置く。

- 2 大学運営本部及び医学部・附属病院運営本部については、別に定める。

第6章 教授会、教育研究評議会等

(教授会等)

第41条 各学部に教授会を、都市健康・スポーツ研究センターに都市健康・スポーツ研究センター教員会議を、人権問題研究センターに人権問題研究センター教員会議を、大学教育研究センターに大学教育研究センター研究員会議を置く。

- 2 教授会は教授をもって組織する。ただし、教育研究評議会の承認を経て准教授その他の教員を加えることができる。
- 3 都市健康・スポーツ研究センター教員会議、人権問題研究センター教員会議及び大学教育研究センター研究員会議については、別に定める。

第42条 学部教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 教員の人事に関する事項
 - (2) 学部長及び教育研究評議員の選挙に関する事項
 - (3) 研究に関する事項
 - (4) 学科、課程及び履修方法に関する事項
 - (5) 学生の入学、留学、退学、卒業その他学生の身分に関する事項
 - (6) 科目等履修生及び研修生に関する事項
 - (7) 学部の内規の制定及び改廃に関する事項
 - (8) その他学部における重要事項
- 2 教授会の議事の手続その他その運営に必要な事項については、別に定める。

(教育研究評議会)

第43条 大学に教育研究評議会を置く。

- 2 教育研究評議会は、次に掲げる職員をもって組織する。
 - (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 学長が指名する理事
 - (4) 学長が定める教育研究上重要な組織の長
 - (5) 教育研究評議会が定めるところにより学長が指名する職員
- 3 前項第5号に定める職員を、教育研究評議員と称する。
- 4 教育研究評議員は、大学院の各研究科教授会（当該研究科において教育研究評議員を選定しない場合は、当該研究科に関係のある学部の教授会）、都市健康・スポーツ研究センター教員会議又は大学教育研究センター研究員会議において、当該研究科（当該研究科において教育研究評議員を選定しない場合は、当該研究科に関係のある学部）、都市健康・スポーツ研究センター又は大学教育研究センターに所属する常勤教員のうちから選定し、学長がこれを指名する。

第44条 教育研究評議会は、次の事項を審議する。

- (1) 中期目標について大阪市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (2) 地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）により大阪市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、大学の教育研究に関するもの
- (3) この規則及び大阪市立大学大学院学則の改正並びに教育研究に関する規程の制定及び改廃に関する事項
- (4) 教育研究評議員の任期に関する事項

- (5) 教員の人事に関する方針及び基準に係る事項
- (6) 教員の降任、解雇及び懲戒処分等の審査に関する事項
- (7) 教員の休職期間に関する事項
- (8) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
- (9) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (10) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
- (11) 学生の身分に関する重要事項
- (12) 学生の厚生補導に関する事項
- (13) 教授会その他の機関の連絡調整に関する事項
- (14) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (15) 前各号に掲げるもののほか、大学における教育研究に関する重要事項

(招集及び議事)

第45条 教育研究評議会は、学長が招集する。

2 教育研究評議会に議長を置き、学長をもって充てる。

3 議長は、教育研究評議会を主宰する。

4 教育研究評議会は、構成員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

5 教育研究評議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 この規則に定めるもののほか、教育研究評議会の運営に必要な事項については、教育研究評議会の議を経て学長が定める。

第7章 雑則

(改正)

第46条 この規則の改正は、法人の経営に関する事項については、公立大学法人大阪市立大学定款（平成16年大阪市議会議決）に定める経営審議会の、法人の経営に関する事項以外の事項については、教育研究評議会の意見を聴いて行うものとする。

(施行の細目)

第47条 この規則の施行について必要な事項は、学長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条第1項の規定（理学部生物学科第1部第3年次編入学定員に係る部分に限る。）については、平成19年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成18年度における理学部生物学科第1部第3年次編入学定員については、第2条第1項の規定にかかわらず、2名とする。

3 平成18年度及び平成19年度における各学部各学科（工学部機械工学科、電気工学科、建築学科、医学部並びに生活科学部居住環境学科を除く。以下この項において同じ。）の第1部収容定員、文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計、全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計、医学部看護学科の収容定員並びに医学部の収容定員の合計については、第2条第1項及び第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 各学部各学科の第1部収容定員

学部	学科	平成18年度	平成19年度
		名	名
商学部	商学科	751	775
経済学部	経済学科	751	775
法学部	法学科	612	600
文学部	哲学歴史学科	120	122
	人間行動学科	196	200

	言語文化学科	227	235
理学部	数学科	90	93
	物理学科	114	119
	物質科学科	62	68
	化学科	89	97
	生物学科	98	108
	地球学科	68	71
工学部	応用化学科	107	109
	都市基盤工学科	56	84
	応用物理学科	107	109
	情報工学科	100	106
	バイオ工学科	56	84
	知的材料工学科	100	106
	環境都市工学科	100	106
生活科学部	食品栄養科学科	130	135
	人間福祉学科	175	177

(2) 文学部、理学部、工学部及び生活科学部の第1部収容定員の合計

学部	平成18年度	平成19年度
	名	名
文学部	543	557
理学部	521	556
工学部	1,063	1,090
生活科学部	477	484

(3) 全学部（医学部を除く。）の第1部収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名	名
4,718	4,836

(4) 医学部看護学科の収容定員

平成18年度	平成19年度
名	名
160	230

(5) 医学部の収容定員の合計

平成18年度	平成19年度
名	名
640	710

3 平成18年度から平成20年度までの各年度における商学部、経済学部、法学部及び文学部各学科の第2部収容定員、文学部の第2部収容定員の合計並びに商学部、経済学部、法学部及び文学部の第2部収容定員の合計については、第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
		名	名	名
商学部	商学科	250	225	200
経済学部	経済学科	280	270	260
法学部	法学科	240	210	180
文学部	哲学歴史学科	36	24	12
	人間行動学科	42	28	14
	言語文化学科	42	28	14

	人文学科	60	90	120
	計	180	170	160
合計		950	875	800

- 4 この規則の施行の際、現に工学部に在学する者（平成 17 年 3 月 31 日までに工学部土木工学科及び生物応用化学科に入学した者に限る。）については、第 2 条第 1 項、第 26 条第 1 項及び別表の規定にかかわらず、法人の設立前の大阪市立大学学則（昭和 30 年大阪市規則第 18 号。以下「廃止前の市規則」という。）における当該規定の取扱いを準用する。
- 5 この規則の施行の際、現に商学部、経済学部、法学部及び文学部の第 2 部に在学する者（平成 17 年 3 月 31 日までに入学した者に限る。）については、第 2 条第 1 項、第 7 条、第 8 条及び第 26 条第 1 項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。
- 6 平成 11 年 3 月 31 日までに入学した者に係る授業料の額は、第 33 条第 1 項の規定にかかわらず、廃止前の市規則における当該規定の取扱いを準用する。

附 則（平成 18 年 11 月 21 日規程第 173 号）
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 18 年 12 月 19 日規程第 184 号）
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の改正規定は、平成 18 年 12 月 19 日から施行する。

附 則（平成 19 年 3 月 20 日規程第 14 号）
（施行期日）

- 1 この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則の施行の際、現に生活科学部に在学する者（平成 19 年 3 月 31 日までに生活科学部人間福祉学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第 26 条第 1 項の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成 19 年 7 月 24 日規程第 72 号）

（施行期日）

- 1 この規則は、平成 19 年 10 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則の施行の際、現に医学部に在学する者（平成 19 年 9 月 30 日までに医学部医学科に入学した者に限る。）については、この規則による改正前の大阪市立大学学則別表の規定は、なおその効力を有する。

附 則（平成 20 年 3 月 18 日規程第 14 号）

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 20 年 7 月 29 日規程第 86 号）

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 21 年 3 月 16 日）

（施行期日）

- 1 この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 平成 21 年度から平成 23 年度までの各年度における理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第 1 部収容定員、理学部の第 1 部収容定員の合計、工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第 1 部収容定員並びに全学部(医学部を除く。)の第 1 部収容定員の合計については、第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 理学部物理学科、物質科学科、化学科、生物学科及び地球学科の第 1 部収容定員

学科	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	名	名	名
物理学科	126	128	130
物質科学科	53	32	16

化学科	123	140	157
生物学科	119	120	121
地球学科	72	70	70

(2) 理学部の第1部収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度
名 589	名 586	名 590

(3) 工学部機械工学科、電子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科及び都市学科の第1部収容定員

学 科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
機械工学科	名 140	名 168	名 196
電子・物理工学科	名 42	名 84	名 126
情報工学科	名 126	名 140	名 154
化学バイオ工学科	名 56	名 112	名 168
建築学科	名 118	名 124	名 130
都市学科	名 50	名 100	名 150

(4) 全学部(医学部を除く。)の第1部収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度
名 4,973	名 4,970	名 4,974

3 平成21年度から平成25年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第2条第2項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
名 490	名 500	名 510	名 520	名 530

(2) 医学部の収容定員の合計

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
名 720	名 730	名 740	名 750	名 760

4 この規則の施行の際、現に理学部に在学する者(平成21年3月31日までに理学部物質科学科に入学した者に限る。)及び工学部に在学する者(平成21年3月31日までに工学部電気工学科、応用化学科、都市基盤工学科、応用物理学科、バイオ工学科、知的材料工学科、環境都市工学科に入学した者に限る。)については、この規則による改正前の大阪市立大学学則第2条第1項、第26条第1項及び別表の規定は、なおその効力を有する。

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成22年度から平成24年度までの各年度における商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員、文学部の第1部の収容定員の合計、全学部(医学部を除く。)の第1部の収容定員の合計については、改正後の規則第2条第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 商学部商学科、経済学部経済学科、法学部法学科及び文学部各学科の第1部の収容定員並びに文学部第1部の収

容定員の合計

学 部	学 科	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
商学部	商学科	名 820	名 840	名 860
経済学部	経済学科	820	840	860
法学部	法学科	620	640	655
文学部	哲学歴史学科	127	130	132
	人間行動学科	211	218	224
	言語文化学科	253	262	269
	計	591	610	625

(2) 全学部（医学部を除く。）の第1部の収容定員の合計

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
名 5,049	名 5,132	名 5,206

3 平成 22 年度から平成 26 年度までの各年度における医学部医学科の収容定員及び医学部の収容定員の合計については、第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 医学部医学科の収容定員

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
名 502	名 514	名 526	名 538	名 550

(2) 医学部の収容定員の合計

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
名 732	名 744	名 756	名 768	名 780

別表（第 2 条関係）

商学部

部 門 名	科 目 名
経営学部門	経営学原理 経営組織論 経営学史 経営史 企業形態論 公企業論 中小企業経営論 国際経営論 経営管理論 生産管理論 販売管理論 情報管理論 経営財務論 経営労務論 経営統計論 経営数学 経営システム論 労働科学論

	経営学特講
商学部門	金融論 証券市場論 銀行論 国際金融論 外国為替論 証券市場論特講 商業論 流通組織論 貿易論 貿易経営論 交通論 保険論 交通各論 社会保険論 保険各論 貿易実務 工業論 日本産業論 地域経済論 産業立地論 産業統計論 技術論 部落産業論 国際産業比較論 環境論 商学特講
会計学部門	会计学 管理会計論 原価計算論 経営分析論 会計監査論 簿記原理 国際会計論 会計情報論 税務会計 会計実務 会计学特講

経済学部

部 門 名	科 目 名
経済理論部門	経済原論Ⅰ 経済原論Ⅱ 経済学方法論 経済変動論 経済学説史 近代経済学説史 経済思想史 社会思想史 社会経済論

	数理経済学 貨幣論 経済理論特講
経済統計論部門	統計解析論 計量経済学 経済統計論 国民所得論 産業連関論 経済情報論 計算機経済学 経済統計論特講
経済史部門	経済史概論 日本経済史 西洋経済史 東洋経済史 企業経済史 現代経済史 経済史特講
経済政策論部門	経済政策論 社会政策論 産業政策論 国際経済政策論 経済計画論 公共経済学 財政学 地方財政論 環境経済学 金融経済論 物価論 証券経済論 労働経済論 日本経済論 経済政策論特講
経済構造論部門	産業経済論 農業経済論 産業技術論 流通経済論 交通経済論 都市経済論 医療経済学 経済地理学 寡占経済論 現代資本主義論 経済構造論特講
国際経済論部門	世界経済論 国際経済論 国際貿易論 国際通貨論 経済開発論 比較経済論

	アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論 ロシア経済論 アジア経済論 中国経済論 各国経済論特講 国際経済論特講
--	--

法学部

部 門 名	科 目 名
基礎法学	法哲学 法社会学 法情報学 日本法制史 日本近代法制史 東洋法制史 西洋法制史 ローマ法 基礎法学特講
公法	憲法第 1 部 憲法第 2 部 行政法第 1 部 行政法第 2 部 租税法 刑法第 1 部 刑法第 2 部 刑事訴訟法 刑事政策 公法特講
民事法	民法第 1 部 民法第 2 部 民法第 3 部 民法第 4 部 民法第 5 部 民法特講 商法第 1 部 商法第 2 部 商法第 3 部 証券取引法 商法特講 民事訴訟法 民事執行・保全法 倒産法
社会法	労働法 社会保障法 経済法 知的財産法 社会法特講
国際関係・外国法	国際法第 1 部 国際法第 2 部

	国際組織法 国際経済法 国際取引法 国際私法 英米法 ドイツ法 フランス法 アジア法 外国法特講
政治・行政学	政治学 比較政治学 政治過程論 政治学史 日本政治外交史 欧州政治外交史 国際政治行政学 公共政策論 都市行政論 政治学特講

文学部

学 科 名	コ ー ス 名	科 目 名
哲学歴史学科	哲学・哲学史	哲学 哲学史 論理学
	倫理・宗教	倫理学 宗教学
	日本史	日本史学Ⅰ 日本史学Ⅱ 日本史学Ⅲ
	世界史	世界史学Ⅰ 世界史学Ⅱ 世界史学Ⅲ 世界史学Ⅳ 世界史学Ⅴ 世界史学Ⅵ
	共通	人間文化学
人間行動学科	社会学	理論社会学 社会学方法論 特殊社会学 応用社会学
	心理学	心理学 実験心理学 精神測定学 応用心理学
	教育学	教育学 教育方法学 教育心理学 教育社会学

	地理学	地理学Ⅰ 地理学Ⅱ 地理学Ⅲ 地誌学Ⅰ 地誌学Ⅱ
	共通	人間行動学
言語文化学科	国語国文学	国語学Ⅰ 国語学Ⅱ 国文学Ⅰ 国文学Ⅱ 国文学史
	中国学	中国学 中国語学 中国文学 中国文学史 中国思想史
	英米言語文化	英米語学Ⅰ 英米語学Ⅱ 英米文学Ⅰ 英米文学Ⅱ 英米文学史 英米文化論
	ドイツ言語文化	ドイツ語学Ⅰ ドイツ語学Ⅱ ドイツ文学Ⅰ ドイツ文学Ⅱ ドイツ文化論
	フランス言語文化	フランス語学Ⅰ フランス語学Ⅱ フランス文学Ⅰ フランス文学Ⅱ フランス文化論
	言語情報	言語学 言語情報論 言語応用論 言語比較論 言語教育論
	表現文化	批評理論 表現文化論 文化構造論 表象文化論 比較表現論
	共通	言語文化論
人文学科	歴史文化	日本史学 世界史学 都市文化学
	人間行動学	社会学方法論 応用心理学 人文地理学 教育方法学

	言語文化・思想	国語学 国文学 中国文学 表現文化論 言語文化論 哲学 倫理学
--	---------	---

理学部

学 科 名	講 座 名
数学	数理構造論 数理解析学
物理学	基礎物理学 宇宙・高エネルギー物理学 物性物理学
化学	物質科学 分子有機化学 分子無機化学 分子相関科学
生物学	生物分子機能学 生体機能生物学 自然誌機能生物学
地球学	環境地球学 地球物質進化学

工学部

学 科 名	講 座 名
機械工学	機械工学 知的材料工学
電子・物理工学	電気工学 応用物理学
情報工学	情報工学
化学バイオ工学	応用化学 バイオ工学
建築学	建築学 都市基盤工学
都市学	環境都市工学

医学部

学 科 名	講 座 名	専 門 分 野
医学	分子生体医学	分子病態薬理学 分子病態学 分子制御生物学 システム神経科学 分子細胞生理学 機能細胞形態学 細胞情報学

		細胞機能制御学 実験動物学 器官構築形態学 薬効安全性学
	都市医学	都市環境病理学 病理病態学 産業医学 都市環境医学 公衆衛生学 運動生体医学 運動環境生理学 医学医療情報学 法医学 ウイルス学 細菌学 寄生虫学
	老年医科学	免疫制御学 生体機能解析学 脳神経科学 遺伝子制御学 老年血管病態学 老年腫瘍病態学 分子制御
	臓器器官病態内科学	循環器病態内科学 腎臓病態内科学 呼吸器病態制御内科学 肝胆膵病態内科学 消化器内科学 代謝内分泌病態内科学 血液腫瘍制御学 神経精神医学 血行動態力学 医薬品・食品効能評価学
	病態診断・生体機能管理医学	放射線医学 核医学 診断病理学 麻酔科学 救急生体管理医学 卒後医学教育学
	生殖発達医学	生殖発生発育病態学 女性病態医学 発達小児医学 老年内科学
	臓器器官病態外科学	腫瘍外科学 消化器外科学 肝胆膵外科学 循環器外科学 泌尿器病態学
	感覚・運動機能医学	皮膚病態学 視覚病態学

		耳鼻咽喉病態学 上気道機能病態学 脳神経外科学 脳神経病態学 整形外科学 リウマチ外科学 形成外科学
看護学	看護学	看護基礎科学 基礎看護学 成人看護学 老年看護学 精神看護学 母性看護学 小児看護学 在宅看護学 地域看護学

生活科学部

学 科 名	講 座 名	専 門 分 野
食品栄養科学	食品栄養科学	食・健康科学 長寿社会食生活学
居住環境学	居住環境学	居住環境学 居住福祉工学
人間福祉学	人間福祉学	総合福祉科学 臨床心理学 長寿社会福祉科学

VI 各学部等の電話番号・所在地

各学部等の電話番号・所在地

杉本学舎

学部等	電話番号	所在地
商学部事務室	06-6605-2201	〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
経済学部事務室	06-6605-2251	
法学部事務室	06-6605-2301	
文学部事務室	06-6605-2351	
理学部事務室	06-6605-2501	
工学部事務室	06-6605-2651	
生活科学部事務室	06-6605-2801	
2部事務室	06-6605-2151	
学生支援課	06-6605-2932	(全学共通教育全般)
	06-6605-2936	(教育実習)
	06-6605-2141	(入試等)

阿倍野学舎

学部等	電話番号	所在地
医学部学務課(医学科)	06-6645-3611	〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
医学部学務課(看護学科)	06-6645-3511	

